

平成18年度(2006年) 全国福祉高等学校長会

第12回総会・研究協議会並びに福祉担当教員等研究協議会

青森大会報告書

全国福祉高等学校長会

理事長あいさつ

『感謝の心をこめて』

全国福祉高等学校長会

理事長 高橋 福太郎

〔 学校法人東奥学園 理事長・学園長
東奥学園高等学校 校長 〕



『時代が求める変革とこれからの高校福祉教育の在り方』—地域社会が求める活きた福祉実践をするために—を研究主題とし全国福祉高等学校長会第12回総会・研究協議会並びに福祉担当教員等研究協議会青森大会が、300名を超える参加者と多数のご来賓のご臨席を賜り、関係各位のみなさまのご協力のもと、盛会裏に終えることができたことに、まずもってこの場をお借りし深く感謝申し上げます。

本大会においては、今後の高校福祉教育の存在そのものを大きく左右する現状がクローズアップされたことに、参加者全員が大きな不安を感じ取ったことと思います。厚生労働省の検討委員会による高校福祉教育、というよりも介護福祉士国家試験受験資格の見直しが進められている中での大会であり、大会そのものが今後の高校福祉教育の存続に向けての同省への大きなアピールの場にもなったのであります。そのことは、同省社会・援護局局長 中村秀一様そして文部科学省初等中等教育局産業教育・情報教育担当参事官 嶋貫和男様両名のご臨席を賜ったことにも裏付けされるものであります。高等学校における福祉教育は、長い学校教育の歴史から見るとまだまだ始まったばかりといっても過言ではありません。時代が求めるニーズに対応すべく始まった福祉教育は、これからが正念場を迎えることとなります。

福祉教育は単に知識と技術を修得させるものではなく、人間としての「思いやりの心と行動が一致する福祉人」を育てる教育でなくてはならないと考えております。とりわけ「こころ」を育てることにより、今日の日本が、そして時代が求めている真の「福祉人」が誕生すると確信しております。高校福祉教育に携わるわれわれ関係者は、これからもそのことを忘れずに若い芽を育てていただきたいと思います。

最後に青森大会開催に向け、多くのことを準備いただいた事務局並びに主管校東奥学園高等学校の関係各位、さらにご協力いただいた関係高等学校長及び教職員の方々に感謝申し上げます。また、次年度石川県七尾市でみなさまに再会できることを楽しみにしておりますことを申し上げて、挨拶といたします。

目 次

開催要項	1
来賓・主催者	3
日程	4
理事会・学科主任等代表者会議	1 5
開会行事	2 2
基調講演	2 7
記念講演	3 1
生徒体験発表	4 1
ブロック別会議	4 8
介護技術研修	6 3
校長会総会・研究協議会	6 6
教員研究協議会	7 0
（発表資料 1 0 1～）	
文部科学省 指導・講評	1 2 5
（資 料 1 3 3～）	
閉会行事	1 4 3
平成17年度事業報告・決算報告	1 4 5
平成18年度事業計画・予算	1 4 7
平成18年度組織図・加盟校数・役員・学科主任等代表者	1 4 9
総会・研究協議会並びに福祉担当教員等研究協議会 会場地区一覧	1 5 3
総会・研究協議会並びに福祉担当教員等研究協議会 分科会分担一覧	1 5 4
平成18年度 研修紹介	1 5 5
全国福祉高等学校長会 規約	1 5 6
全国福祉高等学校長会主催 生徒体験発表実施規程	1 5 8
全国福祉高等学校長会 加盟校一覧	1 6 1
第12回青森大会アンケート集計結果	1 6 8
あとがき	1 8 1
青森大会 写真一覧	1 8 2
賛助広告	1 8 7

平成18年度 全国福祉高等学校長会
第12回総会・研究協議会並びに福祉担当教員等研究協議会

開 催 要 項

- 1 研究主題 『時代が求める変革とこれからの高校福祉教育の在り方』
－地域社会が求める活きた福祉実践をするために－
- 2 期 日 平成18年8月 9日（水）・・・理事会・学科主任等代表者会議
平成18年8月10日（木）・・・大会第1日目
平成18年8月11日（金）・・・大会第2日目
- 3 会 場 ホテル青森
東奥学園高等学校
- 4 主 催 等 主 催 全国福祉高等学校長会
後 援 文部科学省
全国高等学校長協会家庭部会
青森観光コンベンション協会
青森県教育委員会
青森市教育委員会
青森県高等学校長協会
青森県高等学校長協会家庭部会
青森県私立中学高等学校長協会
青森県社会福祉協議会
主 管 東奥学園高等学校

5 基本日程

8月 9日（水）＜役員会＞ 会場…東奥学園高等学校

15:00	15:30	17:00
受付	理事会	
	学科主任代表者会議	

8月10日(木) <第1日目> 会場…ホテル青森・東奥学園高等学校

8:30	9:00	9:40	9:50	10:30	10:40	11:30	11:40	12:35	13:00	14:10
受付	開会行事	基調講演	記念講演	生徒体 験発表	移動	昼食・ ブロック会議				
14:30				17:15	17:30	18:30	19:00			21:30
介護技術研修(体育館)講演・実技				ホテル 移動	懇談会 会場移動	教育懇談会 (ホテル青森)				

8月11日(金) <第2日目> 会場…ホテル青森

9:00	11:30	11:45	12:25	12:35	12:50
校長会総会・研究協議会	文部科学省 指導・講評	事務局 諸連絡	閉会行事		
教員研究協議会					

6 日 程

(1) 理事会・学科主任等代表者会議	8月 9日(水)
受 付	15:00 ~ 15:30
理 事 会	15:30 ~ 17:00
学科主任等代表者会議	15:30 ~ 17:00
(2) 第1日目	8月10日(木)
受 付	8:30 ~ 9:00
開 会 行 事	9:00 ~ 9:40
基 調 講 演	9:50 ~ 10:30
記 念 講 演	10:40 ~ 11:30
生 徒 体 験 発 表	11:40 ~ 12:35
昼食・ブロック別会議	13:00 ~ 14:10
介 護 技 術 研 修	14:30 ~ 17:15
教 育 懇 談 会	19:00 ~ 21:30
(3) 第2日目	8月11日(金)
《校長部会》	
総会・研究協議会	9:00 ~ 11:30
《教員部会》	
研 究 協 議 会	9:00 ~ 11:30
文部科学省指導・講評	11:45 ~ 12:25
閉 会 行 事	12:35 ~ 12:50

来 賓 ・ 主 催 者

1 来 賓

衆議院議員（元 厚生大臣）	津 島 雄 二 様
厚生労働省社会・援護局 局長	中 村 秀 一 様
文部科学省初等中等教育局 産業教育・情報教育担当 参事官	嶋 貫 和 男 様
青森県知事	三 村 申 吾 様
青森市長	佐々木 誠 造 様
厚生労働省社会・援護局 介護技術専門官	石 原 美 和 様
国立教育政策研究所教育課程研究センター 研究開発部教育課程調査官 文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官	矢 幅 清 司 様

2 主 催 者

全国福祉高等学校長会 理事長	高 橋 福太郎
全国福祉高等学校長会 参与	木 村 行 幸
前 全国高等学校長協会家庭部会 理事長	今 成 昭

日 程

8月 9日 (水)

8月 9日 (水) 15:30 ~ 17:00

理事会

東奥学園高等学校 (2階) 会議室

司会進行 東京都立野津田高等学校 校長 安田 健

記 録 東奥学園高等学校 教頭 阿保 貴志

8月 9日 (水) 15:30 ~ 17:00

学科主任等代表者会議

東奥学園高等学校 (4階) 1年1組教室

司会進行 東奥学園高等学校 教諭 小川 義光

記 録 北海道置戸高等学校 教諭 前田 信治
東奥学園高等学校 教諭 中山 昌子

8月 10日 (木)

8月 10日 (木)

9:00 ~ 9:40

開会行事

ホテル青森 (3階) 孔雀の間

- | | | | |
|----------------|---|----------|--|
| 1. 開会のことば | 青森県立大湊高等学校 | 校長 | 星 和夫 |
| 2. 主催者・主管校あいさつ | 全国福祉高等学校長会 | 理事長 | 高橋福太郎 |
| 3. 来賓祝辞 | 衆議院議員 (元 厚生大臣)
文部科学省初等中等教育局
青森県知事
青森市長 | 参事官 | 津島 雄二 様
嶋貫 和男 様
三村 申吾 様
佐々木誠造 様 |
| 4. 来賓紹介 | 函館大妻高等学校 | 校長 | 外山 茂樹 |
| 5. 閉会のことば | 青森県立大湊高等学校 | 校長 | 星 和夫 |
| 司会進行 | 北海道釧路星園高等学校 | 校長 | 山田 英二 |
| 記 録 | 青森県立大湊高等学校
青森県立大湊高等学校 | 教諭
教諭 | 宮本 則子
中野渡えみ |

8月 10日 (木) 9:50 ~ 10:30

基調講演

ホテル青森 (3階) 孔雀の間

厚生労働省 社会・援護局 局長 中村 秀一 様

演題：『介護福祉士のあり方及びその養成プロセスの
見直し等に関する検討会の経過と今後の動き』

《 略 歴 》

昭和	48	年	東京大学法学部卒業、厚生省入省
平成	1	年	厚生省老人保健福祉部企画官
平成	2	年	老人福祉課長
平成	4	年	年金局年金課長
平成	7	年	水道環境部計画課長
平成	8	年	保険局企画課長
平成	10	年	大臣官房政策課長
平成	13	年	厚生労働省大臣官房審議官 (医療保険・医政担当)
平成	14	年	厚生労働省老健局長
平成	17	年	現職

司会進行 岡山県立倉敷中央高等学校 校長 中根 公郎

記 録 北海道置戸高等学校 教諭 嶋倉 俊一
北海道置戸高等学校 教諭 小嶋 純子

8月 10日 (木) 10:40 ~ 11:30

記念講演

ホテル青森 (3階) 孔雀の間

青森県知事 三村 申吾 様

演題：『元気青森人の創造 -人材育成と福祉教育について-』

《 略 歴 》

昭和	56	年	東京大学文学部卒業、株式会社新潮社入社
平成	2	年	株式会社三村興業社代表取締役
平成	4	年	百石町長 (一期)
平成	12	年	衆議院議員 衆議院総務常任委員 衆議院農林水産常任委員 衆議院懲罰常任委員 衆議院災害対策特別委員
平成	15	年	現職

司会進行 北秋田市立合川高等学校 校長 高橋 充

記 録 青森県立青森中央高等学校 教諭 森 由紀子
青森県立青森中央高等学校 教諭 岩田 隆子

8月 10日 (木) 11:40 ~ 12:35

生徒体験発表

ホテル青森 (3階) 孔雀の間

【 発表者 】

1. 『施設実習を終えて学んだこと』
函館大妻高等学校 2年 村山 れいら
2. 『介護のこころ』
東奥学園高等学校 3年 横内 研
3. 『施設実習を終えて』
岩手県立一関第二高等学校 3年 伊藤 志穂
4. 『言葉をこえて通じるもの』
山形県立天童高等学校 3年 秋葉 翔子

【 審査委員 】

- | | | | |
|----------|-----------------|------|---------|
| ☆ 審査委員長 | 文部科学省初等中等教育局 | 参事官 | 嶋貫 和男先生 |
| ☆ 副審査委員長 | 全国福祉高等学校長会 | 理事長 | 高橋福太郎先生 |
| ☆ 審査委員 | 全国福祉高等学校長会 | 参与 | 木村 行幸先生 |
| | 前 全国高等学校長協会 | | |
| | 家庭部会 | 理事長 | 今成 昭 先生 |
| | 前 全国高等学校長協会家庭部会 | | |
| | 福祉科高等学校長会 | 理事 | 奥寺 仁子先生 |
| | 全国福祉高等学校長会 | 副理事長 | 安田 健 先生 |

◎表彰：最優秀「文部科学大臣賞」 優秀・優良「理事長賞」

司会進行 福島県立光南高等学校 校長 市川 淳一

記 録 光星学院高等学校 教諭 太田かおり
光星学院高等学校 教諭 石上 励子

8月 10日 (木) 13:00 ~ 14:10

昼食・ブロック別会議

東奥学園高等学校 (3階・4階)

北海道地区 司会進行 記 録	東奥学園高等学校 (4階) 1年6組教室 釧路市立釧路星園高等学校 校長 山田 英二 北海道置戸高等学校 教諭 小嶋 純子
東北地区 司会進行 記 録	東奥学園高等学校 (2階) 会議室 北秋田市立合川高等学校 校長 高橋 充 北秋田市立合川高等学校 教諭 工藤知佳子
関東地区 司会進行 記 録	東奥学園高等学校 (3階) 2年7組教室 東京都立野津田高等学校 校長 安田 健 東京都立野津田高等学校 教諭 小山 哲広
北信越地区 司会進行 記 録	東奥学園高等学校 (3階) 1年7組教室 山梨県立富士北稜高等学校 校長 鈴木 桂一 山梨県立富士北稜高等学校 教諭 外川 真美
東海地区 司会進行 記 録	東奥学園高等学校 (3階) 1年8組教室 岐阜県立坂下高等学校 校長 松久 聡 岐阜県立坂下高等学校 教諭 岩田 知子
近畿地区 司会進行 記 録	東奥学園高等学校 (3階) 2年8組教室 福知山淑徳高等学校 校長 奥田弥進夫 福知山淑徳高等学校 教諭 松井 儀幸
中国地区 司会進行 記 録	東奥学園高等学校 (3階) 3年7組教室 岡山県立倉敷中央高等学校 校長 中根 公郎 岡山県立倉敷中央高等学校 教諭 浅野 純子
四国地区 司会進行 記 録	東奥学園高等学校 (3階) 3年8組教室 高知県立室戸高等学校 校長 大宮 健吉 高知県立室戸高等学校 教諭 別役 千世
九州地区 司会進行 記 録	東奥学園高等学校 (3階) 音楽室 佐賀県立鹿島実業高等学校 校長 野口 盛 佐賀県立鹿島実業高等学校 教諭 井上 千秋

8月 10日 (木) 14:30 ~ 17:15
(14:10 ~ 14:30…参加者着替え)

介護技術研修

(会場) 東奥学園高等学校 (1階) 体育館
着替え場所《男性》(2階) 理科実験室1・2
" 《女性》(3階) 福祉実習室・音楽室

【講演講師】 ダイヤ高齢社会研究財団 滝波 順子 様

《略 歴》

平成 4 年 ホームヘルパー (ホームケア推進協議会)
平成 10 年 ダイヤ高齢社会研究財団 研究員
平成 12 年 神奈川県介護福祉士会 理事
平成 16 年 第17回介護福祉士国家試験 試験委員
平成 17 年 第18回介護福祉士国家試験 試験委員

《主な講師歴》

平成 11 年 東京都立大森東高等学校福祉科
(介護技術・介護概論・共感的理解)
平成 14 年 品川介護福祉専門学校 (介護技術)
平成 15 年 東京家政学院大学 (介護技術・介護実習指導担当)

【実技講師】 ダイヤ高齢社会研究財団 滝波 順子 様
東奥学園高等学校介護技術スタッフ

笹岡 淑子・坂本 いま子・工藤 高尾
三上 えり子・瀧谷 日聡・伊瀬谷 栄子
鹿内 律子・若木 トシ・櫻井 芳枝
福田 有希恵・上原子 美穂子・品川 尚子
阿保 真奈美・今 幸子・茂又 朋代
小野 淳美・橘 百代・菅野 明子
藤谷 淑子・進藤 美智子・竹内 史子

司会進行 山梨県立富士北稜高等学校 校長 鈴木 桂一

記 録 北秋田市立合川高等学校 教諭 穴倉 博明
北秋田市立合川高等学校 教諭 本間 恵子

8月 11日 (金)

8月 11日 (金) 9:00 ~ 11:30

校長会総会・研究協議会

ホテル青森 (3階) あすなろ・はまなすの間

【 総 会 】

- | | | | |
|------------------|--------------|-----|---------|
| 1. 開会のことば | 佐賀県立鹿島実業高等学校 | 校長 | 野口 盛 |
| 2. 理事長あいさつ | 全国福祉高等学校長会 | 理事長 | 高橋福太郎 |
| 3. 来賓あいさつ | 文部科学省初等中等教育局 | 参事官 | 嶋貫 和男 様 |
| 4. 議 長 選 出 | | | |
| 5. 議 事 | | | |
| ① 平成17年度事業報告 | | | |
| ② 平成17年度会計決算報告 | | | |
| ③ 平成18年度事業計画 (案) | | | |
| ④ 平成18年度会計予算 (案) | | | |
| ⑤ 平成18年度役員 | | | |
| ⑥ その他 | | | |
| 6. 報 告 ・ 連 絡 | | | |
| ① 加盟校数 | | | |
| ② 研修案内 | | | |
| ③ その他 | | | |
| 7. 閉会のことば | 佐賀県立鹿島実業高等学校 | 校長 | 野口 盛 |
| 司会進行 | 千葉県立佐倉東高等学校 | 校長 | 木村 行幸 |
| 記 録 | 青森県立七戸高等学校 | 教諭 | 小野 淳美 |
| | 青森県立七戸高等学校 | 教諭 | 橘 百代 |

【 研究協議会 】

研究協議題

- ① 介護福祉士国家試験の受験制度について
- ② 今後の福祉系高校の在り方について
- ③ その他

指導・助言 文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官 矢幅 清司 様

司会進行	愛知県立高浜高等学校	校長	江坂 栄子
記 録	青森県立七戸高等学校	教諭	小野 淳美
	青森県立七戸高等学校	教諭	橘 百代

※校長会総会・研究協議会に並行して、福祉担当教員等研究協議会を開催

8月 11日 (金) 9:00 ~ 11:30

教員研究協議会

ホテル青森 (3階) 孔雀の間

1. 現場実習について

発表タイトル 『社会福祉実習の取り組みについて』
高知県立室戸高等学校 教諭 別役 千世

2. 資格取得について

発表タイトル 『本校の資格取得の取り組み』
奈良県榛生昇陽高等学校 教諭 匠原記世子

3. 進路指導について

発表タイトル 『福祉科設置以来における進路状況及び今後の課題』
啓新高等学校 教諭 水元 敏博

4. 授業研究について

発表タイトル 『「社会福祉演習」でのケアプラン作成の取り組み』
北海道置戸高等学校 教諭 前田 信治
教諭 嶋倉 俊一

指導・助言 東奥保育・福祉専門学院 学院長 小野 紀子 様
指導・助言 青森県介護福祉士会 会長 風晴 賢治 様

司会進行 東北福祉大学講師 (元 岩手一関第二高校教諭) 高橋恵里香 様

記 録 函館大妻高等学校 教諭 鈴木 智美
函館大妻高等学校 教諭 河合 絹代

8月 11日(金) 11:45 ~ 12:25

文部科学省指導・講評

ホテル青森 (3階) 孔雀の間

国立教育政策研究所教育課程研究センター

研究開発部教育課程調査官

文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官 矢幅 清司 様

《 略 歴 》

昭和	58	年	岩手県立盛岡養護学校講師
昭和	59	年	岩手県立花巻養護学校講師
昭和	61	年	岩手県立みたけ養護学校教諭
平成	2	年	岩手県立一関第二高等学校教諭
平成	11	年	文部科学省初等中等教育局職業教育課教科調査官
平成	13	年	現職

司会進行 長崎県立大村城南高等学校 校長 永田 良二

記 録 鹿児島県立開陽高等学校 教諭 辻村 伸代
川崎市立川崎高等学校 教諭 岡 多枝子

8月 11日(金) 12:35 ~ 12:50

閉会行事

ホテル青森 (3階) 孔雀の間

- | | | | |
|----------------|-------------|-----|-------|
| 1. 開会のことば | 青森県立七戸高等学校 | 校長 | 木村 厚 |
| 2. 主催者・主管校あいさつ | 全国福祉高等学校長会 | 理事長 | 高橋福太郎 |
| 3. 次回主管校あいさつ | 石川県立田鶴浜高等学校 | 校長 | 八十田 至 |
| 4. 閉会のことば | 岐阜県立坂下高等学校 | 校長 | 松久 聡 |

司会進行	高知県立室戸高等学校	校長	大宮 健吉
------	------------	----	-------

記 録	福島県立光南高等学校	教諭	大久保義行
	北海道置戸高等学校	教諭	小嶋 純子

《 理 事 会 》

平成18年8月9日(水) 15:30~17:00

東奥学園高等学校(2階)会議室

司会進行 東京都立野津田高等学校 校長 安田 健

記 録 東奥学園高等学校 教頭 阿保 貴志

1 あいさつ

全国福祉高等学校長会 理事長 高橋福太郎

「台風7号の影響が残る中、ご参加いただき誠にありがとうございました。今大会は本校主管校となつての青森大会ではありますが、北海道函館大妻高等学校の全面的なご協力をいただき開催されていることをご報告申し上げます。明日のブロック会議等よろしくお願い致します。」

2 報 告

1) 第16回全国産業教育フェアについて

同大会が18年11月10日(金)~12日(日)の3日間、埼玉県「さいたまスーパーアリーナ」を会場に開催される。農業科、商業科等を初めとし全9学科で実施されることになる。福祉科は東京都の野津田高等学校(校長 安田 健 本会副理事長)が主管で準備が進行している。

2) 産業教育振興中央会への福祉校長会加盟について

同中央会への加盟は、手続き上今年度から加盟するものとする。加盟にあたり負担金が5万円必要となるが、230校の加盟校を有する本会の予算上充分可能である。

今後は家庭部会に所属する形で実施されてきた海外派遣や国内実習等は、福祉校長会が産業教育振興中央会の興業事業として実施していきたい。

加盟に伴い県産業教育振興会との兼ね合いや、企業からの賛助金集め等の負担も考えられるが、都道府県各加盟校への金銭的負担はできるだけ避けるようにしたい。

3) 社会事業学校連盟の資料

福祉教育において、高大連携により福祉教育の更なる資質向上を目指す動きがあります。今年度の青森大会においては、当初予定はなかったのですが、高校福祉科卒業生対象に上記連盟が実施している調査の中間報告を、最終日、矢幅先生のご講評の中

に設けましたのでご報告いたします。中間報告資料は今大会のパンフレット65ページより記載されております。

3 協議事項

1) 平成18年度全国大会(青森大会)運営について 主管校校長 高橋福太郎(東奥学園高等学校)

「大きな日程等の変更は特にありませんので、大会運営原稿に沿って、明日以降の各役割の確認をよろしくお願いします。」

2) 介護福祉士のあり方検討会の経過報告について

2回目の検討委員会において、高等学校福祉科の現状についての報告を求められた。矢幅先生に教育内容に関して、理事長から実際の教育現場からの報告をし、高等学校福祉科そして国家試験受験資格の存続を強く主張した。厚生労働省の方向性としては、今後福祉は医師、看護師と同等レベルで捉え、同時に社会的地位待遇の改善も図ることである。そのための改革は次のようになる予定である。

高等学校⇒専門科目時間数を最低1800時間に引き上げる。受験資格は存続。

専門学校⇒専門科目時間数を最低2000時間に引き上げる。国家試験を課す。

これは見直し案であり、法令になって初めて実施となる。

実質検討委員会の5回目までは、高等学校福祉科の存続は危ぶまれていた。高等学校から福祉教育が排除されるような動きであった。これから大切になることは、引き上げられた専門科目の教育内容をどのように見直していくかである。

引き上げの中心になるのは施設での現場実習時間の充実である。今後は福祉教育に努力不足の学校、これまでどおりの、ある意味いいかげんな福祉教育を実施していく学校は、その存続が危ぶまれることになる。高等学校福祉科の将来は、今以上の資質向上に向けて各校での努力が求められる時代に入っていくことになる。

本校長会には、福祉科で国家資格取得に向けて努力している学校もあれば、総合学科の系列の一つとして存在する学校もある。最終とする目標地点は違っても、同じ福祉教育を実践するさまざまな学校を幅広く受け入れ、福祉教育に関するさまざまな情報を共有できる福祉高等学校長会でありたい。

3) 平成19年度全国大会(石川大会)運営について

第1回理事会で骨子を提案しましたが、新に今大会から設けられた「生徒体験発表」を組み込んだものが、本大会パンフレット96ページにあるものです。第1回目のものは前後の時間・行事等が入れ替わっている。

検討課題⇒「生徒体験発表」をどういう形で実施するか。

主旨はわかるが、校長会・教員対象の全国大会に生徒のコンクールが入るのは場違いではないか。事前に大会が開催され、その表彰のみを実施するのであれば実施形態として理解できる。

平成20年度実施予定佐賀大会でも、生徒の参加や引率などを考えると、九州ブロック内での発表で実施したいという意見が出ている。しかしそれでは、文部科学大臣賞の意味が薄れる。全国規模での大会であってこそその大臣賞である。

「生徒体験発表」の実施方法を明確に組織化し、家庭部会から独立した校長会としての新たな組織の見直しと共に、コンクールのあり方や実施に向けたより良い具体的な方法を今後検討したい。

4) 8月10日(木)のブロック会議の進行について

パンフレット9ページの役割を、それぞれで確認。

検討会報告に関しては、来年度法案通過までは安易に口外できないものなので、慎重に取り扱っていただきたい。

5) 今後の高等学校福祉教育のあり方について

この後の話題提供の部分で、幅先生からこのことについても触れながらお話を頂戴する。

6) その他

加盟230校の中で、福祉教育を学科・コース・総合学科系列でそれぞれ実施している学校が何割ずつあるのかという質問がでたが矢幅先生の方から後ほどお話ししていただく。

4 話題提供(近況報告)

文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官 矢幅 清司

6) の質問に対する回答

加盟230校中

介護福祉士国家試験受験校⇒201校（公立121校 私立80校）

専門学科：114校 約60%（内福祉科は68校 他は家庭や農業等）

総合学科： 55校 約25%

普通科： 32校 約16%

国家試験受験生徒割合

専門学科：約80%

総合学科：約10%

普通科：約10%

厚生労働省は、国家試験受験校は教員、教育内容、施設・設備が充分国家試験受験に対応できているというのが当然という考えである。しかし実際にはそうであると言えない学校が存在するのも現実である。検討会の結論が法案として実際に通過すると1800時間の専門科目時間数を各校が確保するのは、高校のカリキュラム上非常に厳しい。

そのような中で、厚生労働省が今後高等学校福祉教育に求めていくことは大きく次の3点である。

一つ目は 1800時間の内容を詳細に検討していくことであり、介護に関する科目がより重視される。

二つ目は 高等学校における施設設備の充実であり、これは専門学校の基準を満たすことが条件となってくる。

三つ目は 指導する教員には、教科「福祉」の免許を求めるのではなく、介護福祉士の資格と実務経験を求めるようになる。

より質の高い専門教育が要求されるようになるが、そこには高校福祉という高等学校教育としての十分な味付けを考える必要がある。

現在、さまざまな福祉の研修会が実施されているが、参加者が少ないのが残念である。今後は、できるだけ多くの関係者が参加できるように、学校サイドとしての派遣をお願いしたい。

家庭部会から独立した福祉校長会として、既存校長会の見直しが今後必要となる。校長会として、さまざまな形態で福祉教育を実施している各校へ、校長会としてさまざまなデータ集積と分析を行い、それらの提供と意見交換が積極的にできるような校長会になっていただきたい。その意味からすると、福祉校長会は決して国家試験受験校のみを対象とした校長会ではない。さまざまな形で高校福祉教育が実践されている、全ての学校が作り出す校長会である。

今回初めて設けられた「生徒体験発表」は、これまでこのような場がなかったことを考えると、さまざまな課題はあるものの、今後しっかりとした方向性を考え継続できるよう考えていく必要がある。文部科学大臣賞も非常に良いタイミングでもらえることとなったので、大切にしていってほしい。

《 学科主任等代表者会議 》

平成18年8月9日（水） 15：30～17：00

東奥学園高等学校（4階）1年1組教室

司会進行 東奥学園高等学校 教諭 小川 義光

記 録 北海道置戸高等学校 教諭 前田 信治

東奥学園高等学校 教諭 中山 昌子

1 会議次第の確認

2 次第1：報告事項について

(1) 平成18年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修について
(H-1・H-2研修)

- ・東京都立野津田高等学校 小山哲広教諭より報告があり。
(参照：別紙「全国福祉科校長会 研修部 活動中間報告」の1)
- ・質疑応答については、以下のとおり。
 - ① 講師の先生の謝礼についてももう少しスムーズに行えないのか？
(他の先生方とのセッションがとりづらくなるのでは?)
→特別行政法人の方のやり方があるため変えられない。
 - ② 研修の定員に対しての参加人数については？
→定員が確保できないこともあるため、一本化する動きもあります。
 - ③ 県によっては予算化の問題もあり、また全学校に伝わっていないことについては？
→個人負担による出席の方もいた。いずれなくなるのではないか。

(2) 第16回全国産業教育フェア埼玉大会について

- ・平成18年11月10日（金）～12日（日）、さいたまスーパーアリーナで実施
- ・参加校については以下のとおり
 - ① 作品展示：千葉県松戸矢切高等学校、埼玉県不動岡誠和高等学校、群馬県立吾妻高等学校
 - ② 作品研究発表：愛知県立高浜高等学校「ドミノ体操 リフレッシュ」
 - ③ 意見体験発表：佐賀県立嬉野高等学校、埼玉県立不動岡誠和高等学校

(3) 福祉課高等学校長会 研修委員について

- ・岡多枝子教諭（川崎市立川崎高等学校）、猪瀬由美子教諭（栃木県立真岡北陵高等学校）、小山哲広教諭（東京都立野津田高等学校）の3名が研修委員を担当する。
- ・模擬授業者募集について：川崎市立川崎高等学校 岡多枝子教諭より
(参照：別紙「第8回福祉教育研修講座社会福祉教授法の研究方法 ー実践評価のあり方、『差別』の教え方ー」)
→例年と違うところは、初日午後に高校教員による模擬授業と実践評価研究を行うこと。受講クラスを2クラス（各クラス40人）に分けて、生徒・教員それぞれ

の立場で授業を行う。高校福祉教育の質を上げていくために福祉科の教員から模擬授業者（特に若い方）を募集する。科目については福祉科目6科目ならどれでもよい。授業研究に重点をおいて実施する。

(4) 青森大会の役割について

(参照：別紙「全国福祉高等学校長会 青森大会役割一覧表」)

- ・ 参加人数の関係により、ブロック別会議は北海道地区と東北地区をわけて実施する。
 - ① 北海道地区：北海道立置戸高等学校が記録を担当する。
 - ② 東北地区：秋田県北秋田市立合川高等学校が記録を担当する。
- ・ ブロック会議の内容については、理事会や学科主任代表者会議の結果報告や今後の地区活動などについての話し合いを行う。今回は全体会での報告は行わない。

3 次第2：協議事項について

(1) 研修部から：東京都立野津田高等学校 小山哲広教諭より

(参照：別紙「全国福祉科校長会 研修部 活動中間報告」の2)

- ・ 昨年度5月に各校に社会福祉演習ノートを送付したが、担当者が変わったところもあったため、一部送付できていない学校もある。
- ・ 演習ノートについてのアンケートの集計をしている最中である(7/28〆切)届いていない学校があれば連絡をしていただきたい。
- ・ 活動費については、研修部は演習ノート、調査・統計部は切手などで予算を使った。広報部はFAX使用であったので予算を全く使わなかった。FAXについては、通信費として学校からの領収書で対応することとする。

(2) 調査統計部から：福島県立光南高等学校 大久保義行教諭より

- ・ 今後についても介護技術講習会(介護福祉士国家試験)や進路関係についての調査を行っていく予定である。
- ・ 現在行っているアンケートについては、今後もう少し内容を詰めて実行していきたい。時期的には、11月頃をめどに結果の集計を行っていく。

(3) 広報部から：福知山淑徳高等学校 松井儀幸教諭より

(参照：別紙「平成18年度広報部活動計画」)

- ・ 今大会の厚生労働省や矢幅先生の講話など、また加盟校のユニークな教育の紹介などを福祉だよりに掲載し、8月下旬に発行したい。
- ・ 来年度石川大会の呼びかけや教育実践について情報収集し、また、産業教育フェアでの意見体験発表などを記事にし、1月下旬に発行したい。

(4) 事務局から：東奥学園高等学校 小川義光教諭より

- ・ 平成19年度全国大会の分科会担当高を大会最終日までに確認していただきたい。

(大会要項P26より)

- ・ 来年度の各地区学科主任代表者について
→北海道地区：2年単位で交代している。来年度からは函館大妻高校に決まっている。

東北地区：現段階では、秋田県北秋田市立合川高等学校の可能性がある。

関東地区：現在の担当者の転勤がなければ、東京都立野津田高校が担当する。

北信越地区：ブロック会議にて確認する。

東海地区：愛知県と静岡県の高校が担当する予定。

近畿地区：淀之水高等学校に決まっている。

中国地区：2年単位で交代している。来年度からは広島県の高校が担当する予定。

四国地方：愛媛県の高校が担当する予定である。

九州地方：佐賀県の高校が担当する予定である。

- ・ 来年度石川大会の実施案についての確認：大会要項P96より

① 1～2分科会形式で行う。

② 生徒体験発表の選抜の仕方についてはブロックごとに選抜し、そこから理事会で詰めて決定していく。もしかしたら、原稿のみで選抜する形になるかもしれない。

③ 地区による選抜の仕方については、学科主任が取りまとめをする。各地区の福祉の会合で連絡会等を立ち上げて動いてみてはどうか。これらの動きについては、システム化の問題があるため、組織をしっかりと固めて動かなければならない。

- ・ ブロック会議については伝達のみではなく、さまざまな取り組みを紹介しあうなど、の取り組みも必要である。また、ブロック会議の時間帯は昼食も含んでいるので、開始時間を各地区ごとで設定するのが望ましい。

- ・ 大会要項P65の報告資料については、今後の福祉科がどのような変化をしていかなければならないのかを考えるための資料ともいえる。それを問われる大切な大会が今回の青森大会でもある。福祉科を内実ともに充実させるには教員の資質の向上も大切な要素の1つである。また、1800時間の問題にも各教員が力を合わせて確実に前進していかなければならない。

- ・ 第8回福祉教育研修講座については、大学と高等学校の教員によって行われるものである。大学の教員が司会を行い、指導もこうことができる。上下の関係ではなく、一定の距離を持ってお互いの向上のために協力し合いながら実施される。

《 開会行事 》

平成18年8月10日(木) 9:00~9:40

ホテル青森(3階)孔雀の間

司会進行 釧路市立釧路星園高等学校 校長 山田 英二

記 録 青森県立大湊高等学校 教諭 宮本 則子

青森県立大湊高等学校 教諭 中野渡えみ

1 開会のことば 青森県立大湊高等学校 校長 星 和夫

2 主催者・主管校あいさつ 全国福祉高等学校長会 理事長 高橋 福太郎

皆さん、おはようございます。この度、平成18年度 全国福祉高等学校長会青森大会が「時代が求める変革とこれからの高校福祉教育のあり方」をテーマとして、北海道・東北地区が担当し開催される運びとなりました。

ご多忙中にもかかわらず衆議院議員(元厚生大臣)津島雄二代議士奥様の園子様、厚生労働省社会・援護局局長 中村秀一様、文部科学省初等中等教育局産業教育・情報教育担当参事官 嶋貫和男様、青森県知事 三村申吾様、青森市長 佐々木誠造様を初めとし多くの来賓各位のご臨席を賜り、また、北は北海道から南は沖縄までの各福祉高校の校長先生、そして各先生方の青森大会への参加に心より感謝申し上げます。

本大会の主管校は、東奥学園高等学校となっておりますが、実際は北海道・東北地区の校長先生、各先生方のご協力の下遺漏の無いよう準備を進めて参りましたが、あるいは不十分な点多々あろうかと思えます。精一杯務めさせていただきたく思っております。本大会での基調講演・記念講演等から学び日頃の成果の発表、協議、技術講習会等を通して新しい知見を共有し、休み明け後の各高校での教育活動の一層の充実・発展に繋がることをご期待申し上げ、挨拶とさせていただきます。

3 来賓祝辞

衆議院議員(元 厚生大臣) 津島 雄二 様

ただ今ご紹介を頂きました津島雄二の家内でございます。本日は、全国から皆様がお集まりになりました福祉高等学校長会が、このように盛大に開催されましたことにお祝いを申し上げます。この大会に主人の津島が以前からご招待を頂いておりましたが、本人が会長をしております平成研究会のセミナーが行われておりました、急遽代理として出席させていただきました。深く失礼をお詫び申し上げます。また、本日この席に厚生労働省、文部科学省そして地元の青森県知事、市長様、皆様来賓の方々がお揃いですがに私が一番先にお祝辞の指名を頂き本当に恐縮に存じております。

この席にお呼びいただいたということは、まず、津島が皆様の携わっておられる福祉に一番関係のある厚生大臣を過去2回も務めさせていただいたこと、そして、津島も厚生労働

働省の皆様を支えられて一生懸命仕事をさせていただき、今も皆様のお役に立てるように、ご指導させていただいていることがあり、本日、主人が直接お会いできないことを本人も残念に思っている次第です。

ちょうど津島が大臣をさせていただいている頃に、日本は高齢化社会となって大変な時代になるということがクローズアップされ、にわかに高齢化を中心とする社会福祉の問題が国の主要問題になり、国としてはいろいろな施策を考えました。今、県内をまわっておりましてご老人や障害者のための立派な施設が建てられております。訪問させていただいても、ホテルと間違ふような立派な建物や中が真っ白で清潔な明るい施設・設備に感激いたしております。その中でお仕事をされる方々の生き生きした姿を見ると、これからの将来を考えましても安心するわけです。しかし、一方で家族が介護に疲れて大変な悲劇に終わってしまうということが、毎日のようにニュースにも報じられているわけでありまして。介護のお仕事は、一言で言っても本当に難しいお仕事です。それを皆様方は、「皆様の役に立つ素晴らしいお仕事だ」ということで、高校生の若いうちから育てていくという素晴らしい使命に燃えていらっしゃるわけです。

設備は立派になってまいりましたが、介護のお仕事というのは、人間対人間のある意味で闘いではないかと思えます。そして、一番大事なものは心の問題ではないかと思えます。介護を受けられる方から一言「ありがとう」という言葉や感謝の微笑みがもれ、介護する方の温かい手のぬくもり、あるいは優しい微笑みと思いやりのある言葉がいつも触れあっていくということが大事なことではないかと思えます。それには、辛い仕事を我慢してやっていると消極的な態度では続かないと思えます。体力、精神力だけでは担えないものがあるかと思えます。やはり使命感、自分がいなければこの人の幸せは得られないというような、人に幸福を与えられる、そして愛情を交わせるということ、それを心に持ち続け自信を持つということが介護・福祉の教育に大事なことではないかと思っております。

これから、教育の立場として2日間研修されるわけですが、将来の日本のためにもお仕事に携わっていただきたいとお願いを申し上げまして、お祝辞とさせていただきます。おめでとうございます。

青森県知事 三村 申吾 様

皆さん、おはようございます。全国から青森へたくさんの皆様方がおいで下さいましたことに、心から歓迎申し上げたいと思えます。本日は平成18年度の全国福祉高等学校長会第12回総会・研究会並びに福祉担当教員等研究協議会と話を伺っているわけでありまして、何よりも青森をいろいろな角度から見ていただく、そのことが嬉しく思っております。青森といえば、何と言ってもリンゴとねぶたですが、ねぶたが終わって残念な時期であり、リンゴはもうすぐというところです。そしてまた、青森といえば、青森を代表する作家であり、文化人であります寺山修司と、棟方志功を思い出すのでしょうか、先ほどご挨拶いただきました津島園子さんが太宰治という作家の長女でいらっしゃいます。私はもともと新潮社で純文学をやっていました。日本の国の世界に残っていく作家とすれば夏目漱石と太宰治で、その一人が青森から出ているということを誇りとしています。また、青森といえばこの福祉の分野におきましても県全体として包括ケアシステムを展開しており

ますし、福祉教育という点におきましてもまさに包括ケアシステムに合わせるように県立保健大学等も用いながら地域の人材の育成を行っています。福祉の施設や医療施設の整備率については充実しています。その中においても人づくりを早い時期からそれぞれの学校においても進められてきた、それが私どもの青森県です。今、県といたしましては、新しい価値観を提案していこう、生活創造社会、この日本の国の中における暮らしやすさのトップランナーというものを目指すべきではないのか、という環境の中にあるのではないのか、スローライフ、スローフードということがいわれる時代になってきました。その中において我々は、日常の暮らしというものを如何に充実させていくかという提案をさせていただいております。まさに日常の暮らしを守っていく中において、安全や安心が大切になるわけですが、いわゆる高齢者、若年者も含めて、弱い立場になった時に安じてその地域において人生を送れるという仕組みづくりが大切だと考えているのであります。そういう面におきまして今日お集まりの皆様方は、まさに全国のそれぞれの土地において人材の育成、福祉の人材を育成する中においてこの国の将来の安心、暮らしやすさ等に全力で頑張っている皆様方でありまして、何卒こうして青森で大会が開かれますことが大きな成果を上げまして、この日本の国がさまざまな面において一人ひとりの国民にとって暮らしやすい国になることを心から望む次第であります。

ところで、青森県は十和田、八甲田、白神山地、下北半島、優れた自然景観、四季折々の魅力がございます。りんごはもう少しお待ちいただきたいのですが、青森の山の恵みである素晴らしい水資源からできて参りますさまざまな食べ物、ウニ、ホタテ貝は旬でございます。また、三内丸山という縄文遺跡のそばについて先月美術館をオープンさせていただきました。シャガール展では、非常にスケールの大きなシャガールの作品「アレコ」という舞台画を4枚そろえて展示してございます。そしてまた、アメリカ亡命時代のいろいろな意味において心の中に病んでいたものをもちながら新しい奥様の愛情の中において作品を創り上げた時代の作品の特別展を進めている次第であります。さまざまな楽しみのある青森でございますので何卒多くの皆様方、そういう青森にも触れていただきたく心から願いますのでございます。青森につきまして宣伝をさせていただいた次第であります、何卒今大会が大きな成果を上げますことを心から懇願いたしまして本日のお祝いのごことばとさせていただきます。本日はおめでとうございました。

青森市長 佐々木 誠造 様

ねぶた祭りの熱気がまだ冷めやらぬ今日でございますが、全国各地からこのように皆さまをお迎えし、盛大に開催されましたことを、32万市民を代表して心からお喜び申し上げます。福祉校長会が独立されてから初の記念すべき全国大会というふうに伺っておりますが、ここ青森市で盛大に開催されましたことは誠に光栄に存じます。全国福祉高等学校長会におかれましては長年にわたって高齢者福祉に関する専門的な知識と高度な技能を有し福祉の精神を身につけた人材を数多く輩出されるなど、我が国の福祉向上に数多くの貢献をされてこられました。これもひとえに歴代の役員の皆様をはじめ、各加盟校の皆様の大変な熱意と絶え間ぬご努力の賜物であります。深く敬意を表しますと同時に心から感謝申し上げます。

さて、我が国は急速に高齢化が進行しています。平成17年度に実施された国勢調査をみましても高齢者の割合が21%になり、世界で最も高齢化が進行している状況です。青森市におきましても、この21%に限りなく近い状況になっております。そういう中で本市において、「高齢者保健福祉介護保険事業計画」を策定し、健康づくり及び介護予防の推進、さらには地域での生活支援体制の充実といった諸施策に積極的に取り組むと同時に、介護保険事業の円滑な実施と安定的な制度運営に努め、高齢者の方々が健康で生きがいを持って積極的に社会参加できる明るく活力ある高齢社会の実現をめざして全力で取り組んでいます。

このような中、時代が求める福祉教育の在り方について研究協議されますことは極めて意義深く、この大会が実り多いものとなるよう心からご期待申し上げます。この会が皆様にとって意義深い会になりますことを心から祈念申し上げますと同時に、校長会のますますのご発展、皆さまのご健勝・ご活躍を祈念申し上げますと、歓迎の挨拶にさせていただきます。どうもありがとうございました。

文部科学省初等中等教育局 参事官 嶋貫 和男 様

皆様、こんにちは。文部科学省初等中等教育局で産業教育を担当しております嶋貫でございます。まず始めに4月に、全国の福祉高等学校長会が創設されました。改めて心からお祝いを申し上げたいと存じます。また、本大会がここ青森で盛大に開催されることを、心よりお喜び申し上げたいと存じます。本日ご参集の先生方におかれましては、日頃から福祉科教育の充実・振興のためにそれぞれのお立場で大変ご尽力いただいておりますことを改めて敬意を表し、感謝申し上げたいと考えております。

平成15年に大きな期待を背にスタートしました専門教科の福祉も、この春第一回目の卒業生を送り出しました。その福祉系高校に学んでいる生徒にとって、最大の目標である介護福祉士国家試験も、福祉系高校は大変高い合格率を誇っているということで先生方の日頃の熱心なご指導の賜物と受け止めております。改めて感謝申し上げたいと思います。

今、介護福祉士制度見直し問題があります。介護福祉士の業務の高度化や専門化に対応するために厚生労働省で今年の1月に検討会が立ち上げられ、7月に報告書が取りまとめられたことは皆さんご承知の通りです。この検討会には全国福祉高等学校長会の代表として、高橋理事長にも委員として加わっていただきました。大きな見直しで言うと、二つの点が示されたを受け止めております。一つは介護福祉士を目指す全ての人に国家試験を課すという考え方、もう一つは教育時間などのカリキュラムの充実です。この考え方に沿って今後具体的な教育内容についての見直しが進められると考えております。今示されているものには、内容の厳しさを感じ取られる先生もおありかとは思いますが、社会が求める介護福祉士の質の向上という観点から、この見直しを前向きにとらえ、さらに質の高い福祉人材の育成に努めていただきたいと思います。文部科学省としましても厚生労働省と連携して、皆様方の意向も踏まえながら今後の福祉系高校の教育の充実を図っていきたいと考えております。本日公務ご多忙の中、中村局長に出席していただいたことは福祉系高校に対する力強い応援のメッセージと私は受け止めております。文部科学省の立場から

も改めて感謝申し上げたいと思っております。専門高校は様々な課題を抱えている中、私どもはいくつかの振興策に取り組んでおります。例えば、目指せスペシャリスト事業や、日本版のシステム、産業教育フェア等です。内容については割愛しますが、是非今後とも福祉系高校の皆さん方に積極的にこういう事業や課題に取り組んでいただきたいと思っております。

もう一点、学習指導要領の見直しについて触れておきますが、中央教育審議会の教育課程部会でこれまで義務教育を中心に議論を進めてきました。この4月から産業教育専門部会を立ち上げ、すでに6回議論を進めております。専門性に基礎・基本の重点を置いた教育は今の学習指導要領を貫く産業教育の基本的な考え方ですが、基礎・基本が産業社会の変化や、専門高校に学ぶ生徒自身の職業意識、就業意識の変化の中でそれに見合う内容かどうか、足りないものはないかといったことについて、議論を深めております。早ければ年度内に成案を得たいと考えております。福祉科高校をめぐる課題は山積しておりますが、今後とも福祉科高校の教育が充実・発展するようしっかり手を尽くしていきたいと考えております。また、今日お集まりの先生方に工夫や特色を活かして、それぞれの学校運営あるいは教育にあたっていただきたいことを強く念願し、今日から二日間にわたる大会が成功裡に終わりますことを祈念申し上げてご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

4 来賓紹介

函館大妻高等学校 校長 外山 茂樹

5 閉会のことば

青森県立大湊高等学校 校長 星 和夫

《 基調講演 》

平成18年8月10日（木） 9：50～10：30

ホテル青森（3階）孔雀の間

司会進行 岡山県立倉敷中央高等学校 校長 中根 公郎

記 録 北海道置戸高等学校 教諭 嶋倉 俊一

北海道置戸高等学校 教諭 小嶋 純子

演題：『介護福祉士のあり方及びその養成プロセスの 見直し等に関する検討会の経過と今後の動き』

厚生労働省 社会・援護局 局長 中村 秀一 氏

I 介護福祉士養成の現状と課題

(1) 介護福祉士の資格取得状況と介護現場における現状

介護福祉士制度は1987年より福祉職としては初めての「国家資格」としてスタートした。受験者数は年々鰻登りであり、合格者数も増えている。

一方、養成校（専門学校等）卒業によって資格を得た者は20万5千人おり、国家試験受験によって資格を得た者と合わせると、現在までに約54万人が介護福祉士の資格を取得している。

代表的な社会福祉施設である特別養護老人ホームでは、介護職員のうち約41%が介護福祉士であり、在宅においては、まだ2割程度である。社会福祉施設の種別施設数の年次推移を見ても、1990年頃を境に急激に伸びているのは高齢者施設であることから、今後も介護ニーズは質・量ともに増大していくことは必至である。

(2) 介護福祉士の労働体系に関する課題

介護福祉士の労働に関しては、「介護を支える人々の労働条件」「介護サービスの質」といった問題がある。具体的には、介護サービス量の急激な増加に対し、量的な充足は出来たが質はどうか、また、介護現場で働いている人の労働条件として、離職率は高く、賃金も安い、福利厚生も充分ではないのではないかなどといった問題である。介護職のキャリアを開発し、働きながら能力を高めることによって、それなりの地位・責任のある職に就くことができる体系作りが望まれる（高い能力のある者が施設長などのような役職につくことができる、というような）。このことから介護福祉士の資格のあり方を見直し、介護労働の魅力を高め、優秀な人材を介護の職場に確保していく必要がある。

Ⅱ 介護福祉士制度見直しの背景

(1) 1990年以降の「進化するケア」

1990年頃を境に社会福祉に関する制度・ニーズは「地殻変動」ともいえるほど様変わりした。しかし、介護福祉士制度については現在に至るまで改正がなされていない。「地殻変動」以前の制度のまま変化し続けるニーズに対応できるのかという点からも、介護福祉士制度の改正の必要性があるのではないかと。

(2) 2015年、2025年問題

2015年、団塊の世代が65歳になる時期であり、我が国の高齢者人口が一挙に増える時期である。福祉サービスを「措置」ではなく「契約」で受けてきた世代をケアすることになるので、質的にも高度なものが求められる。また、現在1千万人である後期高齢者は2025年には2千万人となり、単純に現在と比較しても介護ニーズが2倍となる。数的な充足のみならず、多様化する利用者の求める福祉サービスを提供できるだけの力量を持った介護福祉士を養成する必要がある。

Ⅲ これからの「介護福祉士」

(1) 求められる介護福祉士

- ① 尊厳を支えるケアの実践
- ② 現場で必要とされる実践的能力
- ③ 自立支援重視
- ④ 施設・地域を通じた汎用性
- ⑤ 心理的・社会的ケアの重視
- ⑥ 予防からリハビリテーション、看取りまで
- ⑦ 他職種共同・チームケア
- ⑧ 一人でも基本的な対応可能
- ⑨ 「個別ケア」の実践能力
- ⑩ コミュニケーション能力、記録・記述力
- ⑪ 関連領域の基本的理解
- ⑫ 高い倫理性の保持

(2) 資格制度の見直し ～ 国家資格は何を目指すのか

- ① 幅広い利用者に対し基本的な介護を提供できる能力を有する資格にしていく
- ② 資格取得の方法を一元化する
 - ・教育内容の充実
 - ・一定の教育プロセスを経た後、国家試験を受験する方法に移行する。

※ 現行では、福祉系高等学校では1190時間、養成施設は1650時間の履修としているが、どちらも1800時間の履修を行ったのち、すべての者が国家試験を受験する方式とする。福祉系高等学校において現行の1190時間にとどめるならば、9ヶ月以上の実務経験を経た後、国家試験受験資格を得られるものとする。

(3) 福祉教育内容の充実

① 3年制：「現段階では将来的課題」

養成施設（専門学校等）については3年制にしていくべきではないかという議論もなされた。

② 時間数の増加

福祉系高等学校、養成施設ともに1800時間の履修とする

③ 履修科目・教育内容の抜本的見直し

「社会と人間」＋「こころとからだのしくみ」＋「介護」（介護技術＋実習）という3分野を中心に教育内容を構成し、基礎的な能力を高め、「尊厳を支えるケア」の実現を図る。

(4) 今後の流れ

「介護福祉士見直し検討会」でまとめられた報告書をうけ、改正法案を来年の国会に提出する見通しである。新たな制度になった場合のカリキュラム、シラバスはどうか、また、いつから実施される予定なのかが懸念される場所である。現在、養成施設および福祉系高等学校に在籍している者が卒業するまでは、少なくとも実施できないので、ある程度の経過期間を設けることが予想される。教育内容については、できるだけ早い転換をめざし、すでにカリキュラムおよびシラバスの見直しチームをスタートしている。これについては年内に一定の取りまとめを行い、方向性を明らかにする見通しである。転換にあたっては、現場の先生方に無理がかからないよう時間的余裕はある程度作りつつ、しかしその余裕はできるだけ短く、という両面を考えながら進めていきたい。

(5) 資格取得後について

資格取得後、生涯にわたる自己研鑽が必要であると考え、体系的な研修制度を構築し、キャリア開発支援の仕組みを作っていく必要がある。将来的には、「介護福祉士」を基礎資格とし、専門的な研修を積むことによって各分野のさらなる専門資格を取得できるような仕組みにしていきたい。例えば、「認定認知症専門介護福祉士」「認定障害児専門介護福祉士」のように、自分の学びたい専門分野に関するさらに高度な資格を設けることで、介護職員が自己をより磨くことができる制度を整備していきたい。

さらに、介護職員をまとめる責任者（例えば施設長など）については、より高度な専門資格を持っている者でないと就くことができないというような仕組み作りも重要である。介護職員として努力を続ければ、ゆくゆくは施設長のような責任のある職に就くことができるという体系を整備することで、魅力と働きがいのある職場づくりに繋がるのではないかと。

IV まとめ

今後も介護福祉士制度の見直しについて全力を尽くし、将来、福祉系高等学校を卒業して福祉の現場に就く生徒たちのためにも魅力ある職場づくりを推進していきたい。これはある意味では国民にも関わっている。「税金・保険料・利用者負担は上げたくないが、サービスは質の良いものを受けたい」という要求だけが強くなれば、間に立って泣くのは介護労働者だからである。

<今後の進め方>

- ・時期通常国会に法案提出予定
- ・併行して「カリキュラム・シラバスの見直しチーム」で検討会
→年内に一定の取りまとめを行う予定
- ・「資格取得後の対策」の検討にも着手
- ・社会福祉士も秋から検討予定

《 記念講演 》

平成18年8月10日(木) 10:40~11:30

ホテル青森(3階)孔雀の間

司会進行 北秋田市立合川高等学校 校長 高橋 充

記 録 青森県立青森中央高等学校 教諭 森 由紀子

青森県立青森中央高等学校 教諭 岩田 隆子

演題『元気青森人の創造—人材育成と福祉教育について—』

青森県知事 三村 申吾 氏

青森県知事の三村申吾でございます。今日は私どもが今、プランとしております「元気青森人の創造」ということの話をしていただきますが、具体的な内容は、実は本県が進めております「包括ケアシステム」あるいは「クリティカルパス」そういったことについて、いかに皆様方がお育ていただいている人材が必要かということについての話をいたしたいと思います。

それにしましても、青森県によくおいでいただいたと思っております。特に、暑い関西から、東京から、西、南の皆様の中には、大変爽やかで涼しいわね、という思いがあると思います。ただ、私どもにしてみれば、「今年は暑いな、暑いな」相当暑くて、ネブタもへばった状況があるんですけど、爽やかで涼しいということは、冬は寒いですよ。青森県の課題、冬の雪ということがあるんですけども、しかしながら、沢山の雪が降り、その雪が八甲田の山々に積もるということ、あるいはこの青森市そのもので年間の積雪量が9メートルあるんですけども、本当にそうです。8メートルか9メートル、年間の積雪量がそのくらい、30万人以上の世界の都市でもっとも雪が降るのがこの青森でございますが、それでもやはり、いろんな部分で雪はあっても暮らしやすいという環境でございます。実際に去年は台風が一つも無かったんですけど、台風が来ますと、リンゴが落ちるんです。リンゴが落ちた、という話を聞いたら青森に久しぶりに台風か、ということなんです、災害という部分では非常に少ない土地柄でございます。また、山、海に恵まれている訳でございますから、食べ物には事欠かない、そして何と言っても伸び伸びと人が育つという部分においては、いい地域でございます。そういった青森の環境の中において、我々が今、どういった施策を目指しているのか、そういったことから含めてお話したいと思っております。

さて、私達は平成16年12月に、自主自立の青森県あるいは青森県の再生新生ということを進めていく将来像として、「生活創造社会」ということを目標に掲げました。そして、具体的にこれを進めていくための戦略プランとして「生活創造推進プラン」というものを策定いたしました。今日は、本県が進めておりますこういった福祉分野の取り組みとそれを支える人材育成についてお話を申し上げたいと思っております。

非常に真面目なメンバーでいらっしゃるので、冗談もあまり言えない様な感じですけど、

朝から晩まで私自身は本気で物事を言っているんですが、そうすると皆に「本当に冗談が好きな知事で」「本当に面白いわね」と言われて、今日、大阪からのお客様、先生方もおいでだと思いますが、吉本の林さんとも若干交流がある中で、私ども、なんばグランド花月には青森の米を納入しているんですけど、他県の米が最初入っていたんですけど、しゃべりまくって、「そんなに面白いなら米ぐらい入れてやろう」と入れてきたんですけど、吉本に負けない知事というよりも、政策はきちっとやっているんですけど、営業の場面においては全力で働いているという思いがございます。

それにしましても、昨日、一昨日か、橋本前総理の葬儀がありまして、大阪の知事とかみんなで武道館の上だったものですから、ぺちやくちやおしゃべりをしていまして。葬儀の最中にぺちやくちやおしゃべりしているのは良くないんですけど、「本当に大変な時代になった、なんでこんなに何処にいても金詰りなんだろう」と。今日、高橋理事長さん方もおいででございますが、私学の振興というのは全国それぞれ一生懸命やっています。本県も一生懸命やっていました。全国ベスト5本の指に入るくらいの助成の仕組みを作っていたんですけど、にっちもさっちも行かなくなって、今は全国20何番目ぐらいになっているんですけど。しかし、私学だけはこんなに大切な事をやっているのだから5%カットだけで、とか話し合いを一生懸命したり、公共事業は本県は3割縮小しているんですけど、そういった中で、それでも人作りであるとか、福祉の分野であるとか、どうしても今までのような上乘せということは出来ないけれども、残したい分野だなと。残したい分野があるけれどもなかなか上手くいかない、ということ全国の知事、皆それぞれ悩みは同じでして、「なんでこんなに急に資金繰りが悪くなったんだろう」国はぐんぐんご存知のとおり、我々に業務の入れ替えをしているので良くなってきている訳でございますし、国保にしたって何にしたって大変。介護保険も皆様方も関係してくる部分がある訳ですけれども、なんなんだ、ということがございます。

ともあれ、私たち青森県の状況をどうとらえるか。実は本当の事を言いますと、有効求人倍率が沖縄といつも下を争っています。それから、自慢できないですけど全国一の短命県の状況にございます。ただ、お医者さん方がおっしゃるには、あれだけ食いたい物を食べて飲みただけ飲んで、おもいつきり生きているという点において、そして最後にはチューブ状態にならない、その状況が非常に少ないと。ギリギリまで元気でバタッといくのが青森だというんですけど、それでも全国最短命県という訳にはいかないですよ、ということで一生懸命減塩運動とか減油運動とかやっているんですけど、その私でも今朝検診したら「なんでまた中性脂肪出てるんですか」なんて言われるんですけど。

ともあれ、本県はおいしいものが一杯でございます。本県に霞ヶ関あたりから来て2～3年いますと必ず5～6kg太って帰る、という土地柄でございます。そういった青森県において、県民生活の現状というものを我々は調査してみました。一万人の方々にアンケートをしたんですけども、要するに本県の未来はいかにあるべきか。財政再建、非常に厳しい状況にある訳でございまして、数年で財政再建団体に落ちるべきそういった状況にございまして。その中で、金をかけるべきところにはかけるけれども、我々の元気を作っていくためにどうしようか、県民の皆さん、どういう事を考えていますか、ということでアンケートを行いました。

その結果、短命県だ、何県だ、あれが悪い、これが悪い、とにかく本県の新聞とかテレ

ビを見ていますと、青森県で絶望的で皆不満でこんな所、と思っていたら意外や意外。満足、やや満足、本当に青森はいい所だと県民の皆さん方はむしろ思っている。7割近くが「ここに居たいよな」「ここ暮らしやすいよな」ということは現実にあるらしいんです。ただ、不満度が高い項目ということで調べますと、雇用、有効求人倍率が日本最低をずっと続けている。沖縄の皆さんと共にどっちが下かと0.3ポイントで争っている、そういう状況であります。また、地域活性化、合併とかある中で、街の中がやっぱり元気がない。それは少子高齢化ということになるんですけど、いわゆる人口減少社会というものを肌感している。そしてまた、雪についての不満、というか困るよな、と。9mとかですよ、考えられますか。私も青森に住んで3年ちょっとなんですけど。それというのは同じ県内でも八戸の地域というのは殆ど雪が降らない。降らない代わりに寒いんですけど。町長やっていますが年間の除雪費用がたった200万だった時がある。要するにホウキで掃くだけでよかったんです。ところが、この青森市は八甲田山に日本海からの湿気がぶつかるものですから、降って降って降りまくる。それで9m。通常1m50~60、除排雪しても積もっているんです。本当に冬場の青森というのは大変なものです。大変なものですけどそれもいいとして生きてくれているんですけど、雪に強い街作りという課題が本県にあります。

満足度の高い項目は、新鮮で安全な食品が買えるとか住みやすさ、適切な医療を受けられる病院があるとか。私どもとすれば短命県であり医師不足であり困ったな、と思っっているのですが、県民の皆様方の意識とすれば「結構それなりにいいじゃん」というものがある訳でございます。

そういった流れの中で産業の面で考えますと、実は本県、恥ずかしい話ですけども、物作り産業が非常に劣っている部分がございます。今日、最初のスピーチで寺山修司やら太宰治だとか、棟方志功がどうした奈良美智というのもおるんですけど、いわゆるこの国の文化や芸術といったそういうところではぶっ飛んだ人間が出る所なんです。感性は非常に鋭いが社長さんを張るのが少ないのが青森県と言われてまして、進出した企業はあるんですけど社長をとっている一部上場だとか非常に少ない割合がある。そしてまた、これまで明治以来の歴史を調べてみましても、青森県から出たすごい経済人っているかといえば、いないなというのが現実なんでございます。実は、それは非常に暮らしやすさが、昔からなんだかんだ言ってもここで生きていくことが生きやすいという部分があり、したがって物や金という方向に向かうよりも、それぞれが自分の人生の楽しさ、生きやすさ、そういったことを非常に重要だと考えるのが青森県の特徴なんでございます。

したがって、我々は今更20世紀の物や金とか戦争の時代、なんでも奪い取るといったそういった時代の価値観ではなくて、青森の人達が本来から持っている、ここで家族や隣近所や要するに地域社会と共により良く人生を生きていける仕組みを作ることの方が大事でないかと。安心して老後を送れる青森県であるべきだ、子供時代にここで幸せを感じられる青森県であるべきだと。そしてまた働く場ということがあるんですけど、一番元気な時代には一生懸命働ける場があるべきだと。実はそういったことの方が豊かなのではないかと。豊かさとは何かということを考えました。

そこで私どもは「暮らしやすさのトップランナー」その形を作っていくことが、実は青森的社会におけるところの一番幸せを感じられる仕組みではないかと、そう考えたのでご

ざいます。そこで打ち上げましたのが「生活創造社会」という形なんです、その中でも生活面でどのようなことが重要かという、9割近くが医療の問題、あと食べ物、青森は食べ物が非常に新鮮で、おいしいものしか食べない、というところがあって、食べ物にこだわりがある。あと犯罪とか災害対策とかありますけれども、そういった中で、保健・医療・福祉の大切さを考えている県民が多いのでございます。今日はその方面の話に行くんですが、「生活創造社会」話をまた元に戻しますが、我々として青森の方々の意識が非常に「暮らし」といったもの「暮らしやすさ」というところにあるのであれば、「暮らしやすさ」では何処にも負けない地域作りを目指すこと、スローライフ・スローフード、そういった世界の潮流がある中で、21世紀こそ自分自身の人生の中に持った時間、時間というのは大変大切だと思います。人生において時間というもの、その人生の良い時間というものをより充実して、「おれはあそこで生きて思いっきり良かった」とそういったことを感じて欲しい。そういう青森にしたい。それが「生活創造社会」という我々の目標であります。しかしながら、これを支えていくためには産業・雇用・働く場というものを一生懸命作っていかなくてははいけない。短命県では困る。また、いろんな治安も含めて安全安心が必要である。暮らしやすさを支える三つの基盤をみっちりと整えていこう、また青森らしさを作る二つの財産、環境は水資源含めて青森の冬の全てでございませう。これを保全していくこと。人財、敢えて人の財（たから）とあてましたが、皆様方が作ってくださっている福祉関連の人財も含めて青森を青森たらしめている人財、そういった方々を思いっきりここで伸ばせるような仕組みを作っていこう。三つの基盤と二つの財産をここに選択と集中、財政苦しい状況でも徹底集中投下していくことが、我々の「生活創造社会」「暮らしやすさのトップランナー」を目指すための道筋、具体的な戦略であります。そしてそのために10本のプロジェクトを立ち上げました。

「自立する人づくり推進プロジェクト」とか「仕事プロジェクト」とか「攻めの農林水産業」これは小泉総理がいつも「青森のリンゴは中国で攻めの農業をやっている」と宣伝してくれているので、お蔭様で全国ブランドになったんですが、あるいは「青森ツーリズム」だとか、そういった中で今日は「健康といのちの育み推進プロジェクト」について若干のお話を皆様に関連がございませうので申し上げたいと思っております。我々は今、この10本に政策的経費というものを本当に投入できません。義務的経費が多いわけですから。政策的経費は全てこの10本のことに集中投資してございませう、その中で青森の未来を形づくろう、そのような仕組み作りをしております。

さて、今日話をさせていただくこの「健康といのちの育み推進プロジェクト」の中で、今日は二つのテーマ、「包括ケアシステム」ということと「地域連携パス」（クリティカルパス）ということの話をするんですが、私自身はこの政治の生活のスタートは、人口1万人の町、百の石と書いて「ももいし」と読むんですけど、米が百俵しか採れないような川原の町でございませう、ヤマセが非常に厳しくというような町でございませう。その町長を35歳でございませう。当時全国一若かったんですけど、今50歳になりましたから15年前ですが、町長になりました。その頃、ゴールドプランの調査とかそういうものがあつた時代、皆様方もお分かりいただけると思ひますけど、それぞれが地域福祉計画、地域医療計画、あるいは保健計画をどう立てていくかというような時代、また、この国もまだいろんな意味において戦えるというんですか、バブルの後でございませうけれども、国に

も余力があるという時代でした。

自分自身35歳の町長でしたが、町の長として何を為すべきなのか、いろんなことを町民の目線、いろんなことを聞くことがまず大事だろうと、中学生から高齢者まで、女性を6割とした「町民による町民のための町づくり百人委員会」というものをまず作り上げました。要するに、議会は議会として意見を聞くけれども、いわゆる町場の暮らしの中でどんなことが起きているのか、またどういった思いで我が町で暮らしているのか。

そして中学3年生全てのクラスに行って対談する「15の春と語りたい」。正に社会のことに興味を持ち、これから高校の受験等があり、町からいろんな意味で巣立っていく、そういう連中がどういうふうに関心を持って町のことについて考えを持っているのか、ということをしました。ゴールドプランの調査について言えば、非常に切ないものがございました。保健協力委員さんとか当時ですから保健婦さん、そういう方々が調査してくる。また自分もちよつとついて行ったりすると、我が町においては、実は町長就任当時、福祉関連の施設もあるいはシステムとしても具体的に言えば何も無い状況でございました。二人暮らしの高齢者あるいは一人暮らしで、家を開けると「何か臭うな」、褥創が出来ているんですね。褥創出来たおばあちゃん、おじいちゃんをそれぞれが面倒見たり、片方もまた、脳梗塞や脳卒中の足を引きずっていたりする。ともかく寒い中で、風景も感じる方も寒いのと。それでも「施設とか我が町に無くても世話することが出来るよ」と言う「いや、家に居たい。婆さま、爺さまと居たい、ここで暮らしたい」ということを高齢者の方は話していました。あるいは町民の百人委員会とか中学生との語る会、ここで一番発言したのが子供たちでございました。「町長、家のおじいちゃん、おばあちゃんが、結局町で福祉の仕組みが何もなくて医療のことも含めて放られている、投げられている。こんな町に自分たちは居たくないと思う。それにお父さんお母さんが年をとった時に、自分もこの百石という町に居たとしたら、すごく可哀相だ。町は福祉のことをもっと考えるべきだ」そういった意見提案がありました。本当によく考えました。

そこで、広島三次町という所で、山口先生、私にとっては大変な恩師であります、「包括ケアシステム」保健・医療・福祉を一つのものとして、その地域におけるところのやすんじて安心してそこで生きられるんだ、敢えて言えば、そこで安心して死ぬるんだと、そこまで面倒見るんだ、そういう仕組み作りをしているということを知った訳でございませぬ。自分自身もまだ全国では稀でございましたが、保健・医療・福祉を一体とした「包括ケアシステム」というものを是非自分の町に取り入れたいということで、様々な道は困ったことはありましたけれども、我が町としての、百石型の「包括ケアシステム」というものを作ろうということを決断し、しかしながら大変苦勞しました。ご存じのとおり、福祉の方面というものは、敢えて言えば生産性というんですか、みんな欲しい物ほどの町や地域でもそうだと思いますが、道路、道路という中で、自分自身は発言いたしました。我々の使える予算というのは限られている。道路2・3本遅らせても作らなくても、人の背中や心に穴をあけたくない、褥創のことですけれども。そういう町にしたいんだと。ここで生まれて人生を過ごすことになった時、安心して年をとれるんだと。この町で人生一生懸命働いたと。生まれた、育った、一生懸命働いた、嫁いできた、最後にこの町で過ごせて良かったんだと。そう見送ってあげたい。そういう町にせずして、議会の先生方、これは思い切った投資をこの保健・医療・福祉というあり方に投入すべきだ、「包括ケアシステム」

というものをつくるべきだ、とそう提案させていただき、大変いろんな議論はあったんですけど、少数与党でしたから。すごく良いことだけれども、与党でない方にとってみれば「すごく良いことだけれど、すごく良いことを35のお前がやるのは何となく面白くない」そんなことがありましたけれども、最終的には賛成してくれまして。多数決で何人かが「ちょっとトイレ行って来るから採決しろ」ということで賛成していただき、「包括ケアシステム」一人一人に保健・医療・福祉の角度から光を当てる。そのことによって正に安心して自分の町に住んでいける、その仕組みを作らせていただきました。

今まで保健事業は保健事業、医療は医療、福祉は福祉と正にどこも縦割りでございました。それが我が町の実態でしたが全てを一体化させる。国保の病院を持っておりましたから、大変な赤字で苦勞していましたが、「包括ケアシステム」を取り入れたところ周辺の医療圏の方々も「百石のシステムがいい」と。我々が作りしたのは「サービス調整会議」というのを作り、一人一人に光を当てるというのはどういうことかということ、例えば月曜日は訪問看護師さんが午前中来て、午後にはヘルパーさんが来る。火曜日はお医者さんが往診に来て午後にはリハビリの理学療法士さんが来る。水曜日には朝からヘルパーさんが来て色々やってくれて、午後には訪問看護師さんが来る。木曜日はデイサービスセンターに行っちょつとゆっくりして家族は休む、と要するに一週間のメニューをきちんとそれぞれ一人一人に作ってあげること。一週間のメニューを作ることによって180度寝ている人は150度まで頑張れ、150度まで行ったら90度まで起こせ、それが出来たら立ち上がれるように頑張れ。やはりきちんとしたケアメニューを作りケアシステムを作ると寝ないですね。起きられるんですよ。人生もう寝たんだと。おれはもう町からも捨てられた、保健師さんも来ない、もうだめだ、おれたちには行政の光とか政治の光とか無くなったんだと思った途端に、あるいは家族が特養と言い出した途端、意欲を無くして、もう良い、となって認知症も濃くなっていく訳ですし、大丈夫なはずだ、関節も良いといった方が立ち上がれなくなるんですね。そういった方々が起きられる仕組みを作るということを徹底してやってきたんでございます。今日はその話をする予定ではなかったんですけども。その中で人財が必要だという話をするはずだったんですが、「包括ケアシステム」をそういう形で作り上げ、正に訪問看護あるいは24時間のヘルプ、理学療法士の出前サービス、医師が直接家庭に行くという、そういう形をきちっと作り上げ、とにかくこの町で、行政は政治は間違いなくこの町のために、あるいは戦後という最も日本において苦しい時代を、我々の世代が生きられるようにするため、頑張ってくれた方々の最後は必ず面倒見ますよ、という形を作ったんでございます。

その形を作り我が町を中心としてそのような包括ケアを進めてきた訳ですが、今、県全体に対しても「包括ケアシステム」作りを進めています。就任3年経ちましたが、10月に広島に行って包括ケアだけの発表をさせていただくんですけども、青森県とすれば暮らしやすさを作っていく、あるいは短命県という話をしました。保健・医療・福祉を一体化するのが包括ケアだと申しあげました訳ですけども、正に安心の人生を作る仕組みを提案する、システムを作ってそれを示していく。しかし、世の中で一番難しいのは皆様方学校関係者もお分かりのとおり、世の中を支配している前例の法則、前はこうだった、こうしなければいけない、この前例の法則というものが何ほどこか日本の自治体、学校も含めて苦しめているのであります。21世紀という時代、それぞれがどう生きるかという時代に

入ったのであれば、仕組み、システムを変えること、財政のシステムを変える、保健・医療・福祉のシステムを変える、あるいは教育においてもシステムを変えていく。いろんな複線から選べる。皆さんが作ってくれている正に職業人として福祉の世界に生きる人がいて良い訳ですし、あるいは技術系の人間として物づくりにいく人がいても良い訳ですし、職人の道を選ぶ人もいて良い訳ですし、受験受験で向かっていく人も良い訳ですし、様々な人生を複線化していくことは大事なんです。システムが変わらなければいけない21世紀なんです、そのシステムを変えるのにえらい苦労している。小泉総理、非常にいろんなシステムを変えようとした訳ですけども、結局はまだ郵便局と道路公団という状況の訳でございますし、なかなか仕組みが変わるということを理解してもらえない。しかし、地域・地方それぞれの市町村や我々県は、自分たちの出来る権限の範囲内において、地方分権どんどん進んでおりますから、財源は無くても仕組みを変えることでコストを下げながら、より良いサービスを提供して行くということが大事なんだと思っております。それが「包括ケアシステム」です。

この「包括ケアシステム」の中において本当に大きな力を持っていたのは保健師さん達でありました。当時ですから保健婦と言いますけれど。現場をまわってくれていた保健婦さん達、要するに自分の町の実態をゴールドプランの調査も含めてよく知っていた人達、この人達が保健・医療・福祉を一体化するべきだと。町長、応援しますと。これをやることによって間違いなく町の人達は生きることについての明るさが出て来ますと。経済対策とか仕事作りはそれはそれでやってください、でも一番の基本はここで生きたいという意欲を持つ方々が増えることですよ、というのが自転車に乗って毎日家々をまわって歩いていると赤ちゃんがどこどこで妊娠したそうだと聞けば行く、産まれたといえれば行く、誰かが寝込んだといえれば行く、そういう保健婦さん達でありました。自分自身は今、昔あった駐在保健婦制度、あの制度の素晴らしさというのを改めて見直そう、もう一度あいつた仕組みの新しい21世紀版の仕組みというものを作れないか、ということを県庁で進めているんですけども。我々人財育成の話をしたんですが、皆様方が育ててくださっている方々の中から、間違いなく一級のヘルパーさん、あるいは介護福祉士のみならず医療関係、看護師さんだったり保健師さんになる方々がいると思います。今、非常に保健師さんの数、それなりの数にはなっているんですけど、現実はそのそれぞれの町や村の実態を理解するような仕事が出来ているか、出来ていない、ということになるんでございます。

ともあれ、この「包括ケアシステム」を進めるにあたっては、実は保健師さん方の活躍ということが大事であったということをお話したいんですが、その前に「包括ケアシステム」の話をしてしまいました。「包括ケアシステム」の方をちょっとお話させていただきます。

対象は全ての地域住民です。目的は住民が生涯にわたり健康で安心した生活を送ることが出来る。その内容は適時適切な保健・医療・福祉サービスを各機関が連携して一体的に提供する。簡単にまとめればこういうシステムなんですけど、簡単に出来ないものでございます。これを作る時に保健師さんの力というものが非常に大きかったということの話を申し上げようと思ったんです。具体的なイメージを申し上げます。いわゆる一人の個人それぞれに健康づくりという角度、元気なうちに、日常の健康診断等も含めてですけど、医療という方向から光を当てる、福祉という方向から光を当てる、そしてそれぞれが事業を

ばらばらにやるのではなくて、一体化することで、お一人お一人の人生メニューをきちんと健康なままに送っていけるように作る。ただどうしても健康な状態でないことが起きた時に、医療のシステムの中でより良くして、またこちらに戻すようにする。それがどうしても福祉のお世話にならなくてはいけない場合には、一生懸命先ほど話したような一週間メニューを作っておいて、なんぼでも元気にして、また医療の段階、保健の段階に戻るような形にする。要は、お一人お一人がそれぞれの町において三つの角度からのサービスを、総合的な切れ目の無いサービスを受けることによって、その地域で健康に将来のことも含めて安心して生きていける仕組みを作るのが「包括ケアシステム」であります。こういったことを県内全般に中核拠点病院等を置きながらやっている訳ですけども、そういった時に先ほど話したとおりの人財、保健師さんでも看護師さんでも、そしてまたヘルパーさんでも介護福祉士さんでも、そういった方々というものが非常に重要になってくる訳でございます。また、21世紀の日本、圧倒的な人口減少社会において、どうこの国の元気を保っていくかとすれば、実は安心して老後を送れること、65歳まで定年延長という状況がある訳ですけども、安心できる、先々のこと大丈夫ですよ、倒れてもきちんと一体的にサービス出来ますよ、介護保険いただいていますけれども間違いのないサービスを提供出来ますよ、その仕組みを作っています、ということを示すことが大切だと、私自身は知事としても政治家としても思っているのであります。

日本そのものの人口減少社会ということは避けられない課題だと思っております。我々も人口減少社会におけるところの本県の産業のあり方等について、検討会を進めているんですけど、どの時代においても、人口減少ということは上の世代が医療の発達の中で残っていく形になる訳ですから、人生50年の時代ではなく80年の時代である訳ですから、こういった間違いなくここで年をとっても生きていけるということは、経済活動要するに年金にしても退職金にしてもどんどん使ってくれることになりまして、ここで充分万が一のことがあっても面倒見てくれる仕組みがあるとすれば、自分はずっと働こうという意欲を持ってくれる、あるいは前向きに人生を送ってくれる、そういう意欲に繋がるのであります。意欲というのは数字では表せないものでありますけれども、我々はこの青森で生まれ育ち、あるいはここで老後または障害ある立場になって過ごす限りにおいて、絶対間違いなくここで最後まで面倒見ますよ、という仕組みを一生懸命作っているということ、今日はお話したかったのです。その中において皆さん方が育成して下さっている人財というものが、間違いなく職として、あるいはこの地域を支える仕事として大切なのだということをお話しようと思った訳であります。

続いて、我々はしかしながらもっと濃いものを作らなければならないのではないかと、「地域連携パス」というものを全国に先駆けて進めております。「地域連携パス」を簡単に説明いたします。「クリティカルパス」と話している訳ですけども、例えば入院患者が退院後に円滑に地域生活に戻り、早期に社会復帰出来るような仕組みということでございます。具体的には、脳卒中、心臓病、骨折もあるでしょうけど、病気ごと、病気の程度ごとに具体的な保健・福祉のサービスやケアの手順をきちんと作る。それはもう福祉の「包括ケアシステム」の方でやっている経験がある訳でございますから、医療の方でもそういう形をきちんと作り、「地域連携パス」によって患者さんは回復過程のおよその流れが自分自身にも見え、早期に自分自身の生活設計が出来るうえ、本当に必要なサービスが行われた

かどうか、医療の過剰ということもあります。医療費がかかってしょうがない訳ですけれども、私たちの場合としても本人としても、本当に必要なサービスが行われたかどうかということも、敢えて言えばチェック出来る形になります。サービス提供者にとってみれば、逆に言えば実は医療機関においてもサービスの効率化やその他の中において継続性を図ることが出来る訳でございます。この「地域連携パス」を活用することによって住んでいる市町村にかかわらず、圏域単位で一定のレベルのサービスを受けることができる、こういった仕組み作りを全国に先駆けて進めておりました。医療の部分の連携、家に帰る際にどうする、家に帰った後どのような仕組みでサービスしていくか、そしてその時かかりつけ医と高度医療機関との連携をどうとるか。病気ごとに経過や治療、介護サービスは異なる訳ですから、お一人お一人のメニューをきちんと作ることで各種サービスを体系化・効率化出来ますし、我々とすれば先ほどもお話しましたが過剰な医療サービスが行われなようなことも期待出来る訳でございます、そのことによって医療保険制度も健全な形で守っていきける。急性期から慢性期に至る医療機関、いわゆるかかりつけ医と大きな病院との「地域連携パス」を、地域全体まで延長して福祉・保健のサービスと連動させる、「包括ケアシステム」をさらにバージョンアップさせているというのが今の私たちであります。

具体的な流れはこのようになってはいますが、要は、病気になったとする、リハビリなどして治す、こういう形で治してますよ、段取りをつけていますよ、ということを早めに情報をやり取りしながら、どういう形で社会復帰・家庭復帰出来るか、そのことの仕組みをやりましょう。急性期の病院から回復期の病院に送る。そこで回復期治療を行い、かかりつけ病院に、最終的には元気になったら退院する。お一人お一人にとっても正に病気になって退院以降の自分がどう守られているかが見える仕組み作り。それが私どもの「地域連携パス」でございます。本県の場合、今までお話したとおり「健康といのちの育み推進プロジェクト」、そのプロジェクトの中の「包括ケア」と「地域連携パス」について話をさせていただきました。安心して住民が、県民が暮らせる地域社会を築く為にはこの分野におけるこういった非常に生き生きとした、津島園子さんから話がありましたが、子供たちからも、お年寄りからも笑顔をいただけるような人材が必要、一生懸命保健・福祉・医療にかかわる人材が非常に必要な訳でございます。そして今お話した「包括ケア」にしても「地域連携パス」にしても、システムを作っても、実際にそれを動かす人材がいなければ進んでいけない訳であります。その人材を育成するために、私どもは県立保健大学を開設し、幅広い領域で人々の健康福祉の向上に貢献できる優れた人材の育成を図っている訳でございますが、むしろそういった大学云々よりも皆様方がそれぞれ福祉関連の人材を全国において育成してくださっているこのことが、この力が、将来間違いなくこの国全体の人口減少社会の中においてそこでの活躍の場、あるいは活躍する人材として皆様方の教育成果というものが生かされていくと、私は考えているのであります。世の中でございます、何を進めるにも、どの分野も産業を起こすにしても、医療だ福祉だ保健だと言っても人でございます。我々青森県はいま「元気青森人の創造」ということを今年度からひとつの大きなテーマとして人財敢えて人の財（たから）と言っていますが、人財育成にかかっている訳であります。この日本の国のいろんな場面場面において本当に皆様方がどう生きるか、その時代をどう生きるかあるいはその時代においてどのような職業を持って生きるか、そのことを生徒さんたちに本当に熱心に教育してくださっている。このことは大変にあり

がたいことだと思っております。わが青森県は実は今DVDを作りました。

「青森100の仕事」、この青森を支えている100の仕事がありますよ。その中には米を作っている人、魚を捕っている人、あるいはIT関連の半導体を作っている人、あるいは建設現場で鉄筋を曲げたりする人、あるいは大学の先生もあれば、保健師さんであるとか、看護師さんであるとか、そして介護福祉士の方とか、そういった社会を支えている方々も私達取り上げました。100の仕事、その働き甲斐は何か、そして自分は何故その仕事を選んだのか、そして又、そのことによって自分自身はどういった人生を送ってきたのかということを実は小学生に語るという1本5分位のものを100の仕事を選んで作ったのでございますが、そこでも私達思いましたのは、本当に多くの人というものが地域社会を支えている、多くの人達が一人一人がプロフェッショナルとして意識を持ってその地域社会を動かしているのだということでございました。そういった中に於いても、これから最も重要となってくる人財、それは保健医療福祉関連、特に福祉という現場、なかなかこれから大きな課題となってくる高齢社会においての人財であります。どうぞ今日こうして青森に集まっていたいただき、これから非常に地味な真面目な勉強会を行い、子供たちからも施設実習の話とか介護の心とか、言葉を超えてお互いが福祉の現場において何を感じ取ったかそういう発表があると伺っております。人は人と共に支え合って生きるそういったことを皆様方がそれぞれの学校において生徒たちに一生懸命語ってくださっていること、教えてくださっていることをそういった方々が正に21世紀の人財として羽ばたいて行く。そういった素晴らしい仕組み作りを考えていく今日は大会でございます。私としては取り留めのない話となりましたが、本県が進めております社会作りの青森県のあり方プラン、暮らしやすさのトップランナーを目指して行こうよと。そして、そのためには産業、雇用だとか健康とか5つの分野に徹底集中投資していることを、そして具体化するために10本のプロジェクトに予算を配置し、ガンガンそれを今進めていること。その10本のプロジェクトの中の「健康といのちの育み推進プロジェクト」、その中で私自身が進めている「包括ケアシステム」あるいは「地域連携パス」、そしてそのためにどういった人財が必要かということについて、まあザックリとした話をさせていただきました。大変まとまり等のない話となりましたが時間でございますので繰るまいとさせていただきます次第でございます。せっかく青森県においでいただきました。本当は「包括ケアシステム」の先進の場所とかご覧いただければ有難いなあということもございますが、でもせっかく来たのに、夏なのに何かおいしいものを食べて良い景色を見て風呂入って帰っていただければその方が県知事としては有難く思う次第でございます。どうぞ遠い青森でございますけれど、この青森においてもこの日本の国を変えていこうと新しい仕組み作り、知事はじめ職員はじめそして又本県の学校の先生方が一生懸命進めているということをご理解いただきましてまた、地域交流、それぞれに進めていければとそう考えております。本日は真にご静聴ありがとうございました。また青森においでいただきありがとうございました。終わらせていただきます。

《 生徒生活体験発表 》

平成18年8月10日(木) 11:40~12:35

ホテル青森(3階)孔雀の間

司会進行 福島県立光南高等学校 校長 市川 淳一

記 録 光星学院高等学校 教諭 太田かおり

光星学院高等学校 教諭 石上 励子

1 『施設実習を終えて学んだこと』

函館大妻高等学校

2年 村山 れいら

私は将来、介護福祉士になることを夢見て、福祉について学んでいます。高校に入学してからのこの一年半、私がどのような形で福祉を学び、そしてボランティアや施設実習を通じて感じたことを今から述べていきたいと思います。学校では福祉についての様々な知識を学び、それを元に実習を行います。その中で私が最も強く感じたことは「福祉」という言葉の持つ意味の多様性についてです。一般的に福利・幸福を意味する言葉ではありますが、それだけにとどまらず、もっと深い意味を持っているのだということを学びました。一人一人に個性があるように、福祉の意味や必要性もそれぞれの立場によって異なるのです。また、実習を通じ、人と人の温かい触れ合いや、前向きに頑張ろうという思いは、薬に値する、もしくはそれ以上に身体的にも精神的にも影響を与えることがあるのだということも知ることが出来ました。人との交流が支えとなり、病気に打ち勝つことができたという例も少なからずあるからです。私自身、ボランティアを行う愛護部の活動の中で、様々な経験をしてきました。それは、人や自然との触れ合いは、人の心を積極的にさせてくれるということです。私は愛護部で活動するまでは内気な性格で、積極的に話しかけたり出来ませんでした。そんな私を変えてくれたのは、障害者学級に通っているY君という一人の少年との交流です。チャレンジサークルという、特別学級の生徒と触れ合う機会があるのですが、その中で私はY君と一緒に凧を作ったことがあります。その際、Y君が出来ない細かいところをお手伝いしました。そうして凧が完成し、二人でその凧をあげたとき、「お姉ちゃん、ありがとう！」Y君が笑顔で言ってくれたのです。そのときに私は初めて私にも出来ることがあるのだ、私を必要としてくれる人がいるのだ、と言うことに気づき、同時にそんな自分に自信を持つても良いのだと思えるようになったのです。今では私も自然に笑顔が増え、人に心を開く勇気もてるようになりました。先月行ったばかりの施設実習についてお話しいたします。従来型特養、デイ、ユニットと三つの場所で実習させていただきました。どの現場でもコミュニケーションを非常に大切にされていて、また、それぞれの施設でのコミュニケーションの取り方があるということに気づきました。特養では、職員の方が介助と介助の間のわずかな時間も常に利用者の方の心身の状態などを気にかけていましたし、デイでは、イベントや交流を楽しみにやってくる利用者の方が多いので、一緒に楽しむことを第一として考えていました。ユニットでは家庭的な雰囲気が出せるような工夫が施設内にされていました。私は主にユニットで実習を行ったのですが、利用者の方とお花いっぱい庭を散歩したり、お手玉の色々なやり方を教えてもらって一緒に遊んだり、利用者の方の家族や昔の様子などの話を聞いたりしました。時には私の学

校や部活、家族、そして将来の夢などの話を聞いて下さいました。無口な利用者の方もいたのですが、積極的に話しかけていくうちに自分の好きなお花のことについて話すようになって下さり、本当にうれしかったです。実習の最後の日、お別れの挨拶の際に利用者の方が涙を流して、「忘れないでね。また絶対くるんだよ。楽しかったよ。」と言って頂いたこの言葉がとてもうれしかった反面、もっと出来ることがあったのではないかという思いもこみ上げてきました。スムーズな食事の介助の方法、会話の取り方など実際現場で行ってみると上手いかなかったこともあったからです。これらの実習を通じて感じたことは、どのような福祉の現場でも血の通った温かいコミュニケーションが大切なのだということです。それをなくして利用者の方の心身の状態に合わせたケアは行えません。技術や知識を深めることはもちろん、様々な触れ合いを通して心を豊かにし、自分自身を成長させていきたいと思います。福祉というものは学べば学ぶほどその奥の深さを実感します。始めに述べたように、福祉の意味や必要性は人それぞれ異なります。ですから利用者の数だけ様々な福祉の形があるのです。福祉の仕事は、一人一人の福祉の意味を見つめ続け、その方に合った介助・ケア・コミュニケーションを提供し続けていく仕事であり、また、利用者のためだけでなく自分自身も向上させてくれる、とてもやりがいのある仕事だということ学びました。ボランティア活動や施設実習を通じて多くのことを経験し、自分が将来目指しているものが間違っていないと確信しました。介護福祉士を目指し、残された高校生活で私はさらに福祉の知識も深め、福祉の心を磨いていきたいと思っています。

2 『介護のころ』

東奥学園高等学校

3年 横内 研

私はこれまで、野球部のキャプテンとして毎日厳しい練習に励んできました。それは仲間と共に、一つの目標に向かっていく実感や、たとえ少しずつではあっても、前進を続けているという喜びがあったからです。また私には中学時代、生徒会長をした経験があります。それは実際には、常に学校生活の縁の下を支える仕事でしたが、それが私にとっては貴重な経験であり、言いようもない達成感を伴うものでした。その頃からだっただと思います。次第に誰かの、人の、役に立つ仕事をしたいという明確な意識が芽生え、どうしても、福祉の道に進みたいと思うようになりました。その頃の「介護の仕事」に対する私のイメージは、自立した生活が困難な方の手助けすること、どちらかという、女性の仕事としての見方があることなど、今思うと、かなり漠然としたものでした。だから、私のような男性が真剣に取り組むことによって、社会の認識を変えていきたいという自負心のようなものもありました。

福祉科に入学し、実際の授業をうけることによって、私のその考え方は、どんなに甘いものだったか、自覚させられることになりました。専門知識や技術はもちろんのこと、学ぶべきことは深く、広い。もっともっと努力して、力を付けたいと、真剣に考えました。また実習では、必ず、利用者の気持ちになって考えなさいと言われる。しかし、実際に体験してみるとこれは大変難しく、どのように行動することなのか、自分としては、いろいろ思い悩むことばかりでした。二年生になって初めての实習では、何をどのようにするのか、全く自信のないまま過ぎてしまい、後悔の念ばかりが残りました。三年生での実習は、その反省に立って、介護の基本となるコミュニケーションに力を注ぎました。今、そ

の方が何に興味をもっているのか、どんな時に明るい表情になるのかをよく観察し、その話題をきっかけとして、自然なコミュニケーションが続くよう心掛けました。しかし、そんな日々の中で、それとは別に、また新たな疑問もわいてきました。それは目も耳も不自由な方との関わりの中で考えたことです。その方は、時々、大きな声で叫ぶことで何かを訴えようとしているのでしょうか、それがどういうことなのか想像できません。それでも流れに従って次々と、介護の業務はこなされていきました。清潔と安全は保たれても、それがその方にとって本当に良く生きていることになっているのか、どんなに考えても納得できませんでした。介護の仕事が他の分野と大きく違う点は、次々と仕事を整理し、片付けていくだけでは成り立たないところにあります。状況によって様々にかわる場面で、臨機応変に対応していく心が常に求められているのだと思うのです。思うようにならない自分の体にどんな悲しい思いをしているのか、思いを伝えきれないもどかしさにどんな苛立ちを抱えているのか不安や恐れはないのかなど、普段の生活の中で想像し、考え、少しでも役立てるように行動していくことこそ、私たちの役割なのだと思います。

福祉の勉強をしながら、部活動にも夢中になるのは確かにハードです。それでも、そんな毎日に意味を感じているのは、やはりそれぞれに通じる面があるからだと思えるようになりました。野球はチームプレイです。チームの仲間がお互いの立場を理解し、尊重しあわなければ、良い結果にはつながりません。介護の現場においても、それぞれの立場にあるものが互いに協力し合うことこそ、より良い介護を生み出す力となると思うのです。そしてそのより良い介護を欲している利用者の方々の最も身近にいるのは、私たち介護の仕事に実際に携わる立場にあるものです。その自覚をもって、医師や看護師など他の方々への連絡、報告が確実にできるようになりたいと強く思っています。

これまでの体験から言えること、それは相手の方に寄り添いながら、その方の思いを想像し共感できること、今、最も必要とされているのは何かをしっかりと受け止め、援助させていただくこと、介護に携わるものの基本はそこにあるのではないかということです。

自分の想像する力、判断力、協調性、そして何より、人間同士の共感とはどういうことをいうのか理解を深めるために、これからもボランティア、校外活動など様々なことに挑戦し成長していきたいと思っています。

3 『施設実習を終えて』

岩手県立一関第二高等学校 3年 伊藤 志穂

私が通う岩手県立一関第二高校は、平成16年度から総合学科になりました。私は総合学科一期生として、将来介護福祉士の資格を取りたいと思い、福祉系の科目を選択して学習を進めています。

私が目指している介護福祉士の受験資格を得るためには、2年次で10日間、3年次で15日間の施設実習をこなさなくてはなりません。私が2年生の時に世話になった施設は、社会福祉法人柏寿会特別養護老人ホーム福光園です。福光園は同じ敷地内にデイサービスセンターとグループホームがあり、とても有意義な実習をさせていただきました。私は今回の10日間の施設実習を終え、改めて福祉に携わる職業の魅力というものを実感しました。普段の学校での授業や教科書等からは学ぶことのできない実践的な介護技術や声掛け、利用者の方へ対する介護側の姿勢の在り方を自分なりに沢山学習することができ

たと思います。さらには、実際の介助活動をさせていただいたことにより、自分の介護力の現状を把握できましたし、そこで自分にはどういった課題や改善点があるのかを学習することができました。

私は実習当初、1番目の目的として施設職員の方の利用者の方に対する話し方、介護をする際の声掛けの仕方について着目したいと考えていました。実際に職員の方は皆さんに共通して明るく元気良く利用者の方に話し掛け、例えば耳の聞こえづらい方には耳の近くで大きな声で話し、認知症の方には自尊心を傷つけることなく相手の話している事に頷き、相槌を打つなどといった特徴が見受けられました。やはり、一人一人の利用者の方の状態に合った対応が大切なのだと感じました。また、私は介護をする際の声掛けのみに注目していたのですが、それと同じくらいに普段の何気無い会話も、信頼関係を築いていく上ではとても重要であるということに気付くことができました。私は実習の中でこれらの事を踏まえ、利用者の方とコミュニケーションを図れるようになったので良かったです。今後の社会福祉実習の授業やボランティア活動等にも活かしていきたいと思います。

私は実習前、個人としての具体的な目標に、食事介助、入浴介助の際の衣服の着脱、そして排泄介助を頑張りたいとしていました。

食事介助では利用者の方一人一人の食事の内容が異なり、福光園では普通食、大キザミ食、小キザミ食、カッター食の4つの食形態に分かれていました。普通食はその通りの献立の基本形態であり、そのまま食べられる方、大キザミ食は利き手に麻痺などがあり、箸を持つのが不自由な方、小キザミ食は咀嚼困難な方、カッター食は咀嚼困難・嚥下困難な方というように多種多様に利用者の方に対応していました。私も実際に、栄養士の方からの指導を受けさせていただいた際に、小キザミ食とカッター食を試食させていただきました。自分が想像していた以上に飲み込み易く、味もしっかりしていたので驚きましたし、普段このような食事を取っている方の気持ちが分かるような気がしました。この後の食事介助から私は利用者の方の口に入れる1回分の量をしっかり考えて介助するようになりましたし、キザミ食など普通食のように食べ物の形が無い食事をとっている方には献立を見て、その食事のメニューを伝えるように声掛けをすることができたので良かったです。これからも自信を持って食事介助にあたりたいと思いました。

衣服の着脱では麻痺のある方にもない方にも残存能力を活かした援助の展開を目標としていたのですが、利用者の方の露出部分、露出時間を短くすることばかり意識してしまい、私がほとんど援助して、十分に残存機能を活用できていなかったように思います。また私は脱衣の援助の際に一定の脱がせ方だけにこだわっていたので、利用者の方に負担をかけてしまったと思われそうです。ですので、今後は利用者の方の合った援助をしていけるようになりたいと思います。

排泄介助では主にオムツ交換を行ったのですが、衣服の着脱と同様に露出時間の短縮に強い意識があり、清拭等の介助の手順に少々雑な面があったと思います。ですので、これからは短時間で確実にオムツ交換ができるようにしたいと思います。

今回はこの3点を頑張りましたが、この他にも職員の方からは沢山の介護側の技術や対応の仕方を指導していただきました。私が将来、介護福祉士として社会で働くために、この実習で教えていただいた事、自分では気が付かなかった点を指摘していただいたことに感謝し、今後の学習や今年の9月からもう一度ある施設実習に活かしていきたいと思いま

す。

また、今回はユニット実習、デイサービス実習、グループホーム実習といった様々な環境で実習をさせていただき、それぞれの施設の良い所を実感しました。中でもデイサービスセンターとグループホームでの実習は1日のみ実習となっていたので、やっと慣れてきた頃に終わってしまい、もう少し利用者の方々と触れ合っていたかったように思います。しかし、利用者の方の大切な一日に関わるという貴重な体験をさせていただき、とても嬉しく思っています。ユニット実習では職員の方々の繋がりというものを強く感じました。施設の中に看護師の方、栄養士の方、そして介護員の方がいて、それぞれの方が重要な役割を果たし、連携をとって利用者の方々に関わっている様子が沢山見受けられました。私は施設全体で利用者の方のケアにあたる福光園の姿勢がとても素晴らしいと思いました。だからこそ、利用者の方々は安心して全てをまかせ、充実した一日一日を過ごせるのだと思います。私も将来はこのような明るく温かい施設で働きたいと思いました。

私は今回の10日間の実習で、将来自分が福祉に関わる仕事に就いた際のことを想定して臨むことができました。今年の15日間の施設実習では今回学んだことをさらに発展させて、よりよい実習にしたいと思います。これで終わります。ありがとうございました。

4 『言葉をこえて通じるもの』

山形県立天童高等学校

3年 秋葉 翔子

「こんにちは」元気な男の人の声が飛び込んできた。それがKさんと私の最初の出会いだった。「お姉さん、お姉さん、あのね、僕ね、一人で新幹線で来たんだよ」一方的に話す彼の姿に私は何も言えず立ちすくんでいた。声を聞きつけた祖母が「よぐ来たなあ、一人で来たのが、偉いなあ」と言って招き入れた。祖母のすすめるスイカを食べるときも、新幹線の話や車掌さんの話などたくさん話をしていた。富山県に住んでいるKさんはたった一人で新幹線に乗り、山形までやってきたのだ。「お姉さんもこっちに来て食べなよ」と私を誘ってくれる。そして私がりビングを出て別の部屋に行こうとすると、「どこへ行くの？僕も行く！」と言ってついてこようとした。私は彼のとる行動すべてに驚きを隠せなかった。それは、私の知っている三十代の男性とは話し方も雰囲気もまったく違っていたからだ。彼との出会いがきっかけとなり、障害者について勉強したいと思うようになった。私は高校2年生から福祉を学び始めた。授業は、福祉とは何かをみんなで話し合うことから始まった。社会の仕組みや基本的な介護技術や援助技術を学んでいると、その人らしく生きるために必要とされているのが福祉サービスであることを知った。教科書の内容を学ぶのはもちろんだが、実際に実習に行き、たくさん利用者の皆さんと触れ合ううちに、私の中で福祉に対する考え方がどんどん変わってきた。例えば何気ない会話の中に相手を理解するヒントがたくさんあることに気づいていった。もちろん言語的コミュニケーションだけでなく非言語的コミュニケーションが重要で、言葉では伝えられない深い本質的なことを知る手段であることも分かった。福祉の中でその人らしさというものがいかに大切なのか、そして相手をよく知り理解することの大切さ、その人の持っている素晴らしい資質・長所を生かすこと。それが福祉の専門家として求められていることだと思う。と同時に同じ人間として求められる姿勢だと思う。

高校2年次、私は韓国に訪問する機会が2回あった。ホームステイで最初に訪問したと

き、最も戸惑ったことに言葉の壁がある。言葉は通じなくても、身振り手振りで伝えようとしたことで何とか自分の言おうとすることが通じていった。言葉が通じなくても思いは伝わるんだ。それは私にとって大きな自信となった。二度目の訪問は修学旅行だ。そのとき私は韓国の総合福祉施設に行く機会があり、その中で知的障害者の方と一緒に、授産施設で石けん作りを体験した。もちろん言葉は通じない。英語で話しかけても片言の韓国語で話しかけてもアニョハセヨさえ返ってこなかった。ひたすら同じ重さの油をはかり、石けんの材料準備をしている。黙々と一度も顔を上げず、決して間違えることなく仕事を進めていく。その姿に自分よりもはるかに真面目で、集中力のある素晴らしさを感じていた。生活習慣や環境は全く異なっているが、誰も頼れる人のいない中でいつの間にか私はその場にいる人から作り方を学んでいた。私に話しかけようとはしないが、さりげなくやり方を教えてくれた。もし私がもっとその人のことを知っていれば、短時間であっても通じるものが大きかったと思う。このような経験を通して、知的障害者のある人と私は一体何が違っているのかと考えることになった。私が福祉に興味を持つきっかけになったKさんのことを思い出した。私は一人で富山県に行けないだろう。今日ここにいることだって、先生がいなければ来れなかった。韓国で出会った、知的障害者の皆さんだって私よりもずっと根気強く作業をしていた。その人の持っている能力をいかに生かすか、それがその人らしく生きることにつながるのだ。では、私に求められることは何だろう。私はこれまでの自分の経験を振り返り、自分に足りないものは何かを考えた。自分とは全く違った立場の利用者の方を前にしたとき、きっとその方のニーズに対して自分の価値観で考えてしまうと思う。誰が援助者であっても同じように最善のサービスを提供するためには、自分の考えと一般的な考えの違いをきちんと把握しておく必要がある。自分の基準はどこにあるのか、それを自分で理解しておく必要があると、施設実習や韓国での体験で分かった。専門的知識・技術もちろん大切なことである。と同時に、自分自身を知る必要があるのだ。他の人の考え方、意見を聞いて感じ取り、自分の考え方を見直してみることも自分探しのヒントとなるのだ。また言葉だけでは相手の理解にはならないことも分かった。相手を理解するためにはまず、相手をありのまま受け入れ、その人らしさを認め、共に感じる。そして決して自分の価値観だけで判断するのではなく、その置かれている立場・状況を客観的に見ることが相手を理解するための第一歩だと思った。私はたくさんの人に支えられ、助けてもらって生きている。家族や友達、先生がいなければきっと今の自分はいなかった。これからも人との出会い、本との出会い、そして経験することが私を高め、成長させてくれる。だから私はこれからのたくさんの出会いを大切にしたい。今日ここにいらっしゃるみなさんとの出会いに感謝して、発表を終わります。

講評

全国福祉高等学校長会 参与

木村 行幸

発表してくれた4人の生徒の皆さん、お疲れ様でした。胸を張って福祉を学ぶことの喜びと、そして将来に向けての自分の思いを大変力強い言葉で表現をしていただきました。まず村山さんの話の中で特に心に残った言葉といえますと、「薬というものと人間の心というものは人との接し方によって薬以上の効果がある」という一節です。私たちは病気になると薬を飲んだりしますが、病は気からと言う言葉が昔からあるように人との接し方によ

って薬以上の効果があるということを感じさせていただきました。次に横内君は野球部に所属していて、部活動を通してチームプレーの大切さを学び、介護の施設などでは医師や看護師などいろんな形で働く多くの職員との連携を考慮しながら一人一人の利に対応していくことの重要性を述べていました。また、自分の実習体験を通してこのままでいいのか、何が必要であるのかということで、自問自答して、創造性の必要を感じながらこれから仕事をしていこうというそういう思いを聞かせていただきました。伊藤さんの話の中では、認知症であってもやはり人間としての尊厳・存在というものをしっかりと意識して、大切にしながら対応していかなければならない。それが介護ではないかということでした。私の母は89歳で、現在施設の方に入っています。日によって自分の息子のことも分からなくなっています。わずか四畳半の狭い個室に入った母親が言うには、家に帰りたいということです。そういう言葉を聞くと認知症になったとはいえ、まだある部分についてはきちんと正常にもものを感じる心の部分が残っているのです。やはり人の尊厳というものはどのような場面であっても尊重して対応していく、そういったことを我が身に思いをはせながら生きていました。秋葉さんの話ではコミュニケーション能力。これは4人とも全て共通してあった言葉です。福祉はこの能力をどうやって高めていくかが大切になります。こういった4人の言葉を聞きまして、平素から先生方が介護では何が必要かということを生徒に伝え、それを生徒たちが理解していることを知りまして先生方のご指導に感謝をしました。秋葉さんの、介護をするうえでは自己としての存在、自分の考えをきちんと明らかにし、自分というものをよく理解した上で他者を理解していく、これもやはり介護においては必要なことだと思います。

介護は心が必要だと津島さんが話していましたが、4名の発表者も、その言葉は違ってても心というものの大切さをしっかりとふまえて発表していました。その発表内容を聞いて大変うれしく思いました。このような若者が一人でも多く日本において育てて欲しいと思います。また、先生方のご協力もお願いしたいと思います。4名の生徒諸君、お疲れ様でした。

表彰

最優秀賞「文部科学大臣賞」

東奥学園高等学校 横内 研

優秀賞「理事長賞」

山形県立天童高等学校 秋葉 翔子

優良賞「理事長賞」

函館大妻高等学校 村山 れいら

岩手県立一関第二高等学校 伊藤 志穂

北海道ブロック会議事録

平成18年8月10日(木) 13:00～14:10

東奥学園高等学校(4階)1年6組教室

司会進行 釧路市立釧路星園高等学校 校長 山田 英二

記 録 北海道置戸高等学校 教諭 小嶋 純子

参加校： 函館大妻高等学校、江陵高等学校、釧淵高等学校、釧路星園高等学校、
留寿都高等学校、石狩翔陽高等学校、置戸高等学校、森高等学校、
室蘭大谷高等学校(計9校)

(1) 「福祉に関する教科・科目設置校協議会」について<置戸高校：前田教諭>

9月15日(金)に置戸高校を会場に行われる。研究授業及び後援会、夜には懇親会を予定している。後日、案内を送付するので多くの学校に参加していただきたい。

(2) 第2回理事会の報告について<釧路星園高校：山田校長>

7月5日にまとめられた報告によれば、介護福祉士の国家試験を卒業時に受験するためには専門科目を1,800時間以上履修しなければならないことになる。この結論に至った経緯としては「高校生に受験資格を与えるべきではない」という議論の中からやっとたどり着いたという現状がある。現実には1,800時間を実施するのは非常に厳しいが、「1,800時間をもう少し削れないか」というような議論は論外である。

卒業後に9ヶ月以上の実務経験を経て受験資格を得るという方式については、この9ヶ月間はどのような身分であるのかという問題がある。実際、生徒の就職先の多くは地元の施設であるが、各施設はこの事情をどのように捉えるのか、雇用していただける可能性はあるのかなどの課題がある。高校・近隣の福祉施設及び自治体との連携について考える必要がある。

教員の資格についても何らかの変化が予想されるが、道教委としての方針も関わってくるため、非常に複雑である。訪問介護員の養成についても、近い将来なくなることは必至であるが、それがいつなのかもわからない。訪問介護員養成のみの学校は、今後どのような道に進んでいくのかを考えていかなければならない。

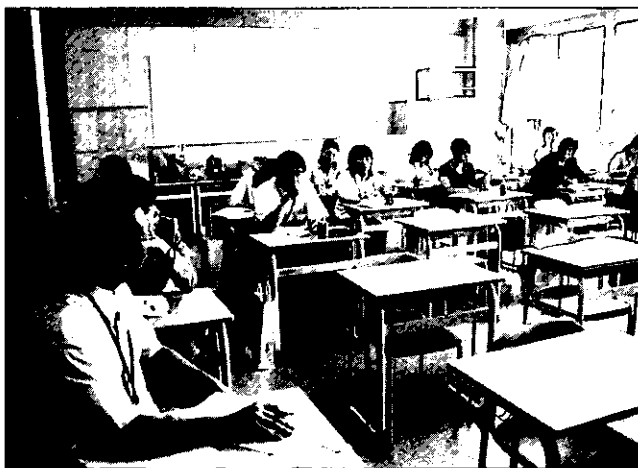
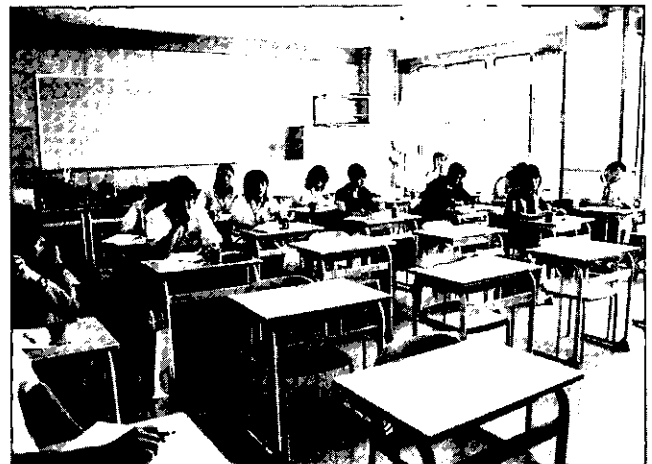
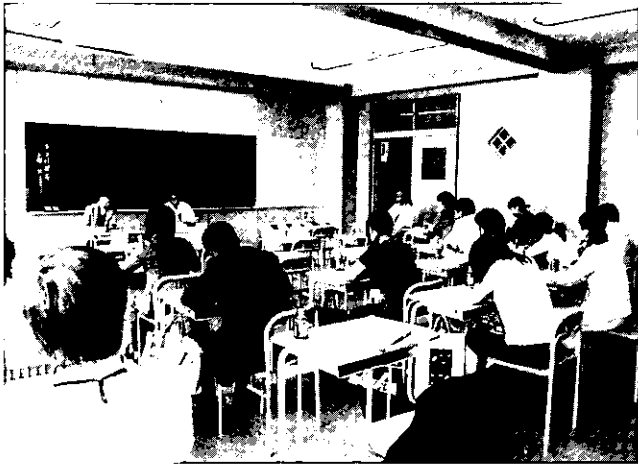
(3) 生徒体験発表について<釧路星園高校：山田校長>

生徒体験発表のあり方については、今後三役で検討することとなっている。将来的には本大会とは別な機会に発表の場を設けられるよう発展させたい。検討案に基づいて北海道地区として全国大会に繋がる北海道大会のあり方について検討する必要がある。

(4) 今後の北海道地区理事および学科主任等代表者の選出について

＜釧路星園高校：山田校長＞

従前の函館大妻・置戸・釧路星園の3校輪番制では、平成21年度から釧路星園高校が統合され、無くなることから2校の輪番制となってしまう。これは如何なものか。現在、全国加盟が9校となっていることからそれらの学校を含めて考える方向で全道大会において提案する。



東北ブロック会議事録

平成18年8月10日(木) 13:00～14:10

東奥学園高等学校(2階)会議室

司会進行 北秋田市立合川高等学校 校長 高橋 充

記 録 北秋田市立合川高等学校 教諭 工藤知佳子

【協 議】

1 来年度以降の全国福祉高等学校長会理事校について

前年度から、南東北は福島県立光南高等学校、北東北は北秋田市立合川高等学校が理事校をつとめ、2年が経過しております。来年度以降は福島県、秋田県以外のいずれかの県の高等学校に理事校をお願いしたいと考えています。各県各校の校長同志の調整で詰めていただきたい。それに従って学科主任等代表者も交替となりますので、宜しくお願いします。

2 平成19年度全国福祉高等学校長会 第13回総会・研究協議会並びに福祉担当教員等研究協議会《石川大会》における分科会分担について

大会資料26ページの分担一覧により、来年度は東北地区が「④進路指導」の発表があたっています。平成17年度は宮城県、平成15年度は秋田県が担当しており、単純に順番からいけば山形県をお願いしたいと考えております。山形県に持ち帰ってのご相談をお願いします。

3 北海道・東北ブロック研修会について

北海道ブロック理事校の校長と今後の方向性について話し合いました。東北ブロックで研修会を開催されても北海道から簡単に参加できる状況ではないとのことでした。北海道ブロックは、3年に1度は函館で研修会を開催しており、平成20年度がその予定であり、東北ブロック各校で参加の意向があれば案内を出してくださるとのことでした。

当ブロックで異議がなければ、学校事情で参加できる高等学校が参加することになると思われると話しています。また、東北ブロック単独でこのような研修会を開催するかも含めて検討しなければならないと考えています。

【報 告】

1 学科主任等代表者会議(8月9日)から

- (1) 平成18年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目標とした研修の実施報告
- (2) 第16回全国産業フェア《埼玉大会》について
- (3) 第8回福祉教育研修講座について
- (4) 学科主任者等代表者組織における各部からの平成18年度活動計画について

①研修部

社会福祉演習ノートの見直しを実施する。

②調査・統計部

介護技術講習会の取り組みと進路についての追跡調査を実施する予定である。

③広報部

年2回の広報紙を発行する予定であり、ユニークな福祉教育を実践している学校や福祉教育に関する情報・意見を募集している。

【情報交換】

参加各学校からの状況や課題などの情報交換

大湊高等学校 七戸高等学校 光星学院高等学校
青森中央高等学校 東奥学園高等学校 木造高等学校 西和賀高等学校
久慈東高等学校 一関第二高等学校 岩手女子高等学校
盛岡農業高等学校 合川高等学校 六郷高等学校 天童高等学校
福島北高等学校 いわき総合高等学校 光南高等学校 福島成蹊高等学校

【矢幅教科調査官】

介護福祉士の資格取得方法の見直しに関して「案」が示されているが確定したものではなく、高校福祉科は今後ますます教育内容の充実を図り、アイデアを出し合っていかなければならない。

関東ブロック会議事録

平成18年8月10日(木) 13:00~14:10

東奥学園高等学校(3階)2年7組教室

司会進行 東京都立野津田高等学校 校長 安田 健

記 録 東京都立野津田高等学校 教諭 小山 哲広

議題：理事会・主任代表者会議報告

報告

- ・第16回全国産業教育フェアについて
- ・産振の文書の到着有無確認
- ・独立行政法人教員研修センター H-1 H-2研修の報告
- ・生徒発表について
下部組織をしっかりと構築し、ブロック大会代表から全国大会に出場するような仕組みを考えて行く必要がある。
- ・新規加盟校等矢幅調査官からの情報の報告
- ・各種報告書の一部は、<http://www.tetsu-hiro.com/fk/>で閲覧可能
- ・第8会福祉教育研修講座(日本社会福祉教育学校連盟) 授業者募集及び高校教員参加要請
- ・社会福祉演習ノートアンケート集計中。17年度意向の加盟校には、19年度中に社会福祉演習ノートを配布予定。校長会加盟校で、手元にない学校は、19年度中に実費にて配布する方向。
- ・今後、福祉科卒業生の動向についてアンケートを行うことがあるので、住所録についてはその目的で使用する旨を徹底する。

協議等

- ・ブロック内、会長校や学科主任等の順番に関する件
- ・介護福祉士要請に関する情報交換
最初は大変厳しい状況であったが、何とか高等学校でも養成できる方向性に。
来年8月頃の国会までは、流動的でどうなるかは不明。
介護福祉士全体の質の向上が目的。その為に、養成する教員の資格、総時間1800時間・実習時間450時間の具体的な中身、施設の要件等が問題となってくる。
専攻科の設置についても、教員の資格要件や予算など問題点が山積。
資格優位ではなく、教養的な福祉・資格修得両方が大切。
現時点では、「介護福祉士の教育内容の見直しに関する検討委員会」(福祉科校長会より3名参加)も開かれたばかりで、1800時間の高等学校の科目の代替等についても一切解らない状態。
内容がはっきりした時点(可能なら、途中経過も)で、情報を流す。

北信越ブロック会議事録

平成18年8月10日(木) 13:00~14:10

東奥学園高等学校(3階)1年7組教室

司会進行 山梨県立富士北稜高等学校 校長 鈴木 桂一

記 録 山梨県立富士北稜高等学校 教諭 外川 真美

議題： 理事会および学科主任代表者会議の報告
平成19年度石川県大会について
理事会・学科主任代表のローテーションの確認 等

1 北信越校長会(H.17.9.16)の報告(山梨県 富士北稜高校長 鈴木 桂一)

●過去の記録は無いので、次の2点について検討、決定した。

① 理事のローテーション

◎平成19年度より、2年ずつ次の順に担当する。

福井【H.19.20年】→石川【H.21.22年】→富山【H.23.24年】

→新潟【H.25.26年】→長野【H.27.28年】→山梨【H.29.30年】

② 平成19年度北信越大会について

◎石川県 田鶴浜高校が主管校を担当する。

2 学科主任代表のローテーションについて確認

●過去2校ずつ担当していたことを確認し、来年度からのローテーションを次のように確認した。

H.19年【福井・山梨】→H.20年【福井・石川】→H.21年【石川・福井】

→H.22年【石川・富山】→H.23年【富山・石川】

3 平成19年度の、授業研究担当校について確認

●H.18.5.18の北信越校長会で、長野県上田千曲高校が、担当することを決定したことを、確認した。

4 平成19年度、石川県大会について〈石川県 田鶴浜高校長 八十田 至〉

- ① 日程説明
- ② 北信越地区の先生方へ、御協力をお願い
- ③ 生徒、体験発表について
 - ・平成18年度中に、事務局・理事会でどのようにするのか決めていただき、文書を発送できるようにしたい。

5 学科主任等代表者会議の報告〈山梨県 富士北稜高校教諭 外川 真美〉

- ① 平成18年度産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修（H1・H2研修）について
- ② 第16回全国産業教育フェア 埼玉大会について
- ③ 研修部より
 - ・H1・H2に関する終了報告
 - ・社会福祉演習学習指導参考ノート アンケートについて
 - ・福祉教育研修講座 模擬授業担当者の募集について
- ④ 広報部より
 - ・活動計画について

東海ブロック会議事録

平成18年8月10日(木) 13:00～14:10

東奥学園高等学校(3階)1年8組教室

司会進行 岐阜県立坂下高等学校 校長 松久 聡

記録 岐阜県立坂下高等学校 教諭 岩田 知子

議題：福祉のスペシャリスト(介護福祉士、訪問介護員等)育成の現状と課題

1 自己紹介

<出席校>静岡県—静岡女子・吉田・磐田北・芥田学園・三島・富士宮東
愛知県—宝陵・古知野・桃陵・高浜・海翔
三重県—いなべ総合学園・飯南・昴学園・上野商業・明野・亀山・尾鷲長誠
岐阜県—大垣桜・坂下・益田清風・岐阜各務野

2 福祉に関する国家試験合格・資格取得に向けた各校の取組状況

(◇介護福祉士の在り方及びその養成プロセス見直し等に関する検討会を受けて)

(1) 各校・各県の福祉教育の現状

- ・ 地域の福祉専門家養成のため介護福祉士国家試験合格を目指して努力してきた。今回の見直し案が出されると現場実習の時間が多くなり、確保できるのかまた夏季休業中の実習等はどうなるのか等課題がある。
- ・ 1800時間になると、代替科目がどうなるか、シラバスが出されるのを待ちたい。
- ・ 総合学科や生活福祉科では、訪問介護員養成研修に取り組んでいるが、基礎研修がどうなるかで対応を考えていきたい。
- ・ 学科の新設や改編で卒業生がこれからのところは、教育課程の検討中である。
- ・ 卒業生は、資格を生かして働いているが真面目で前向きであると評価されている。現在の成果を継続させていけると良い。
- ・ 訪問介護員養成研修については、県単位で検討していくことになる。

(2) 施設実習の充実や実技講習会

- ・ 施設実習では、生徒の感想を冊子にして各施設に届けている。
- ・ 介護実習では、事前にグループに1名ずつ、放課後に準備させている。
- ・ ケアプランは、外部講師より指導してもらっている。

(3) 福祉教員の配置の現状と今後

- ・ 現在の教員数ではとても指導していけない。福祉の教員の採用や単位数に応じた教員の配属をぜひ実現してほしい。
- ・ 教員採用試験「福祉」実施県－ 愛知県・ 岐阜県（平成19年度より）
採用なし 静岡県、三重県

岐阜県では、生活産業学科専門委員会の一環として研究会が編成されており、福祉教育について検討されている。愛知県では、福祉教育研究会が設置されている。

- ・ 県教育委員会の指導を受けたり、情報交換の必要性がある。

3 理事会・学科主任等代表者会議報告

(1) 平成17年度研修部、調査統計部、広報部の活動報告

(2) 総会・研究協議会並びに福祉担当教員等研究協議会

分科会分担 平成19年度 テーマ②現場実習

平成12年三重 ④進路指導 上野商業

13年愛知 ④進路指導 古知野高校

16年岐阜 ③資格取得 大垣桜高校

17年静岡 ①授業研究 吉田高校

学科主任等代表者会議を受けて19年度は三重県に依頼したい

(3) 平成19年度 東海地区役員は愛知県



近畿ブロック会議事録

平成18年8月10日(木) 13:00~14:10

東奥学園高等学校(3階)2年8組教室

司会進行 福知山淑徳高等学校 校長 奥田弥進夫

記 録 福知山淑徳高等学校 教諭 松井 儀幸

議題：理事会・学科主任等代表者会議の報告について

1、自己紹介

2、福知山淑徳高等学校長あいさつ

奥田弥進夫

(1) 理事会報告

介護福祉士国家試験受験資格の見直し問題における検討委員会が8回行われ、最初の4回まではまったく相手にされなかった。しかし、全国の福祉系高等学校から集めた資料等を有効に使い応戦した結果、介護福祉士国家試験受験資格を条件付で認められるかもしれない、というところまでこぎ着けた。その条件というのは、授業時間数が1800時間という事だけではなく、設備面の拡充・福祉科教員の資格・実習時間の確保(450時間?)等が考えられるが、要するに「専門学校」並みの環境と授業を確保して欲しいと考えているようである。このような資格制度の見直しが明らかになるのは、来年夏開けの通常国会に提出したそれ以降の可能性が強いと思われる。加えてシラバス等は今年いっぱいに取りまとめを行うと、厚生労働省 社会・援護局局長から報告があった。これからの対応としては、まだ見直しも経過途中なので、各校見守りながら対応していかなければならない。

生徒体験発表については「全国的に生徒を募って文部大臣賞を創設したい」という意向から来年度からの方針を検討していかなければならないようだ。

3、学科主任等代表者会議報告

(1) 平成18年度 産業技術、情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修(高等学校 福祉; H-1、H-2)について

H-1(介護技術)の研修は大妻女子大学にて行われ、25名が参加し、全員修了証を受けた。

H-2（援助技術）の研修は同志社大学にて行われ、15名が参加し、全員修了証を受けた。

また、関東と関西で交互に行われていたこの研修は、来年度（平成19年度）から合体する方向で考えられる見通しである。

（2）第16回 全国産業教育フェアについて

今年の全国産業教育フェアは埼玉県で行われ、教科「福祉」については関東・東海・九州で選考される見込みである。



中国ブロック会議事録

平成18年8月10日(木) 13:00~14:10

東奥学園高等学校(3階)3年7組教室

司会進行 岡山県立倉敷中央高等学校 校長 中根 公郎

記 録 岡山県立倉敷中央高等学校 教諭 浅野 純子

議題：1 「理事会・学科主任等代表者会議」の報告
2 全国福祉高等学校長会総会・研究協議会並びに福祉担当教員等研究協議会
会場について
3 全国福祉高等学校長会総会・研究協議会並びに福祉担当教員等研究協議会
分科会分担会場について

1 「理事会・学科主任代表者会議」の報告

(1) 第16回全国産業教育フェアについて

パンフレットが配布されている。家庭部会から独立し「福祉科」として参加する最初の大会になる。

(2) 産業教育振興中央会への福祉校長会加盟について

ア 平成18年度から加盟、加盟費は全国福祉校長会から支払う。

イ 各県の産業教育振興会への加盟については、各県で対応をお願いする。

(3) 日本社会福祉教育学校連盟主催「第8回福祉教育研修講座」について

資料が配付されている。模擬授業担当者募集中であり、是非、積極的な参加をお願いしたいとのことであった。

(4) 介護福祉士のあり方検討会の経過について

ア 検討会の経過概要の説明

イ 全国福祉高等学校長会から検討会に提出した資料は、高等学校福祉科の現状が集約されている。参考として、後日中国地区理事校に中国地区事務局から送付する。各県での対応は各県理事に任せる。

ウ 現在、厚生労働省の作業チームが、新基準のカリキュラム・シラバス等検討中。

(5) 平成19年度全国大会(石川大会)運営について

ア 生徒意見発表について

(ア) 全国の生徒が参加しやすい運営方法について検討中である。

(イ) 高等学校長会との関わり方について検討中である。

(ウ) 中国地区での取組については、今後の検討課題である。

イ 日程等については資料が配付されている。

(6) 「社会福祉演習学習指導参考ノートⅠ」の見直しに関するアンケートについて現在集計中、新規加盟校への配布等についても検討中である。

(7) その他

現在、学習指導要領の改訂に向けて検討中である。

2 全国福祉高等学校長会総会・研究協議会並びに福祉担当教員等研究協議会会場について

(1) 「中国・四国ブロック」の担当は、「中国」と「四国」で交互に行う。

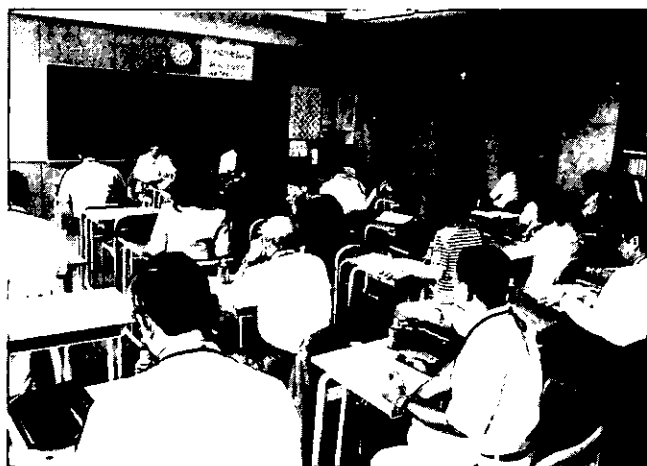
(2) 平成21年度は中国地区で、平成26年度は四国地区で担当することとなる。

(3) 平成21年度の担当県については、次回の中国地区福祉科高等学校長会の理事会で検討を行う。

(4) 全国大会運営のために必要な準備、予算等について今後確認することが必要である。

3 全国福祉高等学校長会総会・研究協議会並びに福祉担当教員等研究協議会分科会分担について

平成19年度「資格取得」、平成21年度「授業研究」の発表担当県については、次回の中国地区福祉科高等学校長会の理事会で検討を行う。



四国ブロック会議事録

平成18年8月10日(木) 13:00～14:10

東奥学園高等学校(3階)3年8組教室

司会進行 高知県立室戸高等学校 校長 大宮 健吉

記 録 高知県立室戸高等学校 教諭 別役 千世

議題：情報交換と今後の課題

1 四国理事より理事会の報告

- ・ 国家試験受験資格の方向について

資格取得の可能性が高校に残ったのはよかったが、1800時間のカリキュラムを設定するのは、総合学科では難しい。

2 学科主任会の報告

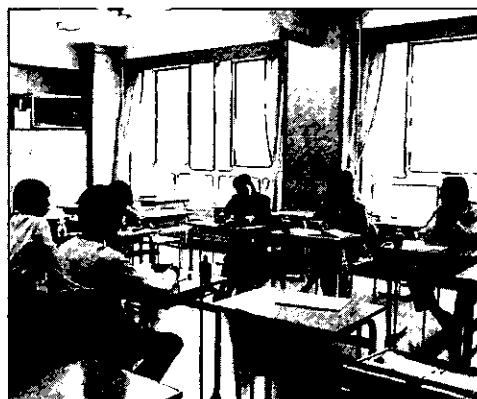
- ・ 産業教育フェア埼玉大会について
- ・ 研修部からの社会福祉演習aのアンケートについて

3 情報交換

- ・ 時間数調査が高等学校の食物科に入ってきているようなので、福祉科もきちんと各校で対応すべき。
- ・ 生徒研究発表大会の選び方について
47都道府県より選出ならば、ブロックごとよりも各校から直接応募する制度のほうが、出しやすいのではないか。

4 理事校(高知県立室戸高等学校)より連絡

- ・ 平成19・20年度の四国地区理事校の確認
- ・ 平成21年度の全国大会発表校について



九州ブロック会議事録

平成18年8月10日(木) 13:25~14:10

東奥学園高等学校(3階)音楽室

司会進行 佐賀県立鹿島実業高等学校 校長 野口 盛

記録 佐賀県立鹿島実業高等学校 教諭 橋口 直美

1. 平成18年度第9回九州地区福祉科高等学校長会総会・研究協議会 報告

<九州地区福祉校長会長 永田良二先生より>

- 平成17年度事業報告、決算・監査報告、平成18年度役員改選、事業計画、予算について承認された。
- 理事の期間のあり方について協議を行い、2年間の理事を終えたあともう1年相談役として務めること、また平成20年度には全国大会が佐賀県で開催されるのに伴い九州大会は全国大会を兼ねることについて承認された。
- 平成18年度全国産業教育フェア埼玉大会の意見・体験発表を行う九州代表校について協議を行い、佐賀県立嬉野高等学校が担当することで承認を受けた。

2. 会則について(九州福祉高等学校長会の確認事項)

<九州地区福祉校長会長 永田良二先生より>

規約と名称について、全国校長協会への確認を行った。平成18年5月の全校協臨時理事会で平成19年4月1日をもって正式に全国校長協会の会員として活動することとなる。

よって、平成18年度中は、平成18年6月15日九州地区福祉高等学校校長会総会で提案した規約の名称を「全国高等学校長協会福祉部会九州地区福祉高等学校長会(申請中)」として処理する。

平成19年度4月1日をもって、正式に「全国高等学校長協会福祉部会九州地区福祉高等学校長会(申請中)」を、「全国高等学校長協会福祉部会九州地区福祉高等学校長会」に規約改正の承認を平成19年6月の九州福祉校長会総会で手続きをする。

3. 理事会 報告

<九州地区福祉校長会長 永田良二先生より>

4. 学科主任等代表者会議 報告

<長崎県立大村城南高等学校 下田かおる先生より>

5. その他

<九州地区福祉校長会長 永田良二先生より>

発表・研究等を九州地区で担当する場合などに連絡・相談ができるように、九州地区の先生方のネットワークづくりをはじめたい。協力をお願いしたい。

《 介護技術研修 》

平成18年8月10日（木） 14:30～17:15

東奥学園高等学校（1階）体育館

司会進行 山梨県立富士北稜高等学校 校長 鈴木 桂一

記 録 北秋田市立合川高等学校 教諭 穴倉 博明

北秋田市立合川高等学校 教諭 本間 恵子

《 講 演 》

本日受付で介護技術講習会の資料を受け取っていると思いますが、評価とは何かということ意識してはいなかったと思います。この講習会では各先生方が自分の学校の授業でどういう指導をしているか持っているものを見せて下さい。

先生方は生徒を評価することには慣れているけれども、自分が評価されることにはあまり経験がないと思います。評価されることはもしかしたらプライドが許さないかもしれないが、自分の今を見つめるということは絶対正しいと思います。生徒と共によく考え学んでいく、お互いに学んでいく、このようなことで相乗効果上がると思います。

この講習会のためにスタッフの方たちと打ち合わせをしました。先生方は自分の考え・技術にこだわりがあり屈辱的と感じた方もいたと思います。評価ひとつでも、大変難しく何度も話し合いを行いようやく壁を乗り越え一つの方向性を見出していきました。

今日この広い会場での講習は細部まで伝えることは無理ではないかと考えますが、高橋福太郎校長（理事長）先生の思いは全国から集まった先生方が一つでも多く身につけて全国各地に帰ってほしいことだと思います。東奥学園、七戸高校、函館大妻高校、卒業生の皆さんが昨日より会場作りをしていただきました。各班毎にそれぞれ指導者がおります。又、見学者の方も自由に各ベッドの間に入り研修して下さい。

テレビでヒヤリハットについて放映されていました。介護の事故ではなく一歩手前の内容でした。介護事故については学会で発表しましたがかなりの数があります。その中にはヒヤリハットではなく介護事故といわなければならないものも含まれています。

介護福祉士になるためにどのようにして国家資格取得が出来るか論じられているが、基礎教育という点で考えたとき、どういう方法で試験に臨むにせよ、目標はどのように教育しより良い人材を育成し社会に送り出していくかお互いの立場で考え協力していくべきだと考えます。

〔ダイヤ式介護技術チェックシートについて〕

この介護技術というのは訪問介護員2級課程と一般の介護技術テキストがベースになっています。介護技術は465の介護動作項目から成っています。（大会資料P31参照）しかし、技術評価はする側も受ける側も難しく、その道具もなかったため客観的評価が出来なかった。多くの人たちの試行錯誤を経ながら論文として通るまで4年かかりました。

さらに精選し4課題20項目と成りました。具体的に考えてみると、例えば、オムツ交換や車椅子への移乗を行うとき生徒に手順を記憶させるということで終わっている。そうではなく、それを細かく検討していくとその中に共通点が見つけた。それはコミュニケーション（声かけ）が一つの要素として出てくる。そしてすべての項目の中に入っていることがわかります。このように分析していくと大きな“固まり”ができてくる。声かけ、身体の下へ入れる、安全、である。この三つの共通因子に名前をつけると①コミュニケーション、②差し入れ動作、③体位保持、とします。この三つはすべての介護技術に入っています。これを軸としてチェックシート原案作成を行いました。

その中の一例ですが、②差し入れ動作、について考えるとオムツ交換、更衣介助、洗髪、足浴など多くの項目が出てくる。これらを軸に介護技術を教えていくことは今までなかったことである。しかし今、この三つの共通因子を基としたテキストになったものがある。

介護技術は何をベースに教えるべきか、先ほどもヒヤリハットの所で説明したが本当に事故が多くあるのが現状です。そのためこのことはきちんと先生方もつかんでほしい。介護技術は介護福祉士にとっては道具である。道具であるという認識をきちんと生徒に持たせることが大切です。この「介護技術チェックシート」を「ダイヤ高齢社会研究財団」のホームページで公開しています。必要な方はダウンロードして利用してほしい。

介護技術の基本は、ただ一つの流れで教えていくのではなく“何で”“何のために”“どのようにして”“手を入れるのはどこまで”ということを理論的に明確に言葉で教えてほしい。介護技術の中には座学のすべてが含まれている。そうでないと高齢者の尊厳まで入ったケアにはたどり着けないと思う。

介護技術は“見て2割”“聞いて2割”“人前で恥をかいて6割”だと思っています。見学の先生方もベッドの周りで見学し多くを学んでほしいと思います。

《 実技講習 》

a) 配置

- ・各ベッドに1名指導者
- ・20グループ（1グループ6～7名）
- ・役割・・・実技者、利用者、評価者（2名）、観察者（2～3名）

b) 実施の留意点

- ・実技者は1～4の課題を全部おこなう。
 - ① おむつ交換
 - ② 嚥下困難者への食事介助
 - ③ ベッド上での洗髪
 - ④ 車いすへの移乗（大会資料、ダイヤ式介護技術チェックシート参照）
- ※ 制限時間は各課題4分
- ・評価者、観察者は実技者がすべて終了時にチェックシートを渡す。
- ・役割を交換し続ける。

c) デモンストレーション

- ・課題1～4を中央ベッドでおこなう。

(大会資料、ダイヤ式介護技術チェックシート 評価マニュアル参照)

※評価項目と写真入で評価基準の解説が収められている。

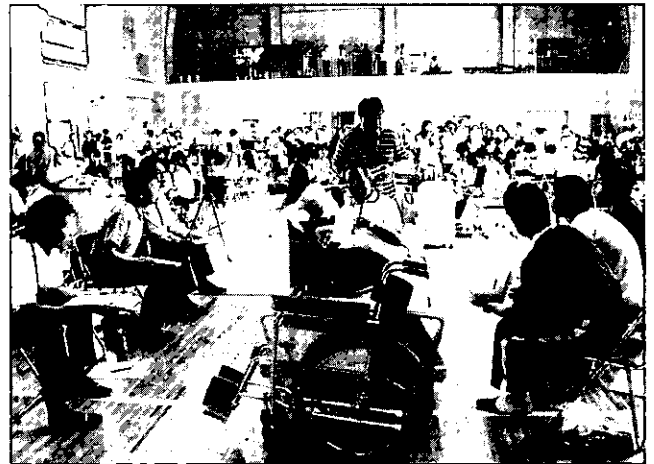
d) 実技

- ・各ベッドで移乗を中心とした技術確認をおこなう。

※上半身の起こし方、端座位の位置、利用者の足のつけ方、介護者の左足・右足の位置
(内側に足を入れた場合の利用者の尊厳、左足のつま先を浮かせる理由、右足の方向等)

《まとめ》

介護技術の基本原則をシンプルにどれだけ生徒に伝えられるかが大切である。介護技術は介護福祉士にとって道具である。それを利用者に適正に使えるか、相手の尊厳を守った介護技術をどれだけ伝えられるかが私のこれからの課題でもあります。皆さんと共に学んで介護福祉士の技術向上ができるようこれからも努力していきたいと思います。



《 校長会総会・研究協議会 》

平成18年8月11日（金） 9：00～11：30

ホテル青森（3階）あすなろ・はまなすの間

司会進行【校長会総会】

千葉県立佐倉東高等学校 校長 木村 行幸

司会進行【研究協議会】

愛知県立高浜東高等学校 校長 江坂 栄子

記 録 青森県立七戸高等学校 教諭 小野 淳美

青森県立七戸高等学校 実習講師 橘 百代

【 総会 】

- 1 開会の言葉 佐賀県立鹿島実業高等学校 校長 野口 盛
- 2 理事長あいさつ 全国福祉高等学校長会 理事長 高橋 福太郎
- 3 来賓挨拶 文部科学省初等中等教育局 参事官 島貫 和男 様

今後も、「命・自然・生きているもの」など、福祉科高校だからできる心の教育、やらなければならない心の教育について取り組んで欲しい。専門高校の役割は、「将来の職業人・地域社会を担う人材育成」にあると考える。

- 4 議長選出
- 5 議 事
 - ① 平成17年度事業報告
 - ② 平成17年度会計決算報告
 - ③ 平成18年度事業計画（案）
 - ・生徒体験発表の在り方、組織改革について事務局で考え理事会にて承認を受けてから提出したい。
 - ④ 平成18年度予算（案）
 - ・会費値上げにより収入増。
 - ・全国大会来賓旅費が新しく設けられた。
 - ⑤ 平成18年度役員
 - ⑥ その他
- 6 報告・連絡
 - ① 加盟校数……230校
 - ② 研修案内……冊子27頁参照

③ その他

- ・兵庫県立新宮高等学校 梶田先生より 文部科学省「目指せスペシャリスト」事業研究指定にかかる研究発表大会について
- ・愛知県桃陵高校 岩間先生より 福祉校長会、総会を持つ時期、理事会の持ち方を検討して欲しい。

7 閉会のことば 佐賀県立鹿島実業高校 校長 野口 盛

【 研究協議会 】

研究協議題

- ① 介護福祉士国家試験の受験制度について
- ② 今後の福祉系高校の在り方について
- ③ その他

① 介護福祉士国家試験の受験制度について

介護福祉士国家試験検討会の内容について（高橋校長より）

検討会は8回行われた。その中で、卒業生の勤務する事業所に行ったアンケートを提出し、高い評価を得ていることを示した。高校福祉の生徒は頑張っている、高校福祉科・コースに介護福祉士国家試験受験資格を残すべきであると強く主張。校長会の意向も伝えている。

現在の案として ①高校3年間で1800時間、専門教科を履修し受験。

②①をクリアできない場合、卒業後9ヶ月の実務経験を経て受験。

また履修内容の充実も求められる。現段階では案であり、来年度の国会通過までは確かな事はわからない。この案を真摯に受け止め、自校改革・教育内容の充実に努めていきましょう。

〈矢幅調査官から補足〉

正直なところ、検討会では高校卒業程度で国家資格を付与するのか四面楚歌状態だった。しかし、回を重ねる毎に校長会の意向を訴え、やっとこの案まで漕ぎつけた。今後はいかにして各校、この条件をクリアしていくのかを検討して欲しい。

①教育内容 1800時間 (52単位実施)

中身の吟味

- ・心と体・人間と社会 … 1/3程度 600時間
- ・介護専門科目 … 2/3程度 1200時間

②施設設備の充実

高校の基準はないが、H15年文部科学省が示した、産振基準に沿って整備をして欲しい。(福祉機器の数、ベッド、入浴室など)

③教員の要件

数：必要数の配置→国家試験受験の必要単位 34 単位だが、実習教科を考慮すると 2 人では不足。 全国平均→4 名 専門学校基準→4 名 最低 4～5 名必要

資格：専門学校→実務経験 5 年、介護福祉士国家資格を持つ

高校→教員免許+（どこまで満たすことができるか？）

④実施時期

全く不明である。改正時、在学中の生徒が国家試験を受験できる時期までと考えると、5 年後あたりと推測できる。しかし、5 年後の実施だと、その前に検討会が実施され、また様々な問題が振り出しからになってしまう可能性もある。専門学校も 3 年課程に一本化しようという動きがあるが、それが実施されると高校福祉科はますます苦しい現状となる。今回の要件を早くそろえて、高校福祉の実績を上げる必要があるのではないか。5 年後ではなく早まる可能性もあるため、途中で制度改革が行われても対応できるように準備する必要があると思われる。

②今後の福祉系高校の在り方について（質疑応答を含む） A）矢幅調査官より

Q）北海道留寿都高校 大高先生より 本校は（定）4 年制だが、実務経験をどうとらえればいいのか。

A）4 年生卒業後から実務経験をカウントする。

Q）大阪府淀商業高校 笠岡先生より 1800 時間の中で教科の読み替え（国語表現→記録生物→体のしくみなど）、外付けの増単はできるか。

A）1800 時間、正味専門でやって欲しいと厚生労働省からいわれている。普通教科でつけられるものを考えて行きたいが、安直に考えないで欲しい。450 時間の施設実習を課すという点も、専門学校 45 時間/週なので 10 週の実習をしている。高校でも 450 時間というよりは、10 週の実習実施と考えるとよい。夏季休業中に行うことも仕方がない。各都道府県で決められた手続きをふまえて授業日として換算。外付けの増というより、きちんとした形が良い。

Q）愛知県桃陵高校 岩間先生より 90 単位の中に 52 単位を修めると国・数・英などをやる時間がない。それで資質の向上につながるのか？現実的に対応が困難。現場の実情に即した検討を進めて欲しい。実習助手の配置を認めるよう働きかけて欲しい。

A）7 時間目を止められない。計算上は高校単位内に入れて、方法として 90 単位をオーバーして良い。教員定数については、実習助手 1 名付けるよりは教諭を 1 名付けて欲しいと要望している。（実習助手は単独で教科を持つことができない）

Q）熊本県芦北高校 土田先生より 今後、専攻科の設置と 3 年で資格取得する方法と、どちらを勧めていくのか？資格を伴わないコースは今後どのようにして歩めば、福祉系高校として生き残れるのか。ヘルパーの資格はどうなるのか。

A) 高校3年+専攻科1年も1つの方法だが、財政的な問題もあり、専攻科設置を働きかける予定はない。国の施策としてヘルパーはなくなる方向。ヘルパーを売りにしている高校は、介護職員基礎研修など、中身を変えていく必要がある。

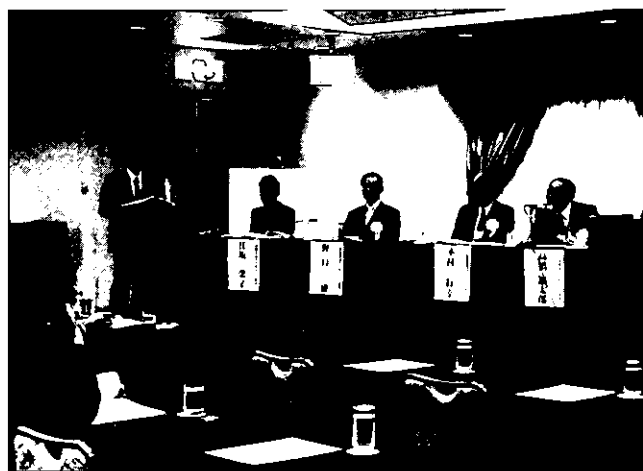
Q) 千葉県松戸矢切高校 大竹先生より 夏休みや7時間目をやっても1800時間はかなり厳しい。普通教科にしわ寄せがくる。教員1人増やす(現在3名)ことで専攻科の設置が可能ではないか。

A) 選択肢として専攻科設置もありだが、各学校としての要望は3年で取得させたいが多かった。専攻科設置に関しては各県、高校で検討して欲しい。また専攻科設置基準に照らすので単に教員1名増やすだけではないはず。様々な諸条件があります。

Q) 愛知県桃陵高校 岩間先生より 介護職員基礎研修(500時間)の見通しはいつまで? これをベースにした福祉教育も可能?

A) 当面ヘルパー1~3級は残る。H21年で3級は介護報酬から外される為、ヘルパー3級は意味がなくなるが1・2級は残る。まだ不透明だが、ヘルパーはなくなり、介護職員基礎研修が10数年は続くと思われる。介護福祉士一本化にしたいが実現はかなり先ではないか。介護職員基礎研修の中身については6月22日付けで示されている。実施要項は各都道府県で勧めているが、足並みが揃っていない。早いところでは9月、遅くても年内との情報である。テキストもまだ完成していない。

A) 青森県東奥学園高校 高橋先生より 介護職員基礎研修について、青森県は他県と確認、実施要項を作成中。



《 教員研究協議会 》

平成18年8月11日（金） 9：00～11：30

ホテル青森（3階）孔雀の間

司会進行 東北福祉大学 講師 高橋恵里香

記 録 函館大妻高等学校 教諭 鈴木 智美

函館大妻高等学校 教諭 河合 絹代

司会「皆さん、おはようございます。それでは早速これから研究協議会を始めてまいりたいと思いますが、本日発表していただく先生をご紹介します。高知県立室戸高等学校の別役先生です。奈良県立榛生昇陽高等学校の匠原先生です。次に福井県立新高等学校の水元先生です。北海道置戸高等学校の前田先生と嶋倉先生です。また、この研究協議会の助言指導をしてくださる先生ですが、東奥保育・福祉専門学院学院長の小野紀子先生と青森県介護福祉士会会長の風晴賢治先生です。宜しくお願いいたします。進行の仕方についてですが、初めに各発表の先生方から20分程度で発表をしていただきます。その後、休憩をはさんで質疑応答、意見交換そして助言指導をいただくという形で進めさせていただきたいと思います。発表直後に質疑応答という形には致しません。昨日の、このブルーのクリアケースの中に質問紙票が入っております。発表を聞いた後に各先生にこのようなことを聞いてみたいとか、このような意見をお伝えしたいという先生方は質問票にその都度ご記入していただきまして休憩時に東奥学園高等学校のスタッフの先生方に手渡していただければと思っておりますので、宜しくお願い致します。それでは早速、研究発表に入りたいと思います。初めに高知県立室戸高等学校の別役千世先生より社会福祉実習の取り組みについてのテーマで発表していただきます。別役先生、宜しくお願い致します。」

1. 現場実習について

「社会福祉実習の取り組みについて」 高知県立室戸高等学校 教諭 別役 千世

皆さんおはようございます。現場実習の発表をさせていただきます、高知県立室戸高等学校の別役と申します。宜しくお願いします。それでは本校の社会福祉実習の取り組みについて発表させていただきます。お手元の資料P35からが本校の資料となっておりますのでそちらの方も合わせてご覧いただきたいと思います。

①学校の概要

本校は高知県室戸市という一番東の部分に位置をしています。高知県の一番東の端の学校ということになります。平成9年度から高知県内初の総合学科として普通科から改編された学校です。総合学科では県内校最多の6系列を設置し4年制大学進学希望者から就職希望者まで幅広く対応できることが特色です。

②生活福祉系列の概要

福祉に関する科目はその系列の一つである生活福祉系列に含まれます。生活福祉系列では家庭科と福祉科の専門科目を設置しています。お手元の資料の科目に一部（P 3 5）抜けているところがありますのでご了承下さい。そのうち、福祉系科目6科目と看護基礎医学・フードデザイン・服飾文化は介護福祉士国家試験受験資格と訪問介護員2級の資格取得希望者は必履修としています。総合学科ということで2年次から生徒の進路希望に合わせて科目を選択することになっています。年ごとに差はありますが全校生徒のうち毎年5～10%前後の生徒が福祉系列にて資格取得を希望しています。

③教育課程

次に教育課程についてですが、画面と資料P 3 6に載せているのが平成18年度入学生の教育課程の資格取得希望者の例になります。本校の総合学科では授業の選択はすべてユニットという枠の中から授業を一つずつ選ぶようになっていますが、資料では塗りつぶしている部分、画面では黄色で塗りつぶしている枠内が学校必修の科目となっています。こちらの科目は選択に関係なく全員が履修しなければなりません。残りの2年次の18単位、3年次の20単位が自由選択科目です。そのうち福祉に関する資格取得を希望する生徒はピンクで塗りつぶしている部分2年次16単位、3年次18単位を選択しなければならず、残りは2年次の国語表現、3年次の発達保育という2単位ずつの枠、合計4単位分しか残りません。自由に選択できる4単位分については福祉を選択する生徒には国語や社会の科目を履修するように勧めています。

特に、福祉を勉強するために基礎力として必要なものが国語力であると強く実感をしています。現場実習の記録を書く時にも必要ですし、国家試験の問題を解く力、授業を聞く力、ノートをとる力など国語の力は大事であると思い、国語科と連携しながら福祉選択生が取れるユニットに国語の科目を置いてもらうように配慮をお願いしています。以上が学校の概要になります。

④福祉施設現場実習について

本校では現場実習の時間数は科目「社会福祉実習」の中に組み込んでいます。しかし、現場実習は社会福祉実習だけでなく、その他の福祉科目で学習した内容を実践する場でもありますので、科目の間で連携が必要になります。そこで、一年間の福祉に関する学習につながりを持たせるためにも年間の福祉に関する授業予定を教室に掲示しています。一年間の実習を含む活動を見て「何月にはこれがある」ということが大体わかりますので生徒に授業や行事への意識付けにもなっています。

社会福祉の現場実習の実習先は施設が3箇所、ヘルパーステーションが2箇所です。ほとんどが学校から車で10分以内のところにあります。最近は遠方からの生徒も増えてきましたので、生徒の住所に近い施設を実習先としてお願いをしています。

本校は高知県室戸地区の唯一の学校として、地元からの期待も熱く地域に根ざした学校としてさまざまな取り組みを行っています。そのお陰か、施設や事業所も比較的協力的で毎年実習生の受け入れを快諾してくれています。また、小さい町なので、職員さんたちとはスーパーで会ったり、また学校の保護者であったりと偶然出会うことが多く、

話したことはなくても顔見知りである場合が多いです。そのため施設を訪問したときも比較的職員と話しやすい雰囲気、アットホームな雰囲気が保たれていると思います。

次に実習の流れについて説明をします。実習前の一学期にオリエンテーション期間として外部講師の専門授業や校内オリエンテーション、施設オリエンテーションを行っています。校内オリエンテーションと施設オリエンテーションは2・3年次合同で行います。外部講師による専門授業では2・3年次の実習内容に応じて専門的な知識・技術を身に付けるために行っています。実習先の施設の職員や専門学校の講師をお呼びしレクリエーション指導、介護技術や救急法、介護過程の作成などを行っています。学校の教員以外の人に講師として来ていただくと日頃の授業であれば慣れた雰囲気がどうしても出てしましますが、いつもにはない緊張感を持って授業を受けることができています。

校内オリエンテーションでは本校教員から実習の心構えや服装・態度の注意、実習の健康管理等について注意をしています。施設オリエンテーションでは職員の方が学校に来て下さり、施設の様子や実習の流れ、持参物等を説明してくれます。各施設の実習担当者が一堂に集まりますので、ここで生徒の介護技術の学習状況や実習内容について話し合いをしています。その際に、生徒一人一人に記入させたプロフィールと誓約書を渡し、実習の内容についても再確認をします。誓約書の中には個人情報に関する一文を載せており、実習中の個人情報の守秘義務についても改めて自覚を促すように指導しています。

夏休み中の実習になりますので家庭との協力は不可欠となります。一学期の終わりに福祉便りという家庭向けの文書を発行し一学期の授業の様子と共に実習期間と場所を配布しました。個人情報のことからなかなかお便りを出しにくい状況ではありますが、生徒の了解を得て、また保護者に休み中の生活のことや欠席をしないように協力をお願いする意味からも配布をしました。

実習期間は2年次が10日間、3年次15日間、福祉施設で行っています。実習の内容は2年生が基本的な介護技術の習得とレクリエーションの実施、3年生は介護技術の応用と介護過程の作成を目標にしています。2年生は1学期間だけの授業を終えて実習に参加するために介護技術が十分に出来ていないことが多く、実習当初は見学とコミュニケーションが主になってきます。レクリエーションについては実習期間中に1回は企画運営をさせていただくようにしています。3年生は授業で身に付けた介護技術を実際に活かして実習を行うことと、一人の利用者に対してケアプランに沿った介護過程を書くことを課題にしています。また毎日の実習記録の記入をさせ翌朝、指導員に提出をさせています。それぞれの内容がきちんと出来ているかを確認するためにも毎日、担当教員が巡回を行い、施設の相談員さんたちと生徒の実習態度や記録の中身について話し合うなど、生徒の様子を見て指導を行っています。

実習中の介護内容について、昨年度の2年生が実習でどのようなことを実際に実施したか、自己点検表を基にグラフにして資料(P39)に載せています。自己点検表は毎日どのような介護内容を行ったか、それを見学のみだったか、指導者とともに行ったか、単独で行ったかを○印にして記入をさせています。グラフはそれぞれ何日実施したかを施設ごとの平均値で示しています。当初は見学が多かったのですが、実習を重ねるうちに指導者とともさせていただくことが多くなっていました。また、介護内容について

は実際にやったところと全くやっていない所があったり、見学ばかりの所もあったりと内容に差が出ていることもわかりました。この様子は3年生にも同様のことが言えます。改めて施設との事前の打ち合わせが重要であると気づきました。今までは、実習目的や目標は施設に連絡はしていますが、日々の実習内容は施設にほとんどお任せでやっていました。しかし、施設側も専門学校の実習内容と比べて高校生にどこまでお願いすればよいのか考えてしまうという話をいただいたり、毎年同じ施設なので例年通りでお願いしますという形で連絡を省いてしまうところもあったりと連絡・連携の不十分さも感じています。今後は具体的な実習目標・実習内容を職員と教員が共通理解として把握しておくようにしなければなりません。

そして、実習の最終日には反省会を行います。反省会には生徒と教員、施設の施設長と相談員、指導して下さった職員さんなどが参加をします。画面の写真は2学期になってから施設ごとに実習の振り返りをまとめて発表し合ったものです。資料のP40に生徒の実習後の感想を載せていますので、そちらの方をご覧ください。今までの反省会ではどの生徒も利用者とのコミュニケーションの仕方について、つまりいたということがあげられました。何を話してよいのかわからない、どのように接すればよいのかわからないという意見でした。コミュニケーションのきっかけ作りはなかなか大変なようですが、このことを学ぶ場が現場実習だと思うのでより多くの実習に行き、多くの高齢者や障害者などと触れ合うことがコミュニケーションのつまずきを少なくすることになるのではないかと考えています。

それから記録やケアプランの内容から利用者を観察する目を養うことが大切であるということも言われました。利用者の変化に対して気づくことがないと記録の中身も深みがない内容となってしまうがちです。これからの授業でも気付くことの大切さと、洞察力や観察力を付けさせていく必要があります。また、実習を通して一つ一つの言葉がけから食事や着脱、排泄などの介護技術について実際に利用者を相手にして実施できたことが授業での介護知識・技術を再確認し理解を深めることにつながっていました。実習に行く前と行った後では介護に関する言葉や高齢者の様子などがすぐに思い浮かべることが出来るのでその後の授業の中で今までわかりにくかったことでもスーっと頭に入っ
て行きやすいようになっていたと思えました。

続いて、ホームヘルパー同行訪問実習について説明します。3年次に2日間ホームヘルパー同行訪問実習を行っています。ヘルパーさんからの事前指導では守秘義務の他、笑顔で挨拶をすることや黙ったまま介護をしないでおしゃべりをする事、また技術面では調理の練習をしっかりとしておくこと、掃除の仕方、畳や板張りの床の拭き掃除の方向や敷居のまたぎ方、血圧計や体温計の測定の仕方など、かなり細かいところまで注意をして下さいました。訪問実習の生活援助では家庭での家事の手伝いをどれだけ経験しているか生活体験がどれだけあるかが影響します。しかし本校の生徒の現状としては家庭での家事の手伝いをしたことがない、又はあまりしないという生徒が多いことが感じられました。家で料理を作ったり、後片付けを手伝ったりしたことがない生徒や、洗濯機を使ったことがない生徒もいます。生徒の状況には家庭環境も影響してきますので個人差もありますが、この点は家庭科と各家庭と連携をしながら強化していきたいと思っています。

訪問介護員の制度の変更で今後この実習の在り方も変わってくると思いますが、訪問実習は施設実習では見えなかった点や同じ介護技術でも在宅と施設での活用の違いなど新たに知ることが多くなっています。できれば今後も施設と在宅、両方の実習を生徒に経験させたいと思っています。

また、訪問実習・施設実習ともに実習が終わると評価表を職員の方に記入をお願いします。この結果は実習の成績にも加味しますが総合所見のところに、生徒に向けたメッセージをよく書いてくれますので生徒を励ます良い資料となります。その一部を資料P41に載せてありますのでご覧ください。

⑤今後の課題

まず実習中は毎日実習ノートに記録をします。例年、施設の相談員さんから書き方や内容について指導を受けることも多く記録の仕方の徹底、内容の充実への指導も必要であると感じています。記録に一日にやったことは書けるけれども、その介護を何故するのか、利用者の反応、そこから見えたことなどはなかなか書けない。日誌ではなく、日記になっているなどがよく言われることです。実習ノートの記録については文章力や漢字がきちんと書けることが大事です。国語などの基礎力をアップさせる取り組みも今後福祉科目の中で考えていきたいと思っています。

次に実習内容の各施設間の相違をなくす方策を考える必要があります。今年度は介護技術がどの程度できるかを大まかなとらえ方で情報を施設側に提供しました。この点については今後施設の相談員と相談しながら個人情報に触れない程度に情報提供の仕方を考えていきます。

また、生徒の社会性についてもよく指導されます。特に昨年度は、大きな声で笑顔で挨拶が出来ない、職員や利用者に対し敬語をきちんと使用できない、身だしなみが不十分であるなどの指摘を受けました。事前指導でも言葉遣いや挨拶の大切さなどは指導しているのですが、毎年注意しなければならないことが増えているように思いました。普段の言葉は大きな声なのに実習に行くとき声が小さくなる生徒もいます。この点は日々の授業中だけでなく、学校生活の中で挨拶や敬語、身だしなみチェックを行うことを徹底し改善をしていきたいと思っています。

室戸高校では社会福祉実習について今まで発表を聞いていただいた通り、特別な取り組みをしているわけではありません。しかし生徒の社会性について従来の指導では不足が出てきているのは事実です。と言っても昨年度、非常に注意を受けたことが多かった2年生が今年3年生として、先日実習を終えました。実習先の施設からは「やはり3年生になると違うね」とか「成長したね」とか「よく動いてくれて、戦力になってくれてますよ」とうれしい言葉もいただきました。やはり一度実習に行くとき気がつくことがたくさんあるものだなあと思いました。またこの部分を2年生に伝えていきたいと思っています。また、生徒の事前指導等をどのように行っているかを是非今日多くの先生方から教えて頂きたいと思っていますのでよろしくお願いします。以上で社会福祉実習の取り組みについて発表を終わります。ありがとうございました。

司会「ありがとうございました。ただいまの発表についてのご質問、あるいは今、別役先

生からの各校ではどのような事前指導を行っているのでしょうかという問いかけもありました。その件に関しましても、うちの学校ではこういう取り組みをしていますというお話がありましたら、是非先ほどの質問票のご意見・ご質問のところに書いていただきまして提出をお願い致します。こちらの方には学校名と先生方のお名前も書くようになっておりますので、是非その点も宜しくお願い致します。それでは続きまして、奈良県榛生昇陽高等学校、匠原記世子先生より本校の資格取得の取り組みのテーマで発表をいただきます。匠原先生、宜しくお願い致します。」

2. 資格取得について

「本校の資格取得の取り組み」 奈良県立榛生昇陽高等学校 教諭 匠原 記世子

おはようございます。資格取得について奈良県立榛生昇陽高等学校、匠原が発表をさせていただきます。大会冊子P43から本校のものになっておりますので合わせて、宜しくお願い致します。

①学校の概要

本校は昨年まで榛原高校と言いました。奈良県の高校再編によりまして、隣村の室生高校と統合致しまして新しくスタートをしました。3年目になっておりますので1年から3年までは榛生昇陽高校生となっております。ですので、本日発表させていただきます内容は榛原高校のものとなりますのでその点ご理解下さい。

福祉科は榛原高校で平成5年に創設されたものをそのままの形で引継ぎまして、1クラス40名です。今年は創設からは14期生目、榛生昇陽にとっては3期生の福祉科生徒を迎えたこととなります。1期の卒業生からは女性の技師装具士も出ているように、かなり意識の高い生徒もたくさん在籍していました。ここ数年は受験生もやや減りまして、今までの福祉科とは同じようにいかないということを話しています。と言うのは、昨日の発表をして下さった生徒さん達のように優しい心や思いやりは十分持ち合わせているのですが、それを上手く文章に出来にくいという大変さが出てきているという実情があります。

福祉科の指導目標、指導の努力点を掲げていますが本校は県立で1校のみの福祉科です。私学では天理高校さんが介護福祉士の国家試験の受験資格を取らせておられますが、県立としては本校1校ということで、地域の福祉を担う若い人材を育て上げていく事が本校の目指すところであります。

②資格取得

取得可能な資格は介護福祉士の国家試験受験資格、訪問介護員2級・1級を修了させております。これらは全員ですので、国家試験も全員受験となっております。その他、

元々家政科が福祉科になっておりまして、ヘルパー資格取得にも必要ではないかということで技術検定の被服や食物調理等も受検させています。訪問介護員養成研修事業の1級課程までを修了させようとするすると、冊子に載せています通りかなりの量の実習となります。施設さんにも随分、お世話をおかけすることになります。介護福祉士の資格を取れない、合格できないという場合を考えると3年間の頑張りに対して何らかの形ということで、1級までというのが今までの考え方です。

実習の量も大変たくさんありますが、特別養護老人ホームでの介護実習だけではなく、同行訪問に行かせていただいたり、知的障害者更生施設で実習させていただいたり。それらの体験は社会福祉の現状や課題を考察するにはかなりよいきっかけとなっておりますし、何よりも現場から学ぶということが生徒たちには大きな影響を与えてくれていると思います。

ここ8回分の本校の合格率と全国平均をグラフにしたものですが、創設以来ずっと30%程度の合格率だったようです。12回に初めて73.1%と全国平均を上回りました。その後16回に全国平均にまで届かない年があったのですが、それ以外は何とか安定して好成績を修めております。今年発表させていただくのにドキドキしていましたこの18回が何と過去最高の89.2%を出しまして、今日はここで発表をさせていただくのが嬉しいと思っていたのですが、と同時に介護福祉士国家試験受験資格は1800時間、実習が450時間という履修時間が悩みの種になりまして、どうしたらよいかと考えています。

本校の合格率はホップステップジャンプと言っているのですが、そうしたら次はホップになってしまうと思い、それもまた心配です。このように3年に一度、山があります。分析を多少しましたが12回の73.1%の時は入学生が定員割れをしていたようです。27人が受験して、人数が少なかった分行き届いていたのだろうかと話しています。16回のこの落ち込みですが、それまで国家試験は大体60%取れば大丈夫だと生徒に言いながら授業をしていました。この年確かボーダーが68%でびっくりしたのですが、こちらが落ち込んでいるだけで全国は普通の合格率でした。この後頑張ったので89.2%に上がったという気がします。そういう状況にあります。

本校最高の合格率を誇る第18回の本校の取り組みですが、毎年3年生の夏と冬に国試対策の補充講座をしています。昨年24時間・20時間でしたが、今年は少し時間を多くしております。頻出問題要点チェック、介護福祉士模擬問題集等を使って講習をしております。模擬試験は福祉教育カレッジさんのものを2回利用させていただいておりますが、ここである程度の合格ラインが出てきます。

昨年からはまりました介護技術講習会ですが、かなり費用もかかりますので希望する生徒に受講をさせました。保護者に対しての説明会を開いた後、希望者は各自申し込みをして受講させるという形で、昨年18回は23名希望して受講させていただきました。しかし、この受講が修了出来ない場合があるということを知りました。3年生の1学期の時点ではまだ、授業の内容がその講習を受けるまでに至っておりませんので、そのための補習をしました。内容としては、ケアプランを立てるための事例の持ち合わせがないということを知りましたので、その練習としてパーキンソン・廃用症候群などの症状を調べさせて、出来る事と出来ない事という表を作らせて練習をさせておきました。

その他の実技の練習もして、その後講習会に参加させていただくという形を取りました。これは全員修了させていただきました。

筆記試験が終わってからは介護技術講習会を受けていない生徒のために、実技試験のための講習を行ないます。日赤の看護師さんに二日間来ていただき、また特養さんに一日お世話になっています。この特養さんは県の介護福祉士協会の事務局をなさっておられる施設で毎年お世話になっています。ここで教えていただきました様子をビデオに撮り、それを学校に持ち帰って見たり、過去の実技試験のデモテープなどを見ながら学校で講習をしております。その他、16回の落ち込みの後ですが、〇×問題に慣れさせなければならないということから、朝のSHRの時間に〇×問題の小テストを実施して、範囲はたとえば今週は家政学概論で、ここからここまでというようなことを決めて慣れさせるようなことも毎日行いました。

日々の取り組みがどうしても国家試験合格を目的としているので、福祉のスペシャリストとして介護の知識・技術を身につけ、法律・制度・援助方法についても理解し利用者のQOLを高めるのに十分な技量をもつことなど、本来の目的を忘れさせてはいけないと、日々心がけています。そのために国試重視による幅広い学習の不足がないように、福祉の現場を見ることが出来る実習や多彩な授業をするようにしています。教師も興味を持てるような取り組み、もちろん生徒と一緒に取り組んでいけるようなものを少しでも多く取り入れようとしています。たとえば、総合的な学習の時間に手話コーラスをクラス全員でさせて、何曲かを地域のお祭りや産業教育フェアの時に発表させていただいたりしています。学校設定科目に地域福祉がありますが、その中で、近くのデイサービスセンターに行ったり、保育所訪問をしたりしています。社会人講師や大学の出前授業等を利用していただきまして、盲導犬の使用者様に来ていただいたり、音楽療法やガイドヘルパーの練習をさせていただいたり、今年は車イスフォークダンスを大学生の方に指導していただくということをやっています。

昨年に続き、今年度も介護技術講習会を受講したいと希望するものが多くおありまして、今年はなかなか受講場所が決まらず、奈良県内だけではなく、他府県の養成校さんへもお世話になっている状況です。来年もまた希望者がたくさん出るかと思えます。全員が簡単に受講できたらいいなあということを考えています。

③施設の求める人材・資格

本校がお世話になっている施設の職員さんに対して、どのような資格を希望しているか、必要かというアンケートを取らせていただきました。何らかの介護に関する資格を持っている人を採用されているようですが、それよりも採用の時にはやる気が大切だということでした。知識・技術は入ってから教えますよとおっしゃって下さいます。まずは人間性であるということでした。しかし介護福祉士の資格を持っていることが給料に影響することもあるようですし、今後は必須条件になると施設の方もおっしゃっていました。施設内でも資格取得に向けての対策をしておられるようです。

④平成17年度卒業生の感想

最高の合格率を出した卒業生の感想ですが、本校の3学期の授業はすべて福祉科目で

国試対策のような授業になっています。学年末の試験も国試の形態に沿ったものになっています。生徒はそういうやり方を早くからやってほしいと希望しているようです。しかし、2学期の時点ではまだ養成講座の本を全部終了することが出来ていませんので、この方法は3学期でなければ無理かなと思います。生徒は早い時期から予備校みたいなことをやって欲しいと希望しています。また、福祉の勉強はどんな時でも活かされると感じていることです。現場の実習で技術のみならず人との関わりを学び、福祉科目の授業では知識・技術だけではなく、倫理・心理などさまざまな事を学ぶことが出来るので人としてどうあるべきかを学び取ってくれているようです。

⑤おわりに

本校で福祉科は看板学科として期待されています。他教科の先生も福祉科の生徒の国試を意識した授業の取り組みをしてくれています。先ほどの先生の発表でもありました国語科との連携ですが、本校でもたとえば漢字のテストに嚙下困難や褥瘡などを入れて下さったり、理科の先生は、生物の授業までに医学の教科書に目を通して下さったり、かなり学校を上げて協力をして下さいます。また保護者の方にも、実習に行かせるからこういうことはせめて家でやらせてほしいという事や経済的な負担等、普通科の生徒に比べてかなりありますので、いろいろなご負担をおかけしています。保護者の方の期待も大きいです。そして何よりも生徒達が頑張っています。この頑張りに対して、結果を出させてやりたいと思います。

終わりになりますが、将来介護業務に従事する者の資格は介護福祉士を基本とする方針が示されたため一層国家試験合格を指導の目標としていることは否定できません。予備校かともまではいきませんが、介護福祉士養成講座の内容を一生懸命詰め込もうとしてしまっています。しかし、高校福祉科には中学生の時までに福祉に興味を持ち、人に必要とされたいという思いを持った生徒たちが集まります。人生の早い時期から福祉に携わりたいという純粋にひたむきな心で福祉の専門家を目指す若者にはやはり資格を与えて、現場では早い時期から実践力を身につけるように、現場での教育をしていただけたらと考えます。確かに生徒たちは人生経験も少なく未熟ですし、諸先輩方と比べると不十分なところがありますけれども、資格に見合うだけの力を付けるため学校設定科目を含む授業や課外授業などで幅広い学習を展開し総合的な力をつけるために取り組んでいきたいと考えます。今後も地域福祉を支える人材を育成するため私達教員自らも研修を深めて高校に与えられている介護福祉士受験資格に答えることの出来る生徒を育てて生きたいと考えます。本校では中学生を対象に体験入学をしているのですが、これは総務部の先生が福祉科の宣伝のために作ってくれたパンフレットで「情熱あふれる本校教授陣」という内容です。ちょっと恥ずかしいのですが普通科の先生方がこのように見て下さっているというもので、このようなパンフレットを作ってくれました。

問題は、授業は何とか1800時間こなせるのですが、本校では施設実習300時間程度行われていますので、今後450時間をどのように実施したらよいかと考えているところです。

就職進学は100%です。就職は100%です。今回、89.2%の合格率を達成しています。それから地域の期待は大きいです。こういう地域の方々の思いで、実習先も増

やしていけたらいいのかなと思いつながら、実習時間450時間の対応について頭の中を駆け巡っているところだ。何よりも生徒たちが一生懸命やります。そして優しいです。そういう事が私たちの元気の素になっているかと思つます。1800時間も450時間も大変だとは思つますが、一生懸命、頑張つてくれている生徒達に答えるために今後も試行錯誤といつますか、先生方はどうなさるのかお伺いしたいと思つます。平成19年の国会で通つたらどう対応したらよいかと考へているところだ。これで本校の発表を終わらせていただきます。ありがとうございます。

司会「ありがとうございます。それでは続きまして、福井県啓新高等学校の水元先生より福祉科設置以来における進路状況及び今後の課題というテーマで発表をしていただきます。水元先生、宜しくお願ひ致します。」

3. 進路指導について

「福祉科設置以来における進路状況及び今後の課題」

啓新高等学校 教諭 水元 敏博

福井県の啓新高等学校の水元と申します。宜しくお願ひします。今日のテーマですが、福祉科設置以来における進路の状況と今後の課題ということです。本日はパソコンの準備をしておきませんので、資料を読み上げさせていただきます。

(大会冊子P51～)

①啓新高校の概要

本校は女子高等学校を母体として啓新高校という男女共学の高校になりました。福井県の状況ですが、福井県は若狭と越前に分かれています。若水越山で、若狭の方は海があつて、越前の方は山が多いということです。本校は越前の方にあります。いわゆる、敦賀を境にして石川県よりの地域が越前となっています。下の方に書いてありますが越前の方には、老人施設が70以上あります。その中で、高校福祉科としては本校ともう一つは大野の方にあります東高の2校があるということです。後からも出てきますが、福祉科に対する地域の方からのニーズが非常に高いということがあげられます。啓新高等学校は普通科と情報商業科、生活文化科、調理科、福祉科の5学科で成り立っています。福祉科は平成8年の4月に設置されまして一学年のークラスが40名定員ということです。これまでに、280名の卒業生を地域に送り出しています。280名のうちですが、地元の新聞には紹介されておきますが、離職率が非常に少ないということで、過去1名～2名の離職率で収まっていると思つます。280名の内訳につきましては女子が260名、男子が20名と女子が圧倒的に多い状況となっております。

福井県は老人施設が昔から多い地域です。老人施設が多い理由としまして、私が思う

には、共働き率が非常に高い地域であります。共働き率が高い理由はたぶん繊維産業が盛んな地域でしたので、お母さん、お嫁さんも当然、繊維産業に働きに行っているのです。昔から共働き率が高いということです。それはイコール介護を必要とするお年寄りの行く場所が、老人施設の方になったということの意味だと思います。そういう理由で人口からいきますと施設数が多いです。

福祉科の第1期生、平成10年度卒業生から第8期生の平成17年度卒業生までの、卒業後の進路を見ますと福祉関係の就職が5割を超えております。そのうちの9割以上がいわゆる特養と言われる老人福祉施設へ就職しています。進学の方は約3割ちょっとで、その他が12%となっております。進学先につきましては皆さんと一緒にと思いますが福祉系の大学・短大、医療系の専門学校等への進学が多いということです。特に、一昨年あたりから医療系の専門学校、いわゆる看護やリハビリへの進学希望者が増加しています。

続きまして、福祉科の目標ですが地域で活躍する福祉の人材育成ということで、福祉専門職としての価値観の涵養、専門的知識・技術の習得、介護福祉士国家試験の全員合格を目指しているということです。ちなみに取得できる資格は以下のようになっています。(P51)

②進路指導

主に就職のことがずっと書いてありますが、全体としては教養模試を4月から9月までに6回実施し、進路オリエンテーションを同じく4月から9月まで3回実施し、面接指導を3回実施しています。福祉科の場合の就職先の指導は、担任や就職指導部が連携して本人の希望を調査して行っているということです。福祉科の生徒の就職希望先は圧倒的に社会福祉施設が多いということです。そのために就職希望先選定の一助として一年次、二年次にそれぞれ5日程度の施設ボランティア体験やまた二年次、三年次に行う施設実習、施設からの依頼によるボランティア等の機会をとらえて、施設や職員の雰囲気や自分の肌で感じて自分の就職したい施設を考えるように平日頃より指導をしております。

施設実習やボランティアに行った際に生徒が課題として投げかけることなんですが、昨日から出ていることで、コミュニケーションの問題が非常にあがってきています。これは対人援助の基本だと思いますけれども、福祉科としましても対人援助の基本ということでコミュニケーションスキルの初歩的なところをどうしたら良いか知ってもらうためにロールプレイを2年次より実施しております。ロールプレイを通しまして受容とか自己開示、傾聴、受容の前提であります非審判的態度、その辺につきましてロールプレイを通して生徒にわかってもらうようにしております。施設の方からよく言われることですが、消極的関心といいますか、一人の利用者だけを見つめながら視野を全体に置くという手法ですがそういったことにつきましても、2年次より指導をしております。そこで、施設体験の枠を広げるために施設体験先と実習先の施設が重ならないように配慮をしております。生徒の視野が広がるように実習施設は介護保健施設だけではなく、障害者施設での実習も体験できるように設定をしております。障害者施設の実習を体験すると途端に障害者施設への就職希望者が増加するということです。もう一つですが、実

習について何を学ぶかと言うことですが、私どもがしているのは職員の雰囲気ですね、施設の職員がユニフォームを着ているかどうか、職員が明るい雰囲気か、考えて指導をしているかなど職員を見させるようにしています。

何回か開かれる福祉の仕事説明会に参加をして就職希望施設でのブースで人事担当者との面接をお願いして就職の手がかりにしております。本人が具体的な就職希望先を決めますと希望施設に2～3日のボランティアを行って最終的な判断の一助にしています。先ほども言いましたけど、障害者施設での実習が終わると障害者施設への就職希望者が増える傾向にあります。そのために障害者施設と老人施設との違いをも指導しております。たとえば障害者施設の職員さんの言葉と老人福祉施設の職員さんの言葉の違いをよく聞いていなさいとか、障害者施設の場合には介護と言うよりも一緒に生活をするという視点で仕事をしているとか、そのような事を生徒に説明をしております。

求人につきましては、福祉関係が多くて例年就職希望者より多くの求人があります。また、求人施設についてはほぼ固定しております。毎年決まった施設から1～2名ずつ必ず求人があります。昨年の3月までの状況ですが、就職希望者は40名中、7割位です。その28名につきましては、求人数が59名ということで、施設数から出しますと40施設からの求人があったということです。

その理由として考えることは

- ① 介護福祉士国家試験の合格率の高さということです。その理由は、たぶん先輩からのフィードバックがありまして、先輩で介護福祉士国家試験に合格せずに就職した人は非常勤となって給料が安いということを後輩の方に伝わってくるわけです。その辺りも合格率の高さにつながっているかと思えます。
- ② 施設実習等によって、事前の面接になるということです。施設側にとっては生徒の性格等が把握できるということです。
- ③ 近くに高校福祉科が1校しかないということです。
- ④ 離職率の低さなどの評価が求人につながっていると思われれます。

就職希望の経緯としましては、生徒たちは自分の実習等の経験から「あそこの施設に行きたい」などと自ら希望を出してくることも非常に多いです。生徒が希望した施設の求人が出ていないような場合は就職指導部と連携をとって当該の施設に求人の確認等を行って出来る限り、希望先へ就職が出来るように配慮をしています。ほとんど希望先に就職出来ると考えております。また、年に何回か開かれる県社協主催の福祉の仕事説明会での面談がきっかけとなって求人してくるケース、実習先より生徒の名前を指名して「うちへ来てくれないか」という要望や施設長自らが来校されて求人票を出されるなどそういう様々なケースがあります。

先日7月にも、福祉の仕事説明会がありまして、ある全国規模の病院が経営されておられる老健の方からPTの求人があったわけですが、その中にPTではなく介護福祉士として仕事を希望するという書類を入れた生徒がおりまして、早速そこから電話がかかって来まして「本校の生徒ならば」と、現在良い方向に話が進んでいるということもあります。

次に進学ですが、進学はちょっとネックかなと思っています。10月までに進学オリエンテーションを実施しています。個人指導は随時実施をしています。福祉科生徒の進

学先としましては大学に関しては、当然社会福祉士、精神保健福祉士などの福祉関係+ α の福祉資格の取得です。短期大学に関しても同様に福祉関連で幼児教育学科や音楽療法学科等が非常に多くなっております。

最近、福祉とは別系統である医学系統の進学希望者が非常に増えているということです。その際、医学系統の進学希望に対応する学科等の問題が浮上しております。

③課題

就職に関する課題としては障害者施設への就職者数を増加させたい。特に支援費制度に代わってから、障害者施設の方で収益が下がったので就職をカットしているところが多いようです。現在老人施設に比べて障害者施設の就職者は少ない。障害者施設側の見方としては障害者福祉については介護ではなくて、生活全般への関わりが求められ職員の人生活験が必要とされるという見方をしていると考えられます。

しかし、自立支援法でも明らかなように在宅の場合には、高校生というよりも介護福祉士としての就職というように考えておられて、その介護福祉士がサービス提供の資格にもなっております。施設に関しても介護福祉士で十分対応が可能だと思われるわけですが、施設側としましては臨機応変な対応能力が無いと見なしているようです。

進学につかまして毎年3割を超える進学希望者がおりますが、最近の傾向としましては、医療系の進学希望者が増えている。いわゆる専門職志向が増加しているわけですが、その場合、一般高校の生徒との競争となって受験科目への対策が課題となっています。というのが啓新高等学校福祉科の課題と考えております。以上です。ありがとうございました。

司会「ありがとうございました。それでは最後に、北海道置戸高等学校の前田先生と嶋倉先生より社会福祉演習でのケアプラン作成の取り組みのテーマで発表をしていただきます。前田先生、嶋倉先生、宜しくお願い致します。」

4. 授業研究について

「社会福祉演習でのケアプラン作成の取り組み」

北海道置戸高等学校 教諭 前田 信治
教諭 嶋倉 俊一

おはようございます。それでは北海道置戸高等学校の発表を始めたいと思います。まず学校概要については私、前田が担当いたします。その後、授業研究については嶋倉が発表いたしますので、宜しくお願いいたします。資料のP57をご覧いただきたいと思います。

①学校の概要

置戸町ですが、北見市というところがあり、そこから南西に約30kmの所にある大雪山の麓にあり、人口は約3600人の小さな町にある学校です。置戸高校は従来、福祉科・普通科2間口の学校でしたが、一間口を平成7年度から学科転換して生活福祉科を併設致しました。平成15年度からは生活福祉科を福祉科に学科転換しています。なお、全校生徒数は131人でそのうち91名が福祉科の生徒ということになります。91名中50名が寮で生活をしています。遠隔地から通ってくる生徒が入るための寮ですが、遠くは利尻島からも入学してきます。過去には青森県の方からも生徒が入学してきたことがあります。

本校の介護福祉士の国家試験の実態についてですが、学科を立ち上げてから平成9年度・10年度につきましてはコース制ということで選択者のみ受験をしています。平成11年度からは全員受験という形で実施しています。ここ3年間はようやく良い結果が出ているかと思えます。昨年度につきましても、34名中33名が介護福祉士になりました。卒業後の進路ですが約6割は施設に就職しており、福祉科を立ち上げてから就職希望者については100%の割合で、就職をすることが出来ています。

②本校の教育課程における社会福祉演習の位置づけ

それではP58に移りたいと思います。本校の教育課程の一部である福祉教育ですが、平成18年度、社会福祉基礎につきましては1・2年次で6単位、家庭総合は1・2年次で4単位、看護基礎医学は3学年トータルで7単位、基礎介護は1・2学年で6単位、援助は2・3年生で4単位、実習は2・3年生で9単位、社会福祉制度は3年次で3単位、フードデザインは3年次に2単位という形で行っています。尚、本日のテーマである社会福祉演習につきましては3年次に5単位という形で実施しています。

社会福祉演習は事例研究とケアプランの内容を設定していき、今回ケアプランの取り組みについての発表をしますが、実は昨年度から国家試験の介護技術講習を受講する形を導入していますので、演習の取り組みの見直しとして昨年度から取り組んでいる内容を発表させていただきたいと思えます。尚、介護技術講習につきましてはここに来る直前の7月27日～8月1日までの4日間、すでに3年生が受講してきました。結果としては、全員終了し認定していただき終わっています。

それでは、社会福祉演習のケアプランの取り組みについて、本校の嶋倉に替わりたいと思えます。

③社会福祉演習の取り組み

おはようございます。それでは、本校の社会福祉演習の取り組みについて報告させていただきます。社会福祉演習には教科書というものがございません。先ほど、説明があったように進路状況ということでは福祉施設での介護職員という就職が多いということで、また就職先によっては介護職員がケアプランを作成しているという施設もあります。そのために、平成15年の入学生の教育課程からケアプランの授業を本校でも取り入れるようになりました。ケアプランの授業ですが、3年生で実施しています。夏に施設での実習がありますが、その取り組みに間に合うようにとそれまでの間に集中的に組み込

んでおります。今、話した経緯があるので、こういった目標を立てて実施しております。

内容としてはケアプランについての理解を一つ、二つ目に紙での事例を用いてケアプランを作成する、三つ目に現場実習での作成という三つの大きな柱を立てて実施しております。

一つ目のケアプランの概要説明については、一斉授業で教員が講義する形で実施しております。動画で見ていただきたかったのですが、音だけで画像が映らないので割愛します。教員が毎時間レジュメと資料を配って授業をしていますが、ほとんどノート・板書がありませんのでその授業を聞いてノートテイクをします。こちらはある生徒がそれをとったものです。またこちらは別の生徒がノートテイクしたものを写させていただきました。

ケアプランについての理解として、終わった後に実際に紙の事例でケアプランを作成して発表をするということを行いました。ケアプラン作成ではニーズを見つけるトレーニングが日常にはなく、トレーニングが必要と考え3段階で実施しております。

事例1では、紙面の中から利用者の情報を把握しアセスメントやプランニングの方法などについて教員が説明しながら一緒に作成していきます。

事例2ではグループでの学習ですが、5つの事例をこちら側で用意しグループごとに1事例ケアプランを作成します。こちらのスライドはその発表会の時の様子です。こちらはあるグループが第2表を作成したものです。発表では作成したケアプランの注目すべき点とその理由を述べるように指導をしております。このスライドですが、発表に際して資料を使って作成し発表をして工夫しているところです。また、発表するグループ以外でも一人一回以上、質問や意見など発言をするようにしております。そして、その様子がこちらのスライドとなっております。グループ学習では発表会を作るという意味で発表方法、質疑応答の方法に指導の重点を置いております。発表する側、質問や意見をする側にも援助内容の根拠が必ずありますので、それを明確にして話すということを念頭において行われました。

事例3では個人学習での発表ということでグループで作成して発表したのを個人でも取り組むようにしています。グループでの作成ではどうしても学力の高い子が作成する中心になってしまいますので、それでは全員に学習の目的を達成することが出来ません。そこで個人で取り組む機会を設定しました。こちらはその発表会の時のスライドです。2回目の発表会では質問をする、意見を言う側でも慣れてきたので、積極的な姿勢が見られ活発な意見になりました。個人で作るということを通して他の生徒からの質問や意見にも対応できる明確な根拠がある、こういった理由でこういうサービスを立てましたということで、根拠のあるプランや発表ができるようになって来ました。

次に、紙の事例に留まらないで実際に福祉施設での介護実習の中で1ケースケアプランの作成を行ったのでそのご報告をします。まず、対象となる利用者の選定ですが、実習の打ち合わせを生徒自身が行くことになるのですが、その打ち合わせを兼ねて、施設のほうにお願いをしてくれています。学校としてはそのために本校の全職員が登場してガイドビデオを製作しました。これは生徒役となった教員です。また動画ですが写らないので飛ばします。実習期間中に、一人利用者の方を選んでコミュニケーションを取ったり、職員の方から尋ねたりして情報を収集します。介護業務との実習の中でも両立

しなければならぬので大変ではありますが、良く頑張ったと思います。学校に戻ってからケアプランを完成させるようにしています。個人情報配慮ということから固有名詞はすべてイニシャル表記で、施設に対しても誓約書を提出しております。

④ケアプラン学習の成果と今後の課題

成果としては福祉科の進路状況やP62に学習を終えてということで子供たちのアンケートを載せさせていただきました。ケアプランを通して身につけたこと、そしてこれから身に付けていかなければならないことを書いてあります。そして就職後に向けた実践力を育てる一助になったかと思われまふ。課題としましては、第一に大きなことでは実習期間がとても短く、ケアプランを作成できるための十分な実習期間は、一週間では大変難しいと思っております。今後、学校として改善していきたいと思っております。また、最近では学力差が生まれてきたので、その専門的な知識をフル活用して作るケアプランでどこまで出来るか、学校として頑張っていかなければいけないと思っております。ケアプランの取り組みをしている学校もあると思っておりますのでご教示をいただければと思っております。雑駁ですが、これで発表を終わります。

司会 「ありがとうございました。それでは先生方にもご協力をしていただきまして、時間も少し早めに終わりましたけれども、後でまた足りないところは補足説明などもしていただきたいと思っております。それではこれから休憩に入りますが、先ほども申し上げましたように、こちらの質問票ですね、今、置戸高校さんからもケアプランについての取り組みのご意見等も聞きたいというお話もありました。先生方のところでなさっている取り組み等のご紹介も含めて書いていただきまして、後は事務局のスタッフに出していただければと思っております。10時30分から開催したいと思っておりますので、またお集まりいただきますようによろしくお願い致します。それではこれから休憩に入ります。」

質疑・応答

司会 それでは発表順に質疑・応答を行っていきます。

1. 現場実習・「社会福祉実習の取り組みについて」

発表 高知県 室戸高等学校 教諭 別役 千世

《質問》

埼玉県 不動岡誠和高等学校 教諭 佐藤恵子

- ①外部講師の持ち時間と科目への位置づけについて
- ②介護過程等の作成についてもどのようにしているか

《応答》

外部講師の持ち時間については、総合学科の枠として非常勤講師枠で60時間で外部講師の予算をつけている。本校は総合学科のため福祉だけでなく、工業、商業、他の科目もすべてにこの時間をつかう。福祉の中で今回発表したレクリエーションの分では、社会福祉援助技術の授業の中で4時間、救急法については社会福祉実習に位置づけて4～6時間、介護過程は社会福祉演習に位置づけて4～6時間の予定で毎年行っている。ただ、時間はこの科目に組み込んではいないが、時間割変更等がなかなかできないため、連続授業を行うためには他の科目を福祉科目の中だけで振り替えて授業に置き換えておこなっている。

《質問》

青森県 青森中央高等学校 講師 田中 泰恵

- ①実習の評価は実習後、生徒にどのように返されるのか
- ②施設によって評価基準にばらつきが見られると思うが、その点はどのような形で処理され、学校での実習評価に対してはどのように評価に反映しているか

《応答》

実習の評価表については、細かい項目に分けてはA～Dの4段階で施設に評価していただいている。総合判定もA～Dで出るようになってきている。その評価をそのまま生徒に見せてしまうと、その施設に対しての想いといったものが出てくると予想されるため、生徒には見せず、総合所見のところだけを読み上げたり、コピーを取って見せる。中には「介護福祉士頑張って下さいね」といったメッセージが書かれていることもあるので、そういった部分だけは見せるようにしている。

ばらつきについては、実習施設が3箇所しかないので大きく違うといったことはない。しかし、施設によっては厳しくチェックする所もあれば、優しくチェックする所もあり、多少のばらつきは出てきている。また、基準等を職員とよく話し合っただけで統一をしていかななくてはならないとは考えているが、現段階ではまだそれほどないので目を瞑っているといった状況である。

評価表を実習の成績にといった時、点数化すると一番よいのだろうが、ばらつきの事もあるので、すべて点数できっちり分けるということが現在はなかなか出来にくいといった状況になっている。実習中教員が巡回し、その時の生徒の様子等を総合的に判断して参考程度に見させていただいている。

《質問》

山梨県 甲府城西高等学校 教諭 古屋 由起

- ①受け入れ先機関への就職はこれまであったのか
- ②今後、“介護技術講習会”の時間数等の対応への予定があれば教えてほしい

《応答》

受け入れ機関への就職は、実習施設3箇所のうち2つは公立の施設である。公立の施設はその都度空きがないと求人を出さない。空きがでるのもいつも秋ごろ以降のため、生徒

の就職活動の時期とはなかなか合いにくくなっている。秋といっても11月後半、12月、1月にかかる場合もある。空き自体もなかなか出ないのでそちらへの就職は難しい状況。一箇所、社会福祉法人の施設には毎年求人をお願いしている。

介護技術講習については、昨年度から本校の生徒も受講を申し込むようにしている。しかし、金額も高いため生徒の希望をとっている。昨年度は1名のみ受講申し込みをした。その1名に関しては、実技・介護過程作成等で学校の休みの間に、登校して指導するといった形をとった。一人だったため対応しやすい状況であった。

司会 先程、別役先生から事前指導について何か良いアイデアがあればといったことへのアドバイスを、何点かいただいているのでご紹介させていただきます。

沖縄県 中部農林高等学校 教諭 大城 利津子

本校の事前指導は、実習前に授業をつかって何時間かおこなっている。その中で1年生対象（1年生から実習をおこなっている）に、外部講師（施設長）を呼んで、マナー講座（挨拶、礼儀作法）を行っている。教員も挨拶・敬語等に重点をおいて指導をしている（なかなか定着はしない）が、施設、外部の方が言うことで、教員が言うよりはちゃんと聞いているように感じる。現場の方がきて実際に現場の様子を話しているので、教員がおこなうよりは効果があると思う。

秋田県 合川高等学校 教諭 工藤 知佳子

本校では施設実習直前チェックといった許可テストを実施している。2年生時に筆記テスト、介護に必要な知識全般を80点合格ラインとしておこなっている。3年生時では、実技テストを行っている。食事・清潔・移動・排泄・更衣に関する実技チェックテストを実施し、これに合格した者を実習に送り出す。直前のテストを行うことを生徒には事前に伝えている。実施時期は4月、5月頃なので春休みに事前課題を配布、春休み中に生徒は十分に練習しておくようにといった指導を行っている。

2. 資格取得・「本校の資格取得の取り組み」

発表 奈良県 榛生昇陽高等学校 匠原 記世子

《質問》

神奈川県 川崎高等学校 教諭 岡 多枝子

①国語、社会、理科等でどのようなカリキュラム、指導内容が国家資格の取得につながるというような立場から考えられるか詳しく教えてほしい

《応答》

国語に関しては発表したように、“作文”＝“書く力”がないと実習記録が書けない、誤字・脱字はもちろんのこと、日記のように書いたり、乱雑な字であったりというような事があるので、その辺を指導していただいている。また、“作文指導”、文章を書く練習を随分、何かにつけて時間をとっている。それを提出、何度もチェックしてくれている。あと、漢字に関しては国語の先生が介護福祉士養成講座の目次のところを見て、よく出題されそうな漢字を漢字テストの中に入れてくれている。

生物の先生は医学の教科書を事前に見て、国家試験の内容を把握して、それに見合った内容を授業に活用をしているが、詳しい内容までは把握していない。社会の先生は、直接的な協力については把握していないが、普通科に社会福祉基礎という科目が入っており、それを社会科の先生が教えている。時々、福祉科棟に来られて社会福祉基礎の教科書を何冊か見比べておられるといった状況。

《質問》

大阪府 淀商業高等学校 教諭 青木 健至

- ①社会福祉実習機関以外に実習を行っている場合に、他教科との授業日数の確保・振替えというのはどのようにしているのか
- ②学校行事への影響というものはあるのか

《応答》

2年生の9月、3年生の5月、10月に2週間の特別養護老人ホームへの実習がある。それ以外は夏休み中に実施している。2年生の9月に関しては実習を終えるとすぐ文化祭になっているが、事前にわかっていることなので、福祉科は夏休みを利用して文化祭準備をしている。3年生に関しては、5月、10月共に中間考査の期間に実習が入っているため(1週間かぶる)、実習を終えてから福祉の授業のところに中間考査の科目を入れている。なるべく1日2教科以上にはならないように、7時間授業の中に工夫して組み込まれている。このようなパターンで実習で欠けた分(4時間が欠けてしまう)、全部を返すことは出来ないが3時間分ぐらい、完全な形ではないが福祉科目の時間でお返しする形にしている。

《質問》

徳島県 小松島西高等学校 教諭 橋本 治子

- ①今後、実習時間の見直しによって大きくなっていった場合のカリキュラム編成についての考えについて、その際に、長期休業中に実習等をこれから入れていくことも多くなってくると思うが、本来の時間割の中に組み入れる場合、どういった弊害が出てきて、何単位ぐらいまであれば可能か
- ②実習中の他の教科との前倒し、あるいは後ろにはみ出して、というような時間割編成上の問題点もでてくると思うがそういった問題点と、あとどのような工夫が考えられるか

《応答》

それを今日はしっかり他の先生方に教わりたいと考えている。今一番頭を悩ませている

ところで、何回も電卓を叩いている状況でいまの特別養護老人ホームへの実習が6週間、訪問介護員1級までの…冊子に抜けているが“事例報告の検討”の8時間をプラスすると1級、2級合わせると114時間ぐらいになる。そのような計算をいつもやっている状況。昨日、矢幅先生に「450時間なんて難しいのではないか」と伺ったところ、あれは専門学校の数であって、高校ではもう少し少ないといったような言い方をしてくださった。

この後また、そのようなお話があるかとは思っているが、ちょっとは気が楽になった。詳細についてはまだまったく無しの状態であり、H19年の国会を通ったらということらしいので、そこから考えていかななくてはいけないなあと考えている状態。できれば、どういふことを実習の単位、時間に組み込ますことが可能なのか。また、何をして実習にカウントしていただけるのか、先生方にお伺いしたいと考えている。全部が全部授業の中に組み込むというわけではなく、そこらへんをまだ考えていないのでどのようにしたら“450時間”に入れていただけるのか。施設での草抜きでは駄目なのか、ボランティアではいけないか、少し低い次元での話しになってしまうが、何をもって実技、実習にカウントしていただけるのかというのを今探している状態で、質問に対してお答えできるものをもっていない。

逆に教えていただきたいといった心境である。申し訳ないです。

司会 大変難しい質問ですが、こういった方法があるのではないかといい何かご意見がある先生いらっしゃいませんか。

《応答》

神奈川県 川崎高等学校 教諭 岡 多枝子

昨日の中村局長のお話の発表の資料をお手元にございましたら、見ていただきたい。P37・38、ここが今日の考えている足がかりとなる場所ではないだろうか。P37に大きく3つ、人間と社会、心と体の仕組み、介護（これが今問題となっている）とある。この介護の中に介護技術と実習というふうになっており、P38の“1650時間“というのは養成施設で、高校では”1190時間”だったわけですが、それがいずれも“1800時間”となるわけで、それが今年中にひとつのまとめをみて来年の法改正にという。その右側の中の3つ目の段の、“介護”という部分の介護実習“450時間”ということだが、おそらく矢幅先生が言われたという、専門学校と高等学校は違うというのは正確に言う運用の面で、高校では様々な、例えば具体的にいうと“帰校日”（実習期間中に1度、学校に帰して実習期間での学びを振り返る）を設ける。といったようなことも含めてということの、色々な運営上の工夫を高等学校は独自にしていかななくてはならないというお言葉だろうと考えられる。決して養成施設（例えば専門学校）と高等学校は時間数が違って、高等学校は少なくとも良いということではないだろうと思う。あくまで高等学校も“450時間”をやっていくということだと思う。

昨日の中村局長のお話にもありました、介護福祉士の在り方及び養成プロセス等に関する検討会が（8回におよぶ会）あり、全国からたくさんの福祉科、福祉系の高等学校の教員も傍聴に詰掛け、矢幅先生や高橋福太郎理事長のお話を含めて検討会の行方を見守っていた。ちょうど今年の1月の社会福祉研修会のおりには高等学校福祉科が国家試験の受験資格から大変厳しい状況になるということで、我々も心配していたわけである。“1800

時間”というものがありながらも高等学校福祉科は卒業時に介護福祉士の国家試験の受験資格が残ったということはとても大きな事だと考えられる。また、そのために我々がカリキュラム、指導内容等をこれからどのように工夫していくのかということで、まさに研究主題の「時代が求める変革とこれからの高校福祉教育の在り方」というテーマにぴったりの発表だったと思う。

具体的にいうと検討会の中で色々な発言がありましたし、7/3、7/5のまとめの中に反映されていると思う。具体的にはこれから“1800時間”のカリキュラムを厚生労働省の方で作っていく中で、明らかになってくると思う。例えばということで先程“帰校日”のことも申しました。それから、先程からの先生方の発表の中にも“施設の確保”が大変難しいといったお話もありましたし、本校でも同じような苦勞をしている。この実習施設の要件についても弾力的に考えるという話が出ていたと思う。つまり、要件の緩和ということ。また、高等学校では巡回指導を密にしているが、この巡回についても週2日といったラインをめぐる弾力的にといった話がある。

帰校日の問題については、巡回に行ったときにたまたま実習生がカンファレンスができるような状態ではない場合等も含めて、一旦帰校させてそれまでのことを含めて色々話を聞き、そこで必要な指導を行い、また実習施設に戻す。そういったことは当然“450時間”という介護実習の時間の中に入ると思う。事前・事後指導についても介護実習指導、演習“90時間”というのがあるが、この部分と、事前指導、事後指導、当然ほとんどの学校で実習報告会とか、実習記録をまとめた実習報告書を提出させたりとか、それをめぐってクラス全体で、あるいは学校長、教頭も出席しての実習報告会、そこに施設の方も呼びして、といった形をとる。それから、その先輩の実習の報告会に後輩の学年を出席をさせて共に学ばせる。色々な事を各学校で行っていると思う。そういったことも各教育課程に位置づけていくことにおいてこのような“450時間”をひとつは乗り越えていくという。もう一点は実習施設の要件の緩和を含めてだが、現在、2期制とかいろんな問題もあるが、夏休み中を含めて休業中の実習をどのように続けていくか、これが、科目としては現行でいくと“社会福祉実習”で、今後学習指導要領の改訂のなかで新しい臨床実習というようなものが出てくるかもしれない。そういう科目として位置づくかどうかという問題も一方ではあるが厚生労働省がいているのは、“450時間”ということである。この時間数ということでいえば、様々な学校における工夫はできるのではないかと思っている。

司会 ありがとうございます。このテーマはこれから大きな課題になるだろう。今の“帰校日”のお話であったり、ボランティアのことなど色々ある。皆さんで知恵を出し合いながら、アイデアを出し合いながら、様々なやり方を規定されている運用内容の方に含まれるのではないかとといったご意見、アイデアをこれから出して、これから集約していただいて全体で取り組めるように考えて行きたいと思う。

3.進路指導・「福祉科設置以来における進路状況及び今後の課題」

福井県 啓新高等学校 教諭 水元 敏博

《質問》

静岡県 磐田北高等学校 教諭 伏見博美

①障がい者施設での実習をおこなう際の、事前指導のあり方・課題について

《応答》

障がい者施設での実習は3年生対象。事前指導については先ず自分が行く施設の法律上の定義、それを調べさせる。例えば知的障がい者施設でいうと、授産施設と更生施設の違い等。事前指導の一番重要なことと考えているのが、入所している人たちが今後さらに何十年施設での生活を送らなければならないのかといった、現実的なことを事前に学習していく。今、30歳の方が介護保険を使える年齢の“65歳”まであと35年間施設にいるというのはどういうことなのか、そこに入所した場合には指導するというのではなく、一緒に生活をしていくという視点で利用者もこちらを見るだろうし、こちらも見なくてはいけない。後は、法律を越えた現実的な面を捉えることで事前指導を行っている。

課題については、コミュニケーションの仕方、失語症等の方とのコミュニケーションの場合、子音を全て抜いたローマ字（例えば自分の苗字）を黒板に書き、母音だけの字を読ませ、失語症の方の発音の仕方に近いことを説明し、それをグループワークのなかでどのように聞き取っていくか、いわゆる共感的理解とはどういうことか。そういった技術をつかってよりその人のことを理解できたか、その人が伝えようとしていることがわかるか、そういった課題を生徒たちに提示している。

《質問》

②なぜ発表にあったように離職率が低いのか（多数の教諭からの質問）

《質問》

和歌山県 熊野高等学校 教諭 中前 孝貴

③一期生がでるのだが、地域とのつながりが薄くて進路に関して不安である。こういった面、所に留意したら高い就職率につながるのだろうか。

《応答》

離職率の低さはおそらく、福井県は都会と比較すると就職先が少ない、離職する場合、次の就職先を考えてすると思うが、その“次”があまりない状態だからなのではないか。

中国の孔子の話で“不惑”（40にして惑わず）、20代、30代の方はそれまでと関係のない方向への転職は可能だが、40代になるとそれまでの仕事と同じ分野に転職する。ところが、転職するにしても転職先がないと転職が出来ない。その辺りが、福井県、啓新高等学校の離職率の低さだろうと思っている。

就職先の確保については、最近ソーシャルネットワークがあるが、学校の職員が色々な福祉関係の会合に顔を出すことによって、各施設、各社会福祉協議会といった人たちのネットワークができる。そうすると就職に関する話も、直接学校に入ってくる。そういった”ソーシャルネットワーク“が就職率の高さにつながっていると考えられる。

4.授業研究・『「社会福祉演習」でのケアプラン作成の取り組み』

北海道 置戸高等学校 教諭 前田 信治
教諭 嶋倉 俊一

《質問》

和歌山県 有田中央高等学校 教諭 梨木 淳司

①紙の事例は先生方が考えているのか、事例をどのようにして作られているのか

《質問》

福岡県 久留米筑水高等学校 教諭 船原 基近

②3年生での5単位は大変ではないですか。また、施設実習後の授業内容はどのようになっているか。

《応答》

参考文献もあるがそれだけでは色々な情報が手に入らない場合もあるため、事例を教員が作っている。

3年生での5単位は、置戸高校の場合は1週間ごとに時間割が変更する。1週間前に来週の授業がわかるといった仕組みになっている。時間割の希望を、予定を組んで教務部に提出する。発表にあったように6月まで集中的に演習をおこなって、ケアプランの学習をする。7月には実習を行い、ケアプランの成果を活かす。施設実習先でケアプラン作成利用者を選定し、作成にあたる。そのケアプランについては昨年度から導入された、「介護技術講習」のほうで事例検討会のほうに使用させていただく。5単位は6月分までで消化してしまうといった状態なので、それほど大変というわけではない。

司会 たくさんの先生方からいただいた質問は、施設でのケアプランもあるが、そういった場合には生徒と、学校と施設とどういう連絡があったり、あるいは作成したケアプランは施設にフィードバックされるのか、評価も施設、教員がどういうふうな形でされているのか。ケアプランの評価施設側の評価、連携と評価そういった部分についてお話を伺いたい。

《応答》

発表する予定でいた動画の中に、ケアプランの作成までの流れについてあったのだが、まず施設のほうにはケアプランの様式と学校の取り組み、生徒たちの実態について説明、理解を得るため教員が施設訪問に行く（実習前）。生徒自身も事前に施設に電話をして利用者を選定させていただくということのお願いをする。その事前の指導は教員のほうで土台だけは作っておくかたちをとっている。福祉科、普通科関係なく全教員でケアプランの勉強をおこない、実習に備えている。巡回指導に関しても、ケアプランの進行状況把握、施設担当者との打ち合わせ、指導を受ける。作成したケアプランは“介護技術講習会”の方で使用する形をとってはいるが、全生徒が良くできたケアプランを作ってくるわけではないので、帰ってきてからも施設と連絡をとり、修正をおこない講習会に望む。実習報告の冊子にも今年度は載せる予定。

司会 作成したケアプランを施設側に提示することも行っているのか（評価の面で）

《応答》

学校の近隣の施設に実習に行っている場合は可能だが、実習した全ての施設となると北海道広いので難しい状況ではある。しかし、発表した後のケアプランについてはできる範囲で、施設に持っていつている。

司会 質疑応答につきましてはこの辺にしたいと思います。最後に、今回の研究発表につきまして、小野先生と風晴先生からご助言をいただきたいと思います。

指導・助言

東奥保育・福祉専門学校 学院長 小野 紀子

皆様いろいろとありがとうございました。4項目に亘ってのそれぞれのお立場での非常に具体的で真摯な発表があった。それを聞かせていただいたことに感謝申し上げ、指導・助言というよりは感想ということで述べさせていただきたい。高校の入学のときから介護に対する強い志を持って入学。そういう生徒たちに対してそれだけ非常に強い覚悟が必要だろう。また、意欲的な取り組みが求められていると思う。4つの発表ともにそれぞれに、それぞれのテーマに絞って研究されて高等学校の決められた教育課程の中で、より充実した教育内容を求めて努力を続けられているということに関してまず敬意を表したい。

まず高知県立室戸高等学校の発表では、総合学科の中での生活福祉系列での実習、取り組みだったがその資格取得の希望がいつ頃確定するのか、その時期と確定した後の指導上の問題点はないのかといったところが気になった。実習内容についても受け入れ施設によって違いがあるのでしょうか、個人情報保護法への配慮があったり、あるいは個人的な生活体験の違いなどそれも考え合わせながら、均質な実習状況を模索する苦労、今後の問題点が見えてきたように感じられた。それから、国家試験受験資格取得のための授業内容の構築とさらには、国家試験での合格という大きな目的としていることから、教員の緊張感というのは察するにあまりある。

奈良県立榛生昇陽高等学校の発表の中で、福祉科の学習は国家試験合格が目的となってしまっている。そうゆう率直な思いが語られていた。それでも中学時代までの生活の中で培われた福祉への純粋な思いを、大切にしながら、地域福祉を支える人材を育成したいという一貫した意志が汲み取られていたと思う。

それから高い国家試験合格率と、地域の特性という話もありましたが、離職率の低さから地域に確かに認められた存在となっている啓新高等学校の発表。これは教養模試にはじまって、様々な問題意識の持たせ方など工夫した取り組みがなされ、大変参考になった。

（テープ交換）

置戸高等学校の発表のケアプランの作成の取り組みということであるが、よりどころとなる教科書がないという状況の中で、授業計画実践まで、それぞれ具体的な事例に基づいての発表。

生徒の様々な多様性、それは全体的に問題となっていることである。現在おかれている

困難な状況の中で、様々な問題に即応した指導、工夫・考慮された授業など、これらが国家試験の高い合格率に直結しているのだらうということに感銘を受けた。また、1週間ごとに時間割を組み替えるというなかなか出来ない事を積極的にやり、徹底した工夫がなされているということが大変参考になった。

介護福祉士全体の中で、国家試験合格者の占める割合がすでに6割を超えている。その中でも、高等学校福祉科からの合格者が高い割合を占めている。これは衆知の事実である。

福祉の現場でも大切な人材として認められ、まっすぐな、素直な取り組みが高く評価されている。ご承知のように、介護福祉士の登録が54万人を超えたいま、そのあり方、専門性はここにきてまた改めて社会の重要な問題として注目されているように思う。

業務独占ではなく、名称独占ということで、社会の認知度の面では幾分立ち遅れの感は否めなかったが、これからはその対応についても見直しが期待される。

いずれにしても、発表、質疑・応答とお互いに非常に意欲的な問題意識をもった指導がなされていることがヒシヒシと伝わってきた。先生方の非常に真摯な取り組みに心うたれている。早くから福祉への純粋な志を持って努力を重ねた若い皆さんですから、まっすぐな思いが強いだけに、何かにつまずいたときの心の揺れというのは想像以上に大きい。その後のサポート、この後の発表にもあるようだが、ライフコースの調査の形ででも卒業生のその後の状況をきちんと把握してサポートしていくということが卒業後の教育のあり方と共に今後さらに大切に取り組むべき課題なのではないかといった感想をもった。

今回大変充実した研究発表を聴かせていただきましたこと、心から感謝申し上げます。

青森県介護福祉士会 会長 風晴 賢治

私は青森県の介護福祉士会の会長という立場と、3月まで特別養護老人ホームにおりましたので、実習を受け入れるという立場と、二つの立場を含めてお話をさせていただきました。

室戸高等学校の発表に関して、大概の高校はやっていらっしゃるかと思います。他の発表のところにもありましたように、外部講師をゲストスピーカーとして招いて授業の一環でおこなっていらっしゃる。いつも同じ先生が言うものと外部、施設の方、現場の方が言うのとは、説得力だとか、現場のある種生々しいお話、そういったことを話すと生徒も非常に興味深く聞いたり、良い意味での心に残る影響力というものがあるのではないかと思っている。

職能団体ですとか、地域の専門スタッフ、介護している方、されている方、年に1度ぐらいでも生徒の前で、話をする機会を設けるといったこともこれから必要なのではないだろうか。施設の立場から言わせていただくと、負の面ということになるが、色々な施設がある。また、どこの施設でも職員の人数が少ない状況のなかで業務している。そのためなかなか、施設の職員、実際に実習に関わる方だけではなく、他の福祉職員というのが非常に実習生に対し、技術的な面だとか、教育的な面で統一されていない状況である。まして、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設でも横のつながりというのがあまりなく、実は自分も特別養護老人ホームにいたときに、老祉協の会議の中で、介護実習生を受け入れる際の技術的な部分、評価といったところで、統一したほうが良いのではないかといった話が過去にあったのだが、それが出来ないままに終わってしまった。福祉施設側としては評価

の統一、技術面でのある種の一本化というのがこれから必要になっていくだろう。

一日一回の巡回をされているというのは、通常1週間に1回、2週間に1回というところが多い中で、非常に努力を感じられた。

最近の生徒は、実習前、実習段階以前の問題があるといわれている。例えば、挨拶、身だしなみ、接遇といった面。これらは福祉の生徒に限ったことではなく、一般の生徒にも言えること。個人的に、これまで福祉の実習生を20年近く受け入れている立場から言わせると、逆に個性的な生徒が少なくなってきた。標準的、画一的な生徒が増えてきたのかなと感じている。

榛生昇陽高等学校、専門学校と違って、高等学校の場合は国家資格の取得といったのが大きな目標となるというのは仕方ない。学校の方でも努力されていて、夏期講習、夏季合宿、合格率が80%以上を超えている。他の高等学校でも90%以上、話の中では100%の高等学校もあるというのをうかがった。非常に学校側の努力を感じ取った。国家資格自体は50%前後を行き来している状況。高校の合格率は非常に努力の跡が感じられている。

介護福祉士会の方でも毎年、模擬試験、介護技術講習の技術講習会などもおこなっている。高校生も受講しているが、非常に熱心に、介護技術のところも勉強して合格率が高いということを知っている。

就職では資格の有無があまり関係ない、給料に差がないという話があったが、福祉と医療というところで行くと、介護福祉士自体が名称独占であり、業務独占を望んでいるわけではないが、医療というのは例えば、看護師でいうと、減算というところがあるが、まだ介護福祉士でのところでは減算というところはない。それは我々も国に対して、これから提言していきますし、ヘルパーに関しては加算というのが今年から一部ついたということもある。資格取得者への何らかの有利な点、そういったところでもっともっと声を上げていかななくてはいけないと思う。

進路状況のところ、離職率の低さというところで大変驚いたが、介護福祉士会の全国大会でも離職率の高さというのが話題になった。ある調査によると、学校を卒業した人の初年度の離職率が3割近くにもなるというお話があった。そういうところからみると、色々な理由があるにせよ、離職率の低さというのは地域での高校の努力の結果というところもあるだろうし、介護福祉士の施設での役割の重要性を感じられた。しかし、福祉施設としては最近では就職の協定というのか、割と早めに就職する生徒を募集できる。良い生徒を早くといった傾向がある。実習に来た生徒で、この生徒は特にうちの施設にといいた青田刈りのところはあるが、それは今後も助長していくのではないかな。

医療系の専門学校、大学への進学というのが多くなっているというところでは、施設の立場から言わせていただくと、福祉施設には医療系、介護系がいるわけだが、どうしても看護系の人の方が、発言力であったり、組織上での地位の高さ、正職、給与の面では強いというのが現実としてある。実態をみた生徒が医療系に進むことも実際にあるのかなと個人的にはあるが、感じている。

生徒が実習に来た際に、一番実習指導者が感じるのは質問して、一番悩むのがコミュニケーションが取れない。対人援助技術に対して学校のほうでも努力されており、知恵を絞ってやられているというのが本日の話でも伺えた。老人施設だけではなく、児童施設、身体障がい者施設、知的障がい者施設、精神障がい、今後自立支援法含めて関わる機会とい

うものが増えていくと思うので、学校側でも、各種の障害に対応したカリキュラムを入れていただきたい。

最後に、ケアプランに関して今の福祉施設においてケアプランは必須。学校で先駆的に取り組んでいらっしゃるというところに非常に興味を持った。ケアプランというのはそもそも正解というのはない。ケアプランをうまく作るということに早道はない。事例検討、事例研究を重ねていくしか、上達の方法はないと考えている。もちろん学校、施設でやられているということだったが、先程の質問の中にもあったが、実習が終わってからも事例集というのが現在たくさん出ているので、数をこなしていく。施設に行くとケアプランをすぐ作っていただくということもあるので、それに慣れていただくということでも、高校の時からやっていただく。ということは非常に大切なこと。

介護福祉士会としては専門校、加盟校だけではなく、より身近な関係での研究会、研修会を合同でやっていきたいと考えている。各県の支部の介護福祉士会等の人的な交流を含めて密接なつながりを持っていただきたいと思う。

司会 以上で研究協議会を終了します。引き続きまして、特別報告を行います。大会要綱のP65～『高校福祉科卒業生のライフコースに関する調査結果（中間報告）』が載っておりますので、そのことにつきまして立正大学の保正先生に発表していただきます。よろしくお願ひいたします。

報告資料

『高校福祉科卒業生のライフコースに関する調査結果（中間報告）』

立正大学 社会福祉学部 助教授 保正 友子

このような発表の機会を与えていただいたことに感謝します。

発表の前にお願ひがあります。感想・コメントシートが配布されていると思います。ご協力のお願ひ。そのシートの研究メンバーの名前が書かれているので、資料P65には抜けていたため、補足説明とする。

1.研究の目的

福祉系高校教育の多様化の実態と専門高校への改革の条件に関する調査研究を現在おこなっている。そこでは、高校福祉科卒業生を対象としたライフコース調査を通して、卒業後の現時点からふりかえって感じた高校福祉科の長所と課題を明らかにすることを目的としている。さらに、調査結果を通して、高校福祉科卒業生がどのような人生を歩んでいるのかを明らかにすることにより、卒業生が現在どのような支援を必要としているのか、どのような支援体制の構築が可能なのかを、検討することができると考えている。

2.調査方法

2005年9月7日、8日、2006年1月9日、2006年3月12日、13日の3回にわたり、3つの高校の卒業生計18名を対象に、生活史調査をおこなった。

調査の内容は、高校福祉科入学前の入学の動機、高校福祉科の3年間がどのような時期

だったのか、就職先選定の基準、就職・進学した後にどのような転機があったのか、就職・進学した現在から見て高校福祉科のあり方について思ったことなどである。

3.調査対象者

	性別	年齢	卒業年度	現在の所属
M 高校	女	34歳	平成2年	特別養護老人ホーム 介護職
	女	30歳	平成6年	特別養護老人ホーム 介護職
	女	26歳	平成10年	療養型病床群 介護職
	女	25歳	平成11年	飲食店勤務
	男	22歳	平成14年	4年制大学(福祉) 学生
	男	22歳	平成14年	4年制大学(福祉) 学生
K 高校	女	25歳	平成11年	民間病院 看護職
	女	24歳	平成12年	高等学校「福祉」非常勤講師
	男	22歳	平成14年	特別養護老人ホーム 介護職
	男	22歳	平成14年	4年制大学(福祉) 学生
	女	21歳	平成15年	4年制大学(社会学) 学生
	女	20歳	平成16年	専門学校(保育) 学生
H 高校	女	33歳	平成3年	特養併設デイサービス 介護職
	女	31歳	平成5年	特別養護老人ホーム 介護主任
	女	28歳	平成8年	特養併設居宅介護 ケアマネージャー
	女	26歳	平成10年	特別養護老人ホーム ユニットケアリーダー
	女	26歳	平成10年	介護老人保健施設 事務職
	女	25歳	平成11年	在宅介護支援センター ケアマネージャー

資料P72

考察

調査結果を、以下の3点から考察する。

①高校福祉科のメリット、デメリット、

専門性の獲得と人間関係の形成という2点に集約される。まず、専門性の獲得については今回の調査結果では、高校で初めて学ぶ専門科目についての肯定的評価が目立っていた。あるいは、現場の状況が学べる授業の評価が高かった。とりわけ何人かが印象的な講義として挙げていたのは、医学・看護系の科目である。この科目は、学びが良かったという声と難しいという声に分かれたが、総じて現場に出た後に役立ったという声が多かった。

さらに、実習については、現場でのリアリティ・ショックが語られている一方、人との関わりから様々な体験が語られ、実習が将来の進路を決めるきっかけにもなっていた。

最大のメリットとして何人かが指摘していたことは、高校時代に福祉を学ぶことの人格形成に及ぼす影響の大きさという点であった。やはり、青年期という人格形成期に、人の

生死や生き方に深く関わる社会福祉について学ぶことは、大きな意義をもつものであろう。

次に、人間関係の形成についてである。何人もが、クラスの仲間や教員との密接な関係についてふれていた。特に教員には、学習面のみならず生活面でも世話になった、という意識が高かった。生活集団としても得るものが大きいといえる。しかしながら、3年間同一クラスであることは、人間関係でつまずいた場合には厳しい側面があることを意味している。また他学科の生徒や教員からは「福祉科なのだから（もっときちんと清掃すれば）」と福祉科に対する特別な見方をされることも指摘された。

一方、高校福祉科のデメリットとしては、介護福祉士国家試験受験資格から規定される、カリキュラムと進路変更に関する課題が挙げられた。

まずカリキュラムについては、高齢者福祉に偏ったカリキュラムになっており、児童福祉や障害者福祉など、他の福祉領域については学びを深めるために大学に進学した卒業生がみられた。

進路変更については、介護福祉士を取得するという方向性が明確なことは、同時に進路選択のやり直しへの対応が困難なことを意味している。そのため、何人かからは自由な選択ができるカリキュラムについての要望が出されていた。

いずれにしても、幅を持たせた教育体系を要望している声であり、今後の高校福祉科のあり方を考えるうえでの重要な示唆を含んでいるといえよう。

②高校福祉科で学んだことが卒業後にどのような経験となっているのか、

まず、福祉現場に就職した卒業生にとって、高校福祉科卒業生である自分たちは、理論に基づいた技術を持っており、専門学校卒業生からみても決して引けをとらないという良い意味でのプライドを全員がもっていた。また、職場の同僚や先輩と同じくらい、高校時代の友人や教員が心の支えとなっており、仕事上で行き詰った際にも相談にのってもらっている様子がうかがえた。

一方、高校で学んだことがうまく生かされていないこととして、職場でのコミュニケーションが挙げられる。授業の中では学んでいるかと思うが、対利用者、対スタッフとのコミュニケーション技術とが結びついていない傾向があるようである。

次に、大学・専門学校への進学者について、入学当初の専門科目ではほとんど苦勞していなかった。その反面、一般教養や英語などの語学で苦勞している姿がうかがえた。

③卒業生の転機についてである。

卒業生は就職後に、何度か介護職として成長するうえでの「転機」（変わり目）を迎えていた。就職当初に各人が直面するのが、「現場の多忙さと多様さ」という面でのリアリティ・ショックである。高校時代にも介護の基礎や職業人としての心構えは習ってきており、実習で現場に触れる機会はあるものの、就職した後に職場と業務内容に適応するまでの過程においては、周囲のサポートが必要であることが示唆された。

その後の転機は、自分が何らかの役職についたときや、4、5年の経験を積んだとき、資格を取得したときに訪れている。ただし、ケアマネージャーなどの資格を取得したからといって、必ずしも職階が上がっているわけではなく、資格取得とキャリアアップがうまく連動していない面があることは、今後の課題といえる。

また、「専門職としてのあり方の基本」の大切さを語っていた者もいたが、その意味を実感するのは、自らが実習生を指導するなど他者に教える立場になったときであった。

その他、介護職のやりがい、あるいは女性が多い職場についての苦勞についても語っていた者がいた。

おわりに

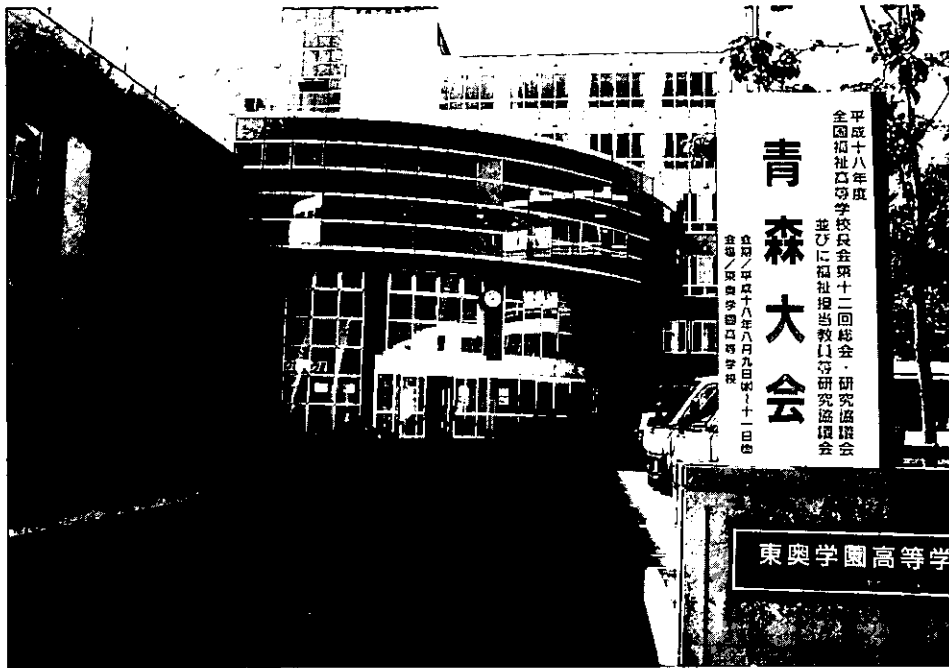
調査を通じて、高校福祉科卒業生が、介護専門職の“若きパイオニア”として立派に成長している事実、意欲的に誇りをもって仕事をしているという事実が随所で確認されたことが最大の成果である。

今後は、今回の18名という調査結果に基づき、より信頼性と妥当性が高められるような本調査の枠組みを検討し、今年度中には高校福祉科卒業生を対象とした本調査に取り組む予定である。

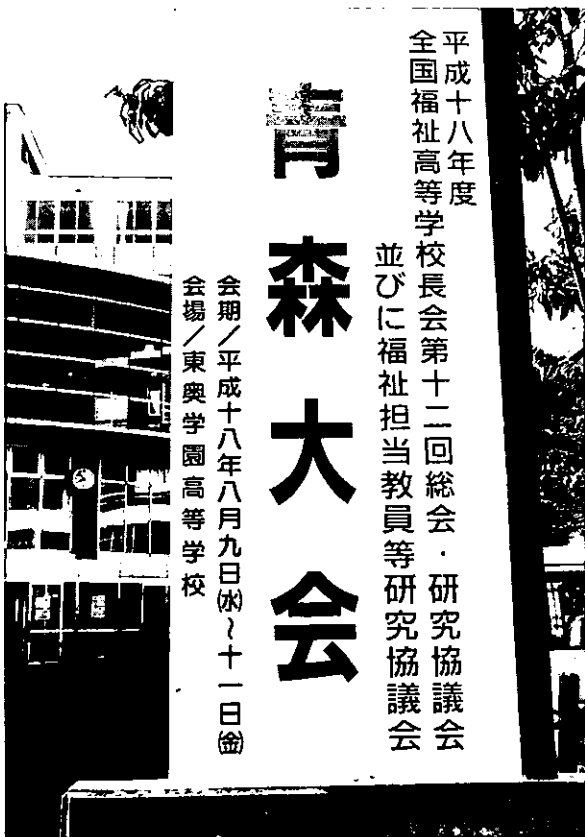
ご清聴ありがとうございます。

以上で、研究協議会を終了させていただきますが、発表されました5名の先生、それから助言指導をいただきましたお二方の先生、また司会進行いただきました高橋先生、特別報告の保正先生に皆さま大きな拍手をお願いいたします。ありがとうございました。

予定のほうは皆さんの活発な意見でおしてしまいまして次の文科省の指導・講評を50分からになります。よろしく申し上げます。



青森大会会場 東奥学園高等学校



教員研究協議会

発表資料

★ 現場実習 ★

★ 資格取得 ★

★ 進路指導 ★

★ 授業研究 ★

現場実習

『社会福祉実習の取り組みについて』

高知県立室戸高等学校 教諭 別役 千世

1 学校の概要

(1) 本校の特色

本校は平成9年度から高知県内初の総合学科として改編されたのを期に「伸ばそう個性を語ろう夢を」を、スローガンに掲げ「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」など多くの授業で地域の協力を得ながら、知恵と夢を与える学校として、一人ひとりの個性を見出し、その能力を伸ばすことができる総合学科を目指し取り組んでいる。

総合学科では、県内校最多の下記の6系列を設置し、四年制大学進学希望者から就職希望者まで幅広く対応できることが特色である。

- ・ 人文科学系列
- ・ 自然科学系列
- ・ 体育・芸術系列
- ・ 生活福祉系列
- ・ 生産工学系列
- ・ ビジネスIT系列

(2) 生徒数

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		合計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	総合学科	123	4	142	4	118	4	383	12

2 生活福祉系列の概要

生活福祉系列では、以下のような家庭科と福祉科の専門科目を設置している。そのうち、福祉系科目6科目と看護基礎医学、フードデザイン、服飾文化は福祉に関する資格取得希望者は必修となっている。

発達と保育	家庭看護・福祉	服飾文化
フードデザイン	社会福祉基礎	社会福祉制度
社会福祉援助技術	基礎介護	社会福祉実習

(1) 取得できる資格等

- ・ 訪問介護員2級
- ・ 介護福祉士国家試験受験資格

(2) 生徒数

全校生徒のうち、5～10%前後の生徒が資格取得を希望する。総合学科の特色を生かし、少人数で授業を行うことができる。

卒業年度	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18(予定)
資格取得希望者数	7	12	9	5	8	4	6	14

3 教育課程（平成18年度入学生）

単位数	1 年 次	2 年 次	3 年 次
1	国語総合	体 育	地理歴史A（世・日・地）
2			
3		保 健	体 育
4			
5	現 代 社 会	家 庭 総 合	オーラル・コミュニケーションⅠ
6			課 題 研 究
7	数 学 Ⅰ	続・産業社会と人間	倫 理 o r 政 治 経 済
8		日本史A o r 理科総合	
9		B	
10	数 学 A	理科総合B o r 地理A	発達と保育
11			
12	理科総合A・B	社会福祉基礎1	社会福祉基礎2
13			
14	体 育	社会福祉演習1	社会福祉演習2
15			
16		社会福祉実習1	社会福祉実習2
17	保 健		
18	芸 術 Ⅰ (音・美・工・書)	看護基礎医学1	看護基礎医学2
19			
20	英 語 Ⅰ	社会福祉制度1	社会福祉制度2
21			
22		社会福祉援助技術1	社会福祉援助技術2
23			
24	家 庭 総 合	基礎介護1	基礎介護2
25			
26	情 報 A	フードデザイン	
27			
28	産 業 社 会 と 人 間	国語表現Ⅱ	服飾文化
29			
30	L H	L H	L H

※社会福祉実習では、夏期現場実習の時間数で2・3年次それぞれ1単位増単している。

は卒業するために必要な履修科目

は自由選択科目

4 福祉施設現場実習について

社会福祉実習の中で、夏期現場実習と訪問介護員同行訪問実習を行っている。

(1) 実習に関するスケジュール (4～9月) 《②：2年次 ③：3年次をあらわす》

月	生徒の動き	教員の指導の流れ
4	②③実習施設希望調査	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設への挨拶回り (管理職とともに) ● 同行訪問用プロフィール・誓約書の提出
5	③訪問介護員同行訪問実習事前学習 ③デイサービス実習 (1日) ③訪問介護員同行訪問実習 (2日) ↑ ②③実習オリエンテーション期間	<ul style="list-style-type: none"> ● 実習オリエンテーションの準備、日程調整、講師依頼 ● 実習内容の詳細な打ち合わせ ● 実習オリエンテーションの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内オリエンテーション (諸注意等) ・ 施設オリエンテーション (各施設説明等) ・ 介護技術 ・ 救急法 ・ レクリエーション指導法 ・ 介護過程の作成方法
6	↓ ②③実習生プロフィール・誓約書の作成	
7	③実習 (15日) 介護技術の応用 介護過程の作成	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設実習用プロフィール・誓約書 (保護者連署) の記入の確認、施設への配布 ● 実習の巡回指導 (1日1回) <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習態度、職員への言葉遣い ・ 身だしなみ等 ・ コミュニケーションの状況 ・ 技術の的確な実施 ・ 実習記録の提出状況 ・ 実習記録の内容の充実度 ・ 実習担当者からの要望、注意点等 ● 実習反省会への参加
8	③反省会 (施設) ②実習 (10日) 基礎・基本的な介護技術の習得 コミュニケーションの方法 レクリエーションの援助方法 ②反省会 (施設)	
9	②③実習成果発表	<ul style="list-style-type: none"> ● 実習評価表の受け取り ● 実習評価についての反省

<実習施設> 夏期現場実習：介護老人保健施設、特別養護老人ホーム 3施設
 同行訪問実習：ヘルパーステーション 2箇所

(2) 実習オリエンテーションの内容

ア 校内オリエンテーション

- (ア) 実習について
- (イ) 利用者との関係について
- (ウ) 職員との関係について
- (エ) 服装および態度について
- (オ) 実習管理について
- (カ) 実習終了にあたって
- (キ) 持参品

イ 施設オリエンテーション

- (ア) 施設の概要（沿革、職員構成、利用者の状況等）
- (イ) 行事予定
- (ウ) 実習内容について
- (エ) 持参品
- (オ) 実習生としての心構え

ウ 外部講師による授業

【介護技術】



【救急法】



【レクリエーション指導】

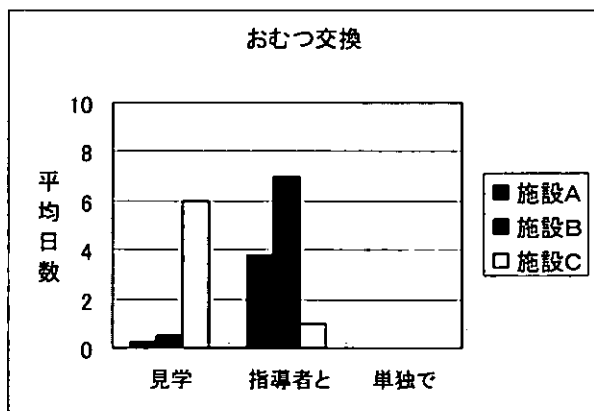
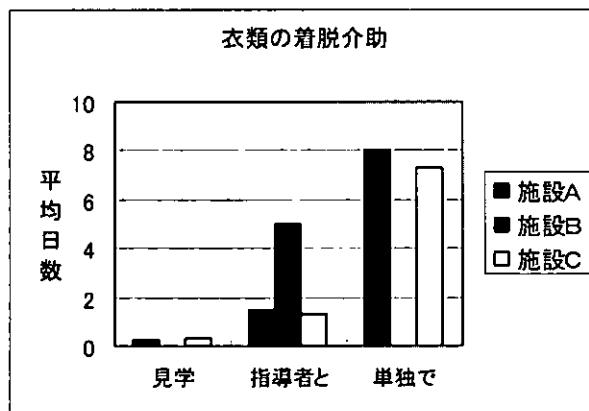
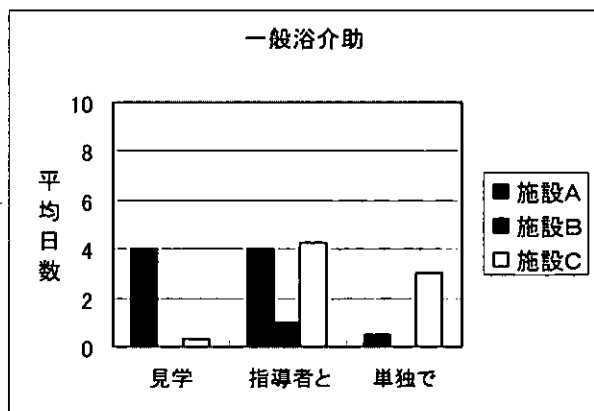
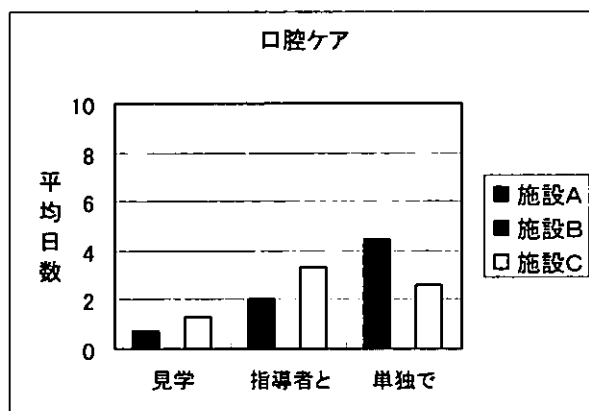
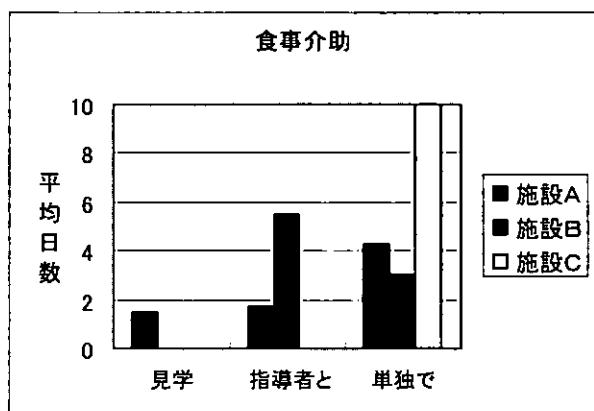
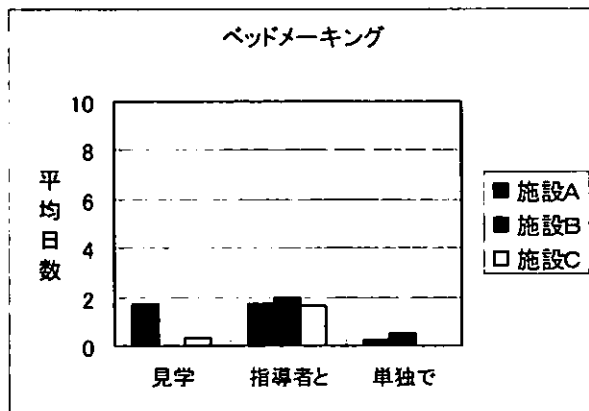
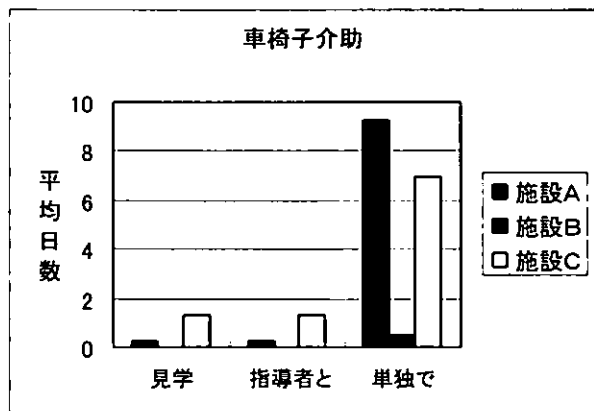


【介護過程の作成】



(3) 実習内容

平成17年度の2年生の実習（10日間）の中で、介護技術をどのように実施したのかをグラフにした。



施設ごとに実際に経験した介護技術が異なっている。また、個人差もあり、均質な実習内容とはいえない状況にある。

(4) 実習後の生徒の感想

- ・ 今回初めて10日間実習してみて、学校の授業とは違って現場はとても厳しく大変でした。入所は本当に現場を目の当たりにした感じでした。でも僕が何より辛かったのは利用者の方がたまに口にする「わるいねえ」という言葉でした。オムツ交換時や食事介助時、衣服の着脱時に、「わるいねえ」といわれました。僕はその度に「ぜんぜんいいですよ。僕たちも好きでやりゆうきね！」と声をかけました。そうすると涙を流す人もいました。
- ・ 実習前は軽い気持ちで望んでいて、マナーも利用者とのコミュニケーションも初日はなっていないで大変失礼でした。でも職員さんたちからの助言、注意などをいただいたおかげで、軽い気持ちではなく、実習生としてのしっかりした自覚をもつことができました。
- ・ 実習前は利用者の方と交流を取る難しさが想像できませんでした。実際実習に行くと、どのように話しかけていいのかわからず、不安でいっぱいになりました。しかし、利用者の方の笑顔や優しい言葉のおかげで、日々やりがいを感じられるようになりました。また積極的に声をかける大切さも学ぶことができました。ただそこにいるだけでなく、利用者の方々と交流を深めることが信頼関係を作る第一歩だと実感しました。
- ・ 今回はじめて福祉の実習に行つてわかつたことは、私が思つていたよりぜんぜん大変だし難しいということ。それに実際やってみなければわからないこともたくさんあるということがいっぱいあつた。学校の練習でやつているほど楽ではなかつた。帰りたいと思つたこともあつた。自分にはこの仕事は向いていないと思つた。でもうれしいことも何回もあつたし、仕事の大変さやきびしさがわかつた。この経験ができてよかつたと思う。
- ・ 実習初日はすごく時間が長く感じた。初日を終えて、私は絶対この福祉の仕事はできないと思つた。自分が思つていたものと、とてもかけ離れていたので。本当に体力がいるし、精神的にもすごく疲れる。介護者の方々はこんなことを思わないのかなあと思つた。10日間の実習を終えて、すごく辛かつたし、疲れたけど、実際に介護の現場に立つて、いろんな介助をして、介護がどんなものかを考えることができた。自分に責任を持つことが大事だ。来年はもっともっと勉強をしたい！もっと自分に責任をもつて利用者さんのことをしっかり支えたい。
- ・ 利用者に最初は大きい声もかけ声も上手くかけることができなかつたけど、自分が利用者の立場になつて考えたとき、声かけをしてもらつたら不安もなくなるし、安心できるから声かけを目標にして最後の時には少しずつだけで声もかけれるようになった。この実習で学んだことは何事も笑顔で利用者とのコミュニケーションをすることだと思ふ。笑顔でいるだけで利用者の気持ちも明るくなるからこれからも笑顔を絶やさずにいきたいと思つた。
- ・ 10日間実習に来て、今まで自分が思つていたことや考え、またイメージと違つていたこともあり、内面的にも成長することができたと思ふます。学校で習う授業や話を聞くだけじゃあまりピンとこないことでも、実際にやってみると、見ていただけじゃわからなかつたこと

も理解できました。学校のベッドメイクと違い、ベッドメイクのやり方、シーツ交換など、すべてにおいてわからないことだらけで違っていました。施設にはその施設のやり方があるのだと知り、ひとつだけのやり方にとらわれず、それにどう対処していくかなど、深く考えさせられました。

(5) 施設側からのコメント

- ・ 知識と理論を現場で結びつけることが難しかったと思いますが、指導者の指示に従い前向きにがんばりました。
- ・ あいさつ、言葉遣いとても良くできており、利用者とのコミュニケーションも十分取れていました。実習に対し、意欲的に取り組むことができていたように思います。
- ・ 指示されたことには意欲的に取り組んでいましたが、もう少し意欲的に動けばもっと良い介護ができると思います。利用者とは会話している表情が明るく、とてもよかったです。
- ・ 全体的に自主性が見られず、意欲も見えない。
- ・ 注意されたことに対し前向きに努力をし、後半はよく利用者とのコミュニケーションがとれていた。
- ・ 技術等はまだまだ不安な部分もありますが、介護者として冷静に判断できるよう、自分の感情をコントロールしていく必要があると思います。

5 今後の課題

(1) 実習ノートの記入について

実習中は、毎日実習ノートに記録をする。例年、施設の相談員さんから書き方や内容について指導を受けることも多く、記録の仕方の徹底、内容の充実への指導も必要である。

(2) 実習内容の各施設間の相違

施設ごとに、実施させてもらえる介護技術が違うことや、高校生の実習と専門学校生の実習との扱い方に悩んだという意見もいただいた。実習前にどれだけの介護技術ができるのか、一人ひとりの確認をするとともに、その情報を施設側に提供し、そして個別の到達目標を設定することが必要である。

(3) 生徒の社会性について

大きな声で笑顔で挨拶ができない、職員や利用者に対し敬語をきちんと使用できない、身だしなみが不十分であるなど、生徒の社会性の問題について指摘をうけた。事前指導を徹底するとともに日々の学校生活の中で挨拶や敬語の励行、身だしなみチェックを行う必要がある。

資格取得

『本校の資格取得の取り組み』

奈良県立榛生昇陽高等学校 教諭 匠原 記世子

1 本校の概要

(1) 沿革

大正12年、奈良県立宇陀高等女学校として開校、昭和23年に共学の新制県立榛原高等学校となった。一方同61年に県立室生高等学校が開校。平成16年4月、県の高等学校再編により榛原高等学校と室生高等学校が統合し、榛生昇陽高等学校として開校した。

校訓は定めず、「自己を磨き、生き方を学び、未来に挑戦する」を学校目標とし、人格の完成を目指して時代を見つめ、人権を尊重する民主的な社会と新しい文化の創造に努める豊かな人間性の育成を図ることとした。

教育課程は、榛原高等学校が平成5年に創設した福祉科を引き継ぎ、構成は普通科5クラス（人間探究コース、総合選択コース）と福祉科1クラスとしている。本年度は、榛生昇陽高等学校が3学年揃った年である。

(2) 福祉科の状況

特別養護老人ホーム等での実習をとり入れながら、専門的な知識や技術を習得し、福祉施設への就職や福祉系大学への進学をめざしている。教育活動は大半が分割授業で、医療や看護の専門家による授業、また、社会人講師等による、盲導犬指導や音楽療法・作業療法、国家試験実技指導などの集中講義も行う。卒業時に、訪問介護員1・2級の課程修了と介護福祉士の国家試験受験資格が取得できる。

平成5年開設当時の卒業生の中からは女性の義肢装具士も出ており、かなり意識の高い生徒も多い。入試方法も特色選抜という形で行い、現在も高齢者福祉に興味を持ち、将来は福祉の仕事に携わろうという意志のある生徒たちが入学してくる。高校3年間で、地域の福祉を担う人材に育てあげていくことが本校福祉科の目指すところである。

福祉科の指導目標

- ① 豊かな心と望ましい知性を育み、社会福祉に関する基礎的な知識と技術を習得し、積極的な実践力を培い、社会に寄与する人材を育成する。
- ② 介護福祉士国家試験受験資格並びに訪問介護員養成研修1・2級課程の修了証書が取得できるようにする。

指導の努力点

- ① 社会福祉に関して、豊かな福祉観を養う。
- ② 生活上の問題に関心を持ち、日々の生活の中でどのように社会福祉や社会保障が関連しているか気づかせる。
- ③ 基本的人権やプライバシーの尊重など自立生活を支援する態度の必要性を重視させる。

- ④ 社会福祉関連の職業に従事する者として、安全で確かなサービス提供者となれるようにする。

2 資格取得

本校福祉科で取得可能な資格は、

- ・ 介護福祉士国家試験受験資格
- ・ 訪問介護員 2 級
- ・ 訪問介護員 1 級
- ・ その他（全国高等学校家庭科技術検定 被服・食物など）である。

訪問介護員の資格については、全課程を修了した卒業時に 1 級まで取得できるようにしている。しかし、課題も多く今後の県の動きに対応しなければならず、よって 1 学年時より介護福祉士国家試験合格をめざす学習内容となっている。国家試験は福祉科設置以来、全員が受験をし安定した合格率を得ている。授業以外では、長期休業中の課題、朝 SHR での小テストなど、実際の○×問題に慣れさせるための取組もしている。17 年度は初めて介護技術講習会が導入され、本校も 23 名が受講したが、知識も技術も未熟で、修了認定をされないのではと心配されたため、講習前の対策補習も行った。

目標としている「介護福祉士」国家試験に不合格になってしまう場合を考慮し、訪問介護員の 1 級課程も修了させている。介護福祉士養成講座の各教科を 3 年間の授業の中でやり遂げることも、その内容の量と難しさからたいへん厳しい。また、訪問介護員資格取得のための現場での介護実習や社会福祉実習も、事前指導や打ち合わせ会などたいへんな労力と時間を要する。訪問介護員 1 級を修了させるための実習は多岐に渡るうえに、引き受けていただく施設の年間計画や日程などにうまく組み込ませていただけるように工夫が必要である。しかし、この体験が社会福祉の現状や課題を考察するきっかけとなり、学習・研究に重要な意義を持つ。「現場から学ぶ」ことは、資格を得て卒業して後の、生徒たちの将来にも大きな影響を与えている。

昨年度の取組、本年度の現場実習等について挙げる。

(1) 現場実習（18 年度 1～3 学年の具体的な計画）

第 1 学年

訪問介護員養成研修事業（1 級課程）の実習における、福祉事務所、市町村保健センター等の高齢者保健福祉にかかる公的機関の見学

見 学 実 習	見 学 先	実習期間
高齢者保健福祉にかかる公的機関の見学 公的関係機関見学 (8 時間×1 日間) の内の 4 時間	山添村社会福祉協議会 保健福祉センター	11 月 ～ 2 月

第2学年

訪問介護員養成研修事業（1・2級課程）の介護実習、並びに社会福祉実習

	実 習	実 習・ 見 学 先	実習期間
訪 問 介 護 員 養 成 研 修 事 業 の 介 護 実 習	(1)障害者等要高度技術事例対応実習（1級課程）（8時間×3日間）	知的障害者更生施設 ・心境荘苑	7月 8月
	(2)介護実習 （2級課程）（8時間×2日間） {社会福祉実習中に行う}	特別養護老人ホーム★ ・悠楽園 ・ゆあほうむ榛原 ・室生園 ・大和桜井園 ・田原本園 ・かなはし苑 ・さうす国見 ・当麻園 ・大宇陀ラガール	9月
	(3)訪問介護サービス同行訪問 （2級課程）（4時間×2日間）	奈良市・大和高田市・橿原市 ・桜井市 各社会福祉協議会 ・愛ライフ ・つつじ庵 ・国見苑	7月 8月
	(4)在宅サービス提供現場見学 （2級課程）（6時間×1日間）	介護老人保健施設 ・さんとびあ榛原	7月 8月
	(5)高齢者保健福祉にかかる公的機関の見学 （8時間×1日間）の内の4時間	宇陀市室生福祉 保健交流センター ・ぬく森の郷	1月 2月
社 会 福 祉 実 習	(1)社会福祉実習（施設実習） （10日間）	特別養護老人ホーム★9施設	9/4～ 9/15

第3学年

訪問介護員養成研修事業（1級課程）の介護実習、並びに社会福祉実習

	実 習	実 習・ 見 学 先	実習期間
訪 問 介 護 員 養 成 研 修 事 業 1 級 課 程 介 護 実 習	(1)デイサービスセンター実習 （6時間×2日間） {社会福祉実習中に行う}	特別養護老人ホーム★9施設	6月 2月
	(2)チームケア実習 （8時間×2日間）	特別養護老人ホーム ・大宇陀ラガール	7月 8月
	(3)訪問看護同行訪問 （4時間×2日間）	宇陀訪問看護ステーション	7月 8月
	(4)居宅介護支援等に関する実習 （4時間×2日間）	・つつじ庵 ・みのり	毎月上下旬 毎月中旬

社会福祉実習	(1) 社会福祉実習 (施設実習) (20日間)	特別養護老人ホーム★9施設	5/15~
			5/26
			10/16~
			10/27

(2) 介護福祉士国家試験結果 (榛原高校)

年度	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
受験者数	34	26	38	37	39	33	37	37
筆記合格者	13	21	24	24	32	18	27	34
実技合格者	12	19	19	20	28	14	19	11
講習会修了認定者								23
合格率 %	35.3	73.1	50.0	54.0	71.8	42.4	51.4	89.2
全国平均%	50.2	48.3	45.9	41.4	48.0	49.3	42.6	46.8

(3) 17年度第3学年 (榛原高校) 国家試験 (第18回) 受験に向けての取り組み

① 対策補充講座

・夏期補充講座時間割

	7/8	7/14	7/15	7/19	7/23	7/30	8/26	8/29
1	精神保健	家政学概論	社会福祉概論	老人福祉論	社福援助技術	介護概論	医学一般	老人障害心理
2	リハ論	〃	障害者福祉論	形態別介護	〃	介護技術	レク援助法	〃
3	介護概論	老人福祉論	〃	〃	形態別介護	〃	〃	リハ論

・冬期補充講座時間割

	12/9	12/12	12/16	12/19	12/20	12/22
1	期末	医学一般	障害者福祉論	老人福祉論	社福援助技術	終業式
2	考查	〃	〃	〃	〃	
3	介護概論	精神保健	レク援助法	家政学概論	老人障害心理	リハ論
4	介護技術	社会福祉概論	形態別介護	〃	形態別介護	〃

「頻出問題要点チェック 2005」・「2006 介護福祉士模擬問題集」使用

② 模擬試験

- 9月 福祉教育カレッジ「第1回必修編」受験
- 11月 福祉教育カレッジ「第2回予想編」受験

③ 介護技術講習会受講生に対する補習

生徒・保護者に対して説明会を開催し、希望者が各自で受講することとした。37名中23名が希望し、全員が受講し修了証明書をいただいた。テキストの内容から、授業で未習のところは事前に補習を行った。

④実技試験のための講習

- ・日本赤十字社奈良県支部 家庭看護講師による実技講習
1月30日 2月9・10日 (16時限)
- ・特別養護老人ホームさうす国見にて 介護福祉士による実技講習
3月2日(全日)
- ・校内での講習
2月8・15・17・23・27・28日(22時限)

(4) 今後の課題

福祉科目の学習は、国家試験合格が目的となってしまうている。なんとか合格させたいという思いも押しつけてしまっているかもしれない。しかし、学習は福祉の専門家として介護の知識・技術を身につけ、法律・制度・援助方法についても基本的知識を会得し、利用者のQOLを高めるための十分な技量を持つためのものなのである。そのうえに、資格取得があることを理解させたい。自らが、実習で出逢えた方々のために、自分たちを必要としてくださる方々のために、求められる人材になりたいという意識を持たせたい。そのために、学ぶべきであるという本来の目的も大切にしたい。

本年度は、介護技術講習会受講希望者が多く(37名)他府県の養成校へも申込みをし、希望者全員が受講決定までに、かなり手間取った。希望者が受講できるように受け入れ施設を充実させていただきたいとともに、講習会までに生徒の技術を高めるために、指導計画も考えなければならない。

3 施設の求める人材・資格

本校が実習や就職でお世話になっている特別養護老人ホーム(3施設)に、職員に求める資格等について伺いました。

(1) 新規採用者の資格取得状況について

- ・介護福祉士1名 訪問介護員1級2名・2級4名 (5名中)高卒者0
- ・介護福祉士4名 訪問介護員1級2名・2級4名 (5名中)高卒者3

(2) 採用時に有資格の条件があるか

- ・採用時は「やる気」のみ、採用後介護福祉士・ケアマネをめざす
- ・訪問介護員の資格は必須
- ・条件はないが、資格を持っていることは望ましい

(3) 介護福祉士資格の有無による勤務上の処遇の違い

- ・業務上問題はないが、無い場合ユニットのリーダーになれない
- ・勤続表彰に影響
- ・給料に影響
- ・差はない

(4) 介護福祉士の資格取得に向けての施設内での対策

- ・日本介護福祉士会主催の模擬試験受験
- ・日本介護福祉士会、日本社会福祉弘済会の「チャレンジ!!介護福祉士」受講
- ・介護技術講習会に参加できるよう配慮
- ・筆記・実技の勉強会

どの施設も、今後介護福祉士の資格が必須条件になるだろうということを、付け足しておられた。

4 17年度卒業生の感想（抜粋）

国家試験対策についての希望

- ・過去問ではなく、予想対策問題を増やしてほしい。
- ・国試直前に期末考査をして欲しくない。（間違ったところをやり直す時間がない）
- ・対策をもっと増やして欲しい。
- ・もっと早くから3学期のような勉強をすると良いと思う。国試が卒業試験なら国試対策を授業にすれば良いと思う。

後輩へのメッセージ

- ・早くから計画を立てて、早めにコツコツと勉強しておいた方がよいと思います。
- ・勉強すれば、した分だけ結果が返ってくるので、今から頑張れば必ず良い結果が出ると思います。
- ・同じ問題を何回も解いて、覚えていくことが大切だと思います。1、2年では解けない問題でも、絶対、先生が配ってくれたプリントを真剣にしていれば、合格の道は開けるでしょう。
- ・過去問半分、教科書半分の割合で勉強すると、効果的だと感じたので、やってみては。
- ・問題集（過去問）をたくさん解く。
- ・自分が福祉の道には進まないと思ったとしても、福祉の勉強をすることは決して無駄なことではありません。福祉の知識というのは、どんな時でも活かされると思います。福祉の心は社会全般に共通することだと思います。今まで勉強したことを無駄だとは思わないでください。

5 おわりに

本校では、福祉科は大きな特色を持つ学科として期待されている。生徒たちもその誇りを持って日々の学習や様々な活動に取り組んでいる。各教科の担当の教職員も、福祉科の生徒には国家試験を意識した授業の取組をし、機会を見つけては実習に出るための心構えを説いてくれる。保護者にも、精神的・経済的負担を掛けご協力をいただいている。このような多くの思いに応え、さらになにより生徒たちの頑張りに対して結果を出させてやりたい。また、将来介護業務に従事する者の資格は、介護福祉士を基本とするという方針が示されたため、国家試験合格を指導の目標とすることは否めない。予備校化しているとまではいかないにしろ、合格のために介護福祉士養成講座の内容を、詰め込もうとしているのが現状である。

しかし、本校を卒業し、介護福祉士の資格を取り介護の現場で働く卒業生たちの多くは、目的を持ち生き生きと活躍している。労働条件や、現実の厳しさに介護の仕事に従事することが困難

になってしまった者もいるが、「三年離職」などと言われる現場の就業実態には厳しいものがあるのかもしれない。高校福祉科には、中学校時代までの生活の中で福祉に興味を持ち、人のために何かしたい、人に必要とされたいという思いを持った生徒たちが集まる。人生の早い時期から福祉に携わりたいという「心」を持ち、純粋に、ひたむきな心で福祉の専門家をめざす若者に、現場でもより早く専門知識や実践力を身につけさせて欲しいと思う。

成長発達途中にある生徒たちは、人生経験も未熟で先輩たちと比較されると不十分なところはある。本校では資格を取得させ、その資格に見合うだけの力を付けるために学校設定科目を含む授業、課外活動などで幅広い学習を展開し、総合的な力を付けるために取り組んでいる。めざすところは、社会福祉に関する知識と人を援助する技術・方法を習得した、将来、地域福祉を支える人材の育成である。

教員自らも研修を重ね、福祉科高校に与えられている介護福祉士受験資格に十分に応えることのできる生徒を育てていきたい。



進路指導

『福祉科設置以来における進路状況及び今後の課題』

啓新高等学校 教諭 水元 敏博

1 はじめに（概要）

本校は福井精華女子学園（昭和2年9月創立）を母体として、昭和37年4月福井女子高等学校（被服科・食物科）として開校された。建学の精神である「真・善・美」・「行学一路」を根本に、生徒一人一人の個性を伸ばし、未知を拓き、教え導くことをモットーに、「可能性への挑戦」を目標としている。

平成10年4月福井女子高等学校から啓新高等学校に校名変更、男女共学とし、普通科、情報商業科、生活文化科、調理科、福祉科の5学科に編成された。

福祉科は、平成8年4月に設置され、1学年1クラス40名定員で、これまでに280名の卒業生を送り出している。内訳は女子260名、男子20名と女子が圧倒的に多い。

福井県は、敦賀市を境に嶺南と嶺北に分かれているが、本校は嶺北に位置しており、生徒も嶺北一円から通学している。また生徒の主な就職先である福祉施設状況をみると、嶺北地方には養護老人ホーム、介護老人福祉施設、介護老人保健施設を併せて70余の老人施設があり、それぞれ生徒の実習先及び就職先となっている。（なお、福井県は人口に比して施設数が多いといわれている。理由としては共働き率の高さが上げられる）

福祉科第1期生（平成10年度卒）から第8期生（平成17年度卒）の卒業後の進路をみると、福祉関係への就職—約55%（9割以上が老人福祉施設へ就職）、進学—約33%、その他（家事及び一般企業）—約12%となっている。進学先は福祉系大学、短大、医療系専門学校等への進学が多い、特に一昨年あたりから医療系専門学校（看護、リハビリ）への進学希望者が増加している。

福祉科の目標は、「地域で活躍する福祉の人材育成」を掲げ、①福祉専門職としての価値観の涵養、専門的知識、専門的技術の習得、②介護福祉士国家試験全員合格を目指している。

ちなみに本校福祉科で取得できる資格は、

- ・介護福祉士国家試験受験資格
- ・訪問介護員養成研修2級課程修了（2年次）
- ・訪問介護員養成研修1級課程修了（3年次）
- ・日本赤十字社救急法救急員認定証

2 進路指導（3年）

《就職》

1) 全体

教養模試4月～9月で6回実施

進路オリエンテーション（面接、求人票等）を3回実施

面接指導3回など

2) 福祉科

就職先の指導は担任・就職指導部が連携し、本人の希望を調査する。

面接の指導は担任・就職指導部が行う。

福祉科生徒の就職希望先は圧倒的に社会福祉施設が多い。そのため就職希望先選定(本人の希望)の一助として、1年次、2年次にそれぞれ5日程度の施設ボランティア体験や、また2年次、3年次に行う施設実習、施設からの依頼によるボランティア等の機会をとらえて、施設や職員の雰囲気や自分の肌で感じ、自分の就職したい施設を考えるように常日頃より指導している。

そこで施設体験の枠を広げるため施設体験先と実習先の施設が重ならないよう配慮している。生徒の視野が広がるように、実習施設は介護保健施設だけでなく、障害者(知的障害者・身体障害者)施設での実習も体験できるように設定をしている。

その他、年に何回か開かれる「福祉のしごと説明会」に参加し、就職希望施設のブースで人事担当者との面接をお願いし、就職の手がかりにしている。

本人が具体的な就職希望先を決めると、希望施設に2~3日のボランティアを行い、最終的な判断の一助にしている。

ちなみに障害者施設での実習が終わると、障害者施設への就職希望者が増える傾向にある。

求人については福祉関係(介護保健施設、障害者施設)が多く、例年就職希望者数より多くの求人がある。また求人施設についてはほぼ固定しており、毎年決まった施設から1~2名ずつ必ず求人がある。

理由として考えられることは、

- ①本校福祉科の介護福祉士国家試験の合格率の高さ(8割以上)への評価
- ②施設実習等により生徒の性格等を把握できる(面接)
- ③他に1校しか高校福祉科がない、
- ④離職率の低さなどの評価が、

求人につながっていると思われる。

就職希望の経緯としては、生徒達は自分の実習等の経験から「あそこの施設に行きたい」など、自ら希望を出してくることも多い。

求人が来ていない場合は就職指導部と連携し、当該施設に求人の確認等を行い、できるかぎり希望先へ就職できるよう配慮している。また年に何回か開かれる県社協主催の「福祉のしごと説明会」での面談がきっかけとなり、求人してくるケース、実習先(施設)より生徒の名前を指名して「うちへ来てくれないか」という要望や施設長自らが来校されて求人票を出される、直接就職指導部へ求人の電話をかけてくるなど様々なケースがある。

《進学》

- ・10月までに進学オリエンテーションを8回実施
- ・個人指導は随時実施

福祉科生徒の進学先としては大学に関しては、社会福祉学科が多く社会福祉士、精神保健福祉士など介護福祉士+αの福祉系資格の取得、短期大学に関しても同様に幼児教育学科や音楽療法学科

などが多く、保育士、音楽療法士など介護福祉士の延長線上にある福祉系の資格取得ができる学科である。

専門学校に関しては医療系の科を希望する生徒が多く、大学、短期大学の傾向とは違い、福祉とは別系統の進路である。その理由としては、福祉科の専門科目の授業（リハビリテーション、看護基礎医学等）で、生徒の視野が広がったこと、また先輩の進路の影響（前年度に医学系の学校への進学者が多かった）などがあると思われる。

3 課題

就職に関する課題として、①障害者施設就職者数を増加させたい。現在、老人施設に比べて障害者施設への就職者は少ない。障害者施設側の見方としては、障害者福祉については介護ではなく、生活全般への関わりが求められ、職員の人生経験が必要とされる（大卒・短大卒が対象）という見方をしていると考えられる。しかし、自立支援法でも明らかのように、在宅の場合は介護福祉士がサービス提供の資格となっており、施設に関しても十分対応可能と思われる。

毎年3割を超える進学希望者がいるが、最近の傾向として医療系（看護師、リハビリ資格）への進学希望者が増えている。いわゆる専門職志向が増加しているのだが、その場合一般高校の生徒との競争になり、受験科目への対策が課題となっている。

進学希望者については進学の補習を実施しているが、介護福祉士国家試験のための補習との兼ね合い（生徒自身の選択）などにより、効果的な進学補習が実施できているかなどの検証を行い、医療系学校への合格率をアップすることが、今後への課題となっている。

(進路状況)

年 度	就職施設		進 学			他 (人)	合計 (人)
	老 人 (人)	障害者 (人)	大 学 (人)	短期大 学 (人)	専 門 学 校 (人)		
平成 10 年度	20 (48.8%)		15 (36.6%)			6 (14.6%)	41
	20	0	0	11	4		
平成 11 年度	27 (65.8%)		4 (9.8%)			10 (24.4%)	41
	27	0	0	4	0		
平成 12 年度	16 (43.3%)		11 (29.7%)			10 (27%)	37
	13	3	4	3	4		
平成 13 年度	17 (58.6%)		12 (41.4%)			0	29
	13	4	3	5	4		
平成 14 年度	17 (56.7%)		11 (36.7%)			2 (6.6%)	30
	15	2	7	3	1		
平成 15 年度	22 (68.8%)		10 (31.2%)			0	32
	21	1	4	3	3		
平成 16 年度	13 (37.1%)		17 (48.6%)			5 (14.3%)	35
	13	0	7	4	6		
平成 17 年度	21 (60%)		13 (37.1%)			1 (2.9%)	35
	20	1	5	3	5		
合計	153 (54.7%)		93 (33.2%)			34 (12.1%)	280

*その他は家事手伝いまたは一般企業就職

授業研究

『「社会福祉演習」でのケアプラン作成の取り組み』

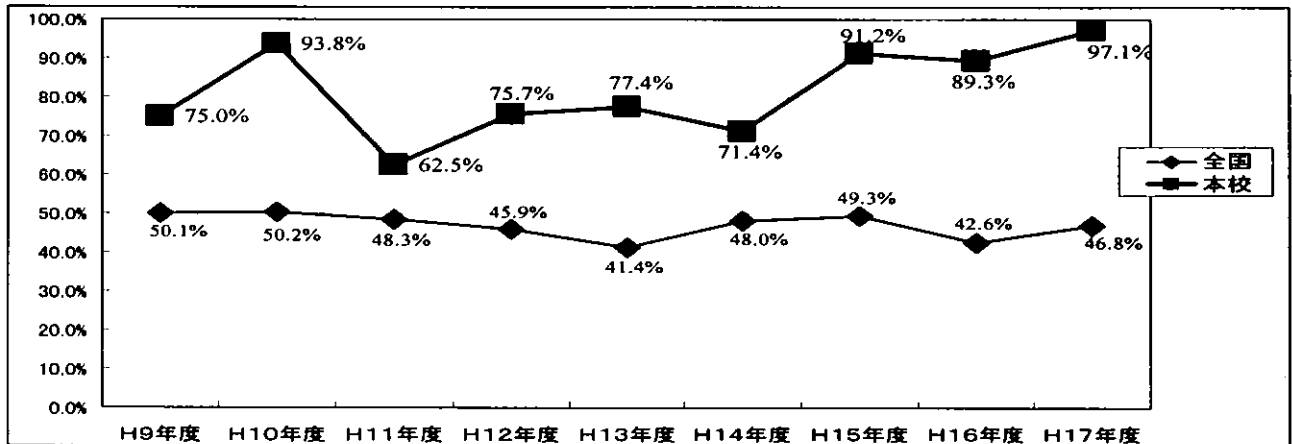
北海道置戸高等学校 教諭 前田 信治
教諭 嶋倉 俊一

I 学校の概要

置戸町は、人口3,600人程度の小さな町であるが、「人間ばん馬」「オケクラフト」などの知名度の高い祭りや町おこしも行われている。過疎化と高齢化が進む置戸町の高齢社会を支える人材育成という要望もあり、平成7年度から従来の普通科2間口のうち、1間口を生活福祉科に学科転換した併置校である。なお、平成15年度より生活福祉科は「福祉科」に変更している。

本校は全校生徒数が131名という小規模な学校ではあるが、道立の高校では唯一の福祉科を設置しているので、生徒は全道から集まってきており、50名が寮生活をしている。進路状況では、普通科は就職・進学が半々で、福祉科は介護福祉士の資格取得を目的とするため、総じて学習意欲が高い。〈参考資料1〉

〈参考資料1〉 介護福祉士国家試験の合格率



※ 本校では、平成17年度より介護技術講習と筆記試験による試験選抜方法を選択している。

本校福祉科生徒の卒業後の進路は、おおむね就職が6割、進学が4割となっている。また、就職においては、ほとんどは福祉施設での介護職員となっている。〈参考資料2〉

〈参考資料2〉 平成17年度福祉科の進路状況

	進路先	人数
進学状況	大学 (福祉)	2
	(看護)	1
	短期大学 (保育)	3
	専門学校 (保育)	2
	(看護)	3
	(理学療法)	1
	(その他)	3
就職状況	一般企業	1
	福祉施設等や病院	18

II 本校の教育課程における社会福祉演習の位置づけ

社会福祉演習は学習指導要領によると、専門科目「福祉」における学習の総合的な科目として、基礎的・基本的な学習のうえに立ち、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる科目とされている。本校の教育課程には、このような科目の特性から3年次の必修科目（5単位分）に位置づけている。〈参考資料3〉

この科目には教科書が存在せず、その教授方法が教科担当者に委ねられている。本校の社会福祉演習は、福祉施設への就職という生徒の進路状況に対応し、施設現場の実践力となる介護福祉士の養成を目指して、学習指導要領にある「事例研究」「ケアプラン」の内容を設定している。

〈参考資料3〉 入学者教育課程表

教科	科目	標準 単位数	平成15年度入学者			平成18年度入学者			
			1 年	2 年	3 年	1 年	2 年	3 年	
国語	国語表現Ⅰ	2			3			3	
	国語総合	4	2	2		2	2		
地理 歴史	世界史A	2	2			2			
	日本史A	2		2			2		
公民	現代社会	2			2			2	
数学	数学Ⅰ	3	2	2		2	2		
	数学A	2			2			2	
理科	理科総合B	2	2			2			
	生物Ⅰ	3		3			3		
保健体育	体育	7～8	3	2	2	3	2	2	
芸術	書道Ⅰ	2	2			2			
外国語	オーラル・コミュニケーションⅠ	2	2						
	オーラル・コミュニケーションⅡ	4		2					
	英語Ⅰ	3			2	2	2		
	英語Ⅱ	4						2	
家庭 情報	家庭総合	4	2	2		2	2		
専門教育に関する 教科	情報A	2	2			2			
	家庭 看 護	フードデザイン	2～8			2			2
	福祉	看護基礎医学	9～10	4	2	2	3	2	2
		社会福祉基礎	2～6	3	2		3	3	
		社会福祉制度	2～4			3			3
		社会福祉援助技術	2～6		3	2		2	2
		基礎介護	2～6	3	4		4	2	
社会福祉実習	2～10		3	4		5	4		
社会福祉演習	2～6			5			5		
小計			10	14	18	10	14	18	
総合的な学習の時間			1	1	1	1	1	1	
合計			29	29	29	29	29	29	
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	1	1	1	
総計			31	31	31	31	31	31	

Ⅲ 社会福祉演習の取り組み

1 授業担当者

福祉科目は6名の教員が担当している。そのうち、5名（福祉3名・看護2名）が社会福祉演習を担当し、ケアプランの授業については4名の教員が指導にあっている。

2 ケアプランの作成までの授業計画（4月～7月）

- (1) 施設ケアプランの概要
- (2) 紙面の事例でのケアプラン作成と発表
- (3) 社会福祉施設等での現場実習中でのケアプラン作成

※ 指導上の参考文献：森田靖久編著『施設版ポジティブプラン作成ガイド』日総研（2004年）

3 平成17年度の授業実践の報告

(1) 施設ケアプランの概要

ア 授業内容

- ① 施設ケアにおけるマネジメント
- ② 施設ケアにおけるマネジメントの手順
- ③ 施設サービス計画作成に必要なポジティブな視点によるアセスメント
- ④ 施設サービス計画の作成と実施
- ⑤ ポジティブな視点による利用者の自立支援
- ⑥ ポジティブな視点に立った施設サービス計画の考え方
- ⑦ ICF（国際生活機能分類）モデルの理解

イ 授業方法と評価方法

一斉授業の形態をとって、主担当の教員が毎時のレジュメと資料を配布し、講義する。その内容についてノートテイクしたものを評価する。

(2) 紙面の事例でのケアプラン作成と発表

ア 事例1（4月）

一斉学習の形態で、教員による説明が中心の授業で、利用者情報の整理方法、記述方法などケアプランの作り方について学習する。

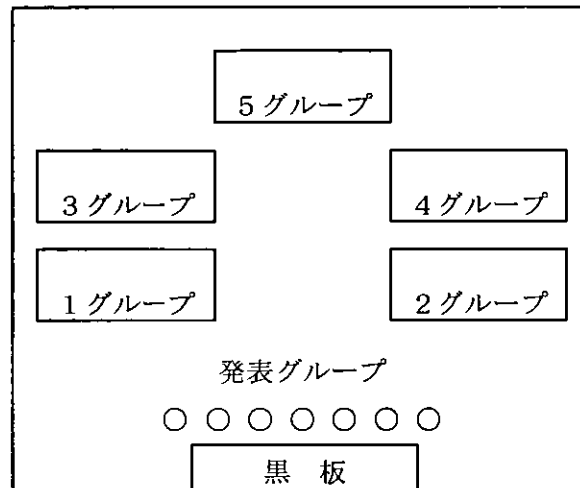
- ① 「基本情報」の収集と記入方法
- ② 「年表」の記入
- ③ 「課題分析（アセスメント）概要」の記入
- ④ 「ストレングスモデルシート」の記入
- ⑤ 施設サービス計画書の記入（第1表・第2表・第4表を活用）

イ 事例2（5月）

5つの事例を用意し、グループ学習の形態でケアプランを作成し、グループごとに発表し、司会者・発表者・資料掲示係などの役割分担を決めて行う。

この段階では、発表方法や質疑応答の方法に重点を置き、作成したケアプランの注目すべき点とその理由を述べるように指導している。また、発表するグループ以外にも1人1

回以上、授業時間の中で質問や意見を発言するように設定している。そのために机の配置をグループ内で相談しやすいようにし、発言が不得意な生徒でも発表できる工夫をした。発表後は、作成したケアプランの内容について教員が講評する。



ウ 事例3（6月中旬～7月初旬）

2つの事例から1事例を選び、個人でケアプランの作成と発表を行う。グループ学習では能力の高い人物が中心になってケアプラン作成にあたる傾向があるため、発表者は積極的に携われなかった生徒を中心に発表させるように設定した。他の生徒は作成にかかわれないまま現場実習を迎えてしまい、自力でケアプランを作成することが困難になってしまうからである。特に、ニーズの優先順位やサービス内容を検討する際に、利用者本位の視点が欠けて未熟なプランになりかねない。

この発表会では、1人1回以上、質問や意見を発言するようにするとともに、就職後のケアカンファレンスを意識して、「～なので、…したほうがよいと思うのですが、どうお考えですか」という質疑や、「この事例は、～という理由からこのような援助が適切だと思います」という根拠のある返答ができるようになり、大きく改善がみられた。



(3) 社会福祉施設等での現場実習中でのケアプラン作成

ア 対象利用者の選定依頼（4月）

生徒は自分で現場実習の打ち合わせを行い、実習期間中にケアプランを作成させていただき利用者を1人選定してもらうように実習先施設に依頼する。生徒には利用者の個人情報の守秘義務について署名・捺印した誓約書と校長からの誓約書を、打ち合わせのために生徒が施設に訪問する際に持参させる。

ケアプランを作成させてもらう利用者は、ニーズを把握するために比較的コミュニケーションがとりやすい人物が望ましい。

イ 作成する要領

① 実習期間中 平成17年7月11日（月）～21日（木）の9日間

実習先施設職員の協力のもとで、利用者とのコミュニケーションを図り、その人にかかわる情報を収集する。その他補足的な情報については、施設職員から収集する。利用者の個人情報を保護するため、氏名、住所、家族構成などについてはすべてイニシャルで記入する。

② 実習終了後

実習期間中に収集した利用者の情報を学校で整理し、ニーズを抽出してケアプランを完成させる。生徒にとって9日間という短い実習期間で主訴や援助目標を把握し、それらを文章としてまとめる作業は非常に難しく、帰校後にそれらを思い出しながら苦労して取り組んでいた。

4 ケアプラン学習の成果と今後の課題

(1) 学習を終えて

介護福祉士としての専門知識や技術のみならず、利用者本位のサービスを提供できる実践的な態度を育てるためにも、ケアプラン作成の学習は欠かすことができない。本校福祉科生徒の「福祉施設への就職」という進路状況や生徒の記入したアンケート結果を見ても、ケアプランの学習はとても重要なものだと感じている。〈参考資料4〉

(2) 今後の課題

実際のケアプランの学習を進めていくうえでは多くの課題がある。2年次と3年次に現場実習を設定しているが、後者の実習ではケアプランを作成できる十分な期間が大きな課題である。それに伴って受け入れてもらう実習先施設の確保と連携、指導者の専門性などがあげられる。

また、社会福祉演習は高学年での履修を原則としているが、それまでに十分な専門的知識を身につけていなければ、利用者のニーズに添えるケアプランを作成することはできない。本校の最近の傾向では、生徒の学力の二極分化が著しく、下位層への支援が今以上に必要になってくる。

<参考資料4> 平成17年度福祉科3学年の授業アンケートの集計結果（一部）

ケアプランの学習（作成、発表）を通して、身についた力

- 自分の考え方を説明することができた。
- 利用者様や職員の方々の話を聞いて、自分の力でケアプランを作成していく力がついた。
- 客観的視点を持ち、あらゆる視点からの考えを知ることができた。
- 自分で考えることや利用者様、家族がどのようなことを望んでいるのかを把握することが必要である。
- これから役立つことをある程度理解できた。
- 人と話す力、自分の言葉をまとめて考える力が身についた。
- 観察力が身についた。
- 利用者本人の確認が重要だと感じた。

ケアプランの学習（作成、発表）を通して、今後身につけなければならない力

- 利用者本位に考えられる力。
- 文章を作る力。
- 情報収集力。
- 利用者の主訴を聞き出す力。
- 人と話す力。
- 観察力。
- 利用者の方と話をし、そこからニーズが見つけられなかったこと。
- 自分の考えに自信を持てなかったこと。

《 文部科学省指導・講評 》

平成18年8月11日(金) 11:45~12:25

ホテル青森(3階)孔雀の間

司会進行 長崎県立大村城南高等学校 校長 永田 良二

記 録 鹿児島県立開陽高等学校 教諭 辻村 伸代

川崎市立川崎高等学校 教諭 岡 多枝子

指導講評の司会を勤めさせていただきます長崎県立大村城南高等学校の永田でございます。よろしくお願いいたします。それでは、指導講評を文部科学省の調査官であります矢幅清司様より頂戴いたします。矢幅先生、どうぞよろしくお願いいたします。

矢幅 清司 調査官 *****

みなさん、お早うございます。只今より若干ですが、この大会についての感想を含め、また福祉にまつわる現況について述べさせていただこうと思っております。

はじめに、第12回のこの青森大会が盛大に開催され、内容の濃い大会だったということで、感謝を述べたいと思っております。それは、一つ目といたしましては高校福祉科という部分におきまして、独立した第1回という記念する大会であること、二つ目といたしましては、福祉を学ぶ生徒の全国的なコンクールが初めて開催されたという意義のある大会であったこと、三つ目に教員の介護技術の研修の場を設けていただいたこと。そして四つ目、福祉を取り巻く状況について共に情報交換をし合えた場であったこと。主にこれら4つの点で、まさに画期的な大会であったのではないかなと思っております。ここで得た情報等を、皆様方、各自の学校へ戻られてから一つ一つ授業に生かしていただければいいのではないかなと思っております。

『福祉系高校の意義』について、若干触れさせていただきたいと思えます。高齢化が一層進展し、障害の有無にかかわらず“国民誰もが相互に人格と個性を尊重し合う共生社会の実現”を現在目指しております。高齢者や障害のある人を思いやる気持ちであるとか、正しい福祉の知識・技術を持った人間の養成、そして豊かな人間性を育む教育というものが一層重要となってきております。同時にこれらの高齢者や障害のある人々の自立を支援する能力や技能を持った人材を育成する必要性は、今後ますます強まっていくものと思っております。このような状況の中で、高校生の段階から福祉に関する基礎的・基本的な知識・技術を習得し、実践的な技術力を身につけ、人間性を高めていく教育をしていただいている福祉系高校について感謝を述べるとともに、今後ともご尽力をいただきたいと考えております。

現在、介護福祉士の国家試験を受けられる福祉系高校は全国で201校。そして訪問介護員養成研修事業を行っている高校は、1級・2級・3級併せまして全国で625校、福祉の科目を設置している学校が203校、計1029校で何らかの形で福祉教育が実施されておしま

す。介護福祉士の国家試験の合格状況をみますと、全体の合格率が46.8%であるのに対し、福祉系高校の合格率は55.1%と抜きん出ております。また、その受験者数、合格者数の割合は、全体の約1割近くに迫っております。そういう点で、福祉系高校の認知度、そして必要度は各地域で広まってきているものと思います。先生方もその地域からの期待に応えるべく、今後の福祉教育に取り組んでいただければ有難いなというふうに思っております。特に小学校・中学校の福祉への想いがある子供達を引き受けて高校で育てているわけですが、人材を地域に還元するとともに、さらに大学へ進学させ、そこで新たな福祉を学び、そして将来の福祉人材の養成につなぐという意味も高校は持っているかと思えます。

ここで『高大連携』ということで、今日登壇していただいている日本社会事業大学の田村助教授に簡単な説明をしていただこうと思っておりますので、よろしくお願い致します。

田村 真広 助教授 *****

私、今ご紹介いただきました日本社会事業大学の教員で田村と申します。福祉高等学校長会の研修会には、何度か参加させていただいております。

私は、福祉系大学において主に教員養成に関わっております。それで、初日からの講演などを聴きまして、ますますこの福祉の教員養成あるいは研修、このへんの課題がまだまだ山積していることを実感いたしました。その意味でこの青森大会は解決したことも少しはありますけれども、持ち帰る課題もたくさんありました。しかし、たくさんの宿題を持ち帰らせていただくことができ大変有意義な大会でございました。

私がこの場でしゃべらせていただくのは、もちろん大学で教員養成の仕事をやっている、ということもあのですけれども、もうひとつは『高大連携』ということで、特に福祉系の高等学校の先生方とさまざまな場面で連携をいたしまして、福祉系高校のためになること、そして福祉系大学にとってためになることを“共に”追求していきたいと考えておりました、いくつかの事業を進めております。一つは日本社会福祉教育学校連盟というのがございますが、お手元の資料の中に挟みこまれておりますように、福祉教育研修講座、今年度で第8回になりますが、こういう講座を福祉系高等学校長会の担当の先生方といっしょに検討しながら、企画しております。その中の小中学校連盟の小中校部会長という役を仰せつかっております、そういうことで一つ、高大連携の仕事をしております。あるいは、科学研究費補助金というものを文部科学省の方から受けまして、これは主に福祉系の大学の教員がメンバーですが、このメンバーで研究グループを組織いたしまして、福祉系高等学校の今後のことや、あるいは、大学における教員養成の今後について示唆を得るための研究プロジェクトを立ち上げております。そういう面でも、福祉系高等学校の皆さんと連携をさせていただいているというところでもあります。そうした連携の成果を還元していくことが私に課せられた課題だというふうに思っているわけですが、今日はその一端を紹介することと併せて、今後もどのような形で高大連携ができるのかということをご一緒に考えるきっかけになったらと考えております。

私が福祉教員の養成に関わりながら、今、『福祉教員に求められている資質』というのはどうしたことなのかな、ということをも3点まとめてみました。

一つは広い視野と教養というものに裏付けられた福祉教員としての使命感を持っているということです。そしてそれらの資質を持っている教員がますます求められているということ、実感しております。

二つ目に、コミュニケーション能力を持った教員ということですが、これはもちろん生徒理解という面でもそうですし、職場の中で協働していく力ということでコミュニケーション能力を持った教師というものを養成していく必要があるな、というふうに痛切に感じております。

三つ目が、教育課程を改善できるくらいの指導力を持ったいわゆる福祉7科目の深い理解と指導力を持つ、というこの3点を当面の福祉教員の養成課題と捉えております。そして何よりも4年間で完成した教師ではなくて成長し続ける教師を養成する、ということが求められていると考えております。

先ほど、立正大学の保正先生の方から、「高校福祉科卒業生のライフコース調査」の研究の一端をご紹介いただきましたが、是非、この冊子に挟み込まれている文章を先生方に読んでいただきまして、寄せられた感想を今後の高大連携によって進めるプロジェクトの参考にさせていただきたいと思っております。感想のほうは、コメントシートにご記入していただきたいと思っております。

ここで、現時点で本調査から得られました福祉系高校の優位性とか、あるいは今後ますます検討していかなければならないだろうな、という検討課題について感じていることをお伝えしたいと思います。

今後の福祉系高校について考えるとき、矢幅先生の方からも数を挙げられましたように、約200校の介護福祉士受験可能校と、約800校のいわゆる教科「福祉」を設置している学校ということで、計1000の福祉系高等学校というものを視野に入れて考えていく必要があると思っています。また当然、福祉の免許を持った教員というのはこのような高校に出て行くということになるわけです。

福祉系高等学校の『今後の進展を含む特徴』として、一つ目は、中村局長がお話の中で“福祉介護のパラダイム転換”ということをおっしゃってございましたけれども、この“パラダイム転換”に見合った介護福祉士はもちろんそうですけど、福祉従事者とか福祉サポーター、こういう人たちを養成する場になっていくのだろうということが考えられます。これは見方を変えますと、福祉系高等学校というのは“他職種協働”、これの発生点になるのではないかと考えております。つまり介護福祉士も養成するし、ある意味で進学していく保育士ですとか医療系ですとか、看護師ですとか社会福祉士ですとか、さまざまな福祉分野に進んでいく生徒が多いわけですね。介護福祉士も含めて、福祉従事者、福祉サポーターを養成していく場であるということを考えますと、まさに福祉系高校は“他職種協働”の発生点といえるのではないのでしょうか。まさにこれからはチームケアが必要となってくるということですが、実際にライフコースのインタビューをしていますが、卒業生同士が看護師になった卒業生と介護福祉士になった卒業生と社会福祉士をやっている卒業生が「いっしょに地域ケアシステムを立ち上げたいね！」そんな話をインタビューの

中に出てくるような場面もありました。そういう、まさに“他職種協働”の発生源として福祉系高等学校の可能性や特徴があるのではないかというふうに感じております。

二つ目に特徴として、やはり高校の普通教育を完成させるという意味では、“学びそして働き続ける 21 世紀市民の育成の場”として福祉系高校はあり続けるのではないかというふうに考えております。“学ぶ”そして“働き続ける”。今、若者達が就業し、そして働き続け、社会生活を送っていくことが非常に大きな課題となっておりますけども、そういう意味でも福祉系高校というのは存在意義を有するのではないかなと思います。そのような福祉系高等学校は生徒も教師も、共に学び成長し続ける場で在りうるのではないかというふうに期待も含めて思っているところです。

そして、『福祉系高等学校の優位なところ』でありますけれども、一つ目は感化を受けやすい年齢で社会福祉に触れるということがあるかと思えます。先ほどの報告にもありましたけれども、“人の生き死に”というものに触れるということが一つの例として挙げられるように、感化を受けやすい年齢で社会福祉に触れるということそのものが、大きな優位点ではないかと思えます。さらに自己覚知と他者理解を頻繁にやるわけですから、自己の確立をしやすい福祉系高校教育なのだろうと思えます。

二つ目が、学級・学科というまとまりをもっていることで教育力を増しているということでもあります。もちろん人間関係が密になりすぎるというデメリットもあるという報告がありましたけれども、やはり学級・学科を持っているということの意義は計り知れないものがあるのではないかと思えます。まさにこのような福祉系高校の中で依存を含んだ自立概念を深めていくことができるのではないかと思えます。

優位点の三つ目として、母校とか地元に対する愛着が強いということです。これは学級・学科が濃密な人間関係を営んでいることと関係しますけれども、やはり、円滑なコミュニケーションの力をつけていることや、地域資源に対する深い理解が基になっているものではないかと思えます。インタビューをしていて、母校や地元に対する愛着というのを福祉系高校生は強く持っていると感じるところです。

四つ目が先ほども言いましたが、福祉系への進学が他職種協働の発生源になるということでもあります。福祉系高校から保育士、看護師、医療技術、社会福祉、その他さまざまな福祉の分野に進んでいく生徒が多く、全体として福祉系に進む生徒の割合は 8～9 割だと聞いております。

このような福祉系高校の特徴や優位点を挙げていけば、現在日本で進んでいる高校教育改革における福祉系高校の存在意義を訴えていけるのではないかと考えております。

『検討すべき課題』ということでは、一つ目は“キャリア形成”ということについてこれからは意識を持っていかなければいけないと考えています。4～5年目に転機が訪れるということや、リアリティ・ショックというものに必ず直面するということ。しかしこの時にキャリア・モデルとなる先輩との出会いとか、あるいは母校に戻ってリハビリができるとか、あるいはリカレント教育を受けることによるキャリアアップ。あるいは資格をさらに介護福祉士の上に積み上げていくとか、職場で責任のある立場に就任していくことが、キャリア形成につながっていくと思うのです。実際、卒業して 10 年目の方が職

場で介護主任になったり、ケアマネージャーの資格を取ったり、あるいは、経営の立場に携わっていく卒業生もいるようです。そういう“キャリア形成”に対して意識を向けていくことが課題ではないかと思えます。

二つ目に、就職率はわかっているのですが、先ほども離職率の少ない高校の例が挙げられましたけれども、はたして3年以内の“離職率”というのはどうなっているのでしょうか。あるいは離職はある意味ではよい条件を求めて就職しているということともいえるわけで、必ずしも離職イコール悪いことと言い切ることはできません。一方、離職率と併せて福祉職としての定着率については、実はぜんぜんわかっておりません。そういうことが、優位性と同時にわからないことも含めて課題として残っているのではないかと思っています。

三つ目が“就労条件作り”。働き続けるための就労条件作りへの展望ということのも課題として残っております。給与面という点では、昨日なかなかショッキングな報告も出ましたが、「年収が200～300万円台になっている」ということでは、2人で家族を営みながら両方が働いてやっていけるというような年収になっているということです。

それから福利厚生面での問題点も言われております。また、福祉系高等学校の多くが女子生徒であるようですが、女性であるがゆえに例えば、子育て期の生活条件をどのように維持していくのか、そういうことも実はまだ課題が残されているところであります。

以上まとめますと、国家試験合格後、あるいは進学後の生徒の歩みに目を向けるところから、福祉系高校の教育課程への改善案というものも考えていく必要もあるのではないかと思います。

最後に、高大連携の進展へ向けてということで、今日は特に『福祉教員の養成・採用・研修』に焦点を当てて発言をして、まとめとさせていただきます。

まず、“養成段階”に注目いたしますと、まず高大連携で焦眉の課題となるのは教育実習ということです。また、教育実習は事前事後指導も含めて考えていかなければならないと思います。たぶん、今フロアにいる先生方の中には、大学に対してものを申したいことがいっぱいおありではないかと思えます。しかし、それは高校と大学側が十分に意思疎通、コミュニケーションがとれていない段階であることからきているかと思えます。事後指導も含めた教育実習のあり方については、まだまだ多くの課題があるのではないかと予感しております。

また、教育実習の前後にインターンシップを取り入れていくのも、必要ではないかと考えております。例えば教員採用が予定として決まった学生にしてみれば、早く現場の水に慣れて、スタートダッシュを早めるということも課題ですし、あるいはそもそも福祉系高等学校とはどういうところなのだということを知るために、福祉系高等学校の職務に仮に携わるといったインターンシップも、これからはやっていく必要があるのではないかなと思っております。

その他、高等学校の方としては、大学に対して出前講座とか、学校現場で行う研修についてのニーズというものがあると思います。こういうことも教育実習やインターンシップの話し合いの中で実現できるものはしていきたいなというふうに考えております。

“採用の段階”でいきますと、計画的な採用に向けて是非、連携を強めていきたいと考

えております。一例を申しますと、今年度は全国、二十数県で採用試験があります。しかし、来年度はどこが採用するのかわかりません。これは4月か5月にならないとわからないわけです。これは学生の身にしてみますと、その年の4月になってわかって準備はできません。テンションも上がってこないのです。来年、例えば青森県で採用があるとわかっていれば、1年以上もかけて準備ができるわけですから、色々な面で身体を青森に持っていく準備ができるわけです。しかし、その年の4月ではやっぱり向かないです。だから、本当に教師になって欲しいなと思う学生が別の部分に逃げていってしまうという現状があります。私学においても、採用は結構あるわけなのですが、これもあまりオープンになっていなかったり、採用の公募が秋口以降になるということで、なってほしいなと思う学生が逃げていくという現状があります。とにかく計画的な採用に向けてさまざまな課題があると感じております。

次に“研修の部分”ですけれども、これは既にやられていることとしましては、先ほど紹介しました全国規模での福祉教育研修講座というのがございます。今年は日本女子大で行われますが、これは全国研修と併せて、今後は地区毎の研修実施へと広げていっていただきたいという思いを込めて実は企画しております。今年は福祉教育実践の評価と分析についてということですが、教員一人ひとりが実践記録をまとめるということは、自分の実践を振り返る視点を持つということでもあります。そういう実践評価を意識した企画を今回は立ち上げたのですが、これも福祉科校長会の担当の先生方と練り上げながら、なんとかいい企画にしたいな、と考えているところです。こういう全国規模の研修が年に1回しかできないわけですが、これを各地でやっていただいただけだと、新しくなったばかりの教員にとって、良い研修の場となるのかなというふうに思っております。

二つ目に各種の技術講習というのもございます。これは既に行われておりますけれども高大連携を深めていけば、ここに適切な講師を派遣していくことが可能になると思います。今後は大学が18歳だけをターゲットにしないで、広く現職の教員等もターゲットにした自主的な研修を提供していくという、そういう可能性もございます。あるいは自治体や地区毎との協定に基づいて各種の技術講習を組んでいくことも可能ではないかというふうに考えております。

三つ目が、これからの新たな動きなのですが免許更新制です。教員免許の更新制ということが話題になっておりますけれども、それに対し、どうやって対応していくのか全く未知数であります。

四つ目は、大学院教育の整備なのですが、これもたぶん現場の先生方は、いろいろな政策が変わっていく中で、(新たに福祉について深く学び直したい)、(研究したい)というご希望もお持ちだと思いますが、大学院教育を整備して、そこへ派遣していくようなシステムを作っていくということは今後の大きな残された課題であるかなと考えております。

このように社会福祉に関わって、研究と教育のフィールドを共有していくことが高大連携の意義だというふうに考えております。その高大連携の局面はまだまだいくらかでもある、ということでございまして、お互いが知恵を出し合って有意義なフィールドを作っていきたいというふうに念じているところです。

どうも、ご清聴ありがとうございました。

矢幅 清司 調査官 * * * * *

もう少し説明をさせていただきたいと思っております。文部科学省として取り組んでおります施策等と検討会について若干コメントをさせていただきます。現在、文部科学省では専門高校の今日的意義として、2つの意義があるのではないかと考えております。

一つは、『将来の専門的職業人の育成』ということです。もう一つの柱は『地域産業を支える人材の育成』ということです。この2つを大きな視点として捉え、その支援策として現在2つの事業に取り組んでいるところであります。説明は省かしていただきますが、一つは「目指せスペシャリスト」という事業です。現在、兵庫県立新宮高校が3年目を迎え、11月の発表を待つところでございます。また、今年度より宮崎県立門川高校が「目指せスペシャリスト」の指定を受けたところであります。

二つ目が、「日本版デュアルシステム」という考え方です。今までは、学校の中だけで指導していたという自己完結型だったと思うのですが、そうではなく、学校の中で学び、そして地域の例えば会社であるとか福祉でいいますと施設へ出向いてそこで身につけていく、という二重の構造を教育に持ってくることはできないか、ということで現在進めております。

そういう点で福祉系高校の実習なんかは、まさにデュアルシステムの一つではないかと考えております。学校で学び、そして実践をし、その繰り返しをすることによって人間的成長と共に、専門従事者の養成に寄与しているのではないかと考えております。これからも、引き続き両事業を拡大して進めていきたいと考えております。

次に、専門高校全体としまして行っている事業ということで、『産業教育フェア』というものがございます。これは専門高校8学科と総合学科の計9学科の全国の祭典ということになります。今年度は埼玉県に於きまして開かれますので是非、時間の都合をつけていただいて参加していただければというふうに思っております。あの場で生き生きと一生懸命動いている高校生の姿を見るにつけ、私どももそれを支えていかなければいけない、という気持ちを新たにしているところであります。

次に、大きな見直しということで、二つお話させていただきます。

一つが、『学習指導要領の見直し』という点でございます。これは、参事官のほうからも昨日のあいさつで述べさせていただきましたけれども、今後は厚労省の見直しの方向というものに基づいて、教科ごとの検討をはかっていき、そして充実を深めていこうと考えております。公表時期はできますれば年度内、遅くとも来年度あたりを目途に、協力者の方々の力を借りて内容の充実したものを皆様方に公表できるように頑張っていきたいと考えております。

二つ目の見直しということでいいますと、これは『介護福祉士の見直し』という点があります。これは皆様方もご存知の通り、報告書を見ていただいたと思うのですが、

大きな課題として三つほど挙げられるのではないかと考えております。

一つは「教育内容 1800 時間・3つの分野をクリアしなければならない」ということがあります。二つ目といたしまして、「その教育内容に見合っただけの施設・整備を整備していく」ということが挙げられると思います。三つ目といたしまして、「その教育内容をきちんと指導できる方を確保し、配置する」ことということになります。

繰り返しますと、『教育内容・施設設備・教員の要件』ということが課題だと思われまふ。かなり、厳しい、そして難しい内容かと思ひます。しかしながら努力すれば克服できる課題だと捉えております。そういう点で、ただ単に、(時間数 1800 だからお手上げだ) というのではなく、教育内容等を吟味し、地域からの期待にどう応えるかということを含め、学科の設置意義を再度検討していただき、前向きに取り組んでいただければありがたいと思ひております。

視点としましては、『高校福祉教育』という視点と共に、『国民が求める福祉のレベル』という視点もお願いしたいと思ひます。高校福祉科の生き残りのために条件整備をするということではなく、国民全体の福祉の向上のために介護福祉士等の資格があり、その資格に対して高校のほうに努力するから養成できるのだ、という視点で各学校で取り組んでいただきたいと思ひております。

難しい課題ではありますけれども、知恵を出し合えばきっと明るい未来が待っているのではないかと、思ひております。安易ではなく、着実に一歩ずつ進んでいただきたいですし、それをこちらの方としても、精一杯支援していきたくと思ひております。

最後になりますけれども、高橋理事長をはじめ、福祉高校の団体であります第1回のこの大会を主幹してくださいました東奥学園の皆様、そしてブロックとして、これらを積み上げていただきました北海道・東北のブロックの先生方に感謝を述べて、簡単ではありますけれども、指導講評とさせていただきます。今後ともご協力、よろしくお願ひいたします。

司会 永田 良次 氏 * * * * *

矢幅先生、田村先生、指導講評まことにありがとうございました。改めて拍手をもって感謝の意を尽したいと思ひます。

発表資料

『高校福祉科卒業生のライフコースに関する調査結果（中間報告）』

I. 研究の枠組み

1. 研究の目的

我々は現在、文部科学省の科学研究費補助金を受けて、4カ年にわたる「高等学校福祉科教育の改善・充実および高度化に資する教師教育の体系化に関する研究」に取り組んでいる。

そのなかの一つのプロジェクトが、「福祉系高校教育の多様化の実態と専門高校への改革の条件に関する調査」研究である。ここでは、高校福祉科卒業生を対象としたライフコース調査を通して、卒業後の現時点からふりかえって感じた高校福祉科の長所と課題を明らかにすることを目的としている。さらに、調査結果を通して、高校福祉科卒業生がどのような人生を歩んでいるのかを明らかにすることにより、卒業生が現在どのような支援を必要としているのか、どのような支援体制の構築が可能なのかを、検討することができると考えている。

2. 調査方法

2005年9月7日、8日、2006年1月9日、2006年3月12日、13日の3回にわたり、3つの高校（M高校、K高校、H高校）の卒業生計18名を対象に、1名につき2時間程度の生活史の聞き取り調査を行った。聞き取りの際には、2名の調査員がインタビューにあたり、本人の承諾を得てテープに録音した。

内容は、高校福祉科入学前の入学の動機、高校福祉科の3年間でどのような時期だったのか、就職先選定の基準、就職・進学した後にどのような転機があったのか、就職・進学した現在から見て高校福祉科のあり方について思ったことなどである。

聞き取り後に作成した逐語録を基にして、各人が語った内容を項目ごとに整理した。今回はそのデータを基にして、それぞれの項目毎に傾向をまとめる作業に取り組んだ。

3. 調査対象者

調査時点での調査対象者は、以下のとおりである。

	性別	年齢	卒業年度	現在の所属
M 高 校	女	34歳	平成2年	特別養護老人ホーム 介護職
	女	30歳	平成6年	特別養護老人ホーム 介護職
	女	26歳	平成10年	療養型病床群 介護職
	女	25歳	平成11年	飲食店勤務
	男	22歳	平成14年	4年制大学(福祉) 学生
	男	22歳	平成14年	4年制大学(福祉) 学生
K 高 校	女	25歳	平成11年	民間病院 看護職
	女	24歳	平成12年	高等学校「福祉」非常勤講師
	男	22歳	平成14年	特別養護老人ホーム 介護職
	男	22歳	平成14年	4年制大学(福祉) 学生

	女	21歳	平成15年	4年制大学(社会学) 学生
	女	20歳	平成16年	専門学校(保育) 学生
H 高 校	女	33歳	平成3年	特養併設デイサービス 介護職
	女	31歳	平成5年	特別養護老人ホーム 介護主任
	女	28歳	平成8年	特養併設居宅介護 ケアマネージャー
	女	26歳	平成10年	特別養護老人ホーム ユニットケアリーダー
	女	26歳	平成10年	介護老人保健施設 事務職
	女	25歳	平成11年	在宅介護支援センター ケアマネージャー

Ⅱ. 結果

1. 高校入学前から高校時代

①高校福祉科の入学動機

- ・半数近くが生育環境の影響（親の職業、高齢者や子どもが身近にいた…）を理由に挙げていた。
- ・7名が普通科との比較に言及していた。「手に職をつけたい」「中学の延長のような授業はもういい」「普通科は意味がない」などである。
- ・4名が成績を理由に挙げていた。「頭を使わなくていいと思った」などである。
- ・4名が担任に勧められたことを理由に挙げていた。
- ・親については「これからは福祉」と積極的な親もいたが、「そんなに早く進路を決めなくても」と反対された例もあった。
- ・6名がボランティア体験を理由に挙げていた。
- ・資格取得については「介護福祉士の資格を取るため」という明確な回答もあったが、「資格のことは知らずに入学した」という回答もあった。

②入学してみたの印象

- ・4名が高校福祉科のカリキュラムが高齢者福祉分野に偏っていることを指摘していた。
- ・半数以上がカリキュラムのハードさに言及していたが、その多くは「自分で選んだのだから」「ちょっと誇らしくもあった」と前向きにとらえていた。
- ・入学前のボランティア体験と入学後の実習を比較して、「楽しいことばかりではないと実感した」という回答があった。
- ・高校福祉科の生徒の「人間性が豊かで優しい」という、独特の傾向に2名が言及していた。

③福祉科に所属して体験した印象的な出来事

- ・5名が高校で初めて学ぶ専門科目の喜びを述べていた。「スタートラインが一緒なのがいい」「実技や実習の授業が楽しかった」。
- ・3名が現場経験のある教師の授業を高く評価していた。
- ・概論系の授業については「ちょっと退屈」「役に立たない」という声があったが、「O先生の授業が印象に残っている」と教師の印象と結びついた好印象を語る回答もあった。
- ・医学・看護系の科目については「難しい」という声と「興味を持った」「役に立った」という声が相半ばした。
- ・4名がクラスの仲間意識の強さに言及し、「先輩との縦のつながり」を評価する声もあったが、「ず

つと一緒にというきつさもあり、クラスの外の世界を部活に求めた」「個性の強い人が多く人間関係に苦労」という声もあった。

・数名から部活との両立に苦労したとか、部活を断念したという声があり、なかには「部活の顧問が福祉科のカリキュラムについて理解がなくて部活を辞めた」というケースもあったが、「充実した高校生活でやり残したことはない」という回答もあった。

・卒業と同時に資格が取れることのメリットを語る回答が複数あったが、進路変更する友人の姿を見て、早くから「進路を狭めてしまう」デメリットを指摘する声や、進学する際のデメリット「受験科目の授業が少ない」「大学入学後語学で苦労」（複数回答）を指摘する声もあった。

・5名が教員との仲のよさ、ざっくばらんなコミュニケーションに言及していた。

④ 実習について

・実習先については「いろいろなところを経験できてよかった」という声がある一方、「特養に興味があったので全部特養に行った」という声もあった。

・実習の最後に別れを惜しんでくれたり、お礼を言われたりしたことが強く印象に残っているという声や、それが進路を決めるきっかけになったという声があった。

・様々なリアリティ・ショックが語られていた。「実習先の職員の機械的で命令的な口調」「男性の介助に抵抗」「拘束など学校で習ったこととのギャップ」「排泄介助はインパクトがあった」「認知症の人との出会いの衝撃」（複数回答）、「きつい寮母に泣かされたが、頭でっかちを矯正してもらえた」。

・数名が人間関係やコミュニケーションの難しさを指摘していた。「実習終了後、文通を求められて先生に相談したら止められたのがショックだった」。

・初期の卒業生の回答からは、高校生の実習に対して現場がとまどっていた様子がうかがわれた。具体的には、「コミュニケーションが難しかった」「拘束など学校で習ったこととのギャップがあった」などである。

2. 高校福祉科のあり方について卒業後に思ったこと、要望、先輩へのメッセージ

① 高校福祉科の利点

・高校福祉科の利点として5名が語っていたのは、高校生という時期に福祉を学ぶことにより人格形成への良い影響があるとの回答であった。具体的には、「福祉科にいたから人の立場になって考えたりできた」「福祉の学習は高校生の時期に自分を作るために必要」「福祉科は厳しいから自分が成長でき早く大人になれる」「まだ高校生という社会勉強もしていない段階でそういう所（福祉）に行っていたほうが、何か当たり前にできることがある」「高校から介護士を取ると、柔軟に仕事もできると思う」である。

・高校福祉科のシステムや環境に言及している回答もあった。「高校時代は専門の先生がいて勉強時間が確保されていた」「1人では無理でみんながいたからできた」「6時間目と7時間目は違って（福祉科のみが設定している）7時間目の授業は楽しかった」「生徒に愛情を注いでくれた高校の先生方に感謝」「『福祉科へ行って失敗だった』という話を聞いたことはない」。

・介護を学ぶことが後々にプラスになるという意見としては、「介護は身内でも必要になる」「福祉科で学んだノウハウが生きている」があった。

・高校福祉科生徒自身の強みを挙げている意見としては、「高校福祉科生徒には擦れていない純粹

さ」「高校福祉科卒生の武器は若さと物おじしないこと、素直に受けれること」というものがあった。

②高校福祉科の欠点

- ・ 欠点としては、福祉科での教育内容については、「もっとひとつの技術が完璧にできたら次をやってみよう、という指導をしてほしかった」「大事なところでこういう必要な言葉を出せるためにも、いろいろな人と話すことが必要」「高校福祉科卒業生は、コミュニケーションの取り方が分からない」「高3で英語の blanks がある」「介護福祉士としての思いが高校生最後に確認できるように」というものがあった。また、生徒の成長という点では、「福祉に目標をもってめざしてくる（介護福祉士になる）生徒たちが、ヘルパー資格を取りにだけくる生徒たちにつぶされてしまう傾向がある」「経験の不足、狭い人間になってしまわないかという心配はある」という意見が出された。
- ・ 学校全体のあり方としては、周囲から福祉科なのだからもっときちんと（清掃など）すれば、というような見方をされるなど、「福祉科と普通科の生徒の扱いを区別するようなことはおかしい。学校全体で福祉科の生徒も普通科の生徒と一緒に見るという姿勢が大切」「学校自体が変わらないと福祉科も変わらない」があった。

③高校福祉科のカリキュラムなどへの要望

- ・ カリキュラムへの要望として最も多かったのはコミュニケーション技術の習得に関してで、5名が言及していた。具体的には、「中国語や韓国語など、アジア系の語学教育を行う」「コミュニケーション手段としての手話ができることよい」「コミュニケーション能力を高める教育がもっと必要」「みんなの前で話せるように、大きな声で話せるように高校生のうちからやっておいたほうがよい」「コミュニケーションのためには技術以前の豊富な体験が必要」である。
- ・ 同じく4名が触れていたのは、幅を持たせたカリキュラムについてであり、ここにはコース変更についても含まれている。具体的には、「高齢者の他に障害者や児童についても学べるようにしてほしい」「高校福祉科は資格に限定せずいろんな福祉が見られるコースがあるとよい」「高齢者メインにしないで生徒の選択肢を広げるような先生のアドバイスがほしい」「普通科と福祉科との学科変更ができるようにしてほしい」である。
- ・ 実技の習得を含めた実習のあり方には3名が触れていた。「3年間じっくり観察できるような実習にしてもよいのではないか」「実習に来る学生には、学校の一部として実習施設を見てもらいたい」「技術の基本を実践できるような対応策があるとよい」。
- ・ 資格との関連については2名が言及していた。「高校で資格を取らせるのはいいことだが、あまり強く言うこともないのではないか」「国家試験と大学受験の両立ができるようにしてほしい」。
- ・ 医学知識の充実については2名が述べていた。「役に立った科目は看護系。グループホームで働くと看護師がおらず介護職だけなので、看護系の知識がないと急変したときに対応できない」「状態観察ができる程度の医療知識は必要」。その一方で、「医学は用語が多く難しいものが多いのでとくに苦労した」という意見もみられた。
- ・ 授業の内容に関する意見としては、「ケアプラン作成もIT化しているので、ITの知識や技術は必要」「例えば、社会福祉制度と高齢者福祉の制度の内容は重複しないように、精選して余裕をつくる」というものがある。
- ・ 授業方法については、「余裕を持って1年生から勉強を積み重ねられるようにしてほしい」「グル

ープ討議や発表は高校生のうちからやっておいた方がよい」があった。

④ 福祉科教員の資質・能力

- ・福祉科教員のあり方としては、3名が福祉現場を知っている教員を望んでいた。具体的には、「高校福祉科の教員はすぐに学校で教えるよりも福祉現場を知るべき」「現場経験の有無や常勤非常勤の先生がいることはよい」「介護福祉士の先生を高校福祉科に」である。
- ・また、3名が親身な指導のできる教員を望んでいた。具体的には、「国家試験の受け方とか勉強の仕方を教えてくれる先生は良い」「(福祉科教員は)一方的ではなくて、普通の話もできたし、自分のプライベートな話とかも相談できるとよい」「福祉科教員同士の連携が必要」という意見があった。

⑤ 基礎・基本

- ・基礎・基本について言及している意見が8名から出されており、それは以下の3つに分けられた。
- ・一つは技術そのものの基礎・基本であり、「基礎の部分(高校)に、(大学で)大きなもの(基本理念)がくっついた」「高校では基盤を自分のものにする、現場では応用」「基本があってその応用、勤めてから初めてその意味を知る」「基本がきっちり頭に入っている、基本を叩きこまれた」「高校では基本も応用も学んだ、福祉用具を日用品で代用できること」「『学んだことは基本で状況や人によって技術的なことは変わる』という先生の教えは大きかった」という意見である。
- ・二つ目は社会人としてのマナーともいうべき点であり、「H高校卒業生は専門学校生よりも基本ができて」「基本が分かっている人と分かってない人とでは差が出る」という意見がそれにあたる。
- ・そして三つ目は専門職としてのあり方の基本といえるものであり、「実習生に教える立場になって基本の有無が大事と気づいた」「一人でもいい生徒を育ててもらいたい、精神的な部分や今後に向かう姿勢とかを育ててほしい」という意見があった。
- ・その他として、強制ではなく自主的なものという意味で「高校での福祉の勉強は『勉強』ではなく『学び』だった」という意見や、「介護技術よりも一般常識」という意見もあった。

⑥ 高校福祉科と専門学校・大学との比較

- ・6名が他の大学生や専門学校卒の人と比べ、高校福祉科卒業生が優れている点に言及していた。「高校普通科からきた学生は新しい知識で余裕がない状態になっている」「専門学校卒と比べて劣るとは思わない」「数学はできても年金の計算ができない大学生はけっこういる」「自分は理論に基づいた技術を持っていると感じ、専門学校卒の人でも知らないことを知っている」「専門学校生と比べて、国家試験の有無からか、自分のほうが覚えていることが多い」「4年制大学を出ても患者さんの立場や気持ち、人として受け取らなければいけないところを受け取れない人がある」。
- ・一方、自らの弱い点については4名が言及していた。具体的には「英会話では知っている単語数が少ない」(2名)、「大学で数学の話が分からない」「一般教養がまったく出来ず」という意見である。
- ・大学や専門学校に行った後も、高校福祉科で学んだことが役立ったと4名が話していた。「高校では基本、大学では掘り下げているが、内容としては同じことを学んでいる」「高校でレポートの書き方を教わったので大学では苦勞していない」「授業は専門学校よりも高校の方がよかった」「専

門学校に行っても、福祉科で学んだことは引き出しを開ければ知識や経験が出てくる」。

・その他、「分かりやすく文章化することと、いい距離感を保てる会話は、大学に行ってから身に付いた」「就職したての人を上にいる人たちが育てるものだから、18歳と20歳は違うという目で見ただけではない」との意見があった。

⑦後輩へのメッセージ

・後輩へのメッセージとしては、高校のうちに話を聴く基本を習得すべきことについて2名が触れていた。「挨拶とかコミュニケーションの工夫は身につけておくべき」「高校福祉科の実習生にお願いしたいことは、利用者の話すことをきちんと聞いて、分かる努力をしてほしい」である。以下、その他の意見を列挙する。

- ・「(実習生には)失敗しても福祉の目標めざしてがんばってほしいと思った」。
- ・「入ったからには介護福祉士を取れと言いたい」。
- ・「社会に出て働いてみて分かることがたくさんある」。
- ・「自分の親がそうしたように、『福祉科に行きなさい』と言うかもしれない」。
- ・「授業を通して心に残ったのは、最期に良かったと言われるケアをめざすということ」。

3. 就職(進学)後のキャリア発達

①就職時にリアリティ・ショックを感じたか否か、その克服方法

- ・1名が「ギャップはほとんど無し」と言っていたのに対し、4名がリアリティ・ショックに言及していた。具体的には、「覚えることの多さ」「ゆとりの無さ」「高校での技術だけでは対応できず戸惑いは大きい」という現場の多忙さと多様さについてである。
- ・また、「1週目に体験した利用者の死への無力感」を感じた人もいた。

②仕事上でのやりがい

- ・最も多かったのは、「利用者の励まし」や「評価」などで、4名が述べていた。また、「仕事や利用者が好きなこと」という回答もあった。
- ・職場環境の充実を挙げていたのは2名であり、「充実している病棟勉強会」と「(総合的に)環境に恵まれていた」という意見である。

③仕事上での困難・苦労

- ・多様な困難や苦労が述べられたが、2名は18歳の入職当時の「年配者からのいじめ」を挙げていた。「(高校福祉科卒生に対して)いきなり使いものになることを求められるのは困る」という意見もあった。
- ・また、自分がリーダーになったときの苦労は4名が挙げていた。具体的には「年上の部下への遠慮と葛藤」「教えることの大変さ」「自分で判断する主任の立場になったときの不安」「多様な考えの職員を一つにするのが大変」である。
- ・何らかの板ばさみの関係により、ジレンマを感じているという意見を2名が述べていた。具体的には「グループホームの医師との意見の相違」「自分と会社の意向の相違」である。
- ・その他としては「記録とケアプラン」があった。

- ④ 働きながら(学生をしながら)拠り所になった・なっている人物
- ・ 様々な人が拠り所になっているが、なかでも高校時代の友人や教員と答えた人が4名いた。
 - ・ 職場の上司や先輩がモデルであると答えた人も4名いた。
 - ・ 「利用者の家族との関わりにより支えられている」と答えた人もいた。
- ⑤ 待遇について
- ・ 女性が働くことに関する意見は、積極的なものと消極的なものがあった。積極的意見としては「女性の働く場としては最適」という回答があった。消極的意見としては、「女性であるがゆえの不公平感」「出産した女性は辞めている」がある。
 - ・ 待遇面では「多少給料が安くても働きやすさが大切」「人間関係が鍵」という意見が出た。
- ⑥ 自分の転機
- ・ 仕事を行ってからの転機は多様である。そのなかで注目できることは、何らかの役職に就いたときや、一定の経験を積んだときに転機が訪れたという回答である。具体的には、「30歳が節目。これまでの一つ一つの積み重ねが全部見えた」「就職後4,5年目から意見を主張」「フロアリーダーの経験」「4年目に副主任になってから前向きになる」というものである。
 - ・ 研修で自信を深めたという意見を2名が述べていた。具体的には、「ターミナルケアの外部講習に参加し、初めて仕事と真正面から向き合う」「葛藤した時に老健の1ヶ月研修で自信を得る」である。一方、「ケアマネ取得での変化なし」という意見もみられた。
 - ・ その他として、異なる種類の仕事への異動が転機になったという「事務の仕事での視野の広がり」や、「尊敬する主任との出会い」という回答があった。
- ⑦ 現在の仕事観
- ・ 2名が介護の仕事について、「(利用者の)できないところを補佐する仕事」と答えていた。また、施設からグループホームに移ることにより、「一人ひとりの利用者に接する時間が増えたことで、その人らしく生活することをサポートするという考えに変わる」と話していた人がいた。
 - ・ その他の意見としては「看護と介護の連携の大切さ」(2名)、『学び』への志向性の高まり「施設より在宅の仕事が面白い」というものがあった。
- ⑧ 将来のビジョン
- ・ 将来のビジョンとして多かったのは、「理想の施設を作りたい」や「卒業生の仲間在宅介護・看護サービスを実施したい」であり、4名が該当した。
 - ・ また、現在の延長線上に将来のビジョンを考えている回答として、「相談員希望」「結婚・出産後も働きたい」「皆から信頼される人になり後輩を育てたい」という回答がみられた。
 - ・ 割合と漠然としたビジョンとしては、「就職したら好きなことをするために仕事を頑張る」「先の長い児童関係での就職希望」「夢は主婦」「今後、もっと勉強したい」という回答があった。
- ⑨ 4年制大学・看護学校に進学した理由
- ・ 進学にあたっての積極的理由としては、「相談員になりたいため」「障害児や児童分野を見たか

ったため」「もっと福祉を勉強したかったため」「幼い頃から看護師になるのが夢」というものであった。

- ・ 消極的理由としては、「介護現場に出る準備不足のため」「社会に出ることへの不安」と答えた人がいた。

⑩ 入学しての感想(進学者のみ)

- ・ 大学に入学して、「最初のうちは苦労しなかった」「専門科目では苦労しない」「予想よりも大変ではない」と答えた人が3名いた。
- ・ 一方「自分の望んでいる勉強が出来ていない」「相談・援助の実習・講義は物足りない」と答えた人もいた。その他として「他のクラスメートとの違和感はない」と答えた人がいた。
- ・ その他として、「部活(アメフト)で自信を持った」「高卒では社会経験が不足」「(福祉以外の学部に進んだものの)学生時代の特養のアルバイトで、一旦離れていた福祉に戻った」という回答があった。

Ⅲ. 考察

調査結果を、以下の3点から考察する。①高校福祉科のメリット、デメリット、②高校福祉科で学んだことが卒業後にどのような経験となっているのか、③卒業後の転機についてである。

1. 高校福祉科のメリット、デメリット

高校福祉科のメリットは、専門性の獲得と人間関係の形成という2点に集約される。

まず、専門性の獲得についてである。今回の調査結果では、高校で初めて学ぶ専門科目についての肯定的評価が目立っていた。カリキュラム面では、現場の状況が学べる授業の評価が高かった。とりわけ何人かが印象的な講義として挙げていたのは、医学・看護系の科目である。この科目は、学びが良かったという声と難しいという声に分かれたが、総じて現場に出た後に役立ったという声が多かった。この科目の必要性は明白であり、どのように教えるのかという授業方法が今後の課題である。また、現場経験のある人が教員になったほうが良い、という声が複数みられた。

さらに、実習については、現場でのリアリティ・ショックが語られる一方、人と人との関わりから様々な体験が語られ、高校生活全体のなかでも強い印象を持っていることがうかがえる。また、実習が将来の進路を決めるきっかけにもなっていた。

そして、最大のメリットとして何人かが指摘していたことは、高校時代に福祉を学ぶことの人格形成に及ぼす影響の大きさという点であった。当事者である卒業生が語るように、青年期という人格形成期に、人の生死や生き方に深く関わる社会福祉について学ぶことは、大きな意義をもつものであろう。

次に、人間関係の形成についてである。何人もが、クラスの仲間や教員との密接な関係についてふれており、教員と生徒との互いの関係は濃密で、学習面のみならず生活面でも教員に世話になった、という意識が高かった。生活集団としても得るものが大きいといえる。そのような経験は福祉職として働いた後にも、プラスの影響を及ぼすと考えられる。しかしながら、3年間同一クラスであることは、人間関係でつまづいた場合には厳しい側面があることを意味している。また他学科の生徒や教員からは「福祉科なのだから(もっときちんと清掃をすれば)」と福祉科に対する特別な見方をされることも指摘された。

一方、高校福祉科のデメリットとしては、介護福祉士国家試験受験から規定される、カリキュラ

ムと進路変更に関する課題が挙げられた。

前者については、高齢者福祉に偏ったカリキュラムとなっており、児童福祉や障害者福祉など、他の福祉領域について学びを深めるために大学に進学した卒業生がみられた。

後者については、介護福祉士を取得するという方向性が明確なことは、同時に進路選択のやり直しへの対応が困難なことを意味している。そのため、何人かからは自由な選択ができるカリキュラムについての要望が出されていた。

いずれにしても、幅を持たせた教育体系を要望している声であり、今後の高校福祉科のあり方を考えるうえでの重要な示唆を含んでいるといえよう。

2. 高校福祉科で学んだことが卒業後にどのような経験となっているのか

卒業後の進路については、主として福祉現場への就職と、大学・専門学校への進学に分けることができる。今回の調査対象者のなかには、飲食店に就職した人も1名いたが、少人数であることから今回はあえて触れないこととする。

まず、福祉現場に就職した卒業生にとっての、高校福祉科でのプラスに作用した経験についてである。卒業生からみた職場の同僚については、共に働く立場という点でいえば、特に高卒か専門学校卒かでの差異はないと答えていた。しかし、高校福祉科卒業生である自分たちは、理論に基づいた技術を持っており、専門学校卒業生からみても決して引けをとらないという意識がある。これは全体に共通しており、福祉科卒業生が良い意味でのプライドを持っていることの表れといえよう。また、職場の同僚や先輩と同じくらい、高校時代の友人や教員が心の支えになっており、仕事上で行き詰った際にも相談にのってもらっている様子が見えかけた。高校時代の3年間で培われた結束の強さは、卒業後も続いていることがわかる。

一方、高校で学んだことがうまく生かされていないこととして、職場でのコミュニケーションが挙げられる。コミュニケーション技術は、高校時代に社会福祉援助技術の時間に学ぶ内容ではあるが、必ずしも援助技術の授業内容と、現場で必要とされる対利用者、対スタッフとのコミュニケーション技術とが結びついていない傾向があるようである。これについては、今後の課題といえよう。

次に、大学・専門学校に進学した者の経験についてである。大学や専門学校に進学した人たちは、入学当初の専門科目ではほとんど苦勞していなかった。その反面、一般教養や英語などの語学で苦勞している姿が見えかけた。専門科目に重点を置いている高校福祉科での学習内容が、直に反映しているものと思われる。

また、興味深いことに、大学時代に高齢者福祉以外の福祉の学習や（社会学など）他分野の学習をしたものの、勉強した後に再び高齢者福祉分野に就職した人がいた。この結果から、高校時代に形成された介護職のアイデンティティは、後々の職業選択にも反映する場合があるのではないかと、という仮説が立てられる。

3. 卒業後の転機について

卒業生は就職後に、何度か介護職として成長するうえでの「転機」を迎えていた。

就職当初に各人が直面するのが、「現場の多忙さと多様さ」という面でのリアリティ・ショックである。高校時代には介護の基礎や職業人としての心構えは習ってきており、実習で現場に触れる機会はあるものの、就職した後に職場と業務内容に適応するまでの過程においては、周囲のサポートが必要である。

その後の転機は、自分が何らかの役職についたときや、4, 5年の経験を積んだとき、資格を取得したときに訪れている。ただし、ケアマネージャーなどの資格を取得したからといって、必ずしも職階が上がっているわけではなく、資格取得とキャリアアップがうまく連動していない面があることは、今後の課題といえよう。

また、「専門職としてのあり方の基本」の大切さを語っていた者がいたが、その意味を実感するのは、自らが実習生を指導するなど他者に教える立場になったときであった。この点と関連して、職場で主任などリーダーになった場合に、多様な意見をもつ部下をまとめていく点で苦勞している人が多かった。このような、ポジションの変化に伴うノウハウの習得や、困ったときに相談ができるサポート体制の整備が求められよう。

介護職のやりがいとしては、利用者から感謝されたり、評価されたことを挙げている人が何人かいた。また、困難なことがあっても、職場の先輩などでロールモデルともいえる人物と出会っている場合に、困難を克服して仕事を継続していた。このことから、ロールモデルに出会える機会を多く設定することの必要性が示唆された。

さらに、今回の調査では深く掘り下げることができなかったが、女性が多い介護職場をみていくときには、男女間の待遇の差異などジェンダー・バイアスを意識する必要があることも、今回の結果から示唆された。

4. おわりに

調査を通じて、高校福祉科卒業生が、介護専門職の“若きパイオニア”としてりっぱに成長している事実、意欲的に誇りをもって仕事をしているという事実が随所で確認できた。今回の調査対象者たちは、いわば国家資格制度そのもののパイオニアであり、彼らの多くが立派にその社会的役割を果たしていることが仮説的に推測できる。卒業後の職業人としての成長を高校時代の教育と結びつけて説明することと合わせて、卒業生たちのキャリア発達の事実をきちんと追跡し、分析することが必要であると実感された。

以上、調査結果に基づいた考察を行ってきた。今回は18名という少数例でのプレ調査にすぎないが、今後はこれらの結果に基づいて、より信頼性と妥当性が高められるような本調査の枠組を検討し、今年度中には高校福祉科卒業生を対象とした本調査に取り組む予定である。また、雇用者側へのインタビュー記録の整理も行う。

《 閉会行事 》

平成18年8月11日(金) 12:35~12:50

ホテル青森(3階)孔雀の間

司会進行 高知県立室戸高等学校 校長 大宮 健吉

記 録 福島県立光南高等学校 教諭 大久保義行

北海道置戸高等学校 教諭 小嶋 純子

1 開会のことば

青森県立七戸高等学校 校長 木村 厚

3日間にわたる青森大会がいよいよ終わりが近づいてまいりました。ただ今より、閉会行事を開催いたします。

2 主催者・主管校あいさつ

全国福祉高等学校長会 理事長 高橋 福太郎

みなさんこんにちは。各地区代表の理事の校長先生方そして、学科主任の先生方におかれましては、また、文部科学省の矢幅先生、最初から最後までこのようにご指導関係いただきました3日間でございます。他の校長先生、他と言う言葉は良くないかもしれませんが、他の校長先生と一般の先生方は、2日間でございます。

この間に、時代が求める変革とこれからの高校福祉のあり方を研究テーマとして、昨日は、何よりも厚労省中村局長の基調講演、そしてまた記念講演、そして生徒体験発表。よけいなことを一言喋らせてもらいますが、当初あれは賞状だけの伝達を予定しておりましたが、それではかわいそうだということでもっと高い額をつけようということであったのですが、昨日思いがけなく最優秀賞という結果が東奥学園高等学校の生徒が頂戴したので、これは申し訳がないと思って非常に高いのですが副賞を4名につけました。うちの事務長が、身を引っ繰り返していました。この副賞は、私の今月の給料分から払うことにいたしております。ですから、どこへも迷惑をかけないのですが、とにかく生徒のみなさんには頑張ったということですね。副賞をつけていますが、もう届いたでしょうか。朝、届けるように言っておいたのですが、もし、届いていないのであれば本校の小川事務局長に言えば、彼が持っているはずです。ということで、話を余分に言いましたが生徒体験発表そしてブロック会議、介護技術研修等、昨日はハードでございました。本日は、校長先生方におかれては校長会総会等、研修協議会、大変難しいことを深く広く研究等にいたしました。一般の先生方におかれては、教員研究協議会そして先ほどの最後には、矢幅先生による指導講評を、そしてまた日本社会事業大学の助教授でおられる田村先生による、高校福祉科卒業生のライフコースに関する調査に基づいた意義あるお話をたまわると言ったように、多方面に渡った研修会であったと、そしてまた内容も手前みそですが、充実していたのではないかとこう思っております。これもひとえに先生方の日頃からの熱意というものが、ばんばん伝わってきた結果ではなかろうかと思っております。

開会式でも先生方に申し上げました、今般の研修会の中から時代にマッチした新しい知見を共有しあいながら、今後各学校での教育活動が一層発展充実に繋がることをご期待申

し上げ、主催者かつ主管校として、ごあいさつにかえさせていただきます。大変ありがとうございました。

3 次回主管校あいさつ

石川県立田鶴浜高等学校 校長 八十田 至

来年度、主管校を務めさせていただきます、石川県立田鶴浜高等学校長 八十田でございます。記念すべきこの今年の青森大会、社会福祉教育の発展にいくつかの新しい試みがなされまた、高橋理事長先生のお人柄同様、非常に盛大にしかも充実した内容でもって、この2日間大会がまさに終了しようとしていることにつきまして、非常に感謝を申し上げまたこの盛大な大会を主管されました、東奥学園高校の高橋校長先生をはじめご準備お世話をいただきました、北海道地区、東北地区のブロックの先生方に対しても厚く御礼申し上げます。

さて、来年度は当校が主管校ということでございますが、石川県能登半島を中心に和倉温泉という温泉がございますが、その温泉旅館でございます「のと楽」を会場として開催をさせていただきます。内容につきましては、先生方お手元の大会紙の最後のページに記載させていただきましたので、後ほどご覧おきください。

来年度、石川大会は、これらの高校福祉のあり方について、そして、先般より話題になっております。介護福祉士に関するこれからの対応について、あるいは、取り組みについて、さらには、日頃の教育活動への疑問点や問題の洗いだしなどの情報交換の場として大いに語っていただける、そのような大会を目指して準備をさせていただきたいというふうに考えております。

会場となります和倉温泉は、その建物あるいは料理、そしてサービス、様々な点におきまして十分にご満足いただけるのではないかなと思っております。ぜひとも、多数の先生方もご参加をお待ちしております。また、大会の前後におきましては、先生方ご承知の兼六園で有名な加賀百万石の城下町金沢。最近釣りバカ日誌の最新ロケが、この七尾温泉を中心として開催されたわけですが、そこでも紹介されております、輪島塗りで有名な輪島市、あるいは、その近くにサンセットビーチなどの景観地でございますが、そういうところに足を運んでいただきまして、石川の自然や歴史、そして伝統文化にも触れていただければ、幸いです。

これからの一年間、皆様の高校福祉発展への熱い思いがより一層深まり、福祉教育の充実発展に繋がる大会を目指して、最善を尽くす所存でございます。来年は石川で皆様をお待ちしております。どうぞ多数の方再度ご出席をくださるようお願いを申し上げまして、簡単な私のPRとさせていただきます。どうもありがとうございました。

4 閉会のことば

岐阜県立坂下高等学校 校長 松 久 聡

皆様のおかげを持ちまして、素晴らしい青森大会となりました。来年度は、石川大会でお会いいたしましょう。それではこれで以上を持ちまして、青森大会の閉会行事を終了いたします。

全国福祉高等学校長会

報 告 資 料

平成17年度事業報告

全国高等学校長協会家庭部会
福祉科高等学校長会

期 日	活 動 内 容	備 考
5月27日(金) 10:00~12:00	第1回理事会 ・平成16年度事業計画・決算報告 ・平成17年度事業計画案・予算案 ・平成17・18年度全国産業教育フェアについて ・徳島大会・三重大会について ・独立について ・役員選出について 第1回学科主任等代表者会議 ・平成17年度学科主任等代表者組織について ・代表者組織の活動について ・研究協議会分科会について 理事・学科主任等代表者合同会議 ・理事会及び学科主任等代表者会報告	千代田区富士見区民館
7月25日(月) ~29日(土)	「産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした講習」 ・介護技術に関する講義と演習	京都女子大学
7月25日(月) ~28日(金)	「産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした講習」 ・社会福祉援助技術に関する講義と演習	ルーテル学院大学
8月9日(火)	三重大会 第1日 (第2回理事会・学科主任等代表者会議・基調講演・研究協議会等)	主管校: 三重県立明野高等学校
8月10日(水)	三重大会 第2日 (地区別会議・全体報告会等)	
11月26日(土) ~27日(日)	第15回全国産業教育フェア東京大会 (埼玉県立不動岡誠和高校・千葉県立松戸矢切高校・栃木県立田沼高校他)	日本科学未来館
12月24日(土)	第3回理事会 「福祉科校長会を家庭部会から独立すること」及び「高等学校福祉科における介護福祉士受験資格の継続について」厚労省への働きかけ	千代田区富士見区民館
1月7日(土) ~8日(日)	第7回 福祉教育研修講座 (旧ソーシャルワーク実践教育研修講座)	日本女子大学
2月20日(月)	三重大会報告書の刊行	800部 各校2部配布

平成 17 年 度
全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会 決算書

収入額 1,956,916 円
支出額 1,502,615 円
残 額 454,301 円

1 収入の部 (単位:円)

科 目	予算額	決算額	比較増減額	摘 要
会 費	1,050,000	1,130,000	80,000	年会費5,000円×226校
繰 越 金	476,910	476,910	0	
雑 収 入	223,090	350,006	126,916	広告料10,000円×33件・20,000円×1件+利息6円
合 計	1,750,000	1,956,916	206,916	

(▲は減少)

2 支出の部 (単位:円)

科 目	予算額	決算額	残 額	摘 要	
総務費	会 議 費	20,000	25,270	▲ 5,270	第1回理事会・第3回理事会
	印 刷 費	10,000	14,440	▲ 4,440	
	旅 費	320,000	210,520	109,480	事務局1人分総会旅費及び会長各旅費
	通 信 費	400,000	397,035	2,965	郵送料・電話代等
	小 計	750,000	647,265	102,735	
事業費	報告書印刷費	470,000	462,000	8,000	A4版 800部
	総会補助費	100,000	100,630	▲ 630	630円は振込手数料
	広報部補助費	30,000	0	30,000	
	調査統計部補助費	30,000	36,080	▲ 6,080	
	研修部補助費	180,000	147,630	32,370	社会福祉実習指導参考ノート147,000+振込手数料630円
	全国産業教育フェア補助費	100,000	0	100,000	
	福祉教育功労者表彰	10,000	31,200	▲ 21,200	賞状・記念品代等
	雑 費	50,000	62,810	▲ 12,810	封筒印刷・事務用品代等
小 計	970,000	840,350	129,650		
予 備 費	30,000	15,000	15,000	来年度印鑑代	
合 計	1,750,000	1,502,615	247,385		

(▲は超過)

本会計は、決算報告書のとおり正確かつ適正に処理されたことを認めましたので、ここに報告いたします。

平成 18 年 4 月 3 日

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会 監事

青森県立七戸高等学校長 高橋昭子

岩手県立久慈東高等学校長 高橋徹秀



平成18年度事業計画（案）

全国福祉高等学校長会

期 日	活 動 内 容	備 考
5月19日（金） 10:00～16:00	第1回理事会 ・平成17年度事業計画・決算報告 ・平成18年度事業計画案・予算案 ・平成18・19年度全国産業教育フェアについて ・三重大会・青森大会について ・独立について 第1回学科主任等代表者会議 ・平成18年度学科主任等代表者組織について ・代表者組織の活動について ・研究協議会分科会について ----- 理事・学科主任等代表者合同会議 ・理事会及び学科主任等代表者会報告	東京都千代田区 富士見区民館
7月25日（火） ～29日（土）	「産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした講習」 ・介護技術に関する講義と演習	大妻女子大学
7月24日（月） ～28日（金）	「産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした講習」 ・社会福祉援助技術に関する講義と演習	同志社大学
8月 9日（水）	青森大会 役員会 (第2回理事会・学科主任等代表者会議)	主管校:東奥学園高等学校 (青森県)
8月10日（木）	青森大会 第1日 (基調講演・生徒体験発表・地区別会議・介護技術研修等)	
8月11日（金）	青森大会 第2日 (校長会総会・研究協議会等)	
11月10日（金） ～12日（日）	第16回全国産業教育フェアさいたま大会	さいたまスーパーアリーナ
1月上旬	第8回 福祉教育研修講座 (旧ソーシャルワーク実践教育研修講座)	未定
2月下旬	青森大会報告書の刊行	800部 各校2部配布

平成 1 8 年 度
全 国 福 祉 高 等 学 校 長 会 会 計 予 算 (案)

収入総額 2, 2 8 0, 0 0 0 円
支出総額 2, 2 8 0, 0 0 0 円

1. 収入の部 (単位 : 円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	比較増減額	備 考
会 費	1, 568, 000	1, 050, 000	518, 000	7, 000円×224校(5/19現在)
繰 越 金	454, 301	476, 910	▲ 22, 609	
雑 収 入	257, 699	223, 090	34, 609	広告料10, 000円×25件等
合 計	2, 280, 000	1, 750, 000	530, 000	

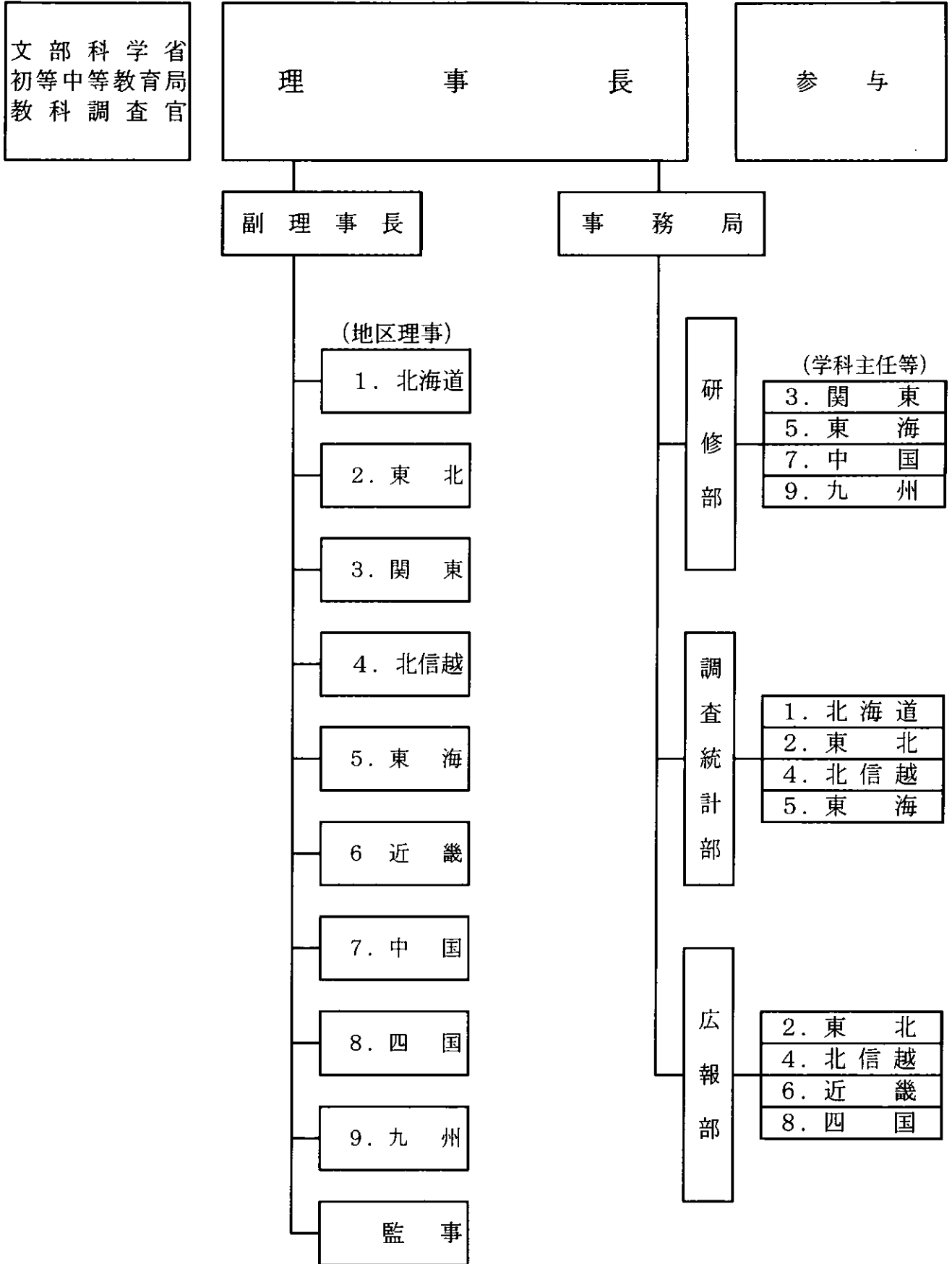
(▲は減額)

2. 支出の部 (単位 : 円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	比較増減額	摘 要	
総 務 費	会 議 費	30, 000	20, 000	10, 000	理事会会場費等
	印 刷 費	20, 000	10, 000	10, 000	用紙・インク代
	旅 費	400, 000	320, 000	80, 000	
	通 信 費	450, 000	400, 000	50, 000	電話代・郵送費等
	小 計	900, 000	750, 000	150, 000	
事 業 費	報 告 書 印 刷 費	470, 000	470, 000	0	A 4 版 800部
	総 会 補 助 費	200, 000	100, 000	100, 000	全国大会主管校へ補助
	全国大会来賓旅費	350, 000	0	350, 000	文科省・厚労省旅費等
	広 報 部 補 助 費	40, 000	30, 000	10, 000	
	調 査 統 計 部 補 助 費	40, 000	30, 000	10, 000	
	研 修 部 補 助 費	40, 000	180, 000	▲ 140, 000	
	全 国 産 業 教 育 フ ェ ア 補 助 費	100, 000	100, 000	0	全国産業教育フェア担当校へ補助
	福 祉 教 育 功 労 者 表 彰	10, 000	10, 000	0	賞状及び記念品代等
	雑 費	100, 000	50, 000	50, 000	封筒印刷・事務用品代
	小 計	1, 350, 000	970, 000	380, 000	
予 備 費	30, 000	30, 000	0		
合 計	2, 280, 000	1, 750, 000	530, 000		

(▲は減額)

平成18年度 組織図



平成18年度 加盟校数

地区別・都道府県別数

地区	都道府県	小計	合計
1. 北海道	北海道	9	9
2. 東北	青森	5	29
	岩手	7	
	宮城	2	
	秋田	4	
	山形	3	
	福島	8	
3. 関東	茨城	3	34
	栃木	3	
	群馬	9	
	埼玉	4	
	千葉	4	
	東京	4	
	神奈川	7	
4. 北信越	新潟	3	23
	富山	7	
	石川	4	
	福井	3	
	山梨	4	
5. 東海	長野	2	23
	岐阜	3	
	静岡	8	
	愛知	6	
	三重	6	

地区	都道府県	小計	合計
6. 近畿	滋賀	3	21
	京都	3	
	大阪	4	
	兵庫	6	
	奈良	2	
	和歌山	3	
7. 中国	鳥取	1	19
	島根	5	
	岡山	7	
	広島	2	
8. 四国	山口	4	14
	徳島	3	
	香川	3	
	愛媛	5	
9. 九州	高知	3	61
	福岡	13	
	佐賀	7	
	長崎	2	
	熊本	8	
	大分	10	
	宮崎	6	
	鹿児島	12	
沖縄	3		
合 計			233

過去13年の推移

	1. 北海道	2. 東北	3. 関東	4. 北信越	5. 東海	6. 近畿	7. 中国	8. 四国	9. 九州	全国
平成6年度	4	13	12	4	5	6	7	2	13	66
平成7年度	4	12	13	6	5	7	9	2	16	74
平成8年度	4	17	14	10	6	9	11	5	22	98
平成9年度	5	18	15	13	7	10	13	5	25	111
平成10年度	5	20	15	7	12	11	18	9	30	127
平成11年度	5	21	21	10	14	10	17	9	35	142
平成12年度	5	24	21	13	16	11	18	10	44	162
平成13年度	5	25	22	5	16	17	19	10	50	169
平成14年度	5	26	29	15	20	17	18	10	50	190
平成15年度	5	26	33	15	23	18	17	12	56	205
平成16年度	6	25	32	17	21	18	19	14	58	210
平成17年度	7	27	33	20	24	19	20	14	61	225
平成18年度	9	29	34	23	23	21	19	14	61	233

平成18年度 全国福祉高等学校長会 役員

地区	No.	氏名	公私	学校名	TEL
				住所	FAX
全国福祉高等学校長会 参 与		木村 行幸	公	千葉県立佐倉東高等学校	043-484-1024
				千葉県佐倉市城内町278	043-486-0995
文部科学省初等中等 教育局教科調査官		矢幅 清司	一	東京都千代田区丸の内2-5-1	03-3519-8718
				7F	03-3519-8729

地区	No.	氏名	公私	学校名	TEL
				住所	FAX
理 事 長		高橋 福太郎	私	東奥学園高等学校	017-775-2121
				青森県青森市勝田2-11-1	017-775-2137
1. 北海道	1	山田 英二	公	釧路市立釧路星園高等学校	0154-46-1538
				北海道釧路市武佐4-28-10	0154-46-1941
2. 東 北	2	高橋 充	公	北秋田市立合川高等学校	0186-78-3177
				秋田県北秋田市下杉字中島54-2	0186-78-3178
	3	市川 淳一	公	福島県立光南高等学校	0248-42-2205
				福島県西白河郡矢吹町田町532	0248-44-3373
3. 関 東	4	安田 健 (副理事長)	公	東京都立野津田高等学校	042-734-2311
				東京都町田市野津田2001	042-734-9388
4. 北信越	5	鈴木 桂一	公	山梨県立富士北稜高等学校	0555-22-4161
				山梨県富士吉田市新西原1-23-1	0555-30-0173
	6	八十田 至	公	石川県立田鶴浜高等学校	0767-68-3116
				石川県七尾市上野ヶ丘町59	0767-68-2351
5. 東 海	7	松久 聡	公	岐阜県立坂下高等学校	0573-75-2163
				岐阜県中津川市坂下624-1	0573-75-4011
	8	江坂 栄子	公	愛知県立高浜高等学校	0566-52-2100
				愛知県高浜市本郷町一丁目6-1	0566-52-7059
6. 近 畿	9	奥田弥進夫	私	福知山淑徳高等学校	0773-22-3763
				京都府福知山市正明寺36-10	0773-23-5519
7. 中 国	10	中根 公郎	公	岡山県立倉敷中央高等学校	086-465-2559
				岡山県倉敷市西富井1384	086-466-2832
8. 四 国	11	大宮 健吉	公	高知県立室戸高等学校	0887-22-1155
				高知県室戸市室津221	0887-22-3891
9. 九 州	12	野口 盛	公	佐賀県立鹿島実業高等学校	0954-63-3126
				佐賀県鹿島市高津原539	0954-63-9007
	13	永田 良二	公	長崎県立大村城南高等学校	0957-54-3121
				長崎県大村市久原1-416	0957-27-3056
監 事		木村 厚	公	青森県立七戸高等学校	0176-62-4111
				青森県上北郡七戸町館野47-31	0176-62-4112
		本谷 隆司	公	青森県立青森中央高等学校	017-739-5135
				青森県青森市東大野一丁目22-1	017-729-3488

事務局	小川 義光 (事務局長)	私	東奥学園高等学校	017-775-2121
	工藤 貴子		青森県青森市勝田2-11-1	017-775-2137

平成18年度
学科主任等代表者 組織分担表

	地区	氏名	公私	学 校 名	TEL
				住 所	FAX
授業・指導書研究 1 研修部	3. 関東	校長部会 安田 健	公	東京都立野津田高等学校	042-734-2311
				東京都町田市野津田2001	042-734-9388
	3. 関東	◎小山 哲広	公	東京都立野津田高等学校	042-734-2311
				東京都町田市野津田2001	042-734-9388
	5. 東海	○岩田 知子	公	岐阜県立坂下高等学校	0573-75-2163
				岐阜県中津川市坂下624-1	0573-75-4011
	9. 九州	井上 千秋	公	佐賀県立鹿島実業高等学校	0954-63-3126
				佐賀県鹿島市高津原539	0954-63-9007
	7. 中国	浅野 純子	公	岡山県立倉敷中央高等学校	086-465-2559
				岡山県倉敷市西富井1384	086-466-2832
	9. 九州	下田かおる	公	長崎県立大村城南高等学校	0957-54-3121
				長崎県大村市久原1-416	0957-27-3056
全国基礎調査 2 調査統計部	2. 東北	校長部会 市川 淳一	公	福島県立光南高等学校	0248-42-2205
				福島県西白河郡矢吹町田町532	0248-44-3373
	2. 東北	◎大久保義行	公	福島県立光南高等学校	0248-42-2205
				福島県西白河郡矢吹町田町532	0248-44-3373
	1. 北海道	○前田 信治	公	北海道立置戸高等学校	0157-52-3263
				北海道常呂郡置戸町字置戸256-8	0157-52-3290
	5. 東海	神谷 千尋	公	愛知県立高浜高等学校	0566-52-2100
				愛知県高浜市本郷町一丁目6-1	0566-52-7059
	4. 北信越	水元 敏博	私	啓新高等学校	0776-23-3489
				福井県福井市文京4-15-1	0776-21-2922
各校の近況・福祉情報 3 広報部	6. 近畿	校長部会 奥田弥進夫	私	福知山淑徳高等学校	0773-22-3763
				京都府福知山市正明寺36-10	0773-23-5519
	6. 近畿	◎松井 儀幸	私	福知山淑徳高等学校	0773-22-3763
				京都府福知山市正明寺36-10	0773-23-5519
	4. 北信越	○外川 真美	公	山梨県立富士北稜高等学校	0555-22-4161
				山梨県富士吉田市新西原1-23-1	0555-30-0173
	2. 東北	工藤知佳子	公	北秋田市立合川高等学校	0186-78-3177
				秋田県北秋田市下杉字中島54-2	0186-78-3178
	8. 四国	別役 千世	公	高知県立室戸高等学校	0887-22-1155
				高知県室戸市室津221	0887-22-3891

事務局：小川 義光 ・ 工藤 貴子 (東奥学園高等学校)

平成10年5月28日・全国福祉科学科主任代表者会議での確認事項

- (1) 学科主任代表者会議の中で分担する。
- (2) 担当者が異動となっても、担当校として遂行する。
- (3) 平成9年福井大会で、学科主任代表者会活動費が措置されたが、会議における出張等の費用は、各該当校で配慮をする。

総会 ・ 研究協議会並びに福祉担当教員等研究協議会
会場地区一覧

ブロック		北海道 東北	関東 北信越	東海 近畿	中国 四国	九州
回	年度					
1	平成 7 年度			静岡・ 三島高校		
2	平成 8 年度	北海道・ 釧路星園高校				
3	平成 9 年度		福井・ 大野東高校			
4	平成 10 年度					宮崎・ 門川農業高校
5	平成 11 年度				岡山・ ベル学園高校	
6	平成 12 年度			兵庫・ 新宮高校		
7	平成 13 年度	岩手・ 一関第二高校				
8	平成 14 年度		茨城・ 古河第二高校			
9	平成 15 年度					大分・ 野津高校
10	平成 16 年度				徳島・ 小松島西高校	
11	平成 17 年度			三重・ 明野高校		
12	平成 18 年度	青森・ 東奥学園高校				
13	平成 19 年度		石川・ 田鶴浜高校			
14	平成 20 年度					佐賀・ 神崎清明高校
15	平成 21 年度				○	
16	平成 22 年度			○		
17	平成 23 年度		○			
18	平成 24 年度	○				
19	平成 25 年度					○

総会・研究協議会並びに福祉担当教員等研究協議会 分科会分担一覧

地区		1	2	3	4	5	6	7	8	9
回	年度	北海道	東北	関東	北信越	東海	近畿	中国	四国	九州
1	平成7年度			千葉・松戸矢切高	石川・田鶴浜高	静岡・三島高		岡山・岡山女子高		
2	平成8年度	北海道・釧路星園高	青森・東奥学園高 岩手・一戸高							
3	平成9年度			千葉・松戸矢切高 神奈川・高浜高	石川・金沢伏見高			岡山・美作高 山口・久賀高		福岡・杉森女子高
4	平成10年度			茨城・八千代高 栃木・真岡北陵高		静岡・静岡女子高				沖縄・陽明高
5	平成11年度		山形・山辺高	千葉・御宿高		愛知・高浜高	京都・福知山 淑徳高			
6	平成12年度		①青森・七戸高 ②福島・光南高	②茨城・古河第二高 ③埼玉・不動岡誠和高		④三重・上野商高	①兵庫・日高高		③愛媛・北条高	④鹿児島・加治木女子高
7	平成13年度	①北海道・釧路高	②岩手・西和賀高		③新潟・八海高	④愛知・古知野高				
8	平成14年度			①神奈川・市立川崎高			②和歌山・有田中央高	③岡山・倉敷中央高、 美作高 広島・吉田高		④宮崎・高原高
9	平成15年度	④北海道・函館大妻高	③秋田・合川高		②新潟・西川竹園高					①熊本・阿蘇清峰高
10	平成16年度			②群馬・新田暁高		③岐阜・大垣桜高	④滋賀・長浜高		①香川・尽誠学園高	
11	平成17年度		①宮城・村田高			①静岡・吉田高		②広島・黒瀬高		③大分・野津高
12	平成18年度	①北海道・釧路高			④福井・啓新高		③奈良・櫻生昇陽高		②高知・室戸高	
13	平成19年度		④山形・天童高		①長野・上田千曲高	②三重・飯南高		③山口・中村女子高		
14	平成20年度	③		④			②			①
15	平成21年度				②		③	①	④	
16	平成22年度	②		③			①			④

*分科会のテーマは次の4つとする。

①授業研究（主管地区校が担当する） ②現場実習 ③資格取得 ④進路指導

*分科会のテーマは持続性を有するものとする。

平成18年度 社会福祉関連の研修紹介

No.	研修名	会場	期日	主催者	問い合わせ先
1	高等学校福祉教育 実践研究会	各ブロックによる		福祉科校長会 ブロック担当	〒030-0821青森県青森市勝田2-11-1 東奥学園高等学校内 tel:017-775-2121 fax:017-775-2137
2	新産業技術等指導 者養成研修 H-1:介護技術に関 する講義と実習 H-2:社会福祉援助 技術に関する講義 と実習	[H-1] 大妻女子大学	H18. 7. 25 ～ 7. 29	教員研修セン ター	〒160-0012東京都新宿区南元町23 tel:03-5379-6730 fax:03-5379-6727 http://www.nctd.go.jp/
		[H-2] 同志社大学	H18. 7. 24 ～ 7. 28	福祉科校長会	〒030-0821青森県青森市勝田2-11-1 東奥学園高等学校内 tel:017-775-2121 fax:017-775-2137
3	第36回全国社会 福祉教育セミナー	同志社大学	H17. 11. 4 ～ 11. 5	日本社会福祉 教育学校連盟	〒160-0008 東京都新宿区三栄町8 森山ビル西館501 tel:03-5366-5964 fax:03-5366-5965 http://www.jassw.jp/ e-mail:info@jassw.jp
4	第8回福祉教育研 修講座	日本女子大学	H19. 1. 6 ～ 1. 7		
5	日本社会福祉学会 第54回大会	立教大学(新座 キャンパス)	H17. 10. 7 ～ 10. 8	日本社会福祉 学会事務局	〒160-0008 東京都新宿区三栄町8 森山ビル西館501 tel:03-3356-7824 fax:03-3358-2204 http://wwwsoc.nii.ac.jp/jssw/ e-mail:jsssw@jt2.so-net.ne.jp
6	日本地域福祉学会 第21回大会	山口県立大学	H18. 6	日本地域福祉 学会事務局	〒160-0008 東京都新宿区三栄町8 森山ビル西館501 tel:03-5363-1518 fax:03-5356-1519 http://wwwsoc.nii.ac.jp/jracd/ e-mail:chiiki-g@jt2.so-net.ne.jp
7	日本福祉教育・ボラ ンティア学習学会 第12回大会	東京国際大学	H18. 11. 25 ～ 11. 26	日本福祉教育 ・ボランティア 学習学会事 務局	〒160-003 東京都新宿区本塩町21 広瀬ビル7F 日本地域福祉研究所内 tel:03-3355-2473 fax:03-3355-2330 http://wwwsoc.nii.ac.jp/jaassl/ e-mail:jaasesl@mbp.nifty.com
8	日本介護学会 第4回大会	鳥取県立県民 文化会館	H18. 12. 2	日本介護学会 事務局	〒105-0001東京都港区虎ノ門1-22-13 西勘虎ノ門ビル3F 社団法人日本介護福祉士会内 tel:03-3507-0784 fax:03-3507-8810 http://www.jaccw.or.jp/ e-mail:webmaster@jaccw.or.jp

全国福祉高等学校長会規約

第1章 総則

第1条 本部会は、全国高等学校長協会規約第5条に規定する部会であり、全国福祉高等学校長会とする。事務所は理事長の指定する場所に置く。

第2条 本部会は関係機関との緊密な連携の下に、福祉教育の振興を図ることを目的とし、次の事業を行う。

- (1) 福祉教育の振興に関する調査研究
- (2) 福祉教育振興に関する建議及び陳情
- (3) 研究会、協議会、講演会、講習会等の開催
- (4) 会報その他必要な図書の刊行
- (5) 会員の互助と親睦
- (6) その他、本部会の目的を達成するために必要な事業

第2章 会員

第3条 本部会の会員は次の3種とする。

- (1) 福祉に関する学科を置く高等学校の校長
- (2) 福祉に関するコースを置く高等学校の校長
- (3) 総合学科などにおいて福祉に関する科目を置く高等学校の校長

第4条 本部会に次の役員を置く。

理事長 1名 副理事長 2名 理事 地区ごとに2名以内
監事 2名 参与 若干名

第5条 役員を選出は次の各号の定めるところによる。

- 1 理事長は、理事会において選出する。
- 2 副理事長のうち1名は理事会で互選し、他1名は理事長が選任する。
- 3 理事は各地区ごとに会員の中から選任する。
- 4 監事は、理事長が委嘱する。
- 5 参与は理事長の推薦により、理事会が承認する。
- 6 事務局長及び会計等の職員は、理事長が委嘱する。

第6条 役員の仕事は次の各号の定めるところによる。

- 1 理事長は本部会を代表し、会務を総理する。
- 2 副理事長は理事長を補佐し、理事長事故あるときはその職務を代行する。
- 3 理事は各地区の会員を代表し、各地区の会務を執行する。
- 4 監事は本協会の事業及び会計を監査する。
- 5 参与は本部会の提言、助言を行う。
- 6 事務局長及び会計等の職員は、会務を執行する。

第7条 役員の仕事は2年とし、再任を妨げない。補欠の役員の仕事は前任者の残存期間とする。

第8条 本部会に理事会の推薦によって、顧問を置くことができる。

第9条 本部会は必要に応じ、委員を委嘱する事ができる。委員は本会の目的を達成するために必要事項について調査を行う。

第3章 会議

第10条 本部会は毎年1回総会及び理事会を開く。理事長が必要と認めたときは、臨時に総会または理事会を開くことができる。

第11条 総会の議長はその都度会員の中から選出する。

第12条 理事会の議長は理事長がこれにあたる。

第13条 総会では次の事項を協議する。

- 1 予算、決算及び会務の報告
- 2 本部会の事業に関する事項
- 3 その他重要な事項

第14条 理事会では次の事項を審議する。

- 1 予算の議決
- 2 決算の承認
- 3 事業計画の承認、その他重要な事項

第15条 会議の議決は出席者の過半数による。

第4章 会計

第16条 本部会の会費は年額7,000円とし、毎年6月までに事務局に納入する。

第17条 会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第5章 地区支部

第18条 本部会に地区支部を置く。地区支部は下記の地区に分ける。

- | | | | | |
|-------|------|------|-------|------|
| 1 北海道 | 2 東北 | 3 関東 | 4 北信越 | 5 東海 |
| 6 近畿 | 7 中国 | 8 四国 | 9 九州 | |

第6章 付則

第19条 表彰に関しては別に規程を定める。

第20条 この規約は、平成18年4月1日から施行する。

【 表彰規定 】

被表彰者

- (1) 全国福祉高等学校長会に所属した者
- (2) 福祉高等学校長会理事長
- (3) 福祉教育の発展に功績顕著であった者

審議方法

理事より表彰の推薦があった者を理事会で審議する

全国福祉高等学校長会主催
生徒体験発表実施規程

(目的)

第1条 本規程は、全国福祉高等学校長会が主催する生徒体験発表の実施に係る必要事項を定めることを目的とする。

(意義)

第2条 生徒体験発表は、本会に加盟する各高等学校で福祉を学ぶ生徒が、福祉に関する学習を通して自らが体験したことにより、感じたこと、考えたこと、それまでと変化したこと等を発表することにより、発表者は勿論のこと、他の福祉を学ぶ生徒そして指導者の更なる向上心と学習の場とすることにある。

(実施区分・種類・時期)

第3条 実施にあたり、全国9ブロックでの予備審査を実施し、その予備審査を受けて中央審査、更に全国福祉高等学校長会総会並びに学科主任等研究協議会において本審査を実施する。

2 予備審査を実施する9ブロックは次の通りとする。なお5月初旬までに、本会事務局に選考作品を提示できるよう各ブロックで実施時期を設定するものとする。

- 一 北海道地区
- 二 東北地区
- 三 関東地区
- 四 北信越地区
- 五 東海地区
- 六 近畿地区
- 七 中国地区
- 八 四国地区
- 九 九州地区

3 中央審査は5月の理事会の場をそれに充てる。

(審査員)

第4条 予備審査は各ブロック理事を審査委員長とし、他に数名の学科主任等代表者が審査員となり実施する。審査員の人数、選出は各ブロック理事に一任する。

2 中央審査は理事長を審査委員長とし、各ブロック理事を審査員とする。

3 本審査での審査員長及び審査員は、当該年度総会開催県の実施担当校関係者と本会理事長及び事務局との協議により決定する。

(出品)

第5条 予備審査への出品にあたり各校出品希望作品が複数になる場合は、当該校で1～2作品に選考し出品することとする。

(選考作品数)

第6条 予備審査における選考作品数は、各ブロック1～2作品とする。

2 中央審査における選考作品数は、4～5作品とする。

(選考方法)

第7条 発表作品は400字詰原稿用紙4枚以内とし、予備審査はブロックごとに原稿による書類選考もしくは本人発表のどちらかで選考する。その方法は各ブロックに一任する。選考にあたっては、各作品10点満点としその点数の上位の作品を選考する。

同点により選考数1～2以上になった場合は、同点の作品どうし点数の上下カットによる再選考をする。それでも選考できない場合は、審査員長を中心とした協議の上選考する。

なお、予備審査実施にあたっては、事前に開催時期、作品一覧(学校名生徒氏名、学年、作品名)、審査員等を本会事務局へ報告し、実施後は速やかに結果報告と選考作品の提出をすることとする。

2 中央審査は予備審査で選考された作品を、事前に理事長及び各理事に配布し、5月の理事会において原稿による書類選考する。選考にあたっては、各作品10点満点としその点数の上位の作品を選考する。同点により選考数4～5以上になった場合は、第7条に準じて選考する。

3 本審査は生徒本人による発表で、各作品100点満点とし第7条に準じて選考する。

(表彰)

第8条 予備審査通過作品は佳作とし、中央審査を通過し本審査に出場した作品には、文部科学大臣賞(最優秀賞)1作品、優秀賞1～2作品、優良賞1～2作品のいずれかを授与する。なおその場合、優秀賞と優良賞の作品数は本審査審査員に一任する。

2 中央審査通過者には表彰状の他に副賞を与える。

(その他)

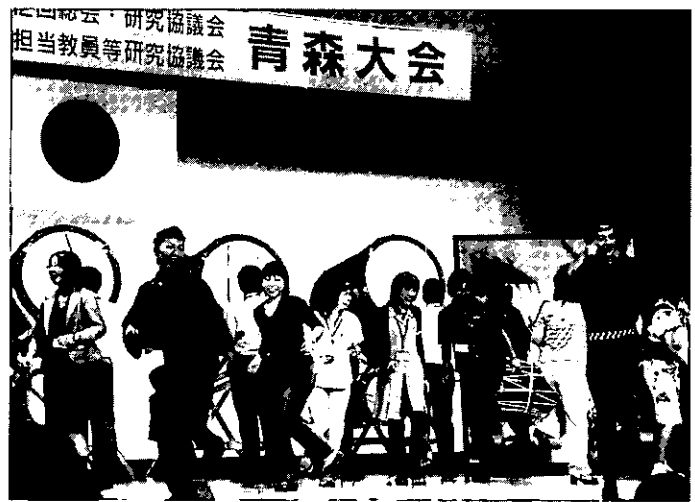
第9条 本審査における出場生徒及び引率教員等の旅費・宿泊費等については、本会では一切その補助等はしないものとする。

2 本審査は必ず生徒本人の発表による審査とし、代理による発表は認めない。

3 予備審査実施にあたり要した経費については、その一部を本会で負担するものとする。

[附則]

この規定は平成18年12月15日から施行する。



平成18年度 全国福祉高等学校長会

加盟校一覽

平成18年度 全国福祉高等学校長会 加盟校リスト

ブロック	都道府県	学校名	学科名	コース・類等名	郵便番号	住所(都道府県から)	TEL番号	FAX番号	ホームページ	学校長名	主任尊名
1	北海道	道 釧路	福祉科	福祉科	099-1100	北海道釧路市釧路町字置戸256-8	0157-52-3263	0157-52-3263	http://www.lowm.oketo.hokkaido.jp/oketokoukou/index.cfm	小野 章	前田 信治
2	北海道	道 留寿都	農業福祉科	農業福祉コース	048-1731	北海道留寿都郡留寿都村字留寿都179-1	0136-46-3376	0136-46-3386	http://www.phoenix-c.or.jp/~rusutu/	大高 優	西村 轉香子
3	北海道	道 釧路	福祉科	福祉科	088-0806	北海道釧路市武佐四丁目28-10	0154-46-1538	0154-46-1941	http://www.seiten-h.kushiro.ed.jp/framepage1.htm	山田 英二	阿部 剛康
4	北海道	道 釧路	農業生活科	生活福祉コース	098-0323	北海道釧路市上土別町15線南3	0165-34-2549	0165-34-2694	http://users.eolias-net.ne.jp/kenko/	斎藤 信寛	今井 宏典
5	北海道	道 釧路	福祉科	福祉科	040-0002	北海道釧路市柳町14-23	0138-52-1890	0138-52-1892	http://www1.ncv.ne.jp/~otsumah/	外山 茂樹	畔田 かおり
6	北海道	道 釧路	定時制普通科	福祉コース	095-0371	北海道石狩市上土別町15線南3	0165-24-2145	0165-24-2622	http://academic1.plala.or.jp/seh	三品 純一	
7	北海道	道 石狩	総合学科	ライフサポート系	061-3248	北海道石狩市花川東128-31	0133-74-5771	0133-74-8741	http://www.ishikarisohyo.hokkaido-c.ed.jp/	光永 正巳	長尾 勝忠
8	北海道	道 釧路	普通科	福祉コース	089-0571	北海道中川郡釧路町字依田101-1	0155-56-5105	0155-56-5107		鈴木 順二	川村 由理子
9	北海道	道 釧路	総合学科	生活福祉系列	049-2394	北海道釧路市森町字上台町326-48	01374-2-2059	01374-2-2298		山田 和雄	原田 純子
10	北海道	道 釧路	総合学科	福祉福祉系列	039-2516	青森県上北郡七戸町字錦野47-31	0176-62-4111	0176-62-4112	http://www.kamikita.asn.ed.jp/~shichinohe/	木村 厚	小野 淳典
11	北海道	道 釧路	福祉科	福祉科	030-0821	青森県青森市勝田二丁目11-1	017-775-2121	017-775-2137	http://www.infosomoni.ne.jp/toogakuen/	高橋 福太郎	小川 純光
12	北海道	道 釧路	保健福祉科	福祉コース	031-8507	青森県八戸市湊高台六丁目14-5	0178-33-4151	0178-35-2859	http://www.komon.ne.jp/~kosei05/	山西 幸子	加藤 康子
13	北海道	道 釧路	総合学科	健康福祉系列	030-0847	青森県青森市東大野一丁目22-1	017-739-5135	017-729-3488	http://www.tosei-w.asn.ed.jp/~chuo	本谷 隆司	森 由紀子
14	北海道	道 釧路	総合学科	介護福祉系列	035-0096	青森県むつ市大湊字大近川44-84	0175-24-1244	0175-24-2680		風 和夫	宮本 則子
15	北海道	道 釧路	普通科	福祉・情報コース	029-5503	岩手県和賀郡湯田町湯田19-25-2	0197-84-2809	0197-84-2884	http://www2.iwate-ed.jp/hwg-h/	菅原 通	笠水上 勲正
16	北海道	道 釧路	総合学科	福祉・情報コース	021-0041	岩手県一関市赤荻字野中23-1	0191-25-2241	0191-25-2921	http://www2.iwate-ed.jp/c2-h/	高橋 秀幸	佐藤 貴生
17	北海道	道 釧路	総合学科	介護福祉系列	028-0021	岩手県久慈市門前36-10	0194-53-4371	0194-53-2540		三浦 栄	浅川 義人
18	北海道	道 釧路	福祉科	福祉科	028-5312	岩手県二戸郡一戸町一戸字南前60-1	0195-33-3042	0195-33-2861		岩本 文昭	橋本 直央
19	北海道	道 釧路	総合学科	福祉サービス系列	020-0851	岩手県盛岡市向中野字才川2-3	019-636-0827	019-636-0830	http://www.schole.jp	舟山 祐男	長岡 一恵
20	北海道	道 釧路	福祉教養科	福祉コース	020-0025	岩手県盛岡市大沢川原一丁目5-34	019-623-6467	019-652-3327	http://www.iwatejoshi-h.ed.jp/	五十嵐 正	石川 一代
21	北海道	道 釧路	普通科	福祉科	029-2311	岩手県奥州市住田町世田米字川口12-1	0192-46-3141	0192-46-3144	http://www2.iwate-ed.jp/smi-h/	永野 章	菅原 和子
22	北海道	道 釧路	総合学科	福祉教養系列	989-5502	宮城県栗原市若柳字川南戸ノ西184	0228-35-1818	0228-35-1822	http://www.hakuou-nyswan.ne.jp/	米室 眞也	佐藤 恭子
23	北海道	道 釧路	普通科	介護福祉コース	981-8570	宮城県仙台市青葉区川平2-26-1	022-278-6131	022-277-5130	http://www.hgm.ed.jp	小島 信弥	榎本 靖英代
24	北海道	道 釧路	福祉科	福祉科	019-1404	秋田県仙北郡美郷町六郷字馬場52	0187-84-1280	0187-84-0040	http://www.rokugo-h.akita-c.ed.jp/	利根 共平	林 博子
25	北海道	道 釧路	普通科	福祉コース	019-0112	秋田県湯沢市下院内字小白岩197-2	0183-52-4355	0183-52-4356	http://www.ogschi-h.akita-c.ed.jp	木村 寛	菅 英留子
26	北海道	道 釧路	生活科学科	福祉コース	012-0823	秋田県湯沢市湯沢の原二丁目1-1	0183-73-5168	0183-73-5169	http://www.yutopia.or.jp/~yukihihats/test1/framepage1.htm	佐々木 敏	高橋 幸子
27	北海道	道 釧路	介護福祉科	福祉科	018-4221	秋田県北秋田市下杉字中島54-2	0186-78-3177	0186-78-3178	http://www.kumagera.ne.jp/aiakawac/	高橋 充	工藤 知佳子
28	北海道	道 釧路	福祉科	福祉科	990-0301	山形県東村山郡山辺町大字山辺3028	023-664-5462	023-664-5545	http://www.yamanobe-h.ed.jp/	菅原 和敏	佐藤 暢芳
29	北海道	道 釧路	総合学科	社会福祉系列	997-0017	山形県鶴岡市大玉寺字日本園410	0235-25-5724	0235-25-5734	http://www.tsuruokachuo-h.ed.jp/	山岸 文重	飯澤 菜穂恵
30	北海道	道 釧路	総合学科	保健福祉系列	994-0021	山形県天童市山元850	023-653-6121	023-653-6126	http://www.tendo-h.ed.jp/	早坂 清	奥山 留英子
31	北海道	道 釧路	総合学科	福祉介護系列	969-0227	福島県白河郡大吹町田町532	0248-42-2205	0248-44-3373	http://www.kohnan-h.fks.ed.jp	市川 淳一	大久保 義行
32	北海道	道 釧路	普通科	福祉コース	968-0011	福島県大沼郡金山町川口字滝沢2434-2	0241-54-2154	0241-54-2240	http://www.kawaguchi-h.fks.ed.jp	松浦 健二	齋藤 毅
33	北海道	道 釧路	普通科	福祉コース	963-4398	福島県村田町船引町船引字石崎15-3	0247-82-1511	0247-82-5233	http://www.funehiki-h.fks.ed.jp	富田 昭夫	橋本 雅子
34	北海道	道 釧路	総合学科	生活福祉系列	973-8404	福島県いわき市内郷町町野倉3-1	0246-26-3505	0246-26-8273	http://www.iwakisogoh.fks.ed.jp	栗原 孝明	江尻 実加
35	北海道	道 釧路	総合学科	介護福祉系列	960-0201	福島県福島市飯坂町字後畑1	024-542-4291	024-542-9930	http://www.fukushimaakita-h.fks.ed.jp	伊藤 隆司	佐々木 明英

ブロック	都道府県	学校名	学科名	コース・類等名	郵便番号	住所(都道府県から)	TEL番号	FAX番号	ホームページ	学校長名	主任等名
36	2. 東北	福島私 東北大学附属昌平	保健体育科	保健福祉コース	970-8011	福島県いわき市平上片寄字上ノ内152	0246-57-1123	0246-57-1127		伊尻 政一	丹野 香須美
37	2. 東北	福島県 相馬東	総合学科	生活福祉系列	976-0014	福島県相馬市北郷淵字阿弥陀堂200	0244-36-6231	0244-36-6276	http://www.somahigashi-h.fks.ed.jp/	八巻 義徳	三好 研美
38	2. 東北	福島私 聖光学院	普通科	福祉コース	960-0486	福島県伊達市六角3	024-583-3325	024-583-3145	http://www.seikogakuin-h.fks.ed.jp	後藤 牧人	遠藤 直仁
39	3. 関東	茨城私 古河第二	福祉科		306-0024	茨城県古河市幸町19-18	0280-32-0444	0280-31-6602	http://www.koga2-h.ed.jp/index.html	青木 一男	嶋田 拓巨
40	3. 関東	茨城私 八千代	総合学科	社会福祉系列	300-3561	茨城県結城郡八千代町大字平塚4824-2	0296-48-1836	0296-48-3201	http://www.yachiyo-h.ed.jp/	竹井 茂雄	柳田 巧巳
41	3. 関東	茨城私 鉾田第二	総合学科		311-1517	茨城県鉾田市鉾田1158	0291-33-2171	0291-33-6093		大川 晋一	鈴木 俊江
42	3. 関東	栃木私 真岡北陵	教養福祉科		321-4415	栃木県真岡市下籠谷396	0285-82-3415	0285-83-4634		大澤 葵一	猪瀬 由美子
43	3. 関東	栃木私 塩谷	社会福祉科	社会福祉科	329-2332	栃木県塩谷郡塩谷町大宮2579-1	0287-45-1101	0287-45-0986	http://www.tochigiri-c.ed.jp/koukou/highschool/shioya/index.htm	小林 邦夫	飯村 節子
44	3. 関東	栃木私 田沼	社会福祉科	社会福祉科	327-0312	栃木県佐野市栃本町300-1	0283-62-3411	0283-62-8404	http://www.tanuma-h.ed.jp/	川崎 勉	鈴木 祥子
45	3. 関東	群馬私 新田陵	総合学科	社会福祉系列	370-0347	群馬県太田市新田大根町999	0276-57-1056	0276-57-3953	http://www.akatsuki-hs.gsn.ed.jp/	木村 哲嗣	宮下 美歩
46	3. 関東	群馬私 渋川青翠	総合学科	生活文化系列	377-0008	群馬県渋川市渋川3912-1	0279-24-2320	0279-24-9543	http://www.seisui-hs.gsn.ed.jp	長尾 悦治	名塚 康恵
47	3. 関東	群馬私 方陽	普通科	福祉サービスクラス	370-1503	群馬県多野郡神流町生利1549-1	0274-57-3119	0274-57-2453	http://www.center.gsn.ed.jp/gakko/kou/manba/	内山 彰	影森 裕子
48	3. 関東	群馬私 吾妻	福祉科	福祉科	377-0423	群馬県吾妻郡吾妻町原町192	0279-68-2334	0279-68-2747	http://www.agatsuma-hs.gsn.ed.jp/	峯川 一郎	福原 佐知子
49	3. 関東	群馬私 藤岡北	総合学科	園芸福祉コース	375-0017	群馬県藤岡市篠塚90	0274-22-2308	0274-22-6741	http://www.fujikita-hs.gsn.ed.jp	奈良 公太郎	井上 徹
50	3. 関東	群馬私 玉村	普通科	福祉選択	370-1134	群馬県佐渡郡玉村町与六分14	0270-65-2309	0270-64-1370	http://www.edu-c.pref.gunma.jp/gakko/kou/tamamura	小林 裕司	富所 里美
51	3. 関東	群馬私 鎌名	普通科	福祉選択	370-3342	群馬県群馬県名町下室田953	027-374-0053	027-374-5684	http://www.edu-c.pref.gunma.jp/gakko/kou/haruna/	茂木 道弘	阿久澤 弘美
52	3. 関東	群馬私 桐生第一	普通科	福祉教養コース	376-0043	群馬県桐生市小曾根町1-5	0277-22-8131	0277-22-4515	http://www.kiriuchi.ac.jp	高橋 昇	斎藤 顕
53	3. 関東	群馬私 高崎福祉大学高崎	普通科	福祉類型	370-0033	群馬県高崎市中大原町631	027-352-3480	027-353-0855	http://www.tuhw-h.ed.jp	塩原 恒幸	菅柳 博文
54	3. 関東	埼玉私 不動岡誠和	社会福祉科	社会福祉科	348-0024	埼玉県羽生市大字神戸706	048-561-6651	048-560-1051	http://www.seiwa-h.spec.ed.jp/	滝田 秀夫	塚原 昌代
55	3. 関東	埼玉私 小鹿野	総合学科	福祉系列	368-0105	埼玉県小鹿野町小鹿野962-1	0494-75-0205	0494-72-1001	http://www.ogano-h.spec.ed.jp/index2.html	横田 俊治	高橋 千尋子
56	3. 関東	埼玉私 彰華学園	普通科	福祉連携コース(福祉)	345-0015	埼玉県北葛飾郡杉戸町並塚1642	0480-38-1810	0480-38-2976	http://www.shokagakuen.ac.jp	遠藤 あき	釜田 和文
57	3. 関東	埼玉私 大川学園	福祉科	福祉科	367-0038	埼玉県飯能市仲町16-8	042-971-1717	042-971-1727	http://www.ohkawa.ac.jp	大川 愛子	笹岡 勉
58	3. 関東	千葉私 松戸大切	福祉教養科	福祉教養科	271-0095	千葉県松戸市中央切54	047-368-4741	047-368-4396	http://www.chiba-c.ed.jp/matsudoyakiri-h/	大竹 頼之	鈴木 恭太
59	3. 関東	千葉私 勝浦岩粉	普通科	福祉教養コース	299-5102	千葉県勝浦市新町1380-千葉県勝浦郡勝浦町久保1528	0470-73-1133	0470-73-8966		浅葉 治雄	峰島 文乃
60	3. 関東	千葉私 船橋豊葎	普通科	福祉コース	274-0053	千葉県船橋市豊葎町656-8	047-457-5200	047-457-7576	http://www.chiba-c.ed.jp/toyokou/	上野 孝裕	篠崎 正明
61	3. 関東	千葉私 植草学園文化女子	普通科	福祉クラス	260-8601	千葉県千葉市中央区弁天二丁目8-9	043-262-3551	043-256-9501	http://www.bunka.uekusa.ac.jp	植草 昭	
62	3. 関東	東京私 日本放送協会女子	普通科	福祉コース	156-0043	東京都世田谷区松原二丁目17-22	03-3322-9151	03-3327-6164	http://www.nikaido-koukou.com/	沢谷 貞夫	横田 佳英子
63	3. 関東	東京私 都野津田	福祉科	看護福祉コース	195-0063	東京都野津田町2001	042-734-2311	042-734-9388	http://www.nozuta-h.metro.tokyo.jp/	安田 健	小山 哲広
64	3. 関東	東京私 日本放送協会学園	専攻科	社会福祉コース	186-8001	東京都国立市富士見台2-36	042-572-3151	042-574-3559	http://www.nhk-gaku.ac.jp/n-gaku	伊藤 由紀子	
65	3. 関東	東京私 満田女子	普通科	社会福祉コース	144-8544	東京都大田区本羽田1-4-1	03-3742-1511	03-3742-1534	http://www.kanata-joshi.ota.tokyo.jp/	鈴木 理	桑 正明
66	3. 関東	神奈川私 綾瀬西	普通科	福祉教養コース	252-1123	神奈川県横浜市早川1485-1	0467-77-5121	0467-76-8199	http://www02.sonethe.jp/avanishi/	鈴木 理	松永 利光
67	3. 関東	神奈川私 高浜	普通科	福祉教養コース	254-0805	神奈川県平塚市高浜台8-1	0463-21-0417	0463-23-7138	http://www.takahama-h.pen-kanagawa.ed.jp/	井出 真理子	梶原 英
68	3. 関東	神奈川市 川崎	福祉科	福祉科	210-0806	神奈川県川崎市川崎区中島三丁目3-1	044-244-4981	044-211-8295		郡司 常雄	吉田 昌弘
69	3. 関東	神奈川私 久井	普通科	社会福祉コース	220-0209	神奈川県相模原市津久井町三ツ木272-1	042-784-1053	042-784-7960	http://www.tsukui-h.pen-kanagawa.ed.jp/	山本 裕	東原 康之
70	3. 関東	神奈川私 横浜清風	普通科	社会福祉コース	240-0023	神奈川県横浜市保土ヶ谷区岩井町447	045-731-4361	045-716-0202	http://www.y-seifu.ac.jp/	安達 真樹	

ブロック	都道府県	市区町村	学校名	学科名	コース・類等名	郵便番号	住所(都道府県から)	TEL番号	FAX番号	ホームページ	学校長名	主任等名
71	3. 関東	神奈川県	二俣川看護福祉	福祉科	福祉コース	241-0815	神奈川県横浜市旭区中尾一丁目5-1	045-391-6165	045-361-9777	http://www.futamatagawa-h.pcn-kanagawa.ed.jp/	細谷 俊一	坂保 和子
72	3. 関東	神奈川県	白鵬女子	普通科	福祉コース	230-0074	神奈川県横浜市鶴見区北寺尾四丁目10-13	045-581-6721	045-571-3372	http://www.hakuhogyoshi-h.ed.jp	大橋 敏	梅本 知里
73	4. 北信越	新潟県	八海	福祉科	福祉コース	949-6632	新潟県南魚沼市余川1276	025-772-3281	025-772-8878	http://www.hakkai-h.nein.ed.jp	富所 慶立	中川 裕輝
74	4. 北信越	新潟県	中越	普通科	福祉コース	940-8585	新潟県長岡市新保町1371-1	0258-24-0203	0258-24-0205	http://www.chuetsu-h.ed.jp/	神主 式二	上野 香織
75	4. 北信越	新潟県	新井	総合学科	福祉コース	944-0031	新潟県妙高市田町一丁目10-1	0255-72-4151	0255-72-7529	http://www.ngt-arai-h.ed.jp/	横山 邦夫	桃井 隆栄
76	4. 北信越	富山県	八尾	普通科	福祉コース	939-2376	富山県富山市八尾町福島213	076-454-2205	076-454-5999	http://www.tym.ed.jp/sc344	立野 幸雄	藤治 京子
77	4. 北信越	富山県	七ノ谷	総合福祉科	福祉コース	932-0114	富山県小矢部市清水95-1	0766-61-2040	0766-61-8255	http://www.tonamino-h.tym.ed.jp	向田 永真	加賀谷 恵子
78	4. 北信越	富山県	有磯	生活福祉科	福祉コース	935-0025	富山県米見市鞍川1056	0766-74-0229	0766-74-0228	http://www.tym.ed.jp/sc358/	長井 幸雄	長井 ひとみ
79	4. 北信越	富山県	新川みどり	福祉科	福祉コース	937-0011	富山県魚津市木下新144	0765-22-3535	0765-22-2119	http://www.midorino-h.tym.ed.jp	平内 好子	綿島 恵子
80	4. 北信越	富山県	南砺総合	福祉科	福祉コース	932-0226	富山県南砺市北川166-1	0763-82-0771	0763-82-1318	http://www.tym.ed.jp/sc368	平木 文子	中嶋 協子
81	4. 北信越	富山県	福谷富山	普通科	介護福祉コース	930-0855	富山県富山市赤江町2-10	076-441-3141	076-441-3645	http://www.ryukokutoyama-h.ed.jp	梅川 圓洋	北山 登
82	4. 北信越	富山県	高岡福谷	普通科	総合福祉科	933-8517	富山県高岡市古疋塚4-1	0766-22-5141	0766-25-8149	http://www.takaokaryukoku-h.ed.jp/	坂瀬 一夫	赤津 慎太郎
83	4. 北信越	石川県	金沢伏見	普通科	人間福祉コース	921-8044	石川県金沢市米泉町5-85	076-242-6175	076-242-7458	http://www.ishikawa-c.ed.jp/~fushih/	加藤 茂芳	峯 純子
84	4. 北信越	石川県	田鶴浜	健康福祉科	福祉コース	929-2195	石川県七尾市上野ヶ丘町59	0767-68-3116	0767-68-2351	http://www.ishikawa-c.ed.jp/~taturh/	八十田 至	今井 和代
85	4. 北信越	石川県	能登青柳	総合学科	介護福祉系列	928-0331	石川県鳳珠郡能登町字柳田イ部3	0768-76-1211	0768-76-0079	http://www.ishikawa-c.ed.jp/~seishh/	田畑 哲郎	池田 麻衣
86	4. 北信越	石川県	鳳学園	福祉科	福祉コース	926-0022	石川県七尾市天神川原町ハ-32	0767-53-2184	0767-53-2187	http://www.ocn.ne.jp/~ohron/	上坂 博二	谷内 絹代
87	4. 北信越	福井県	大野東	福祉科	福祉科	912-0016	福井県大野市友江9-10	0779-66-4610	0779-66-5577	http://www.conohigashi-h.ed.jp	松村 裕一	中村 由美子
88	4. 北信越	福井県	丹南	総合学科	生活福祉系列	916-0062	福井県鯖江市熊田町10-7	0778-62-2112	0778-62-2102		田中 恵子	川辺 敏子
89	4. 北信越	福井県	吾新	福祉科	福祉科	910-0017	福井県福井市文京四丁目15-1	0776-23-3489	0776-21-2922	http://www.keishinn.ed.jp	萩原 昭人	水元 敏博
90	4. 北信越	山梨県	甲府城西	総合学科	福祉生活科学系列	400-0064	山梨県甲府市下藤田1-9-1	055-223-3101	055-223-3103	http://www.kai.ed.jp/jyosaih/	大沢 正	古島 由起
91	4. 北信越	山梨県	甲府藤田	介護福祉科	福祉生活科学系列	400-0867	山梨県甲府市青沼3-10-1	055-233-0127	055-233-0129	http://www.ito-gakuen.ed.jp	伊藤 伯	菊嶋 良江
92	4. 北信越	山梨県	富士北陵	総合学科	福祉健康系列	403-0017	山梨県富士吉田市新西原1-23-1	0555-22-4161	0555-30-0173	http://fujihokuryo.ed.jp/	鈴木 桂一	外川 真英
93	4. 北信越	山梨県	北杜	総合学科	福祉健康系列	408-0023	山梨県北杜市長坂町猿沢1007-19	0551-20-4025	0551-32-3194		坂本 仁	丸茂 立子
94	4. 北信越	長野県	エクセラ	福祉科	福祉科	390-0221	長野県松本市里山24202	0263-32-3701	0263-35-9080	http://www.nagano-c.ed.jp/chikuma/	武藤 行雄	赤羽 陽子
95	4. 北信越	長野県	上田千曲	生活福祉科	福祉科	386-8585	長野県上田市中之条626	0268-22-7070	0268-23-5370	http://www.school.gifu-net.ed.jp/sakusita-hs/	六川 良明	小林 逸元
96	5. 東海	岐阜県	坂下	福祉科	福祉科	509-9232	岐阜県中津川市坂下624-1	0573-75-2163	0573-75-4011	http://school.gifu-net.ed.jp/htakayama-hs/	松久 聡	岩田 知子
97	5. 東海	岐阜県	飛騨高山	健康福祉科	福祉科	506-0052	岐阜県高山市下町本町2000-30	0577-32-5320	0577-32-5321	http://school.gifu-net.ed.jp/htakayama-hs/	井上 隆	松本 洋子
98	5. 東海	岐阜県	岐阜各務野	福祉科	福祉科	509-0141	岐阜県各務原市轡沼各務原町八丁目7-2	058-370-4001	058-370-7066	http://school.gifu-net.ed.jp/kakuhigosi-hs/	渡邊 善治	
99	5. 東海	静岡県	吉田	福祉科	福祉科	421-0303	静岡県藤原郡吉田町片岡2130	0548-32-1241	0548-32-7831		江間 秀明	福嶋 みちる
100	5. 東海	静岡県	磐田北	福祉科	福祉科	438-0086	静岡県磐田市見付2031-2	0538-32-2181	0538-37-8354	http://www.shizuoka-c.ed.jp/iwatakiita-h	西島 敏	伏見 博英
101	5. 東海	静岡県	熱海	普通科	福祉類型	413-0102	静岡県熱海市下多賀1484-22	0557-68-3291	0557-68-1854	http://www.izu.co.jp/~atamihs/	伊野口 仁一	安達 のぞみ
102	5. 東海	静岡県	富士宮東	福祉科	福祉科	418-0022	静岡県富士宮市小泉1234	0544-26-4177	0544-26-0007	http://www.shizuoka-c.ed.jp/fujinomiyaohigashi-h/	高田 稔	船津 倫子
103	5. 東海	静岡県	三島	福祉科	福祉科	411-0944	静岡県駿東郡豊田町竹原354	055-975-0080	055-976-0735	http://www2.tokai.or.jp/mishimakoko/	渡邊 紘	蛭田 洋子
104	5. 東海	静岡県	静岡女子	福祉科	福祉科	426-8076	静岡県静岡市駿河区八幡3-6-1	054-285-2274	054-282-2757		坂本 英文	太田 久巳子
105	5. 東海	静岡県	沼津中央	普通科	人間福祉コース	410-0033	静岡県沼津市杉崎町11-20	055-921-0346	055-924-7158	http://www.r-chuo.ac.jp	桐山 敏雄	平野 謙

ブロック	都道府県	校名	学名	コース・類等名	郵便番号	住所(都道府県から)	TEL番号	FAX番号	ホームページ	学校長名	主任等名
106.5.東海	静岡県	私立 芥田学園	福祉科		430-0851	静岡県浜松市向宿二丁目20-1	053-461-7366	053-461-7559	http://www.orange.ne.jp/~akuta/	丸尾 雅史	藤本 修浩
107.5.東海	愛知県	高浜	福祉科		444-1311	愛知県高浜市本郷町一丁目6-1	0566-52-2100	0566-52-7059	http://www.takahama-h.aichi-c.ed.jp/	江坂 栄子	神谷 千尋
108.5.東海	愛知県	果宝殿	生活福祉科		441-1205	愛知県豊川市大木町樋水445	0533-93-2041	0533-93-2826	http://www.horyo-h.aichi-c.ed.jp/	細井 政雄	原田 喜子
109.5.東海	愛知県	古知野	福祉科		483-8331	愛知県江南市古知野町高瀬1	0587-56-2508	0587-53-0989	http://www.kochino-h.aichi-c.ed.jp/	猪又 重広	鳥居 博子
110.5.東海	愛知県	桃陵	生活福祉科		474-0025	愛知県大府市中央町五丁目15	0562-46-5351	0562-44-0656	http://www.toryo-h.aichi-c.ed.jp/	岩間 博	松岡 直子
111.5.東海	愛知県	海翔	福祉科		490-1401	愛知県弥富市六條町大崎22	0567-52-3061	0567-52-3710	http://www.kainan-h.aichi-c.ed.jp/	田中 基夫	神野 孝司
112.5.東海	愛知県	西陵	総合学科	介護福祉系列	451-0066	愛知県名古屋西区見玉二丁目20-65	052-521-5551	052-522-2371	http://www.seiryo.ed.jp/	岡田 修	小林 厚子
113.5.東海	三重県	明野	福祉科		519-0501	三重県伊勢市小原町明野1481	0596-37-4125	0596-37-4127	http://www.mie-c.ed.jp/~hakeno/	濱口 政巳	高松 瑞和
114.5.東海	三重県	上野商業	福祉科		518-0833	三重県伊賀市緑ヶ丘東町920	0595-21-8514	0595-21-1923		廣岡 久和	鈴木 敏治
115.5.東海	三重県	みえ夢学園	総合学科	社会福祉系列	514-0803	三重県津市柳山津興1239	059-226-6317	059-226-6218	http://www.mie-c.ed.jp/~hmieyu/	小塚 幸志	塚原 まゆみ
116.5.東海	三重県	飯南	総合学科	介護福祉系列	515-1411	三重県松阪市飯南町湖見5480-1	0598-32-4611	0598-32-2204	http://www.mie-c.ed.jp/~hiinan/	中谷 文弘	大藪 陽子
117.5.東海	三重県	いなべ総合学園	総合学科	社会福祉系列	511-0222	三重県いなべ市員弁町御園632	0594-74-2006	0594-74-4104	http://www.inabe-h.ed.jp/	西城 博	岡村 真琴
118.5.東海	三重県	卯学園	総合学科	介護福祉系列	519-2593	三重県多気郡大台町茂原48	0598-76-0040	0598-76-0318	http://www.mie-c.ed.jp/~hsubar/index.htm	竹内 一	宮本 千賀
119.6.近畿	滋賀県	長浜	福祉科		526-0033	滋賀県長浜市平方町270	0749-62-0896	0749-62-0910	http://www.nagako-h.shiga-c.ed.jp/	中野 正堂	村元 研二
120.6.近畿	滋賀県	滋賀学園	普通科	福祉コース	527-0003	滋賀県東近江市建部北町520-1	0748-23-0858	0748-23-6145	http://www.newton.ac.jp/	清田 剛	武士俣 真司
121.6.近畿	滋賀県	綾羽	介護福祉科		525-0025	滋賀県草津市西沢川一丁目18-1	077-563-3435	077-565-5820	http://www.biwa.ne.jp/~ayaha-hs	柴原 聖嗣	桑原 元則
122.6.近畿	京都府	京都聖カタリナ	福祉科		622-0002	京都府南丹市園部町美園町1-78	0771-62-0163	0771-63-0969	http://www.catalina-kyoto.ed.jp/	小林 豊	鳴原 谷子
123.6.近畿	京都府	福知山敬徳	総合学科	介護福祉系列	620-0936	京都府福知山市宇正明寺36-10	0773-22-3763	0773-23-5519	http://www2.nkansai.ne.jp/sch/shukuroku/	奥田 彌造夫	下川 直輝
124.6.近畿	京都府	久美浜	総合学科		629-3444	京都府京丹後市久美浜町橋爪65	0772-82-0069	0772-82-0690	http://www1.kyoto-be.ne.jp/~kumihama-hs/	本井 裕	鷲鷲 律子
125.6.近畿	大阪府	淀之水	福祉科		554-0011	大阪府大阪市北花区朝日一丁目1-9	06-6461-0091	06-6465-0336	http://yodoromizu-h.ed.jp/	鶴巻 泰二	鶴谷 健三
126.6.近畿	大阪府	淀商業	福祉科		555-0024	大阪府大阪市西淀川区野里3-3-15	06-6474-2221	06-6473-9950	http://www.oecac.ne.jp/~yodo/index.htm/	笠岡 廣志	青木 健至
127.6.近畿	大阪府	東大阪大学敬愛	普通科	介護福祉コース	577-8567	大阪府東大阪市西堤学園町3-1-1	06-6782-2881	06-6782-2895	http://www.higashiosaka-hs.ac.jp/~keiai	村上 靖平	別所 勝貴夫
128.6.近畿	大阪府	向陽台	普通科	福祉資格取得コース	567-0051	大阪府茨木市宿久庄7-20-1	072-643-6681	072-643-4440	http://www.koyodai.ed.jp	後藤 順一	具屋 奈都子
129.6.近畿	兵庫県	日高	福祉科		669-5395	兵庫県豊岡市日高町中1	0796-42-1133	0796-42-1648	http://www.hyogo-c.ed.jp/~shingu-hs/	竹田 秀壽	山崎 由美
130.6.近畿	兵庫県	新宮	福祉科		679-4313	兵庫県たつの市新宮町新宮27-1	0791-75-0018	0791-75-2549		桐田 一文	長瀬 順子
131.6.近畿	兵庫県	神戸第一	家庭科	介護福祉コース	651-0058	兵庫県神戸市中央区暮合町寺ヶ谷1	078-242-4811	078-242-5723		三浦 明彦	舟引 京子
132.6.近畿	兵庫県	日ノ本学園	普通科	福祉コース	679-2151	兵庫県神崎郡香寺町香呂890	0792-32-5578	0792-32-3420	http://www.hinomoto.ac.jp	紺野 靖幸	伊藤 睦美
133.6.近畿	兵庫県	六甲アイランド	普通科	生活福祉学系	658-0032	兵庫県神戸市東灘区向洋町中四丁目4	078-858-4000	078-858-0145	http://www.kobe-c.ed.jp/~rks-hs/	岡田 万里	岸本 和代
134.6.近畿	兵庫県	夙川学院	普通科	福祉コース	662-0027	兵庫県西宮市神園町2-20	0798-74-5061	0798-74-1596	http://www.shukugawa.ac.jp	増谷 和人	岸口 均
135.6.近畿	奈良県	養生昇陽	福祉科		633-0241	奈良県宇陀郡葛城町下井足210	0745-82-0525	0745-82-7606	http://www.nar-habara-h.ed.jp http://www1.kcn.ne.jp/~yanshyouyou/index.htm	鈴木 借隆	松本 美幸
136.6.近畿	奈良県	天理(第二部)	介護福祉科		632-8585	奈良県天理市池之内町1260	0743-62-2456	0743-62-2456	http://www.tenri-h.ed.jp/~2bu/	飯降 成彦	三宅 正夫
137.6.近畿	和歌山県	有田中央	総合学科	福祉系列	643-0021	和歌山県有田郡吉備町下津野459	0737-52-4340	0737-52-6749	http://www.aridachuo-h.wakayama-c.ed.jp	堀東 真治	名原 伸子
138.6.近畿	和歌山県	高野山	普通科	国際福祉コース	648-0288	和歌山県伊都郡高野町高野山212	0736-56-2204	0736-56-3705		添田 陸昭	小林 隆
139.6.近畿	和歌山県	熊野	総合学科	福祉系列	649-2195	和歌山県西牟婁郡上富田町朝来670	0739-47-1004	0739-47-4200	http://www.kumano-h.wakayama-c.ed.jp/	高田 直明	中前 考貴
140.7.中国	鳥取県	境港総合技術	家庭科福祉科		684-0043	鳥取県境港市竹内町925	0859-45-0411	0859-45-0413	http://www.tortkyo.ed.jp/~sakasago-h	小田原 利典	大田 麗子

ブロック	都道府県	校名	学科名	コース・類等名	郵便番号	住所(都道府県から)	TEL番号	FAX番号	ホームページ	学校長名	主任等名
141 7. 中	島根	益田翔・益田産業	総合学科	生活福祉系列	698-0041	島根県益田市高津三丁目2-1	0856-22-0642	0856-31-1043	http://www.shimanet.ed.jp/sauko/index.htm	岩本 節雄	中川 育子
142 7. 中	島根	松江農林	総合学科	福祉サービス系列	690-8507	島根県松江市乃木福富町51	0852-21-6772	0852-21-6796	http://www.shimanet.ed.jp/matsuno/	山根 正明	
143 7. 中	島根	私 明誠	福祉科		698-0006	島根県益田市三宅町7-37	0856-22-1052	0856-22-8729	http://www.meisei-masuda.ed.jp	皆岡 了司	小林 恵英
144 7. 中	島根	私 松蔭学院	普通科	福祉系列	690-0015	島根県松江市上乃木1-14-51	0852-21-5578	0852-21-1350	http://www.shotoku-h.ed.jp	任司 肇	船木 雅哉
145 7. 中	島根	私 出雲西	普通科	福祉コース	693-0032	島根県出雲市下古志町1163	0853-21-1183	0853-21-1397	http://www.izumomishikou.jp/	永島 弘明	石川 佳照
146 7. 中	岡山	県 倉敷中央	福祉科		710-0845	岡山県倉敷市西番井1384	086-465-2559	086-466-2832	http://www.kurachuo.okayama-c.ed.jp/kurech.htm	中根 公郎	浅野 純子
147 7. 中	岡山	市 岡山後楽館	総合学科	福祉系列	700-0814	岡山県岡山市天神町9-24	086-226-7100	086-226-7109	http://www.korakukan.city-okayama.ed.jp	仁藤 博行	山本 知子
148 7. 中	岡山	私 英作	普通科	介護福祉コース	708-0004	岡山県津山市山北500	0868-22-4838	0868-24-6171	http://www.minimassaka.ed.jp	船木 昌徳	船木 英精
149 7. 中	岡山	私 ベル学園	総合福祉科		700-0054	岡山県岡山市下伊福西町7-38	086-282-2101	086-283-0582	http://www.beil-h.ed.jp/	廣江 壽彦	大石 博之
150 7. 中	岡山	私 倉敷松松	普通科	福祉コース	710-0003	岡山県倉敷市平田155	086-422-3570	086-422-0052	http://www.suisho.ed.jp/	高月 賢太郎	中桐 和子
151 7. 中	岡山	県 備前緑陽	総合学科	健康福祉系列	705-8507	岡山県備前市西片上91-1	0869-63-0315	0869-64-4280	http://www.ryokuyou.okayama-c.ed.jp	大塚 雅嗣	秋山 節子
152 7. 中	岡山	市 倉敷翔南	総合学科	生活福祉系列	711-0937	岡山県倉敷市児島神田町160	086-473-4240	086-473-7087	http://www.kurashiki-oky.ed.jp/school/syouman-h/	赤堀 元英	藤原 しのぶ
153 7. 中	広島	県 黒瀬	福祉科		724-0622	広島県東広島市黒瀬町乃美尾1	0823-82-2525	0823-82-2527	http://www.kurose-h.hiroshima-c.ed.jp/	羽場 克志	武智 朋子
154 7. 中	広島	県 世羅	生活福祉科		722-1193	広島県世羅郡世羅町本郷870	0847-22-1118	0847-22-5244	http://www.sera-h.hiroshima-c.ed.jp	北川 洋一	岡 和子
155 7. 中	山口	私 誠英	福祉科		747-0813	山口県防府市東三田尻一丁目2-14	0835-38-5252	0835-38-5353	http://www.seiei.ac.jp	吉野 紀生	田邊 元久
156 7. 中	山口	県 久賀	福祉科		742-2301	山口県大島郡周防大島町久賀4851-2	0820-72-0024	0820-72-0096		藤澤 正信	三輪 教
157 7. 中	山口	私 中村女子	介護福祉科		753-8530	山口県山口市歌通町1-1	083-922-0418	083-922-8063	http://www.y-nakamura.ed.jp/	桂 雄三	岡崎 克子
158 7. 中	山口	私 聖光	普通科	社会福祉コース	743-0011	山口県光市光井九丁目22-1	0833-72-1187	0833-72-1308	http://www.seiko-h.ed.jp	藤井 康正	藤井 正彦
159 8. 四	徳島	県 城西	総合学科	健康福祉系列	770-0046	徳島県徳島市結城町二丁目1	088-631-5138	088-633-0453	http://www.josei-hs.tokushima-ec.ed.jp	多田 実	鎌田 かおる
160 8. 四	徳島	県 小松島西	福祉科		773-0015	徳島県小松島市中田町字原ノ下28-1	08853-2-0129	08853-2-5462	http://www.komatsushimanishi-hs.tokushima-ec.ed.jp	伊勢 正伸	船村 桂子
161 8. 四	徳島	県 鳴門第一	総合学科	福祉系列	772-0003	徳島県鳴門市撫養町南浜字目木58	088-685-1107	088-685-0049	http://www.naruto-f.ed.jp	篠原 道佳	増田 尚子
162 8. 四	香川	県 三木	総合学科	福祉系列	761-0702	香川県三木郡三木町平木750	087-891-1100	087-891-1551	http://www.kagawa-edu.jp/mikih01/top.htm	荒井 修二	佐藤 泉菜子
163 8. 四	香川	県 飯山	総合学科	福祉サービス系列	762-0083	香川県丸亀市飯山町下法蓮寺664-1	0877-98-2525	0877-98-2576	http://www.kagawa-edu.jp/hanzh01/	増田 郁夫	北村 文恵
164 8. 四	香川	私 辰蔵学園	福祉科		765-0053	香川県善通寺市生野町855-1	0877-62-1515	0877-62-0586	http://www1.quolla.com/jinsei/	田山 慎信	梶兄 寿一郎
165 8. 四	愛媛	県 新居浜南	総合学科	福祉サービス系列	792-0836	愛媛県新居浜市藤場町1-32	0897-43-6191	0897-44-7447	http://www.nihhaminami-h.ed.jp/a.htm	竹本 公三	藤田 優子
166 8. 四	愛媛	県 北条	総合学科	生活福祉系列	799-2493	愛媛県松山市北条辻600-1	089-993-0333	089-993-0429	http://shu-hojo-h.esnet.ed.jp	桐山 聖子	
167 8. 四	愛媛	県 川之石	総合学科	福祉サービス系列	796-0201	愛媛県八幡浜市俣内町川之石1-112	0894-36-0550	0894-36-1994	http://hawaonishi-h.esnet.ed.jp	和田 恒男	
168 8. 四	愛媛	私 今治明徳	普通科	総合福祉コース	794-0861	愛媛県今治市北日吉町一丁目4-47	0898-22-6767	0898-33-2723	http://www.ima-metoku.ed.jp/metoku/	白川 見敬	大西 浩一
169 8. 四	愛媛	私 松山城南	福祉科		790-8550	愛媛県松山市北久米町815	089-976-4343	089-976-4348	http://www.matsuyamajoan-h.ed.jp/	瀬良 邦彦	森岡 健治
170 8. 四	高知	県 城山	普通科	福祉教育コース	781-5310	高知県香美郡赤岡町1612	0887-55-2126	0887-55-0170	http://www.kochinet.ed.jp/shiroyama-h/	野町 均	大石 希
171 8. 四	高知	私 高知中央	普通科	福祉・健康コース	781-5103	高知県高知市大津2-324-1	088-866-3166	088-866-1400	http://www.kochi-chuo.ed.jp/	前田 正也	岡岡 英由紀
172 8. 四	高知	県 室戸	総合学科	生活福祉系列	781-7102	高知県室戸市室津221	0887-22-1155	0887-22-3891	http://www.kochinet.ed.jp/muroto-h	大宮 健吾	別役 千世
173 9. 九州	福岡	県 三井	普通科	福祉教育コース	838-0122	福岡県小郡市松崎650	0942-72-2161	0942-72-9064	http://mi.fku.ed.jp	茶園 司	内田 洋子
174 9. 九州	福岡	県 久留米筑水	社会福祉科		839-0817	福岡県久留米市山川町1493	0942-43-0461	0942-45-0143	http://kurumechikusui.fku.ed.jp	大橋 厚	紫垣 久美子
175 9. 九州	福岡	県 黒木	普通科	福祉・看護コース	834-1216	福岡県八都黒木町桑原10-2	0943-42-1150	0943-42-3791	http://kurog.fku.ed.jp/	久保 大	杉本 正信

ブロック	都道府県	校名	学校名	学科学科	郵便番号	住所(都道府県から)	TEL番号	FAX番号	ホームページ	学校長名	主任等名
176	九州	福岡	私 杉森女子	福祉科	832-0046	福岡県柳川市奥州町3	0944-72-5216	0944-72-5218	http://www5e.biglobe.ne.jp/~suginori/	高山 宏園	田中 裕美
177	九州	福岡	私 慶成	福祉科	803-0854	福岡県北九州市小倉北区皿山町15-1	093-561-1331	093-561-4844	http://www.keisei-h.jp	植木 賢児	中村 真二
178	九州	福岡	私 神学園	社会総合学科	816-0095	福岡県福岡市博多区竹下二丁目1-33	092-431-1868	092-441-3274	http://www.okigakuen.ed.jp/	神 隆邦	鬼塚 幸幸
179	九州	福岡	私 大和青藍	介護福祉科	822-0025	福岡県直方市日吉町10-12	0949-22-0533	0949-22-0535	http://www.yamato-gakuen.ac.jp	川原 克彦	
180	九州	福岡	私 折尾愛真	普通科	807-0861	福岡県北九州市八幡西区堀川町12-10	093-611-4083	093-692-5690	http://www.ortoisshin.ac.jp/	増田 仰	小川 恵子
181	九州	福岡	私 福智	介護福祉科	825-0002	福岡県田川市伊田3934	0947-42-4711	0947-44-7289	http://www.fukuchi-h.ed.jp/	荒瀬 昭彦	寺坂 昌子
182	九州	福岡	私 久留米学園	総合学科	830-0032	福岡県久留米市東町272-4	0942-34-4535	0942-33-5222	http://www.gakuen.ac.jp	小西 高昭	日比 真一
183	九州	福岡	私 真福館	総合学科	803-0837	福岡県北九州市小倉北区中井口5-1	093-561-1231	093-591-9595	http://www.shinshokan-h.ed.jp	八沢 巧	赤星 美佐子
184	九州	福岡	県 大川権風	普通科	831-0004	福岡県大川市榎津262-3	0944-87-2247	0944-86-6016		荻 八州夫	吉田 朋幸
185	九州	福岡	私 飯塚	介護福祉科	820-0003	福岡県飯塚市立岩1224	0948-22-6571	0948-23-7819	http://www.izuka.ed.jp	城野 裕真	
186	九州	佐賀	県 神崎清明	総合学科	842-0012	佐賀県神埼郡神埼町橋2	0952-52-3191	0952-51-1017	http://www3.saga-ed.jp/school/edq10021/	松尾 幸夫	古賀 タマキ
187	九州	佐賀	県 鹿島実業	生活福祉科	849-1311	佐賀県鹿島市高津原539	0954-63-3126	0954-63-9007	http://www3.saga-ed.jp/school/edq10038/index.htm	野口 盛	井上 千秋
188	九州	佐賀	県 牛津	生活経営科	849-0303	佐賀県小城市牛津町牛津274	0952-66-1811	0952-51-5008	http://www3.saga-ed.jp/school/edq10009/	千輪 篤司	久掛 登子
189	九州	佐賀	県 北陵	生活文化科	849-0921	佐賀県佐賀市高木瀬西3丁目7-1	0952-30-6676	0952-33-5524	http://www.hokuryo.ac.jp/	久原 辰郎	成富 則子
190	九州	佐賀	県 多久	総合学科	845-0002	佐賀県多久市北多久町大字小侍23	0952-75-3191	0952-71-9001	http://www3.saga-ed.jp/school/edq10028/topmenu.htm	高松 九三男	南治 玲子
191	九州	佐賀	県 嬉野	総合学科	843-0301	佐賀県嬉野市嬉野町下宿甲700	0954-43-0107	0954-20-2001	http://www3.saga-ed.jp/school/edq10037/	杉原 豊秋	安武 久美子
192	九州	佐賀	私 佐賀女子	保育福祉コース	840-0047	佐賀県佐賀市与賀町153-1	0952-24-5341	0952-26-9115	http://www.asahigakuen.ac.jp	江口 信義	土井 俊一
193	九州	長崎	県 大村城南	総合学科	856-0835	長崎県大村市久原一丁目416	0957-54-3121	0957-27-3056	http://academic3.plala.or.jp/~johman-h/	永田 良二	下田 かおる
194	九州	長崎	私 玉木女子	福祉科	850-0822	長崎県長崎市愛宕一丁目21-6	095-826-6321	095-828-6837	http://www.tamaki.ac.jp/koukou/	鬼塚 謙吉	山内 茂樹
195	九州	熊本	県 八代農業	福祉教養科	869-4201	熊本県八代郡鏡町鏡村129	0965-52-0076	0965-52-5048	http://www.edu-c.dnet.kumamoto.jp/sh/yatunosh	鶴田 憲平	中川 由紀
196	九州	熊本	県 多良木	普通科	868-0500	熊本県球磨郡多良木町多良木1212	0966-42-2102	0966-49-1022		森 和則	瀬音 博英
197	九州	熊本	県 阿蘇清峰	社会福祉科	869-2612	熊本県阿蘇市一の宮町宮地4131	0967-22-0045	0967-22-5161	http://www.higo.edu.jp/sh/aseiho/	山本 豊	梅井 美保
198	九州	熊本	私 菊池女子	社会福祉科	861-1331	熊本県菊池市隈府1081	0968-25-3032	0968-25-3180	http://www.kikuchijoshi.ac.jp	荒木 元子	米浜 明見
199	九州	熊本	私 城北	社会福祉科	861-0598	熊本県山鹿市志々枝798	0968-44-8111	0968-44-0747	http://www.yabakei-h.ed.jp	緒方 孝臣	馬場 誠也
200	九州	熊本	私 熊本フェリス学院	医療福祉科	861-4106	熊本県熊本市南高江七丁目3-1	096-357-7151	096-358-3044	http://www.feith.ac.jp	飛松 政明	
201	九州	熊本	私 有明	福祉科	864-0032	熊本県荒尾市増永2200	0968-63-0545	0968-64-1366	http://www15.ocn.ne.jp/	片山 盛雄	村田 太佳子
202	九州	熊本	私 芦北	福祉科	869-5431	熊本県芦北郡芦北町乙千屋20-2	0966-82-2034	0966-82-5606	http://www.edu-c.pref.kumamoto.jp/sh/ashikitash/	土田 一好	飯島 真美
203	九州	大分	県 山香農業	生活科学科	879-1306	大分県速見郡山香町広瀬4706	0977-75-1166	0977-75-1165	http://yamaganougyou-h.oita.ed.jp	水海 博徳	奥貫 康子
204	九州	大分	県 野津	福祉科	875-0201	大分県白井市野津町大字野津537-1	0974-32-2031	0974-32-2119	http://notu-h.oita-ed.jp/	横田 ミチヨ	津田 鏡子
205	九州	大分	県 耶麻溪	普通科	871-0404	大分県中津市耶麻溪町大字戸原1663-1	0979-54-2011	0979-54-2519	http://yabakei-h.oita-ed.jp/	樺木 達郎	工藤 典子
206	九州	大分	私 藤志館	福祉科	870-0838	大分県大分市桜ヶ丘7-8	097-543-6711	097-543-4516	http://www.green.oit-net.jp/gotogaku/yoshikan	原正 正信	佐々木 修
207	九州	大分	私 福徳学院	保育福祉科	870-0883	大分県大分市永興550	097-544-3551	097-544-5883	http://www.fukutoku.ed.jp	坂田 一郎	甲斐 大介
208	九州	大分	私 大分英明	商業科	870-8658	大分県大分市千代町二丁目4-4	097-535-0201	097-533-2660	http://www.cosra.or.jp/~rinkou/tomei/	佐藤 欣司	竹島 広道
209	九州	大分	私 昭和学園	福祉科	877-0082	大分県田田市日ノ出町14	0973-23-8737	0973-22-7129	http://www.cosra.or.jp/~showa/index.htm	草野 義輔	小野 智恵美
210	九州	大分	県 日出陽谷	総合学科	879-1504	大分県速見郡日出町大字大神1396-43	0977-72-2855	0977-72-2655	http://www.hiyouyokuh-h.oita-ed.jp	白岩 弘道	手嶋 理江子

ブロック	都道府県	校名	学科名	コース・類等名	郵便番号	住所(都道府県から)	TEL番号	FAX番号	ホームページ	学校長名	主任等名
211	九州	佐伯豊南	総合学科	食物・福祉系列	876-0835	大分県佐伯市鶴岡町二丁目2-15	0972-22-1900	0972-22-1906		内田 良三	福岡 悠乃
212	九州	日本文理大学付属	普通科	福祉コース	876-0811	大分県佐伯市鶴谷町2-1-10	0972-22-3501	0972-22-3503	http://www.nbu-h.ed.jp/index.shtml	永永 隆章	立木 謙太郎
213	九州	養	福祉科		881-0003	宮崎県西都市右松2330	0983-43-0005	0983-43-0004	http://www.miyazaki-c.ed.jp/tsuma-h/	土持 昭達	内村 加奈恵
214	九州	日南農林	福祉科		889-3202	宮崎県南那珂郡南郷町中村甲3453	0987-64-1177	0987-64-1947	http://www.miyazaki-c.ed.jp/nichinanonori-h/index.html	岩下 英樹	濱沙 英穂子
215	九州	門川	福祉科		889-0611	宮崎県東白井郡門川町門川尾末2680	0982-63-1336	0982-63-5194	http://www.miyazaki-c.ed.jp/kadokawa-ah/	橋口 哲夫	龜山 英紀
216	九州	高原	福祉科		889-4411	宮崎県西諸県郡高原町広原4981-2	0984-42-1010	0984-42-1270		南崎 貞克	瀬海 圭子
217	九州	都城	介護福祉科		885-8502	宮崎県都城町養原町7916	0986-23-2477	0986-26-5220	http://www.kubogakuen.ac.jp	久保 武司	相楽 春伯
218	九州	日章学園	福祉科		880-0125	宮崎県宮崎市広原836	0985-39-1321	0985-39-1324	http://www.nissho.ac.jp/ngh	有馬 登志雄	下別府 透
219	九州	加世田常潤	生活福祉科		897-0002	鹿児島県加世田市武田14863	0993-53-3600	0993-53-3601	http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/kasedajyun	相徳 和義	瀬口 知子
220	九州	宮之城農業	福祉科		895-1811	鹿児島県薩摩郡さつま町虎居1900	0996-53-0020	0996-53-2718	http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Miyanojo-A/	岩下 明朗	宮崎 直英子
221	九州	加治木女子	医療福祉科		899-5241	鹿児島県姶良郡加治木町木田5348	0995-63-3001	0995-63-3002	http://www.gh-kagoshima.ac.jp/kghs/	山切 英澄	迫田 良治
222	九州	鳳凰	総合福祉科		897-1121	鹿児島県加世田市唐仁原1202	0993-53-3633	0993-52-7974	http://www.hooh.ed.jp	西 英継	真 義人
223	九州	出水中央	医療福祉科		899-0213	鹿児島県出水市西出水町448	0996-62-0500	0996-62-1772	http://www.izumi.ac.jp	松ヶ野 正弘	川畑 博英
224	九州	神村学園高等学校	医療福祉科		896-8686	鹿児島県串木町市下名4460	0996-32-3232	0996-32-2990	http://www.kanimura.ac.jp	神村 裕之	加藤 博
225	九州	清南	介護福祉科		890-0044	鹿児島県鹿児島市常盤町440-6	099-281-2900	099-281-2522	http://www7.ocn.ne.jp/~shonank/	時任 英輔	有木 時義
226	九州	鹿児島城西	社会福祉科		899-2593	鹿児島県日置市伊集院町清藤1938	099-273-1234	099-273-1651	http://www.nissho.ac.jp/kjh/	伊藤 博仁	桑原 英穂子
227	九州	尚志館	医療福祉科		899-7104	鹿児島県曾於郡志布志町安楽6200	0994-72-1318	0994-72-1319	http://www.shoshikan.ed.jp	本田 康伸	石原 久恭
228	九州	鹿児島情報	医療福祉科		891-0141	鹿児島県鹿児島市谷山中二丁目4118	099-268-3101	099-266-1851	http://www.harada-gakuen.com/	原田 理幸	西野 康子
229	九州	開陽	福祉科		891-0198	鹿児島県鹿児島市上福元町5296-1	099-263-3733	099-260-8233	http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Kaiyo/top.html	佐多 典夫	吉永 裕子
230	九州	薩摩中央	福祉科		895-1811	鹿児島県薩摩郡さつま町虎居1900	0996-53-1207	0996-53-1208	http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/sachuo/	大迫 勝次	黒木 加代子
231	九州	陽明	介護福祉科		901-2113	沖縄県浦添市字大平488	098-879-3062	098-879-9520		喜盛武 一三六	比嘉 加代
232	九州	中部農林	福祉科		904-2213	沖縄県うるま市字田場1570	098-973-3578	098-973-3357	http://www.chubu-ah.open.ed.jp/	島袋 安弘	新垣 千賀子
233	九州	沖縄水産	総合学科	福祉サービス系列	901-0305	沖縄県糸満市西崎一丁目1-1	098-994-3483	098-992-5920	http://www.okisui-h.open.ed.jp/	前原 新吉	崎浜 秀治

第12回青森大会アンケート集計結果（アンケート回答者186名）

1. 基調講演について

① 大変参考になった	87人	(46.7%)
② 参考になった	92人	(49.5%)
③ 工夫が必要である	4人	(2.2%)
④ その他	3人	(1.6%)

【意見】

- ・ 質疑応答の時間を設けてほしい。
- ・ 現在、これからの資格取得、福祉の動向について知ることができました。
- ・ 時間がもう少し長く、細部にわたる話を聞きたかった。
- ・ 時間設定が少なすぎると思います。
- ・ 今後の動きをより具体的に伺いたかった。
- ・ 時間が短いので資料（レジюме）があっても記録（メモ）しにくい。

2. 記念講演について

① 大変参考になった	21人	(11.3%)
② 参考になった	132人	(71.0%)
③ 工夫が必要である	26人	(14.0%)
④ その他	7人	(3.8%)

【意見】

- ・ 知事、最高に面白い。
- ・ 青森県知事のお人柄が伝わる講演でした。言霊という言葉がありますが、住みやすさの満足度の良い青森県がよく表れていると思いました。政治が身近に感じました。
- ・ 早口で聞き取りにくかったが、楽しく熱意に力をももらった気がした。
- ・ 知事の人柄が大変良く表れていた。

3. 生徒体験発表大会について

① 大変参考になった	53人	(28.5%)
② 参考になった	84人	(45.2%)
③ 工夫が必要である	35人	(18.8%)
④ その他	14人	(7.5%)

【意見】

- ・ 生徒の選出方法を今後考える必要がある。
- ・ 生徒の熱意は伝わってきましたが、発表のための発表という印象だった。
- ・ 生徒の頑張りと取り組みの深さに感銘を受け刺激を受けた。
- ・ 校長を含む会での発表はすでに1～3位になった生徒の発表を聞くほうが良い。
- ・ 福祉教育の成果が良く感じられた。
- ・ ただ体験だけでなく、テーマを具体的に何か決めたらどうか。
- ・ 4人ともに大変良く発表していた。

4. ブロック会議

① 大変参考になった	32	人	(17.2%)
② 参考になった	108	人	(58.1%)
③ 工夫が必要である	28	人	(15.1%)
④ その他	5	人	(2.7%)
無記入	13	人	(7.0%)

【意見】

- ・ 時間等がなく、十分な意見交換ができませんでした。
- ・ 時間がなく各学校の現状報告で終わってしまった。もう少し時間をとってほしい。
- ・ 各校の状況がよくわかりました。単位、福祉教育を存続するか否かについては県教委との連携、協力が必要だと考えます。
- ・ 全国大会ではなく、各ブロック会議をブロック別で持つべき。
- ・ 事前に都道府県別で意見をまとめ、発表するほうが深まったと思います。
- ・ 昼食をたべながらの会議となってしまったことは残念です。

5. 介護技術研修について

① 大変参考になった	87	人	(46.8%)
② 参考になった	67	人	(36.0%)
③ 工夫が必要である	19	人	(10.2%)
④ その他	6	人	(3.2%)
無記入	7	人	(3.8%)

【意見】

- ・ 新しい介護が身に付いた。
- ・ 見学だけではよくわからなかった。
- ・ 基本のことを一定時間に要点を押えてやることの大切さがよくわかりました。教える側は気付かないプレッシャー、焦りなど実感できて、これから生徒の気持ちを大切にしていきたいと思います。
- ・ 基本技術の確認、また新たに学ぶこともありました。
- ・ 技術方法はいろいろあるので、一つの例として勉強になりました。
- ・ 私自身もさらに研究を深めたいと思う。
- ・ あと1時間は体験したかった。
- ・ 普段行なっている方法と少し違いがあり、その理由もきちんと説明されていた。
- ・ 介護技術研修は、どういう風に進められて行なわれているか、指導するにあたっての留意点は何か？ということを知りたくて参加した。授業では全く実技を行なったことがなく初心者であるため、いきなりいつものやり方で行い評価を受けて下さいと言われても何もできない。普段、実技を行っている先生はいいが、全くかかわっていない先生方のプランも考えてほしかった。評価する側にたっても合っているのかあっていないのか出来ているのかいないのか評価すらできない。これでは見学と何ら変わらないと思った。時間は少なかったが後半のデモンストレーション後の練習の方が楽しかったし、勉強になった。その点はもう少し工夫して欲しいと思う。

6. 教育懇談会について

① 大変満足した	59	人	(31.7%)
② 満足した	99	人	(53.2%)
③ 工夫が必要である	11	人	(5.9%)
④ その他	7	人	(3.8%)
無記入	10	人	(5.4%)

【意見】

- ・ アトラクション楽しかったです。津島園子さんのお話がとても印象に残りました。
- ・ 料理が大変おいしかったです。アトラクションも素晴らしかった。
- ・ ねぶたが見れると思っていました。
- ・ アトラクションは地域のことがよくわかり、青森へ来た実感が味わえました。ねぶたを見たかったです。
- ・ 内容は良かったです。食事は量的に満足できませんでした。
- ・ テーブルをブロックごとではなくて、抽選等で決めるのもいろんな交流ができてよいのでは。
- ・ ねぶた囃子の披露がとても良かったです。
- ・ 大変良かったが、終始ステージで演奏があったため、逆に他テーブルの教員と交流が少なかったように思う。
- ・ 他県の先生もいらして情報交換もはかれた。
- ・ 大変盛大でした。料理もおいしかったです。
- ・ 青森ならではの郷土料理と郷土芸能で素晴らしかったが、アトラクションの時間が長すぎて、いろいろな先生方とゆっくり話す時間がなかった。アトラクションは短時間で終わってほしい。
- ・ 多くの配慮・準備お疲れ様です。しかし、派手さが増さないようにしないと後に続くものとしては大変ですが…

7. 校長会総会・研究協議会について

① 大変参考になった	26	人	(14.0%)
② 参考になった	27	人	(14.5%)
③ 工夫が必要である	2	人	(1.1%)
④ その他	0	人	(0.0%)
無記入	131	人	(70.4%)

(※無記入の中には、学科主任等の先生方が含まれています。)

8. 福祉教員研究協議会について

① 大変参考になった	56	人	(30.1%)
② 参考になった	63	人	(33.9%)
③ 工夫が必要である	9	人	(4.8%)
④ その他	1	人	(0.5%)
無記入	57	人	(30.7%)

(※無記入の中には、校長先生方が含まれています。)

【意見】

- ・ 参加者の人数が多く、研究発表会という感じがした。分科会でもっと少人数だと意見交換しやすい。
- ・ 発表の中で提示されたパワーポイントの画面に魂力ある内容がたくさんありましたが、冊子には印刷されていないのでパワーポイントの画面を印刷したものを当日いただけないものではないのでしょうか。
- ・ 質疑応答の時間がもう少し欲しかった。
- ・ 素晴らしい学校ばかりで参考にはなりますが、苦勞している学校の発表も欲しい。その方が参考になる場合も・・・
- ・ 4つの発表を全て聞くことができてよかった。
- ・ やはり全体発表ではパワーポイントなどの工夫が必要（必須）。
- ・ 分科会の方が意見交換が出来るはず。一方通行になりがちな協議会。
- ・ 分科会形式の方が意見交流がしやすいと思います。
- ・ 指導・助言に養成校の校長と介護福祉会の会長を選定したことは新鮮でとても良かった。

9. 文部科学省 指導・講評について

① 大変参考になった	60	人	(32.3%)
② 参考になった	78	人	(41.9%)
③ 工夫が必要である	9	人	(4.8%)
④ その他	1	人	(0.5%)
無記入	38	人	(20.4%)

【意見】

- ・ 田村先生のお話は別立てにして、矢幅先生から1800時間をどうするか、450時間の実習をどうクリアするのか具体的なお話をしていただきたいかった。全国から参加した教員は強い期待を持って本大会に参加したと思います。直接、矢幅先生から具体的な指導をいただくのが最も大きな目的でもあったが、十分な時間がなく誠に残念です。
- ・ 矢幅先生のお話を聞きに来ましたが残念でした。情報の確認をして、カリキュラムの見直しの参考にさせていただきたいと考えていたと思います。時間いっぱいお話いただきたいかったです。
- ・ 総会であった矢幅先生の話をごちらでも聞きたかったです。
- ・ もう少し詳細に聞けると良かった。
- ・ 現状では何も言えないもどかしさを感じる。

10. ご意見・ご感想

- ・ 開催校・事務局校の東奥学園高校関係者のご努力には頭が下がる思いです。大変素晴らしい大会でした。

この時期、事務局・全国大会（青森）はタイムリーでした。福祉は社会情勢に大きく影響される教科です。政治力が重要です。津島議員（元厚相）の奥様の教育懇談会での挨拶は良かった。中村局長・嶋貫参事官両氏の出席は東奥学園高校（高橋校長）ならではです。今後ともよろしく願いいたします。

- ・ 例年、福祉教育学校連盟の役員が来て講演があったが、今年はそれがなかった（その分、青森県知事の記念講演だったのだと思う）が、県知事の青森のPRよりも高大連携の方が大切かと思った。

- ・ 大会準備・運営、ご苦勞様でした。そしてありがとうございました。

スタッフの皆様のお力で心地よく過ごさせていただきました。

中村局長の話に、福祉科の方向性を見出すことができましたと思います。

又、生徒の体験発表はとても立派で、心を動かされました。生徒さんの向かう姿勢とその背後においての各校先生のご指導の熱意を感じることができました。私も頑張らなくてはと思った次第です。

- ・ 大変お疲れ様でした。ありがとうございました。

- ・ 今回は福祉科校長会として独立して初めての会であり、『介護福祉士のあり方』について 1800 時間が出されたこともあり、とても気合の入った会であることが感じられました。会の運営にあたられた東北ブロックの先生方、お疲れ様でした。ただ、あまりにも盛りだくさんすぎて疲れしました。もう少し内容を精選して欲しいと思いました。

今回の大会では厚生労働省の局長のお話も直接聞くことができ大変勉強になりました。もっと時間をとって頂ければとも思いました。

第1日目の介護技術研修は人数が多すぎて徹底されないのではないかと感じました。まとめの際も中央で模擬をされましたが見つらかったです。

全国大会の開催の時期は夏でない方がよい。10月の中旬頃がよいです。台風などの天候の心配もしなくてはならないし、夏季休業中は逆に行事等も多く入っているので。

担当の先生方お疲れ様でした。ありがとうございました。

- ・ 大会の準備・運営本当にご苦勞様でした。気持ちよく2日間を過ごすことができました。全国の先生方が各地でそれぞれ頑張っている姿を拝見し、お話を伺うことで良い刺激になりました。学校や生徒の実態は異なりますし、福祉の資格や教育課程での変化はありますが、情報をできるだけ収集し、対応していきたいと感じました。

東奥学園高等学校の先生方が心をひとつにして『参加の先生方のために』ということが伝わってきた全国大会でした。ありがとうございました。

※ 福祉校長会の代表が国家試験検討委員会（これがあるかどうかは不明ですが、ないとすれば是非作っていただきたい）のメンバーに入り内容を検討してほしい。

※ 介護技術講習会受講に対して不公平感があり、同じ国家資格であってもないようにバラツキが生じるのは良くない。（看護師のように一本化の資格にしてほしい）

※ 教科書の内容（重複する、科目間のつながり）をもっとスッキリした内容にでき

ないものか。

- ・ 大変きめ細やかな歓迎を受けました。担当校の先生方、お世話になりました。ありがとうございました。
- ・ ありがとうございます。高橋校長先生はじめ東奥学園の先生方には大変お世話になりました。過去8回くらい全国大会に参加していますが、文句なく最高の接待をいただいた大会です。深く感謝申し上げます。事務局の小川先生はじめ教職員の皆様、本当にお疲れ様でした。ありがとうございます。
- ・ 分科会的に情報交換ができるようにしてほしい。
- ・ 介護福祉士に係る喫緊の課題がある中での大会・研究協議会ということで時宜を得たものであった。重要な情報を得ることができ、大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・ 大変内容の濃い大会だったと思います。福祉を学んでいる生徒の体験発表や先生方の介護技術研修等、どれも充実しておりました。
- ・ 大変充実した大会でした。課題が多く出た年だったので有りがたかったと思います。できたら文科省の先生に質問したいことなどを前もって出せるシステムがあれば、より有効にご指導が受けられるのではと思います。
- ・ 生徒の体験発表は無理に入れなくてもよいのでは。内容が？であり文部大臣賞に値するかどうか、これからのあり方に一考してほしい。
- ・ 運営に関しては大変感謝しています。ありがとうございます。
- ・ 10日の昼食時間が短かったです。全く休みなしだったので少し休みが欲しかったです。介護技術研修が思いのほか刺激的でした。こちらは時間不足でしたので、ブロック会議はなくても良かったのかと思いました。見学者は大変だったようにも感じました。
- ・ 帰りのバスの案内は、前日までにしていただけると助かります。(荷物の扱いにも関わることなので)
- ・ 今年の会では、今までにない取り組みが成され、新しい学びがありました。反面やや盛りだくさんになりすぎて、時間不足で質疑が十分にできないまま終わるという所もあり、両立の難しさを感じました。

今年は福祉科にとって大幅な変革の年となり、どこの学校でも新しい情報を得たいと必死になっています。これからも新しい情報を出来るだけ早く末端の学校まで届けただけようお願いいたします。

今回は東奥学園高校のきめ細かな運営への配慮に感心しました。本当にありがとうございました。
- ・ 嶋貫参事官の挨拶の中で「職業教育（福祉）はしっかりした技術力・人間力を持った人材を世に送り出す使命がある」旨の話があった。この点を踏まえ、教育課程の見直し、介護福祉士の資格の見直しの視点は福祉をこれから学ぶ生徒を中心に見直しを図ってほしい。次に学校現場の意見を十分取り入れてほしい。
- ・ 事務局の東奥学園高校を中心とした東北・北海道地区の先生方が細かい所（会場での案内・バス送迎等）まで配慮下さり、その心遣いが嬉しかった。大変ご苦労様でした。

- ・ 会場、スクールバス、研修会場等、大変ご苦勞様でした。また、教育懇談会も大変楽しく過ごすことができました。ありがとうございました。
- ・ 東奥学園の事務局の努力に感謝致します。運営は素晴らしかったです。本当にご苦勞様でした。
- ・ いろいろ有難うございました。
- ・ 参加させて頂き、大変勉強になりました。主管校である東奥学園高校の皆様から感謝します。とくに、福祉教員研究協議会での報告は以前より課題とっていたので、十分に考えさせられました。『ケアプランの作成』については、十分なシラバスがなく多くの資料や施設の協力で授業を行っています。何らの共通したもの（簡単なものではなく分野ごとに十分説明され、様式の活用など）が教本としてであると幸いです。
また、高大連携については出前講座にとどまらず、広く考えていきたいです。また、大学が求める提供も出来ればとも思います。
- ・ 青森の先生方の温かいおもてなし、ありがとうございました。全国の先生方が頑張っている様子を知り、とても心強く感じました。お世話になりました。
- ・ 中味の濃い、充実した大会であったと思います。関係の皆様のご努力とご配慮に心より敬意を表し、感謝申し上げます。
- ・ 東奥学園高等学校の校長先生はじめ先生方には大変お世話になりました。
- ・ 第1回目が盛大にスタート出来、とても良かった。
- ・ 細部にわたり、行き届いたご配慮ありがとうございました。各項目ごとに参考になり、又、楽しい2日間でした。
- ・ 全体的にはスケジュールがハードだと感じた。
- ・ 他校の先生方も 1800 時間の確保に頭を悩ませている状況がわかったが、今後どのようにしたら良いのかアドバイスをいただきたい。
何かの方法で今後連絡を取り合う機会はあるのでしょうか。
- ・ 福祉教員研究協議会の時間をもっととって欲しい。質疑応答の時間も…。申し訳ないが記念講演よりも研究協議会の時間を有意義に使えるようにしてもらいたい。
今回初めてだった生徒体験発表はとても良かった。これが続けられるようにしてもらいたい。
- ・ 映画『典子は今』で有名な辻典子さんが、今年から熊本市役所の福祉職を辞められ、講演活動を始められました。来年度の全国大会にぜひお話を聴く機会があればと思うのですが…。本校では今も『典子は今』を障害者福祉論を展開する時、ビデオを生徒に見せています。多発性骨髄瘤やハンモン病の治療薬として再びサリドマイドが使用されているという状況下の中、経過を見つめていくことが大切だと思います。
- ・ 時代の流れから、生徒の指導立場にある教員の会議においては禁煙として欲しい。ロビーを通るのが苦痛である。
- ・ 参加校が介護福祉士養成の高校が多かったようで、話題の関心が受験に向けたものとなっていた。介護職員基礎研修への取り組みについてや情報がほしかった。また、将来的に介護福祉士一本化という資格体系がどのようになっていくのか。会話をさせて頂いた先生方以外にも会議等で情報があれば検討する材料とできたと思う。
- ・ 介護技術講習はとても参考になりました。このような企画は続けてほしい。また、

基調講演について厚労省 中村局長の生の声を聞くことができました。ありがとうございました。

- ・ 東奥学園の皆様、学校の全職員、生徒様あげての大会運営、本当にありがとうございました。ご苦労様でした。大変お世話になりました。
- ・ 大変心のこもった企画・内容に感謝いたします。
- ・ 全てに行き届いた大会運営でとてもありがたいと思いました。高校福祉教育の転機にある今、今後もこうした会の盛会をお願い申し上げます。
- ・ 東奥学園の先生方には大変お世話になりました。研修を行う上で実にスムーズな運びであったのは先生方のサポートが大変素晴らしかったからだと感じております。ありがとうございました。
- ・ いろいろと全国の先生方の意見を聞くことができ、勉強になりました。ありがとうございました。

介護技術研修では、まだまだ勉強不足を感じました。細かい点まである統一された基本のものができるとありがたいと思いました。

青森の自然は雄大で心癒されました。ありがとうございました。

- ・ 厚労省局長、文科省参事官が第1回大会にご参加いただけたことは会にとって非常に意味深いものであった。介護福祉士の課題があったとはいえ、これだけ多くの関係者が参加した実績は今後の指針となり得るのみならず、大会運営の“心”“熱”等に学ぶところ大であった。
- ・ すばらしい大会運営でびっくりと同時に感謝します。特に主管校の東奥学園の先生方、職員、生徒の皆さん方々には心よりお礼申し上げます。
- ・ できれば開催時期はお盆の時期からはずしてほしい。少しでも旅費を安くして欲しいという学校の希望であるのですが、飛行機が最も高い時期というのがとても辛いものでした。

日程がハードだったので、もっとゆとりが欲しい。

これだけの大会を開催していただいた東奥学園高等学校を中心とした東北ブロックの先生方、本当にお疲れ様でした。貴重な機会をいただきありがとうございました。

- ・ いろいろとご準備いただきありがとうございました。

生徒体験発表は今年度からの取り組みでしたが、立派に話すこと、文を書くこと、体験したことを一生懸命伝えていたことはとても素晴らしかったと思います。ただ、『福祉』という教科は子どもたちの大きな心の成長がみられるものなので、“作文”というものではなく“報告”ということで伝えてもらうとよかったのではないのでしょうか。今年だけで終わるのではなく例年続いていくのであれば、PPを用いたりしてプレゼン能力も十分対応できると感じました。教師側からの視点ではなく、生徒から見た教科『福祉』について知りたいと感じました。

介護実技講習は、実技講習会で行われている内容が少しでも勉強になるのではと参加しましたが、少し講師の方の主観が強いように感じました。100人いれば100通りの介護と言われますが、基本動作1つとっても本県の指導者とは違った方法でしたので戸惑いました。様々な方法があっても当然だと思いますが、残存活用の方法など応用技術を伝えていただくとありがたいです。

- ・ 生徒体験発表や知事のお話も意義のあるものとは思いますが、今後の福祉教育の方向性や現状の問題点など学校経営や学校運営に参考になるような時間を多く設けて欲しい。限られた時間を遠方から来られている方も多いため、そのような意味で内容を吟味してもらおうと喜ぶ。

監査は会計年度が終了してから行うべきもので、4月3日付けでの監査は全く問題なしと思います。むしろ3月中に行われることの方がおかしいです。

- ・ ダイヤ式介護技術の体験、大変楽に勉強になりました。チェックする側からされる側になることで初心に戻ることができました。

担当県、高校の先生方等、大変だったと思います。お疲れ様でした。

- ・ 報告会がなかったのですが、校長会での協議内容も知りたいと思います。
- ・ バスでの送迎や各会場での出迎え等、大変細かい所にまで『思いやりの心』で運営していただき、気持ちよく参加させていただきました。スタッフの皆様の頑張りを私自身のエネルギーにさせていただき、明日から学校に戻って頑張ろうと思います。ありがとうございました。
- ・ 東奥学園高等学校の先生方には大変お世話様になりました。お疲れ様でございました。ありがとうございました。
- ・ 大変素晴らしい時間を過ごすことができました。
- ・ 今年度、分科会がありませんでしたが、介護技術以外にいくつか用意していただけるとよかったです。

1日目の時間配分についてですが、昼食・地区別会議の時間が短いようにおもいました。

福祉がこの先どうなっていくのか分からないので、どうすべきなのか学校でも頭を悩ませています。各県の様子をお聞きすることができ、同様であることがわかりました。帰ってから本格的に考えなければならぬと思いましたが、何から手をつければよいのか…。家庭科で採用され、講習会で福祉の免許を取りましたが、日々の授業を行うにあたり知識がなく苦勞をしています。教材研究に時間を取りたいところで余分な件（1800時間など）を考えなければならぬ。福祉を取ったことを少々後悔している。

とても有意義な大会でした。ありがとうございました。

- ・ 主催者並びに関係各位に感謝とお礼をする次第であります。初めて訪れた青森の印象は、皆様のおもてなしのお蔭で大変良いものとなりました。知事さんの記念講演にもあったように、いろいろあっても暮らしやすいと感じている県民が沢山いることに納得しました。物質的豊かさと暮らしについて改めて考えさせられました。できることなれば、今しばらくこの地に留まり、ゆっくりと夏休みを過ごしたいものです。本当に有難うございました。
- ・ 福祉科＝資格取得・実習に話題が集中してくるのは仕方ないが、『資格取得の今後の見直し』は別として、実習の取り組みの話をいつも聞かされているように感じる。福祉科目は実習だけではないので、福祉の対象が高齢者・障害者・子どもと限定されているような授業の研究は聞いていても発展が少ないと感じる。

ケアプランの作成を学ぶのは大切だが、高校生がプラン立案の必要があるのか疑問

である。高校生や指導する先生方がどれだけケース診断できているか、そこを押えられず何でもプランするのは危険であると思う。

いろいろ感じることはあるが、ここまでの大会運営をされた青森県はじめ北海道・東北ブロックの先生方ありがとうございました。

高等学校の教育とは何か、原点に帰る時期が来ているように思うと同時に福祉科への期待度の地域差を強く感じた大会でした。

- ・ 高校福祉科を取り巻いている状況が状況だけに『介護』が強い内容だったのは仕方のない事だと思うが、だからこそ『福祉』を学ぶ意味を共有する場がもっと欲しかった。しかし、初めて参加したが大変内容の濃い大会で参加した甲斐があった。
- ・ 大会とは関係ありませんが、ホテルの冷房がききすぎて調子が悪いです。
- ・ 介護技術研修が大変参考になりました。介護技術も日々進歩していることを実感しました。このような研修の機会を設けていただいたことに感謝すると同時に、もっと様々な場でのこのような企画をしていただきたいと思います。

教育懇談会でのアトラクション、素晴らしかったです。

とても良い大会でした。主管校をはじめとし、担当地区の先生方にはお世話になり、ありがとうございました。青森県には初めて来させていただきましたが本当にいい所ですね。いっぺんに好きになりました。また来たいです。

(会場の冷房ききすぎです。クールビズを徹底して、もっと環境や身体にやさしい設定にしてもらいたい)

- ・ 内容が充実しており、大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 初参加でとても参考になった。福祉科の教員同士が情報交換でき、授業においてもプラスになると感じた。
- ・ 昨年までは研究協議会が分科会になっていましたが、今年度は全体会となっており、全部の発表を聞かせることができ、大変参考になり良かったと思います。今後もこの方向でお願いできたらと思います。
- ・ 北海道・東北ブロック、青森県、東奥学園の先生方、とてもお世話になりありがとうございました。スクールバスでの送迎等、お気遣いいただき、2日間快適に過ごすことができました。
- ・ お疲れ様でした。係の先生方は大変だったと思います。ありがとうございました。生徒体験発表が『全国的なコンクール』と矢幅氏は評価していましたが、本当にそうなのでしょうか。疑問です。

新産業技術等指導者養成研修については、事前プログラムのとおり開催すべきではないでしょうか。また、変更するなら変更した内容や準備する資料、本など指示がなければ何もなくて指導案等作成は時間も多くなるのでは…。その時間をもっと効果的に使用できたはずではないでしょうか。介護技術は種々の技法があるので『もうわかっている』のではなく、別の技法を知る上でも絶対必要だと思います。

- ・ 今回の大会は制度が大きく変化しようとしている中での大会であり、東奥学園高校高橋校長先生の政治力を強く感じました。今回の介護福祉士制度の見直しに関する報告書について、高校福祉科の位置を確保できたのもその表れだと思います。このチャンス各学校がどうか、現場で検討していきたいと考えます。

- ・ お蔭様で大変充実した校長会総会・研究協議会を終わることができました。主管校の東奥学園高校の先生方には心より感謝申し上げます。ありがとうございました。貴校の益々のご発展を御祈念申し上げ、青森を後にいたします。

- ・ 全体を通して得るものが多く、充実した2日間でした。

受験資格取得に関する増単の件など、これから高等学校福祉科が乗り越えなければならない課題が多いという現実を痛感させられました。教員の負担は仕方のないことかもしれませんが、増単した分だけ充実した授業を展開できるのか、増えた分の内容をどのように消化させていくか、具体的なものが見えない不安が大きくなります。質の高い介護福祉士育成を目指すのなら教員に対する具体的な指導・助言等をしっかりさせて頂きたいと感じました。

また、全国各地で福祉教育に情熱を燃やす先生方にお会いし、各地でご尽力されている様子を知ることができ、とても励みになりました。

主管校の先生方、関係者の方々、どうもありがとうございました。

- ・ 開催時期を考えて欲しいと思う。青森市の夏祭りがあったためと思うが、もう1週間程早くならないものか。

実技講習会に参加できない（応募してもはずれる）生徒がいる。福祉高等学校長会から強く講習会に高校生が参加できるように働きかけて欲しい。この点は是非課題として取り上げ、話し合いの場を持っていただきたい。

講習会を受けた生徒とそうでない生徒に公平さがなくなってしまうので指導も難しくなっている。

- ・ 他校の福祉科教育について情報を得ることができました。なかでも介護技術講習会については県により事情が違い、不公平を感じました。制度改正により、介護福祉士を一般の働いている方も受けるようになり、受講生の人数に対し、講習会の機会が少ない。県により不公平のないようお願いしたい。

就職についても基調講演にありましたように賃金や諸条件に問題があるし、又、四月採用の職場のレベルアップにより解消されれば、また、解消されるものと思っている。（1800時間は難しい問題だが）

- ・ 過去の大会と比べ、一方通行が多く交流が難しく、意見を出し合うことが少ない大会であった。

また、テーマが決められてはいるが各校の問題点と取り組みのテーマを自由に決めてよいのではないか。カリキュラムをはじめ様々な問題があるはず。

- ・ 高橋理事長様をはじめ、会場校の先生方には大変お世話になりました。
- ・ 資料数が多い。時間的に詰め込みすぎ。
- ・ 介護福祉士国家試験受験校に対しての内容ばかりであり、それ以外の類型やコースなど受験校でない学校の参加者の方にとっては、はたして学習・研修の機会になったのかという疑問が残りました。過去数回全国大会に参加しましたが、以前は受験校向けの分科会、類型・コースなどの受験校以外の学校向けの分科会が設定されていた大会もあったように思います。総合学科や学科再編の波にながされているのでしょうか。

以前から比べ、参加者の先生も増加し、総会会場も全て規模が大きくなり立派に感じています。事務局の先生方のご苦勞も相当なものがあったと推察します。全体では

素晴らしい大会だと思います。今後も長く福祉教科の研究協議会が発展するためには国試一本で資格取得も大切ですが、『教養としての福祉』を忘れてはならないと思っている次第です。

- ・ 福祉科の今後のあり方が資格取得との関係あり、見通せない所がある。資格がとれない福祉科では生徒がどれだけ希望を持って、また福祉への進路意識を持ってくれるか分からない。早く今後の資格取得の方向性をはっきりさせて欲しい。
- ・ 東奥学園高校の先生方、大会準備・運営お疲れ様でした。
- ・ 他校との情報交換があって、今後の教育課程をどうするのか参考にさせてもらえることがあり良かった。
- ・ 各学校の様子を知ることができたり、介護技術講習についても学ぶことができ、大変有意義な2日間でした。ありがとうございました。
- ・ 東奥学園のスタッフのきめ細かいもてなしと動きに感謝いたします。
- ・ 何のために福祉科高校は生き残ろうとしているのか？資格とか資質向上は国民全体の福祉の向上のためにある。福祉担当教員や学校が生き残るための手段となつては絶対にいけない。一番大切なことを見失っている感じがする。反面、ある組織が高校福祉科に対して理由をこじつけて攻撃することにも大きな問題である。高卒か専門学校以上卒かは問題でない。

問題なのは一人ひとりの介護福祉士の質である。現在で専門卒の介護福祉士全員が高卒の介護福祉士より間違いなく優れていると言えるか？そして福祉は介護だけではない。もっと広い視点で福祉を捉えることが必要だ。

- ・ 北海道・東北各県の応援があったとはいえ、東奥学園高校の教職員の大会成功の為に尽力されている姿に感動しました。あいさつをはじめ様々な気配りを見るにつけ、学校全体の団結力は見事という他ありません。本当に感動しました。長期間にわたる地道な準備と素晴らしい応対、大変にありがとうございました。皆様のおかげで諸行事が輝きを増したと確信しております。
- ・ 主管校の先生方お疲れ様でした。もっと意見の交換ができる場があればもっと良かったのですが…今、変化する時期なので仕方ない面もあると思います。ありがとうございました。来年度、方向性をはっきりした話ができると思います。
- ・ 介護技術研修では、なかなかこのような機会がなく、多少の不安を持ちながら指導にあたっていました。今回体験させていただき、大変勉強になりました。

チェック項目が少なく、ほとんどの先生がよくできていましたが、国家試験での採点基準はどのようになっているのか、その基準で採点するとどれくらいの出来なのかも体験したいと思いました。

しかしながら、体育館にあれだけのベッド等準備するのも大変でしたでしょうし、ご指導にあたられた先生方の研修も大変であったと思います。お疲れ様でした。ありがとうございました。

- ・ 生徒体験発表は良かったし、これからも続けてもらいたいと思う反面、学校によっては負担になるかもしれないので、その辺を考えたい。
大変内容の濃い盛大な会でした。大変ありがとうございました。
- ・ 内容が盛りだくさんで充実した2日間でした。ありがとうございました。青森県の

先生方お疲れ様でした。北海道の先生方お疲れ様でした、。

- ・ 2015年問題を考えると、都市部で急速に高齢化が進む。養成施設は都市部に多く、高校福祉科は地方に多い。高校卒業後、都市部の養成施設に進学した者は、養成施設卒業後都市部に就職するものが多く、地方に戻って就職する者は少ないのではないかと？高校福祉科卒業生は地方にそのまま就職する者が多い。

今後は、地方における介護職不足も考えられる。2015年問題、2025年問題に対応すべく、高校福祉科の存在意義は大きいのではないかと。

- ・ 東奥学園高校の先生方、本当にお疲れ様でした。大変すばらしい充実した2日間でした。介護福祉士のあり方、養成プロセスに関して、これからまた検討していかなければなりません、なんとか生徒のためにも、介護福祉士国家試験受験資格が取得できるよう頑張っていきたいと思っております。2日間ありがとうございました。
- ・ 資格取得のための時間数が増えることに対して非常に不安を感じています。実習後の指導として川崎高校岡先生の実習終了後の帰校しての指導は実質的に無理を感じます。それよりは後日実習後の生徒と教員とのカンファレンスをしっかりして、その時間を指導のための時間として含んでの450時間としてほしい。

福祉教育が大切になってきた時代の中での高校生の介護福祉士国家試験は人間を高める教育としてよいことではあると思っておりますが、現場の状況は教員数が少なく、他教科の先生方の理解の低さを感じます。これから時間数が増えるにあたって、もっと現場の教員の多忙さの調査等をしっかりしてより充実した教育ができる環境が必要だと思っております。(矢幅先生からの声をしっかり県などに伝えてほしい)

最後に充実した大会ではありましたが、休息時間が少なく、1日目の研修時間が多すぎ、詰め込み式の研修できつすぎたと思っております。

- ・ 今回初めて大会に出席しました。基調講演で今後の介護福祉士の養成プロセスの変化についての情報を知ることが出来たり等、来賓の方々の貴重なお話を聴くことも出来、とても良い機会となりました。

特に介護技術については、実際指導する者にとり忘れがちになる評価される側の心理を体験し、あせる中で頭の中が真っ白になる状況を体感しました。高校生を対象としている私達です。“基本をシンプルに教える”を頭に出来ることをしっかり身に付け自信を与える指導を目標に今後の指導にあたります。2日間お世話いただき、ありがとうございました。

- ・ バスでの送迎等、配慮いただきありがとうございました。

教育懇談会等についても、心遣いありがたかったのですが、ただ1つ、アトラクション時の音の大きさだけは、残念ですが私の耳には合いませんでした。アトラクション自体は、以前観たねぶた祭りを思い出させていただいて、懐しうございました。

あ と が き

今年度、全国福祉高等学校長会事務局に加え、青森大会主管校を務めさせていただきました。青森大会では、厚生労働省 中村局長、文部科学省 嶋貫参事官はじめ多くの御来賓の方々のご臨席を賜り、新しい福祉の情報や貴重なお話をいただく事が出来ました。また、研究発表をしていただいた先生方からは貴重な資料を基に発表して下さり、感謝申し上げます。

ここに無事、青森大会報告書を発刊することができました。

福祉制度が大きく変革していく中で、将来、福祉を担う生徒育成に校長会として少しでもお役に立てるよう努力していきたいと思えます。

今後とも宜しく願いいたします。ありがとうございました。

【事務局】

平成19年度全国大会予告

期 日 平成19年8月2日(木) 理事会・学科主任等代表者会議
大会第1日目
平成19年8月3日(金) 大会第2日目
会 場 和倉温泉 『のと楽』
石川県七尾市石崎香島1-14
(TEL) 0767-62-3131
主管校 石川県立田鶴浜高等学校

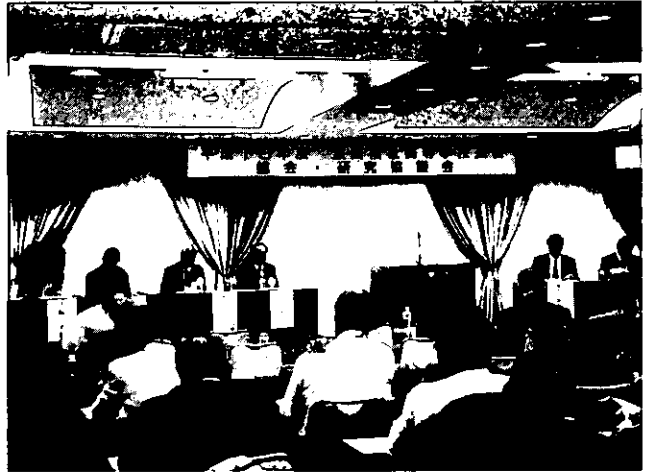
平成19年度

第1回理事会・学科主任等代表者会議予告

日 時 平成19年5月18日(金)
理事会・学科主任等代表者会議 10時
合同会議 13時
会 場 東京都立つばさ総合高等学校

全国福祉高等学校長会 事務局

〒030-0821 青森県青森市勝田二丁目11番1号
東奥学園高等学校内
(TEL) 017-775-2121 (学校代表TEL)
(FAX) 017-775-2137 (学校代表FAX)
【担当】小川 義光(事務局長)・工藤 貴子
メールアドレス:koko-fukushi@toogakuen.ac.jp





8月9日(水) 理事会



学科主任代表者会議



8月10日(木) 開会行事



厚生労働省 中村秀一様



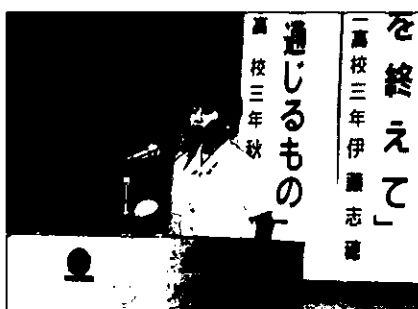
文部科学省 嶋貫和男様

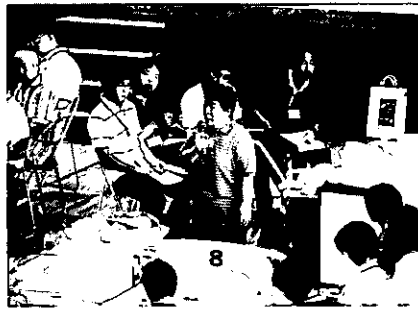


青森県知事 三村申吾様



8月10日(木) 生徒体験発表





8月10日(木) 介護技術研修



滝波順子先生





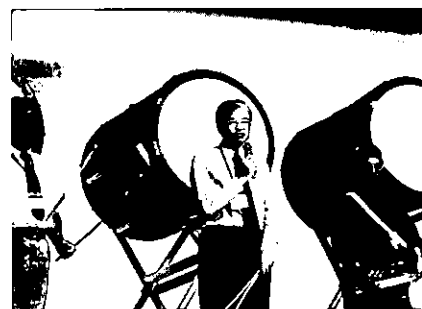
8月10日(木) 教育懇談会



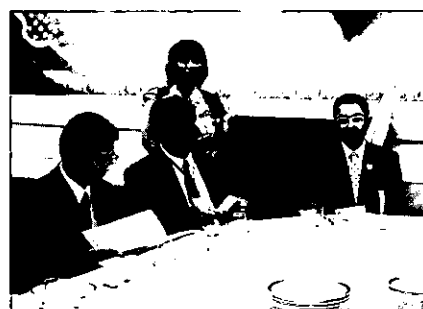
理事長あいさつ



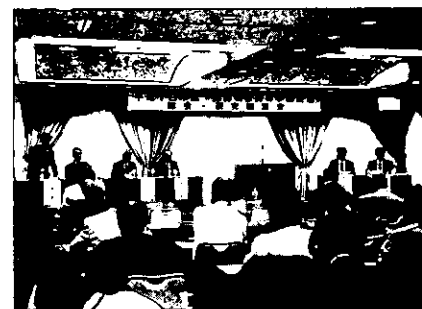
津島園子様



中村秀一様



青森市長 佐々木誠造様



8月11日(金) 校長会



文部科学省 嶋貫和男様



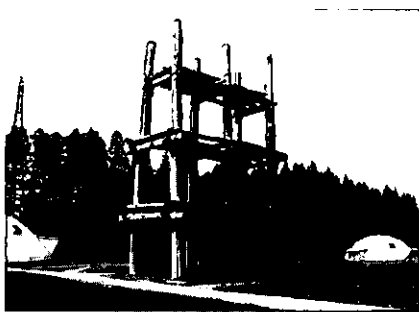


8月11日(金) 教員研究協議会



指導・助言・司会者

石川大会主管校 校長あいさつ



指導・講評 矢幅清司様

三内丸山遺跡

8月11日(金) 教育視察



贊助廣告

電子辞書

福祉用語辞典

カシオ エクスワードデータプラスシリーズ 福祉用語辞典vol.2 プリインストール版

業界初の電子辞書化! 「三訂 介護福祉用語辞典(増補版)」と「新版 社会福祉用語辞典(第2版)」の約 5,000項目を収録した専用ソフト「福祉用語辞典 vol.2」をプリインストール。また、「福祉用語辞典」以外に「最新家庭の医学」や「広辞苑」など50の辞書を完全収録。

電子辞書ならではの多彩な検索機能

「複数辞書検索」(複数の辞書で引き比べができる)、「スーパージャンプサーチ」(辞書間を自在にジャンプ)、「ヒストリサーチ」(検索履歴を合計1,000語記憶)、「単語検索機能」(単語・例文・成句などを合計1,500件登録できる)、「漢字部品読みサーチ」(読めない漢字を簡単に調べられる)

収録辞書一覧 (「福祉用語辞典 vol.2」を除く)

広辞苑 第五版	逆引き広辞苑 第五版対応	全訳古語辞典 第三版	漢字源 JIS版	カタカナ語 新辞典	ことば遊び 辞典	故事 ことわざ辞典	四字熟語辞典	ジーニアス 英和辞典(第3版)	ジーニアス 和英辞典(第2版)
英和辞書辞典	日本史事典	世界史事典	日経パソコン 用語辞典	日経エレクトロニクス 最新用語小辞典	Windows システム最新用語集	経済新語辞典 2003年版	倉庫用語辞典	株式用語辞典	金融用語辞典
流通用語辞典	保険用語辞典	会計用語辞典	広告用語辞典	英文字紙 用語辞典	もっとうまい メールの書き方	ブリタニカ 国際大百科事典	最新家庭の医学 第12次改訂版	食の医学辞	冠婚葬祭 マナー事典
言葉の 作法辞典	全国方言 一覽辞典	ホトギス俳句 享楽便覧	手紙文例集	スピーチ 文例集	人名地名集	イミダス 2004+a	英会話 とっさのひとこと辞典	英会話 Make it! (基本表現編)	英会話 Make it! (増設表現編)
困ったときの お助け良言自遊自在	ひとり歩きの ビジネス英語自遊自在	ひとり歩きの 英語自遊自在	ひとり歩きの ドイツ語自遊自在	ひとり歩きの フランス語自遊自在	ひとり歩きの スペイン語自遊自在	ひとり歩きの イタリア語自遊自在	ひとり歩きの 韓国語自遊自在	ひとり歩きの 中国語自遊自在	世界の料理 メニュー辞典

※カシオ エクスワードデータプラスシリーズは、メモリー搭載型電子辞書。今後、「福祉用語辞典」の改訂が行われた場合も、ソフト(CD-ROM)のみをご購入いただければ、最新版としてご利用いただくことが可能です。

取り扱いセット価格(電子辞書本体XD-WP6800+「福祉用語辞典vol.2」) 特価37,800円(本体36,000円+税5%)
「福祉用語辞典vol.2」(エクスワードデータプラス専用ソフト・電子辞書含まず) 定価6,300円(本体6,000円+税5%)

中央法規出版

<http://www.chuohoki.co.jp/>
ホームページリニューアル!

〒980-0014 仙台市青葉区本町1-9-2
Tel.022-222-1693 Fax.022-216-5087

毎年ベストセラー

2007年度版 介護福祉士国家試験 問題分析と受験対策 上巻・下巻

■B5判 各本体2,700円+税 送料340円
■介護福祉・国家試験問題研究会 編

対人援助実習サポートブック



■B5判 本体1,700円+税 送料340円
■対人援助実践研究会HEART 編
■実習現場において、よくある質問にただ答えるのではなく、質問に対しワークをあげ、逆に問いかける等気づくから学ぶというプロセスを重視した構成となっています。実習生や教員だけでなく、受け入れ機関・施設の方々の実習指導の参考に…!

先生にも人気

77のワークで学ぶ 対人援助ワークブック

■B5判 本体2,800円+税 送料340円
■対人援助実践研究会HEART 編

■対人援助技術演習を学ぶ方々にとって、よりたくさんのワーク(77のワーク)で学習し、理解を深めていくことを目的といたしました。
また、気づくから学ぶというプロセスを重視した直接書き込める点など他にない工夫を凝らした構成となっています。

三訂新版 介護実習ハンドブック



■B5判 本体2,000円+税 送料290円
■ケアワークマスタ研究会 編

おすすめ
ひらめき系
イラスト
レクリエーション

レクリエーション援助の実践

■山本克彦 小山美穂 著
■岸本真弓 イラスト
■B5判 本体1,260円+税 送料290円



久美出版

福祉・介護・保育・教育の書籍は…
<http://www.kumi-web.co.jp>
info@kumi-web.co.jp
〒604-8214 京都市中京区新町通錦小路上ル
tel:075-251-7121 fax:075-251-7133



実教の教材

教科書内容の確認・定着に最適な準拠ノート
「社会福祉基礎 新訂版」(福祉O11)準拠

社会福祉基礎学習ノート 新訂版

B5判 80ページ(別冊解答8ページ) 定価550円

やさしく学べる福祉科用の情報処理テキスト

準教科書 福祉情報処理

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会推薦

監修・執筆 木谷 収(東京大学名誉教授・日本大学教授)

B5判 144ページ 定価1,500円



実教出版株式会社

<http://www.jikkyo.co.jp>

〒102-8377 東京都千代田区五番町5

TEL 03-3238-7777 FAX 03-3238-7755

貴校の国試受験対策を総合的にサポートします！

福祉教育カレッジの「介護福祉士総合模擬試験」は、全国の高等学校福祉科・福祉系専門学校等団体において、多数のご採用実績をいただいております。介護福祉士国家試験制度発足時から19年の「信頼と実績」に基づいた「国試受験対策」を貴校にお届けします。

■総合模擬試験 ⇒国試に完全準拠！全国規模で学力レベルを把握できます！

- 第1回基礎編：9月実施。標準的な問題を中心に、基礎知識の習得をはかります。
- 第2回応用編：11月実施。応用的な問題を中心に、学力のレベルアップをめざします。

「低学年」「卒業生」の受験対策にもぜひご活用ください

■各種講座 ⇒筆記&実技試験に完全対応！充実した国試対策をお届けします！

- 通学コース：講義から模擬試験まで、資格取得をめざす方を総合的にサポートします。
- 通信コース：4回実施の模擬試験を中心に、ご自宅にて効果的に国家試験対策を行います。
- Wファイナル講座：筆記&実技直前期に、重要ポイントの総復習・徹底解説を行います。

** 講座によってはVTRでお届けすることも可能です **

■書籍 ⇒基礎固めはこれでOK！重要項目をわかりやすく解説します！

- 『介護福祉士国試対策』：過去問対策の決定版。過去5年間の国試問題を詳細解説。
- 『キーワード・マップ』：全4巻のコンパクトな国試参考書の決定版。
- 『介護福祉用語事典(第3版)』：国試攻略用語集の決定版。試験にでた・でる重要キーワードを凝縮。
- 『絵でみる介護』：実技対策の必携本。イラストにより介護技術・国試問題を明解説。

** その他の書籍もご用意しております **

====「介護福祉士国試受験対策」に関するいかなることでも、まずはお気軽にお問い合わせください====

福祉教育カレッジ

〒160-0073 東京都新宿区百人町1-22-23 新宿ノモビル2F
☎ 0120-294-594 URL <http://www.294594.jp/>

☆「子ども」の教育に福祉の心を・・・

こども心理専攻－幼稚園教育免許(申請中)

こども教育専攻－小学校教諭免許(申請中)

☆2007年4月看護学部 開設！！

[千葉キャンパス]

総合福祉学部

社会福祉学科/実践心理学科(臨床対人心理
専攻・こども心理専攻)/人間社会学科

[千葉第二キャンパス]

看護学部(2007年4月開設)

看護学科



千葉第二キャンパス(イメージ図)

[みずほ台(埼玉)キャンパス]

国際コミュニケーション学部

人間環境学科(人間環境専攻・こども教育専攻)

/経営コミュニケーション学科/文化コミュニケーション学科

しゅくとく

淑徳大学

お問合せ先

[千葉キャンパス・千葉第二キャンパス]

〒260-8701 千葉県千葉市中央区大蔵寺町200

T E L.043-265-6881

[みずほ台キャンパス]

〒354-8510 埼玉県人間郡三芳町藤久保1150-1

T E L.049-274-1506

あなたの可能性を一緒に探したい。



■**梅花女子大学** 現代人間学部 人間福祉学科(社会福祉専攻・保育福祉専攻・介護福祉専攻)/心理学科/生活環境学科 文化表現学部 国際英語学科/児童文学科/日本文化創造学科/情報メディア学科

■**梅花女子大学短期大学部** 生活科学科(調理・製菓専攻(調理コース/製菓コース)/造形デザイン専攻/英語コミュニケーション学科/日本語表現科

■**梅花女子大学大学院**

現代人間学研究科 人間福祉学専攻(修士)/心理臨床学専攻(修士・臨床心理士養成の第1種指定大学院) 文学研究科 英語英米文学専攻(修士)/児童文学専攻(博士前期・博士後期)/日本語日本文学専攻(修士)

大阪府茨木市宿久庄2丁目19-5 〒567-8578 Tel.072-643-6221(代)

FAX.072-643-8473(女子大/大学院) FAX.072-643-7687(短大)

 **学校法人 梅花学園**
BAIKA 1878 <http://www.baika.ac.jp/>

■**梅花高等学校** ■**梅花中学校** ■**梅花幼稚園**

大阪府豊中市上野西1丁目5-30 〒560-0011 Tel.06-6852-0001(代)
FAX.06-6852-0151(高校/中学) FAX.06-6854-1320(幼稚園)



Hokusei Gakuen University
北星学園大学
 北星学園大学短期大学部

■社会福祉学部

- ・福祉計画学科
- ・福祉臨床学科
- ・福祉心理学科

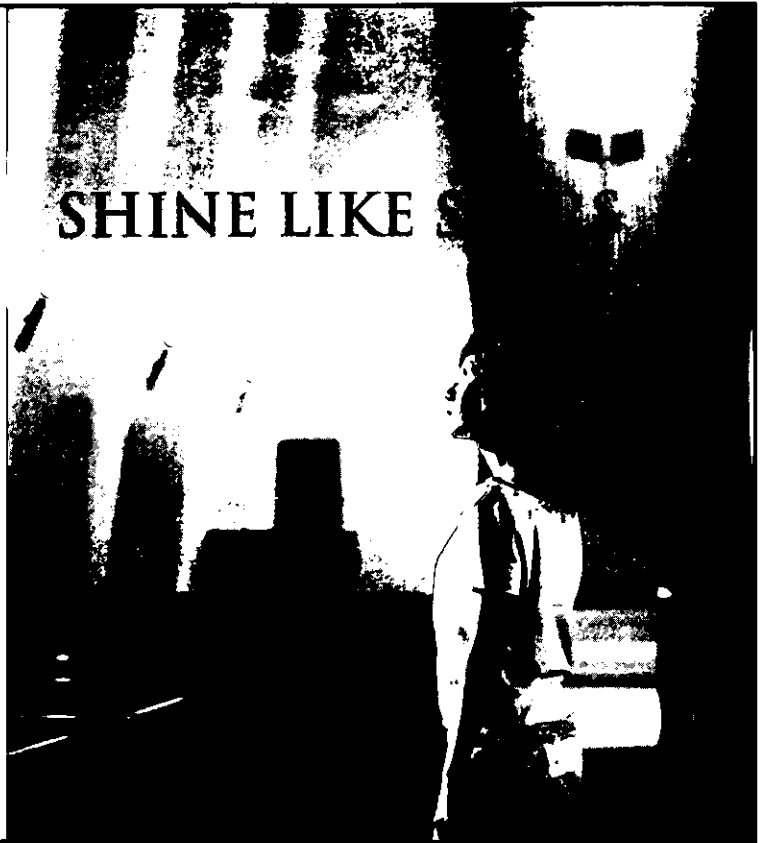
■社会福祉学研究科

- ・社会福祉学専攻
 (修士課程・博士〔後期〕課程)
- ・臨床心理学専攻 (修士課程)

■文学部・文学研究科

■経済学部・経済学研究科

■短期大学部



〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号

TEL.011-891-2731代 <http://www.hokusei.ac.jp>

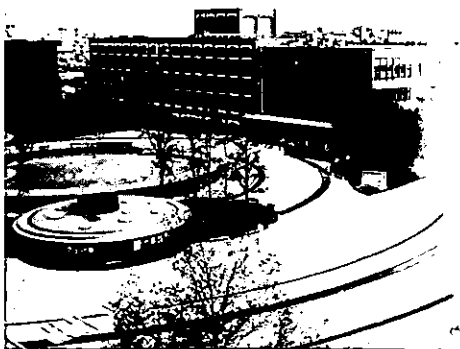
地下鉄東西線「大谷地」駅から徒歩5分



設立56年の伝統と実践的な教育プログラム

龍谷大学 短期大学部

介護福祉士、社会福祉士(受験基礎資格)、保育士養成施設



社会福祉科

- 社会福祉コース
- 児童福祉コース
- 健康福祉コース

専攻科

福祉専攻(1年課程)

文部科学省一特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)

- 「実習事前指導の体系的な実施-ボランティア活動の活用を中心とした取り組み」2003年度採択
- 「体験型教育で学ぶ『共に生きる地域づくり』」2006年度採択

文部科学省一現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)

- 「イメージ創生を中心としたキャリア教育」2006年度採択

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67 TEL:075-645-7897【教学部(短期大学部担当)直通]
www.ryukoku.ac.jp

面倒見のよい大学。入って伸びる大学。

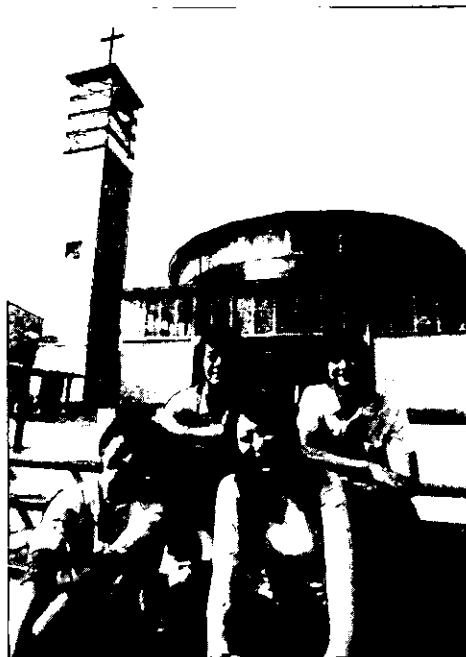
人間福祉学部 人間福祉学科
「福祉のこころ」をすべての人に

■取得できる資格

社会福祉士(国家試験受験資格)
精神保健福祉士(国家試験受験資格)
高等学校教諭一種免許(福祉)
社会福祉主事任用資格
児童指導員任用資格
認定心理士(日本心理学会資格)

■カリキュラム外で自由に取得できる資格

ホームヘルパー
福祉住環境コーディネーター(商工会議所資格)



Love God and Serve His People

聖学院大学

アドミッションセンター

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1-1

TEL : 048-725-6191(ダイヤルイン)

<http://www.seigakuin.jp/>

皇學館大学

創立

125年

社会福祉学部 社会福祉学科

めざす進路に応じて、2年次より4コースに分かれて学びます。

●総合福祉学コース

●児童福祉学コース

●社会情報学コース

●介護福祉学コース

社会福祉士国家試験受験資格/精神保健福祉士国家試験受験資格/介護福祉士/保育士/中学校
(社会)・高等学校(公民・福祉)一種教員免許/特別支援学校教員一種免許(仮称)/社会調査士ほか

文学部(伊勢キャンパス)/神道学科・国文学科・国史学科・教育学科・コミュニケーション

お問い合わせ/入学試験課 Tel.0596-22-6316 [URL] <http://www.kogakkan-u.ac.jp>

【社会福祉学部/名張キャンパス】〒518-0498 三重県名張市春日丘7-1 Tel.0595-61-3351(代)
名張までの所要時間(近鉄利用):大阪(上本町)より50分。名古屋より90分。名張駅よりスクールバスにて8分

人と人、人と社会の Balance をとる仕事。
良き社会をつくる専門家へ。

立正大学 社会福祉学部

高齢者や障害者をはじめ、すべての人々の生活の質の向上と自立支援を目指す

社会福祉学科

乳幼児・児童・少年の保護と育成とその課程の福祉支援、そして情操豊かな幼児教育を目指す

人間福祉学科

深い専門知識、高い技能を研究し、時代が求める国際人、プロフェッショナルを目指す

大学院社会福祉学研究科

〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉 1700
電話 048-536-1328 ファックス 048-536-2522
URL <http://www.ris-fuku.com>

「あなたの生き方を福祉社会の中に探そう」

神奈川県川崎市多摩区西生田 1-1-1 小田急線読売ランド前駅 徒歩 15 分 <http://www.jwu.ac.jp>

- ◆ 現代の福祉課題を、社会学、経済学、法学、心理学等の**基礎科学を動員**して基礎的に学びと共に、福祉社会づくりに貢献できる人材を育成します。
- ◆ 資格取得だけにとらわれず、理論と演習、実習を通して**幅広く「福祉」を学び**、卒業生も様々な分野で活躍しています。実習指導も充実しています。
- ◆ もちろん**社会福祉士及び精神保健福祉士**の国家受験資格も得られます。

日本女子大学 人間社会学部 社会福祉学科

Point1 社会福祉教育のバイオニア

日本初の社会福祉専門教育を行う学部として 1921 年に開設された歴史と伝統。

Point2 社会問題の解決策を具体的に探る

高齢者介護をはじめ、児童虐待、ホームレス問題、外国人労働者問題など、深刻な現代の社会問題に幅広くかわり、解決の方向を具体的に探ります。

Point3 少人数教育と学生の自主性尊重

1 年次の基礎演習から 4 年次の卒業研究まで、少人数教育を徹底。

医療福祉の ウエスレヤン



国家試験合格者数

長崎・佐賀・熊本・大分
宮崎・鹿児島で第1位

平均就職率
94%
達成!

学校法人 鎮西学院

長崎ウエスレヤン大学 

現代社会学部/

社会福祉学科 (社会福祉コース・精神保健福祉コース・カウンセリングコース)

地域づくり学科 (地域政策コース・地域活性化コース)

国際交流学科 (英語コミュニケーションコース・中国語コミュニケーションコース)

鎮西学院高等学校/普通科国立大学進学コース・普通科一般進学コース・商業科

〒854-0081 長崎県諫早市栄田町1057 TEL 0957-26-1234 URL <http://www.nwj.ac.jp>

中部学院大学・大学院

人間福祉学部/人間福祉学科・健康福祉学科 通信教育部 人間福祉学研究所

子ども学部/子ども学科

リハビリテーション学部/理学療法学科

中部学院大学短期大学部

幼児教育学科・社会福祉学科・経営情報学科・専攻科(福祉専攻)

2007年4月開設

リハビリテーション学部 理学療法学科
子ども学部 子ども学科

《問合わせ先》

〒501-3993 岐阜県関市倉知4909-3

TEL 0575-24-2213 (入試広報課 直通)

HP <http://www.chubu-gu.ac.jp>

福祉をきわめる

金城大学 6つの教育プログラム



1. SEMINAR
少人数制のきめ細やかな授業
2. PRACTICAL TRAINING
豊富な実習
3. EQUIPMENT
最新機器を導入した実習室
4. VOLUNTEER
ボランティア活動の単位認定
5. TEACHING CERTIFICATE
多彩な教員免許の取得が可能
6. SUPPORT
「社会福祉士」資格サポート

就職率93.3%

3年連続 全国福祉系大学
ベスト3にランキング
「就職に強い学部
ベスト100(文系)」

週刊東洋経済

金城大学は、明日の福祉社会を支えるエキスパートの養成を使命と考えます。経験豊富な指導陣による実践的なカリキュラム、多彩なサポートシステムなど、6つの教育プログラムで、一人ひとりの個性を尊重した教育を実践しています。人と向き合い、自分自身と向き合える学舎——。金城大学であな自身自身の未来がひらけます。

社会福祉学部 社会福祉学科 社会福祉専攻

コースと取得可能資格

社会福祉コース

社会福祉士受験資格
養護学校教諭1種※
高等学校教諭1種(公民)※
高等学校教諭1種(福祉)
中学校教諭1種(社会)※

介護福祉コース

社会福祉士受験資格
介護福祉士資格
養護学校教諭1種
高等学校教諭1種(公民)
高等学校教諭1種(福祉)※
中学校教諭1種(社会)

注：教員免許のうち、※印は各コース比較的確率なく取得できる教員免許です。

2007年4月開設
社会福祉学部 社会福祉学科
こども専攻
取得可能資格
保育士 幼稚園教諭1種 社会福祉士受験資格



夢、まっすぐに未来へ

金城大学

社会福祉学部/社会福祉学科
社会福祉専攻(社会福祉コース・介護福祉コース)
こども専攻 ※2007年4月開設
医療健康学部/理学療法学科
※2007年4月開設

〒924-8511 石川県白山市笠間町1200 金沢市南郊 金沢・小松駅から25分(JR15分+加賀笠間駅下車徒歩9分)
TEL: 076-276-5175 (入試広報室直通) ファクシマール: 0120-276-150 FAX: 076-275-4316
<http://www.kinjo.ac.jp/> E-mail daigaku@kinjo.ac.jp

一人、一人に行き届いたきめ細やかな授業で
福祉関係業界への就職はほぼ100%、
資格取得にも徹底サポートします。

取得可能資格

- 社会福祉士受験資格
- 精神保健福祉士受験資格
- 高等学校教諭一種免許状(福祉)
- 社会福祉主事



人間学部 人間関係学科 社会福祉専攻



天理大学

URL: <http://www.tenri-u.ac.jp/>



Knowledge
Virtue
Art.

東京家政学院大学人文学部人間福祉学科

社会福祉専攻・介護福祉専攻



社会福祉専攻

総合的・専門的な実践能力の修得を重視し、社会福祉士や精神保健福祉士として活躍できる人材を育てます。

主な取得資格：社会福祉士国家試験受験資格、精神保健福祉士国家試験受験資格、高等学校教諭1種免許（福祉）など

介護福祉専攻

介護のプロとして人と社会に貢献するため、多彩な領域を学び専門的な力を身につけます。

主な取得資格：介護福祉士国家資格（卒業と同時に取得できます）、社会福祉士国家試験受験資格、高等学校教諭1種免許（福祉）など

所在地 町田キャンパス 〒194-0292 東京都町田市相原町 2600 番地
お問い合わせ先 町田校舎・入試課 TEL 042-782-9411 FAX 042-782-1711
ホームページアドレス <http://www.kasei-gakuin.ac.jp>

福祉総合学部 福祉総合学科 2007年4月開設

めざす進路を5つのコースから選択!

- 社会福祉コース 取得をめざす資格/社会福祉士
- 子ども福祉コース 取得をめざす資格/保育士(申請中)
- 福祉マネジメントコース 取得をめざす資格/社会福祉士
- 福祉心理コース 取得をめざす資格/精神保健福祉士
- 介護福祉コース 取得をめざす資格/社会福祉士 ホームヘルパー

* 詳細はホームページに掲載中です。

<http://www.jiu.ac.jp/fukushi/>

実践力の JIU 福祉

“高い倫理観、豊かな専門知識、豊かな実行力”を備えた社会福祉専門職の育成をしています

社会人の方でも負担なく学べる大学院

大学院福祉総合学研究科 福祉社会専攻では、研究・演習を含む約半分の科目を東京紀尾井町キャンパスで開講し、特に社会人の方が働きながら修了できるカリキュラム構成になっています。また、修士課程を1年間で修了できる「1年修了コース」や、書類審査と面接で選考をおこなう「社会人選抜入試」を実施しています



城西国際大学

JOSAI INTERNATIONAL UNIVERSITY

PC <http://www.jiu.ac.jp>
Mobile <http://www.jiu.ac.jp/i>
E-mail admis@jiu.ac.jp

千葉東金キャンパス 〒283-8555 千葉県東金市求名1番地 TEL0475-55-8855 (入試・広報センター)

つくば国際大学では

「時代の求める人材」の

育成に力をいれています。



産業社会学部

産業情報学科 100名
社会福祉学科 100名

医療保健学部

理学療法学科 80名
看護学科 80名



※大学案内・願書
無料で送付します



つくば国際大学

〒300-0051 茨城県土浦市真鍋 6-20-1
TEL.029-826-6000 FAX.029-826-6937
URL <http://www.ktt.ac.jp/tiu/> E-mail info@tius.ac.jp

取得可能資格

社会福祉士国家試験受験資格、理学療法士国家試験受験資格、
看護師国家試験受験資格、保健師国家試験受験資格、
認定心理士、社会福祉主事任用資格、ホームヘルパー2級、
福祉用具専門相談員、システムアドミニストレータ、
ファイナンシャル・プランニング技能検定など



四国学院大学

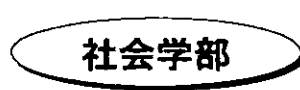
SHIKOKU GAKUIN UNIVERSITY



言語文化学科
人文学科
教育学科



社会福祉学科
子ども福祉学科



社会学部

応用社会学科
カルチュラル・マネジメント学科



大学院

比較言語文化専攻
社会福祉学専攻
社会学専攻

〒765-8505 香川県善通寺市文京町3-2-1

☎ 0120-459-433 <http://www.sg-u.ac.jp>

東京福祉大学は就職率ランキングで文科系大学日本一!

(福祉系含む)

『読者』誌掲載分 2005年10月14日特大号、『読者』誌掲載分 2006年9月13日号、毎日新聞社 2005年9月13日号、毎日新聞社 2006年9月13日号、毎日新聞社 2006年9月13日号



- ◆ 社会福祉専攻 介護福祉コース
- ◆ 社会福祉専攻 社会福祉コース
- ◆ 精神保健福祉専攻
- ◆ 福祉心理専攻

国家試験・
公務員試験・
教員採用試験
対策も万全!

池袋・名古屋キャンパスでは、難しい学科などの入学(編入学)試験はありません。

人を幸せにする仕事がある—

あなたの笑顔とやさしさが必要とされています!

介護福祉士(ケアワーカー)、保育士、社会福祉士(ケースワーカー、生活相談員)、精神保健福祉士(精神科ソーシャルワーカー)、認定心理士、児童指導員、社会福祉主事、訪問介護員(ホームヘルパー)、福祉用具専門相談員、2級ケアクラーク(介護報酬請求事務)、幼稚園・小学校・中学校・高校教諭、特別支援学校教諭、養護教諭をめざす!

総長がハーバード大学教育学大学院で研究開発した、他大学にはない新しい効果的な教え方で学ぶ!

東京福祉大学・大学院・短期大学部 URL <http://www.tokyo-fukushi.ac.jp>

本部(池袋)キャンパス
☎ 0120-400-626
〒170-8426 東京都豊島区東池袋4-23-1
携帯から空メール、資料請求(無料)・説明会申込。
QRコードからもOK。
gj@kwml.jp

伊勢崎キャンパス
TEL.0270-20-3673
〒372-0831 群馬県伊勢崎市山王町2020-1
携帯から空メール、資料請求(無料)・説明会申込。
QRコードからもOK。
twg@kwml.jp

名古屋キャンパス
☎ 0120-159672
〒453-8790 愛知県名古屋市中村区則武1-1-4
携帯から空メール、資料請求(無料)・説明会申込。
QRコードからもOK。
ad@mwjt.jp

通学課程の卒業生を出した初年度から古い伝統校を抜いて
今年も1,000人を達成!

2006年東京福祉大学グループは
3年連続 合格者数 **日本一** です!

第18回 社会福祉士国家試験 第8回 精神保健福祉士国家試験

やさしさのたし算

不安のひき算

「しあわせ」のプロフェッショナルになる

負担のわり算

笑顔のかけ算

いのちを見つめる
福祉を学ぶ

愛知新城大谷大学
◆ 社会福祉学部 社会福祉学科
人間福祉専攻/福祉心理専攻
愛知新城大谷大学短期大学部
◆ 介護福祉学科

安心の就職率

平成18年3月
卒業生実績 **95%**

／ みたい自分を探しに行こう! ／

食物栄養学科	— 栄 養コース	栄養士・管理栄養士(要実務経験)・栄養教諭・フードアドバイザー・他
社会福祉学科	— 社会福祉コース	社会福祉士(要実務経験)・福祉職-2級・社会福祉主事・他
	— 児童福祉コース	保育士・社会福祉主事・他
	— 介護福祉コース	介護福祉士・社会福祉主事・福祉住環境コーディネーター・他
こども学科		幼稚園教諭・保育士・ピアノ・他

淑徳短期大学

SHUKUTOKU

東武東上線「ときわ台」駅(徒歩12分)、都営三田線「志村三丁目」駅(徒歩15分)、JR「赤羽」駅(バス20分)

〒174-0063 東京都板橋区前野町 6-36-8

TEL: 03-3966-7637 FAX: 03-3966-6579

URL: <http://www.jc.shukutoku.ac.jp>

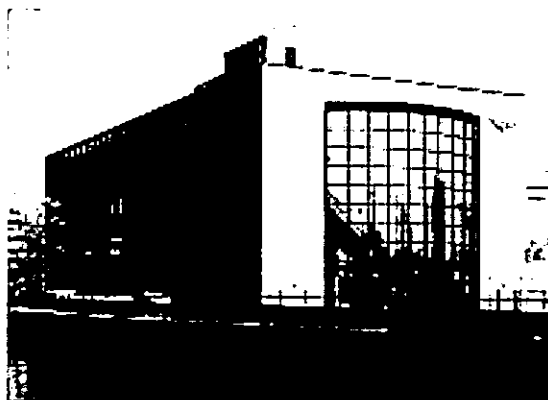


Nankai College of Social Work

厚生労働大臣指定
専修学校専門課程

設立 昭和43年4月
学校長 延 與 恒 好

南海福祉専門学校



〒592-0005 大阪府高石市千代田 6-12-53

☎ 0120 (294) 329

TEL 072 (262) 1094

FAX 072 (261) 7886

<http://www.nansen.ac.jp>

(南海本線「北助松」駅下車 徒歩約10分)

設置課程・募集人員・取得資格

- 児童福祉科 (2年・男女) 100名
保育士 幼稚園教諭二種免許(選択・3年)
児童厚生指導員(選択)
保健児童ソーシャルワーカー(選択)
 - 社会福祉科 (2年・男女) 40名
社会福祉主事任用
社会福祉士受験(卒業後実務経験2年)
訪問介護員2級(選択)
 - 介護福祉科 (2年・男女) 40名
介護福祉士
- *各 科 共 通……レクリエーション・インストラクター(児童福祉科は選択)

入学資格

- 高校卒業の者(卒業見込みの者を含む)
- 高卒と同等以上の学力を有する者

- 社会福祉士専攻科 (1年・男女) 40名
- 社会福祉士養成通信課程 (1年7ヵ月)
[共に社会福祉士受験資格取得]

♡♡ 人に向き合える人になる

東奥保育・福祉専門学院

学校法人 東奥学園
 理事長・学園長 高橋 福太郎
 学院長 小野 紀子

本学院は学生一人ひとりを大切に育てます
 「こころをひらき こころをむすぶ」
 「人に向きあえる人になる」
 子どもたちと共に育ちあえる保育士になりたい
 受けとめ 寄り添い 支えあえる介護福祉士になりたい
 そんな思いをもって福祉の道をめざしているあなたを心から歓迎します

保育科 昼間2年制/男女50名

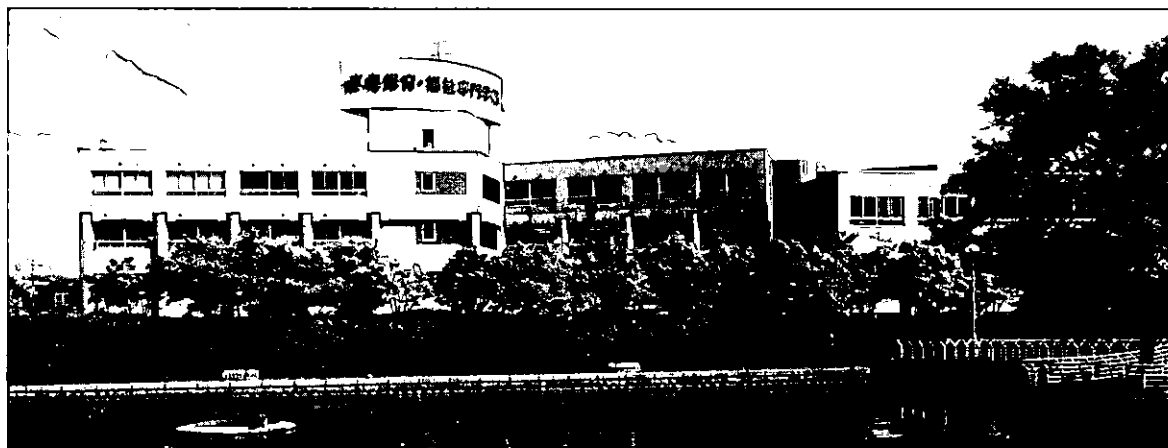
保育の専門家を育成するために
 充実した授業や実習を展開しています

- 資格・保育士資格
- 幼稚園教諭2種免許状

介護福祉科 昼間2年制/男女80名

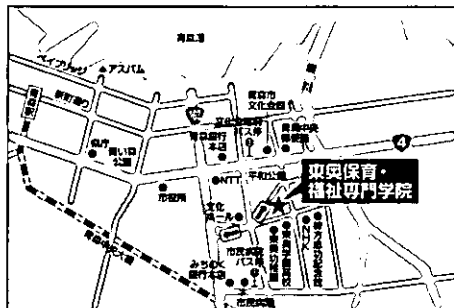
高齢社会を担う介護の専門家を育成するために
 中身の濃い授業を行っています

- 資格・介護福祉士
- レクリエーションインストラクター



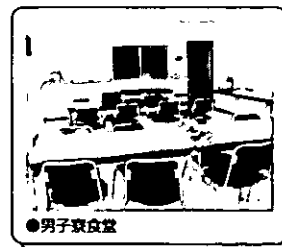
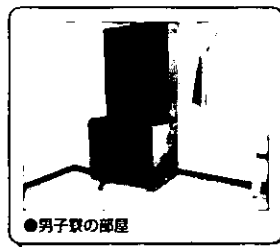
校舎外観 校舎は青森市の中心部の勝田地区(文化ゾーン)にあり、平和公園に隣接しています。近くには文化ホール、榎方志功館、市民センターなどの文化施設もあり、大変恵まれた環境にあります。遠隔地の学生には、全室個室の寮が用意されています。

- 市営バス、JRバス、弘南バス、国道文化会館前バス停下車徒歩7分
- 市営バス、市民病院バス停下車徒歩5分



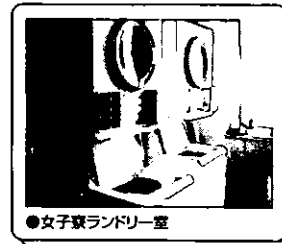
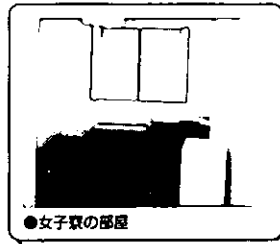
男子寮

「協和寮」
 徒歩15分
 駐車場完備



女子寮

「明和寮」
 徒歩1分



文部科学大臣指定・厚生労働大臣指定 専修学校
東奥保育・福祉専門学院

〒030-0821 青森市勝田2-13 TEL.017-735-3353/FAX.017-735-3354
 URL: <http://www.tousen213.com>